

県営ほ場整備事業（矢田野台地地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

小松市
矢 田 野 遺 跡 群

2 0 0 6

石 川 県 教 育 委 員 会
(財)石川県埋蔵文化財センター

小松市

矢田野遺跡群

2006

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は矢田野遺跡、矢田野古墳群、矢田借屋古墳群、狐森塚古墳、刀何理遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は小松市矢田新町・矢田町・矢田野町・月津町・扇原町である。
- 3 調査原因は県営ほ場整備事業（担い手育成型）矢田野台地地区であり、石川県農林水産部農業基盤整備課（旧農地整備課、以下同）が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は（財）石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成11（1999）年度から平成17（2005）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査・出土品整理・報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は石川県農林水産部農業基盤整備課と、文化庁の補助を受けた石川県教育委員会が負担した。
- 6 現地調査は平成11（1999）年度～同16（2004）年度にかけて実施した。遺跡・期間・面積・担当課・担当者（当時）は下記のとおりである。

（1）平成11（1999）年度

遺 跡 矢田野遺跡・矢田野古墳群
期 間 平成11年7月29日～11月18日
面 積 1100㎡
担当課 調査部調査第2課
担当者 久田正弘（専門員）、白田義彦（主事）、国守剛（講師）

（2）平成12（2000）年度

遺 跡 刀何理遺跡・狐森塚古墳
期 間 平成12年9月25日～11月15日
面 積 530㎡
担当課 調査部調査第2課
担当者 久田正弘（専門員）、荒木麻理子（主事）、谷内明央（講師）

（3）平成13（2001）年度

遺 跡 矢田野遺跡
期 間 平成13年8月20日～11月5日
面 積 1200㎡
担当課 調査部調査第2課
担当者 澤辺利明（主任主事）、荒木麻理子（主事）

（4）平成14（2002）年度

遺 跡 矢田野遺跡・矢田借屋古墳群
期 間 平成14年5月7日～8月20日、平成14年11月25日～12月24日
面 積 1850㎡
担当課 調査部調査第2課
担当者 澤辺利明（主査）、宮川勝次（主事）、湊屋玲美（主事）

(5) 平成15 (2003) 年度

遺 跡 矢田野遺跡・矢田借屋古墳群

期 間 平成15年7月7日～9月25日

面 積 870㎡

担当課 調査部調査第2課

担当者 和田龍介 (主事)、林大智 (主事)

(6) 平成16年 (2004) 年度

遺 跡 矢田野遺跡

期 間 平成16年6月24日～7月21日

面 積 130㎡

担当課 調査部調査第2課

担当者 白田義彦 (主査)、荒木麻理子 (主事)

- 7 出土品整理は平成14 (2002) 年度～同16 (2004) 年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書刊行は平成17 (2005) 年度に実施し、調査部調査第2課が担当した。編集は調査第2課が行い、執筆分担は次のとおりである。

第1・2章 白田

第3・4章 久田

第5章第1・2節 荒木

第5章第3・4節 澤辺

第6章 宮川 (但し、第6章第2節2～4頁は澤辺)

第7章 和田

第8章 久田・白田 (第156図は久田、その他は白田)

- 9 調査には下記の機関、個人の協力を得た。

石川県農林水産部農業基盤整備課、小松市教育委員会、南加賀農林総合事務所 (旧小松農林総合事務所)、(株)太陽測地社、望月精司、下濱貴子、岩本信一、大藤雅男

- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。

(1) 方位は磁北である。

(2) 水平基準は海拔高であり、T.P. (東京湾平均海拔高) による。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 出土品整理・報告書刊行	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 平成11年度調査	4
第1節 概要	4
第2節 遺構と遺物	4
第3節 まとめ	46
第4章 平成12年度調査	52
第1節 概要	52
第2節 狐森塚古墳	52
第3節 刀何理遺跡	61
第4節 まとめ	69
第5章 平成13年度調査	70
第1節 調査概要	70
第2節 遺構	70
第3節 遺物	114
第4節 小結	120
第6章 平成14年度調査	125
第1節 調査の概要	125
第2節 遺構と遺物	126
第3節 まとめ	158

第7章 平成15・16年度の調査	172
第1節 調査の概要	172
第2節 遺構と遺物	174
第3節 平成15・16年度調査の成果	177
第8章 まとめ	198

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

石川県農林水産部農地整備課は小松市矢田野台地のほ場整備事業（担い手育成型）を実施することになり、事業の施工前に埋蔵文化財分布調査を石川県教育委員会文化財課に依頼した。文化財課の試掘調査の結果、事業区域内で埋蔵文化財の広範な分布が確認された。この分布調査の結果を踏まえ、文化財課と農地整備課で埋蔵文化財の保存協議が持たれ、工事により遺構が破壊される箇所などの記録保存調査が行われることになった。損壊を受ける箇所は主に水路部分が多いため、調査区は後述のとおり、幅が狭く、長いトレンチ状の調査区が多くなった。農地整備課はこの事業に係る発掘調査を文化財課に依頼し、これを受けた文化財課は（財）石川県埋蔵文化財センターに発掘調査を委託した。

第2節 調査の経過

平成11年度から16年度にかけて発掘調査を行い、調査部調査第2課が調査を担当した。平成11年度は矢田野遺跡、矢田野古墳群の調査を7月29日～11月18日にかけて行い、平成12年度は刀何理遺跡と狐森塚古墳の調査を9月25日～11月15日にかけておこなった。平成13年度は矢田野遺跡の調査を8月20日～11月5日にかけて行った。平成14年度は矢田野遺跡、矢田借屋古墳群の調査を5月7日～8月20日と11月25日～12月24日の2回に分けて行った。平成15年度は矢田野遺跡と矢田借屋古墳群の調査を7月7日～9月25日にかけて行った。平成16年度は矢田野遺跡の調査を6月24日～7月21日にかけて行った。

第3節 出土品整理・報告書刊行

平成14年度～16年度にかけて石川県教育委員会文化財課は（財）石川県埋蔵文化財センターに出土品整理を委託し、当センターがこれを実施した。整理内容は遺物の記名・分類・接合・実測・トレースと遺構実測図のトレースであり、企画部整理課が担当した。

平成17年度に同文化財課は平成11年度から始まった調査の報告書の執筆ならびに刊行を当センターに委託し、当センターがこれを実施した。原稿執筆は各担当者が行い、編集は調査部調査第2課が行った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

本遺跡群が展開する矢田野台地は小松市街の南西に位置し、霊峰白山を遠望できる。遺跡群の南東には白山前山丘陵を形成する能美・江沼丘陵があり、丘陵からのびる台地上に本遺跡群が存在する。本遺跡群の西側は台地下になり、水田が広がり、その向こうには加賀三湖の一つである柴山潟がある。本遺跡群の北西側は水田の広がる低地を挟み、月津台地がある。このように白山からは豊富な雪解け水が供給され、丘陵からは森林資源が提供され、台地上は水害を受けない安定した土地であり、近くには潟湖である柴山潟がひかえる土地柄である。

現在の地理的環境は古来からの土地利用の結果であり、当時の地理的環境と大きく変わって来よう。当時は潟湖が現在より広く、水域が台地近くまで広がっていたと考えられる。潟湖の利用を積極的に考える必要がある。

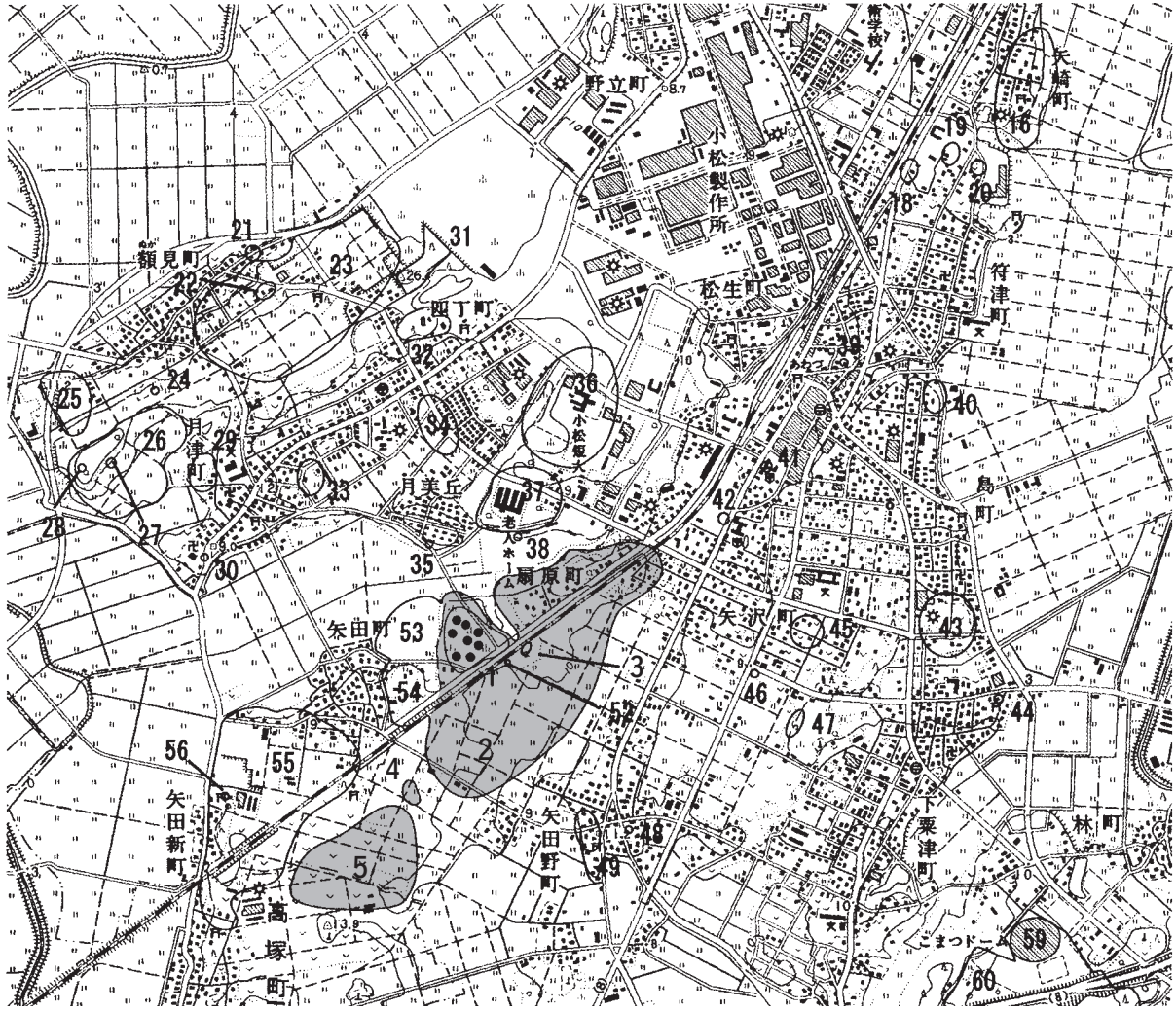


第1図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

上述のとおり起伏に富む地形は縄文時代にも豊かな生活資源を提供したと考えられ、周辺には念仏林遺跡・念仏林南遺跡等の縄文時代の遺跡が散在する。弥生時代には台地下の潟湖周辺で水田耕作が開始され、額見町西遺跡・茶臼山遺跡などの弥生時代の遺跡がみられる。古墳時代になると周辺に古墳が築かれる。日本海側の潟湖周辺に古墳が多いことは既に指摘されており、本遺跡群もこの特徴を体現しているといえよう。古墳時代の集落も念仏林南遺跡・矢田野遺跡・矢田B遺跡・刀何理遺跡などがみられ、該期の古墳分布との重なりをみせている。飛鳥・奈良時代になると島遺跡・矢田新遺跡・額見遺跡・額見町西遺跡などがみられる。額見町・額見西遺跡では7世紀全般にわたって、L字形カマド（オンドル状遺構）をもつ竪穴住居が検出され、渡来系集団の存在が窺われる。

最後に本遺跡群背後の丘陵上に展開する窯跡群について触れる。この窯跡群は南加賀窯跡群と呼ばれ、県内最大規模をもち、須恵器生産の開始（5世紀末頃）から約900年の間、連続と生産が続く。



第2図 周辺の遺跡 (S=1/25,000)

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	矢田借屋古墳群	古墳(墳丘削平)	古墳	34	月津新遺跡	散布地	縄文
2	矢田野遺跡	集落跡	古墳~古代	35	念仏塚古墳	古墳	古墳
3	矢田野古墳群	古墳(墳丘削平)	古墳	36	念仏林遺跡	集落跡	縄文
4	狐森塚古墳	古墳(墳丘削平)	古墳	37	念仏林南遺跡	集落跡	縄文~古墳
5	刀何理遺跡	集落跡	古代~中世	38	念仏林古墳	古墳	古墳
16	矢崎宮の下遺跡	集落跡	縄文~中世	39	石山古墳	古墳(消滅)	古墳
17	串カンノヤマC遺跡	散布地	古墳	40	鳥C遺跡	古墳?	古墳
18	符津B遺跡	散布地	縄文	41	箕輪塚古墳	古墳	古墳
19	符津A遺跡	散布地	縄文	42	矢田野エジリ古墳	古墳	古墳
20	符津C遺跡	集落跡	古墳	43	鳥遺跡	散布地	古墳~奈良
21	額見神社前A遺跡	散布地	縄文	44	下栗津1・2号横穴	横穴(消滅)	
22	額見神社前B遺跡	散布地	縄文	45	鳥B遺跡	散布地	奈良・平安
23	額見町遺跡	集落跡	古代~中世	46	鳥経塚	経塚(消滅)	
24	額見町西遺跡	集落跡	弥生末期~中世	47	下栗津横穴群	横穴(消滅)	
25	左門殿古墳(左門殿塚)	古墳(消滅)	古墳	48	中村古墳	古墳	古墳
26	茶白山遺跡	散布地	弥生・古代	49	矢田野神社前遺跡	散布地	平安
27	茶白山祭祀遺跡	祭祀跡	奈良	52	百人塚古墳	古墳(墳丘削平)	古墳
28	茶白山古墳	古墳	古墳	53	矢田A遺跡	散布地	縄文
29	月津オカ遺跡	散布地	古代~中世	54	矢田B遺跡	散布地	古墳
30	興宗寺古墳	古墳(消滅)	古墳	55	矢田新遺跡	集落跡	古代~中世
31	白のほぞ古墳	古墳	古墳	56	丸山古墳	古墳(損壊)	古墳
32	串町遺跡	散布地	縄文・古代	59	林遺跡	窯跡・製鉄跡	古墳~平安
33	月津A遺跡	散布地	奈良	60	林超勝寺跡	寺院跡	中世

第3章 平成11年度調査

第1節 概要

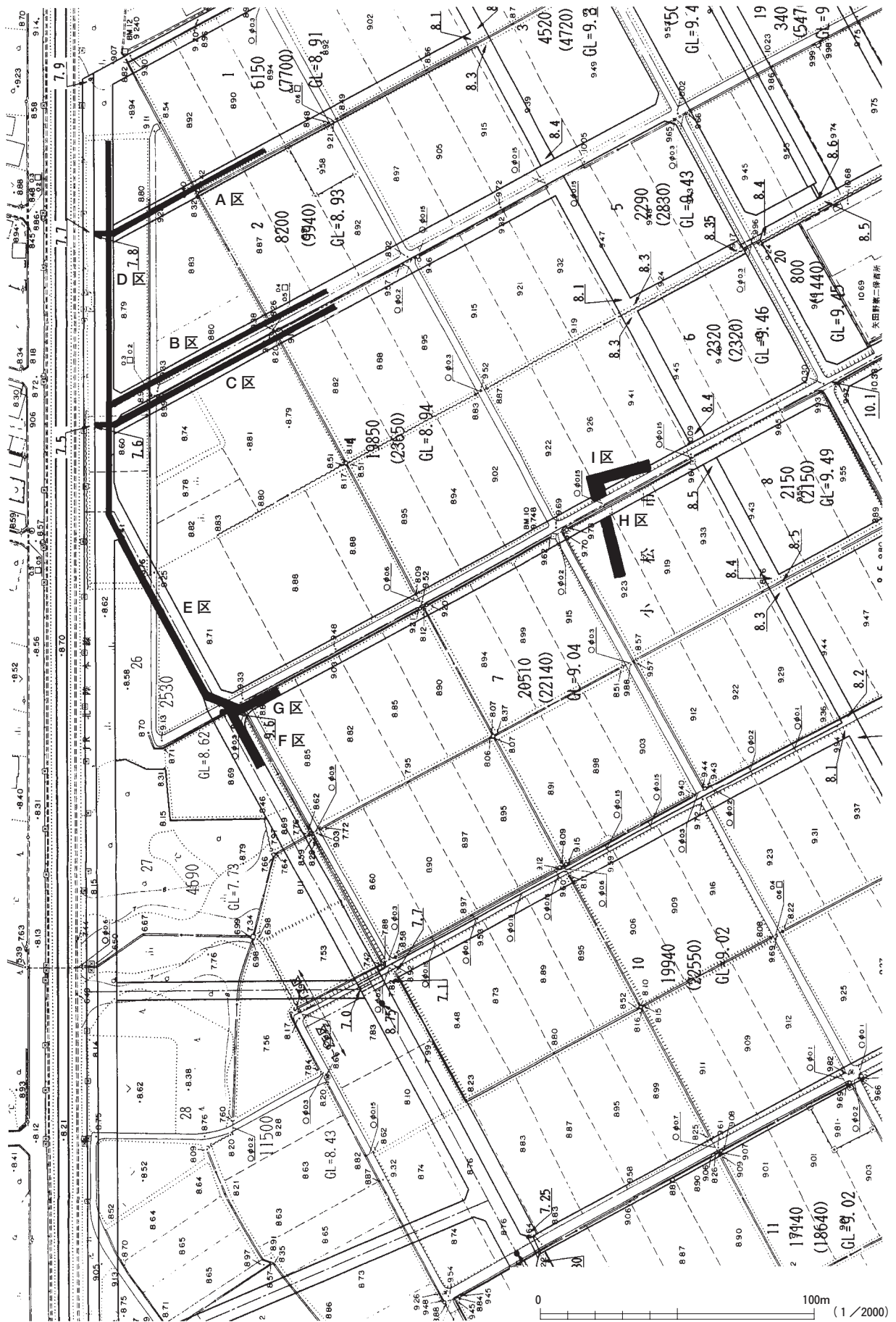
矢田野遺跡・矢田野古墳群の約1800㎡の調査依頼があり、平成11年7月29日～11月18日まで発掘調査を実施した。調査担当は久田・国守であったが、途中国守が退職したので白田と交代した。調査依頼箇所の中で1箇所はJRとの協議が必要な為に先送りされた。また工事中に幅広の溝が確認された。センターから文化財課に連絡し、文化財課と農林水産部農地整備課（当時）の協議が行われた。文化財課による再試掘調査が行われ、溝2箇所の範囲のみを追加調査することとなり、発掘調査面積は約1800㎡から約1100㎡に変更された。調査区（第3図）は既存の水田区画に平行するA～C区（主軸方位は磁北 -57° —西）は東側を起点とし、JR線に平行するD区（主軸方位は磁北 -61° —東）は工事用杭を起点（D1区）として北側に延び、南側5mの杭までをD0区、JR側に延びる部分をA（D）、C区拡張区と呼称した。E区（主軸方位は磁北 -34° —西）はD0区付近を基点とし南側に伸び、E8区で斜めに折れ曲がる部分からF区とし、F2区1m地点で直角に曲がる調査区をG区とした。追加の調査区は農道南側をH区、北側をI区と呼称した。なお建物の可能性があるものは、SI●？やSB●？と便宜的に呼称した。ピットは根痕などの可能性が高く、出土遺物も少なかったが、深いピットは柱穴の可能性があるので、深さ25～30cmを小さな黒丸、30cm以上を大きな黒丸で表示した。

第2節 遺構と遺物

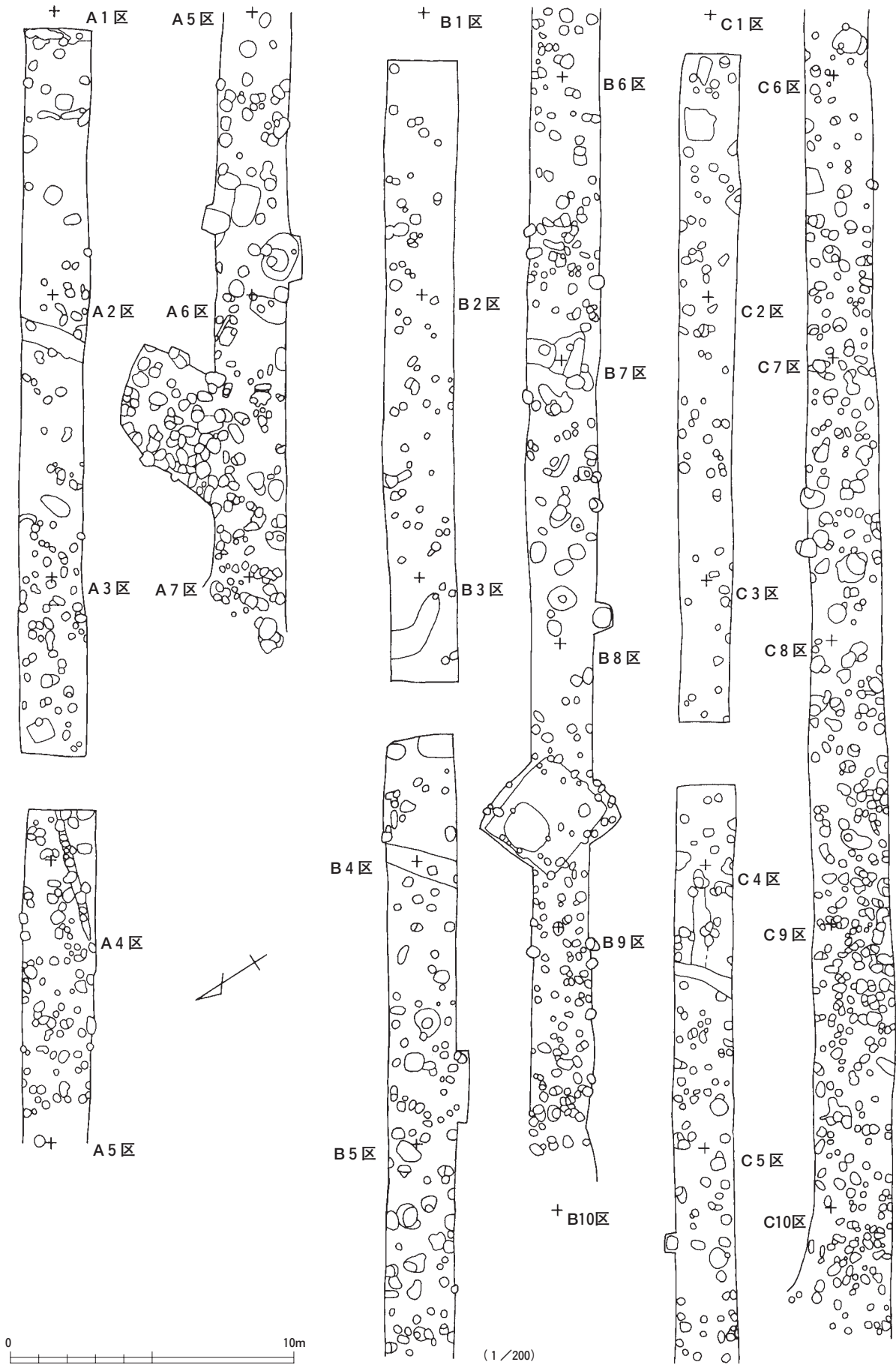
1. A区

掘立柱建物 A区SB01？（第8図）はA5区、検出面は8.4mである。SK01・02周辺に柱穴群を確認（図版2）し、 3×1 間（主軸方位磁北 -40° —西）を想定（1・2、5・6ライン）した。後にA6区以西を調査中にSB02を検出したので、同じ柱穴を使うと想定（3・4ライン）するか、東西方向は2間で東側・西側に伸びるのかを想定し直す必要がある。南北方向4.3m（柱間1.2+1.1+1.5m）東西方向3・4、9・10ライン柱間1.3mか1.6m、1・2ライン柱間1.8mか1.5mである。A区SB02（第8図、図版2、主軸方位磁北 -42° —西）はA6区、検出面は8.4mである。東西方向4間（7～8ライン6.5m、柱間1.8+1.4か1.8+1.6か1.2+1.7m）である。南北方向は9～10ラインは柱間1.5m、13～14ラインは柱間1.8～1.9m（0.9+1+0.7m）であり、西側の柱間がやや広く、11・12ラインは柱間1.6～1.7mがある。SB02の北側にも15・16ライン（柱間1.8+2.1m）がある。Pスから第30図2はⅣ期以降と思われるが細片である。Pニ（Ⅱ2～Ⅱ3期の須恵器坏）、Pサ（Ⅱ期の須恵器蓋）も細片である。周辺からは、Pア（第35図74）、Pホ（Ⅱ2～Ⅱ3期の須恵器坏）、Pエ（焼台の須恵器無台坏）、Pヌ（76・77）、Pシ（土師器ハケ甕）、Pマ（須恵器有台坏）、Pハ（75）も細片である。

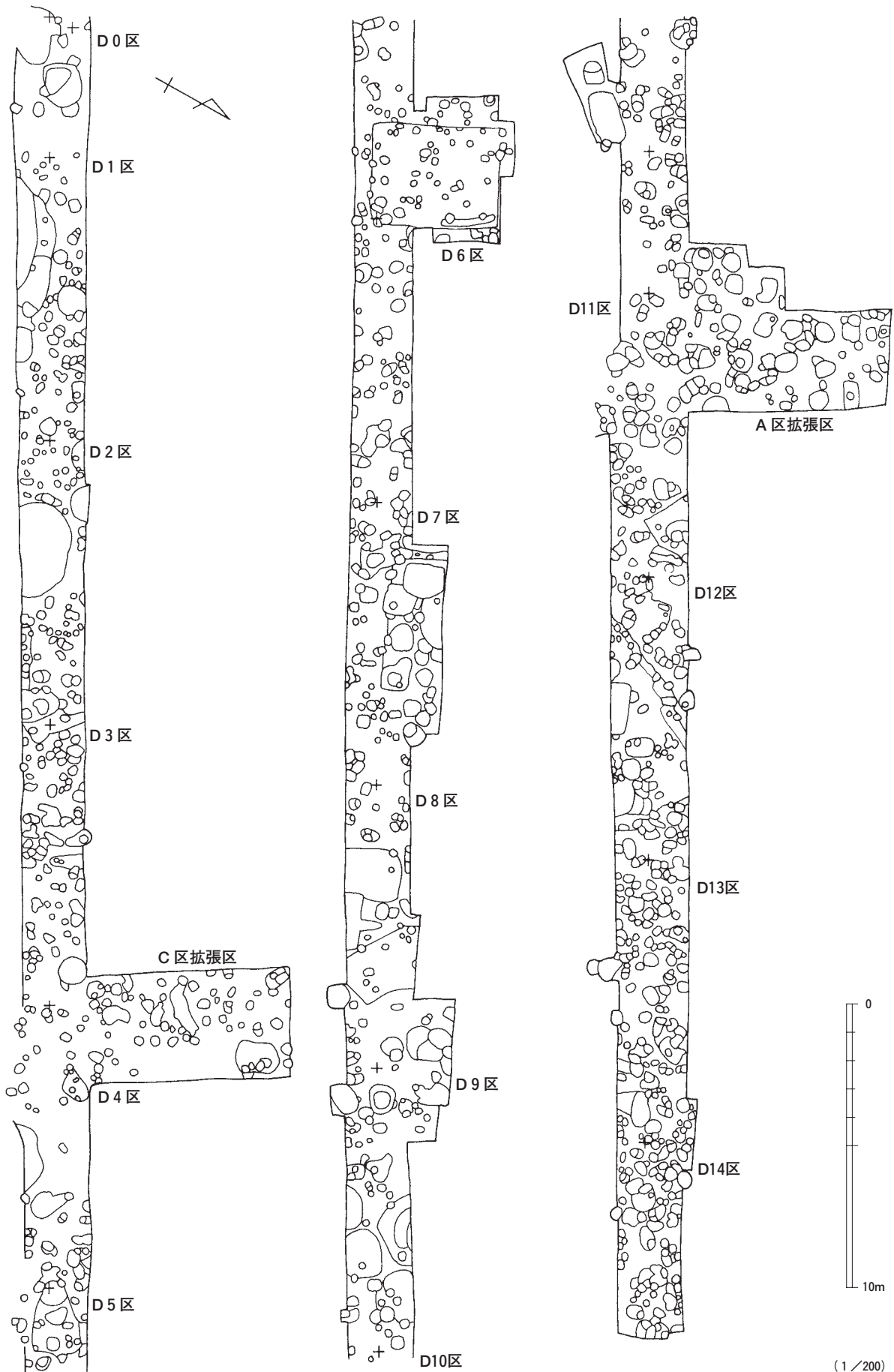
その他の遺構・遺物 A区SK01は楕円形（1.68×1.1m、深さ40cm）であり、南側が15～18cmとやや浅い。第30図1と第35図73が出土した。SK02も不整楕円形（1.5×0.94m、深さ38cm）であり、北西側にある土坑は深さ10cmと浅い。SK01・02で建物を想定することも可能であろう。Pア（幅80cm、深さ23cm）は2箇所に深い穴があり、74が出土した。A2区SD04（幅70～80cm、深さ25cm）はB4



第3図 調査区位置図

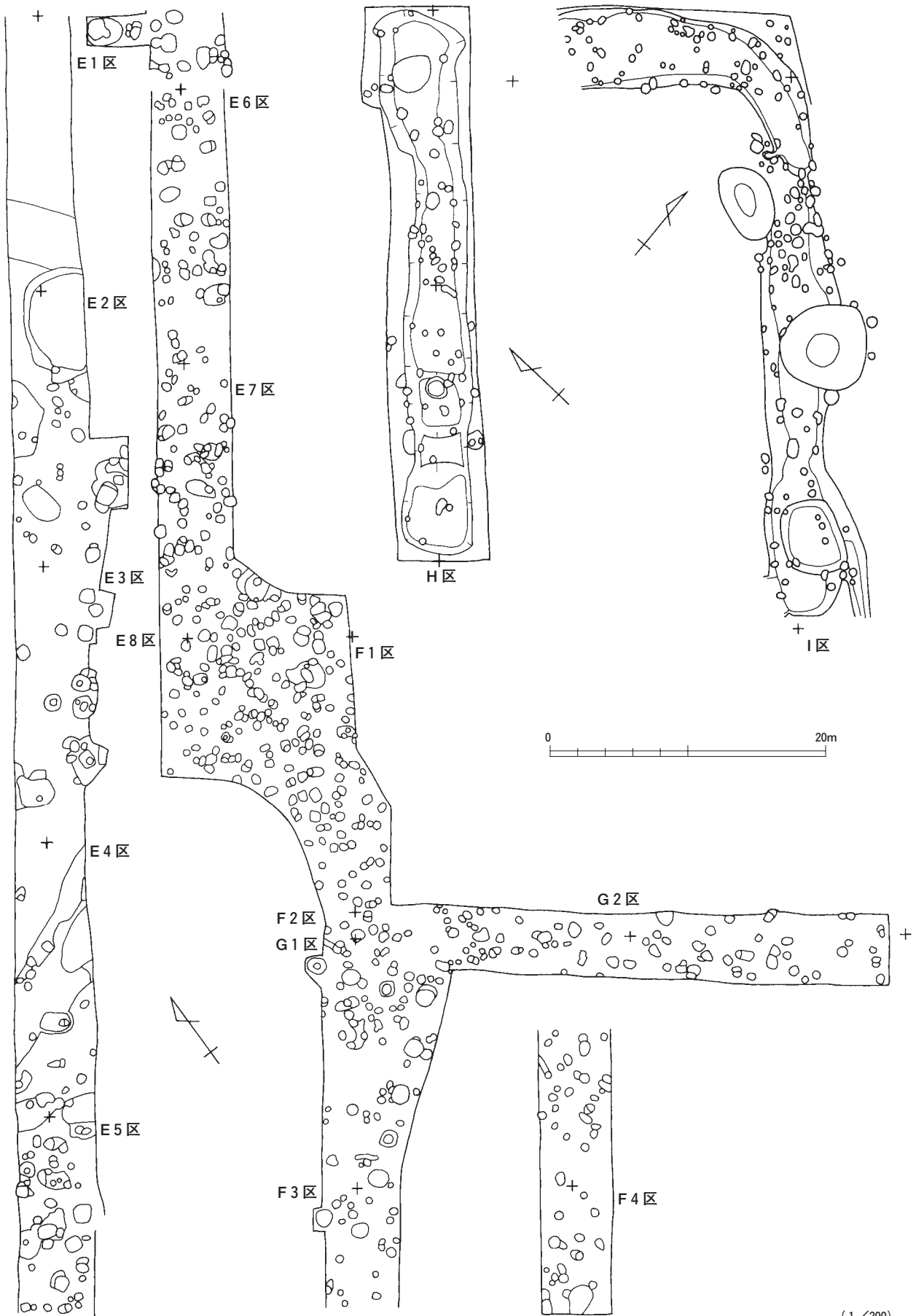


第4図 調査区全体図1



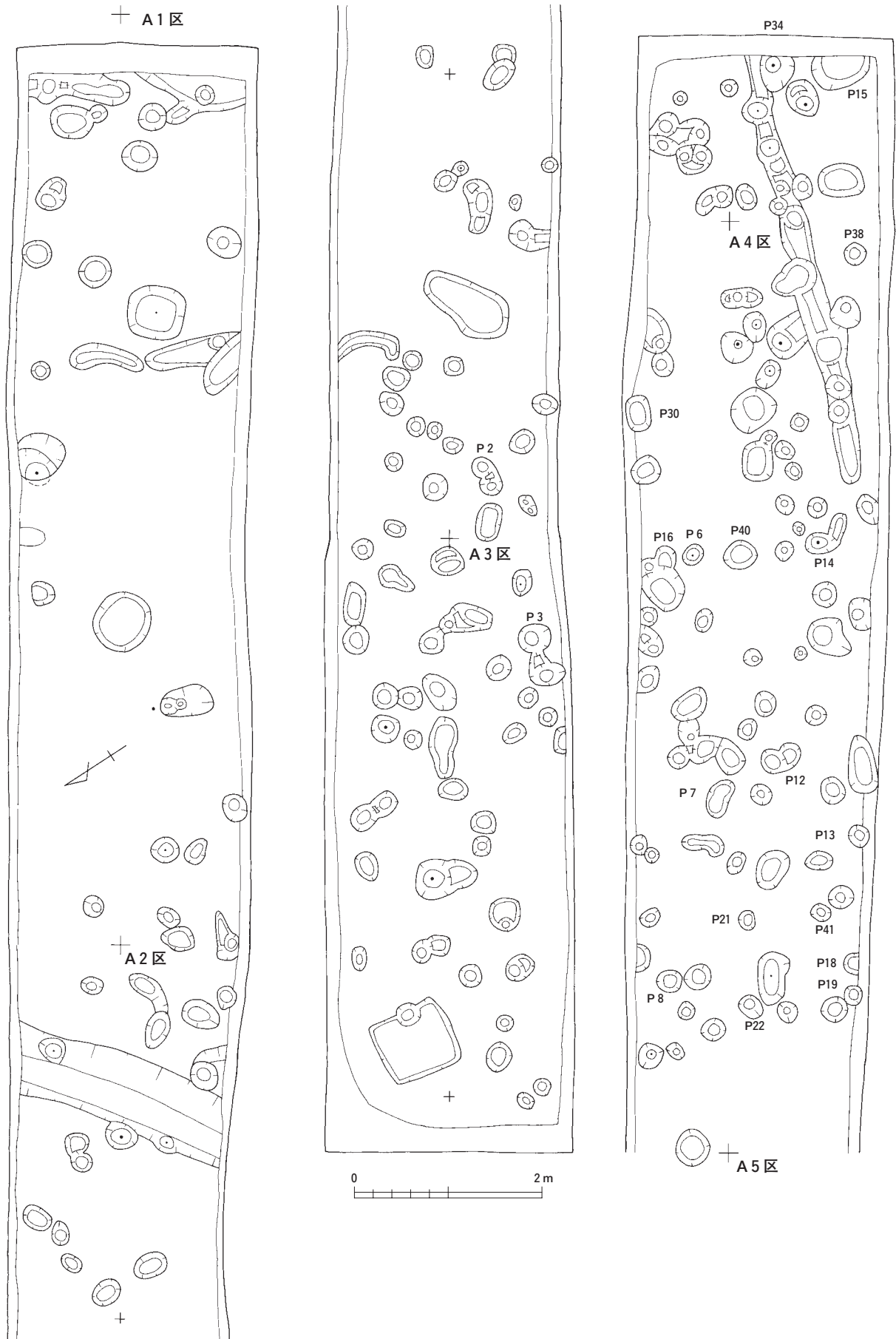
第5図 調査区全体図2

(1/200)



第6図 調査区全体図3

(1/200)



第7図 A区遺構図1



第8図 A区遺構図2

区 SD02 (幅64~90cm、深さ10~15cm) を通り、C4区 SD02 (幅40~60cm、深さ10cm、第30図9出土) に続く同じ遺構(第38図)と思われる。A3~4区には西北西方向の溝(幅20~34cm、深さ10~15cm)があり、ピットが一番深いものは28cmである。A7区Pツから須恵器の蓋(第30図3)が出土した。

2. B・C区

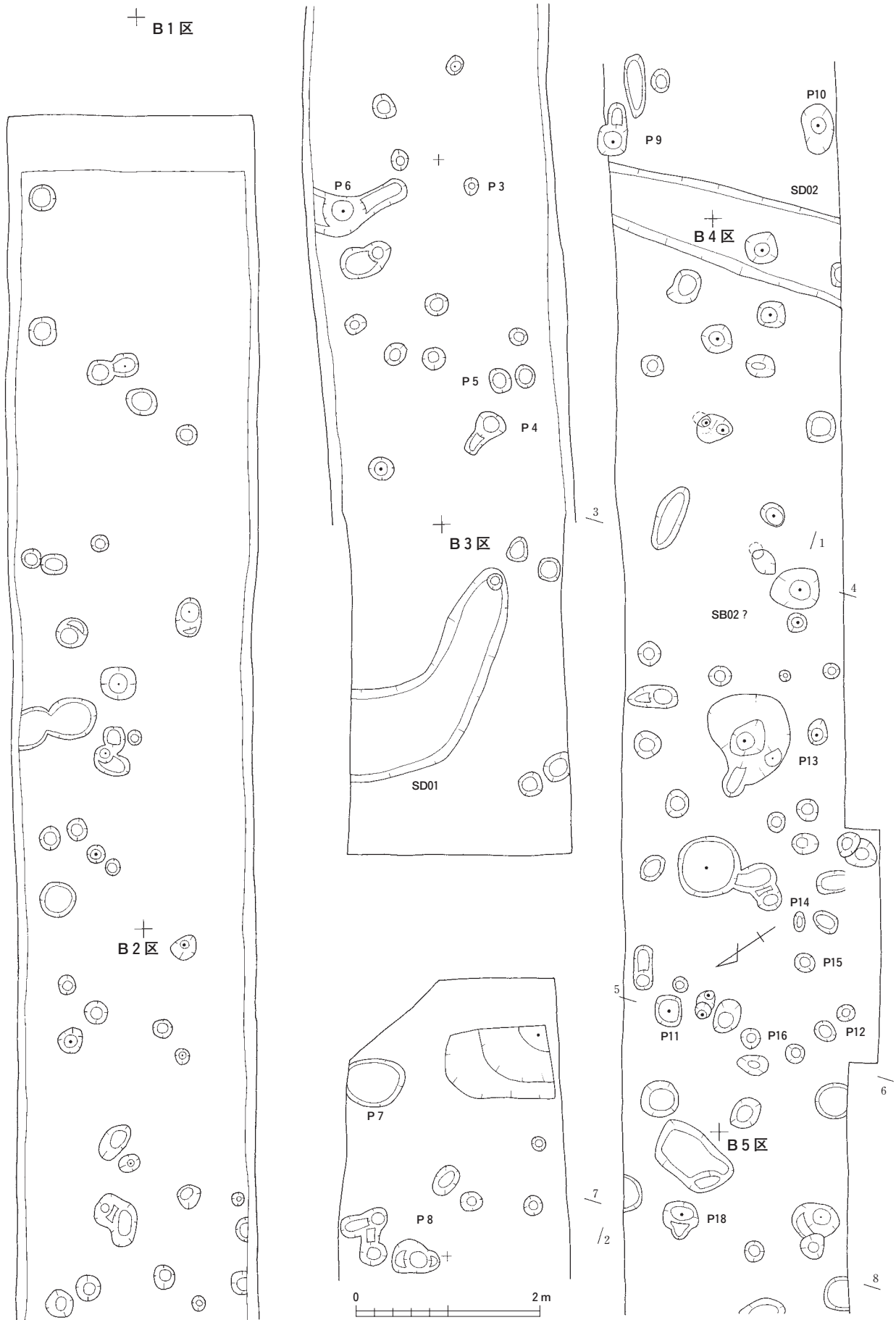
竪穴住居 B区 SI01 (第11図、図版2) はB8区、方形(3.4×3m、床面積10.2㎡、主軸方位磁北-18°-西)であり、支柱穴や壁溝はない。壁に沿って柱穴(7・8、13~18ライン)があるが、対面とは連動しない。床面はほぼ水平で北側は2~5cm深い。北東側に略方形の浅い土坑(1.6×1.5m、深さ7~12cm)があり、南東隅に焼土面(42×44cm、竈か炉の痕跡)がある。第30図6・7、第35図80~82を図化し、竪穴の時期はⅡ3~Ⅲ期頃と思われる。

掘立柱建物 B・C区 SB01はB7区(第10図17・18、20・21ライン)と農道を挟んだC7・8区(第13図7~10ライン)にまたがる東西方向の建物(床面積約40㎡、主軸方位磁北-58°-東)である(図版3)。P3は直径20cm以上、P7は14cm以上の柱が想定される。時期の判る遺物は出土しなかった。東西方向は4ないし5間(7.4m)で柱間1.6+2+2(1.3+1.4+1.3)+1.7m、南北方向は3間(5.4m、柱間1.8m)である。B4区には直線的な柱穴列(SB02?第9図1・2ライン図版2)があり、東端からP11(柱間1.7・1.8+1.4+1.6m、磁北-39°-西)までは深い柱穴であるが、東西方向(3~8ライン)には深い柱穴が無い。B7区には1×1間(第10図9~12ライン)があるが、P59は風倒木である。B8・9にも2間(第11図20・21ライン、柱間1.3mの2.6m)があり、東西方向は17・18ラインでは1.3+1.4+1.7m、18・19ラインでは1.4~1.6+1.6mがあり、建物(SB03?)ならば主軸方位は磁北-16°-西である。SB03?の中央にはやや深い柱穴で2間(1.5+1.2m)がある。C区ではC5杭付近に1×1間の柱穴列(SB02?第12図1~4ライン、南北柱間1.8~2m、東西柱間2m、主軸方位磁北-19°-西)がある。また第12図5・6ラインやC5区中央付近に東西1間(第13図1・2ライン柱間1.6~1.8m)があるが、建物になるかは不明である。ほかにC7区付近(SB04?第13図3~6ライン)には南北2間(柱間1.5か1.7m)、東西1間(柱間1.5m)がある。

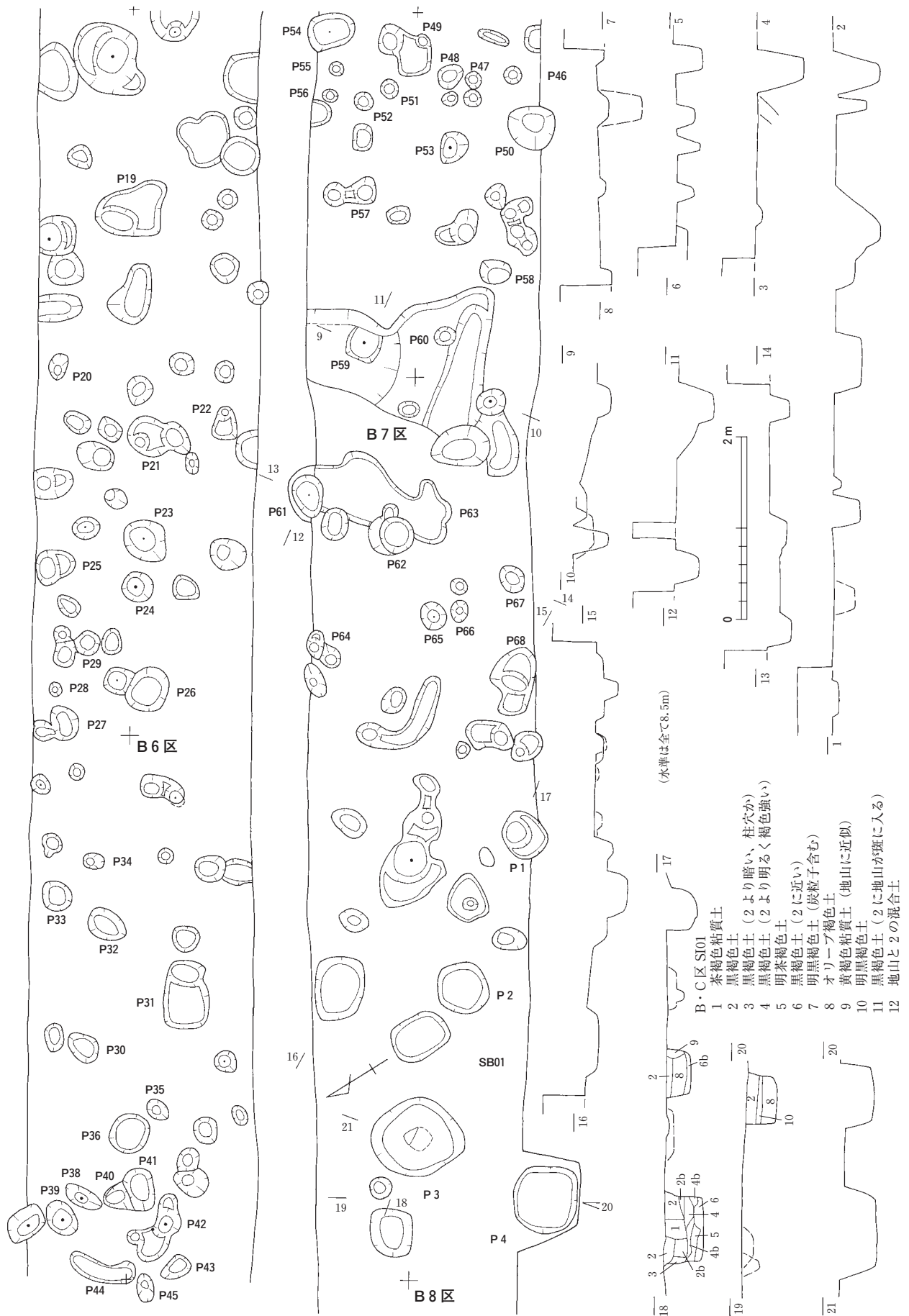
その他の遺構・遺物 C区 SD02から第30図9が出土した。B3区 SD01(幅0.6~1m、深さ8~20cm)がややL字形に曲がる。第30図5はⅡ2~Ⅱ3期と思われる、内面には使用痕がある。第30図10はヘラ切り離し後軽くナデ調整をする。第30図11はC6区 SK02の土師器甑である。内面下側はタテナデ、口縁部はハケ後ヨコナデである。把手部分は幅2cmの差込の痕跡がある。他に非ロクロで丸底の甕(第35図79、1/2個体程度)が出土した。C7区包含層に椀形滓の破片(40×34×27mm、49.8g)が出土した。

3. D地区

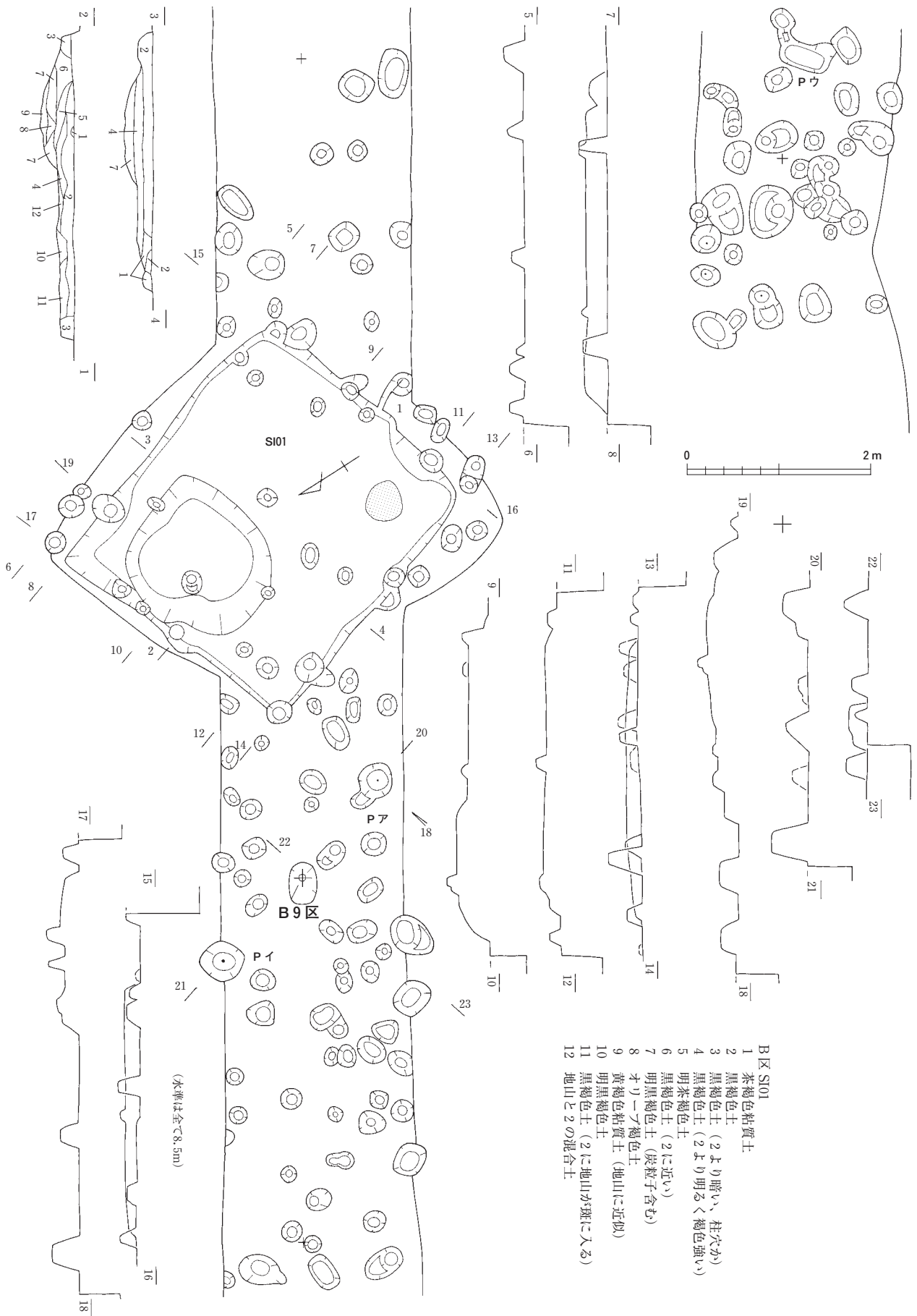
竪穴住居 SI02 (第17図、図版3・4) はD5~6区、検出面は8.3mである。長方形(4.7×3.6m、約19.6㎡、主軸方位磁北-27°-西)であり、床面は深さ10~15cmとほぼ水平である。明確な支柱穴はなく、壁より少し内側に柱穴列(7・8、13~16ライン)があるが北面にはない。北東隅には溝(幅20~24cm、深さ20cm)があり床面から5~10cm深く、壁溝よりもオンドルの可能性があろうか。竪穴部分(第35・36図93~105)と拡張部分の包含層・竪穴(第30・31図17~19・第36図106~111)を図化し、他に近世前半の磁器細片4点もあるが7世紀後半の遺物が多い。17は坏ないし盤(Ⅳ期か)と



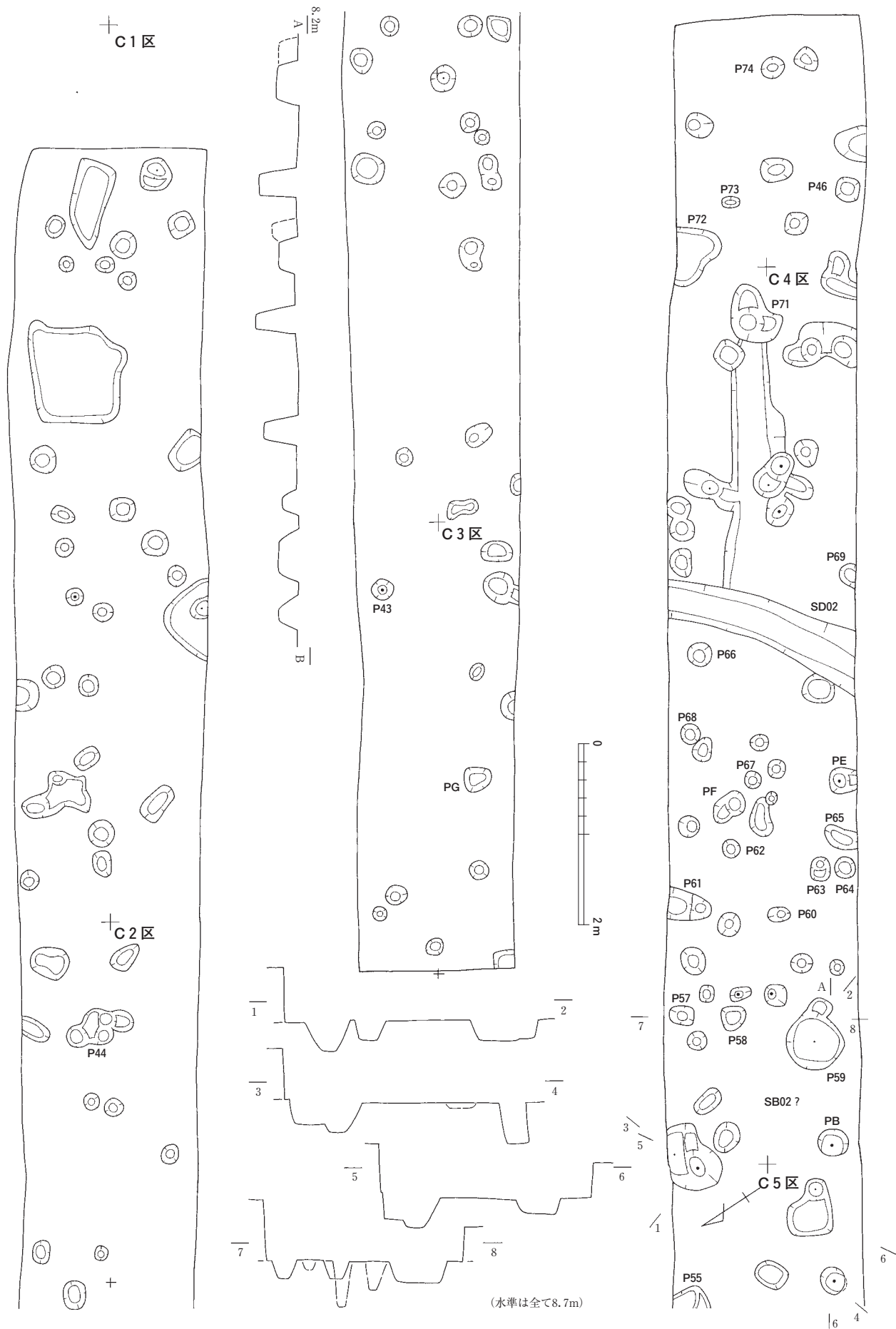
第9図 B区遺構図1



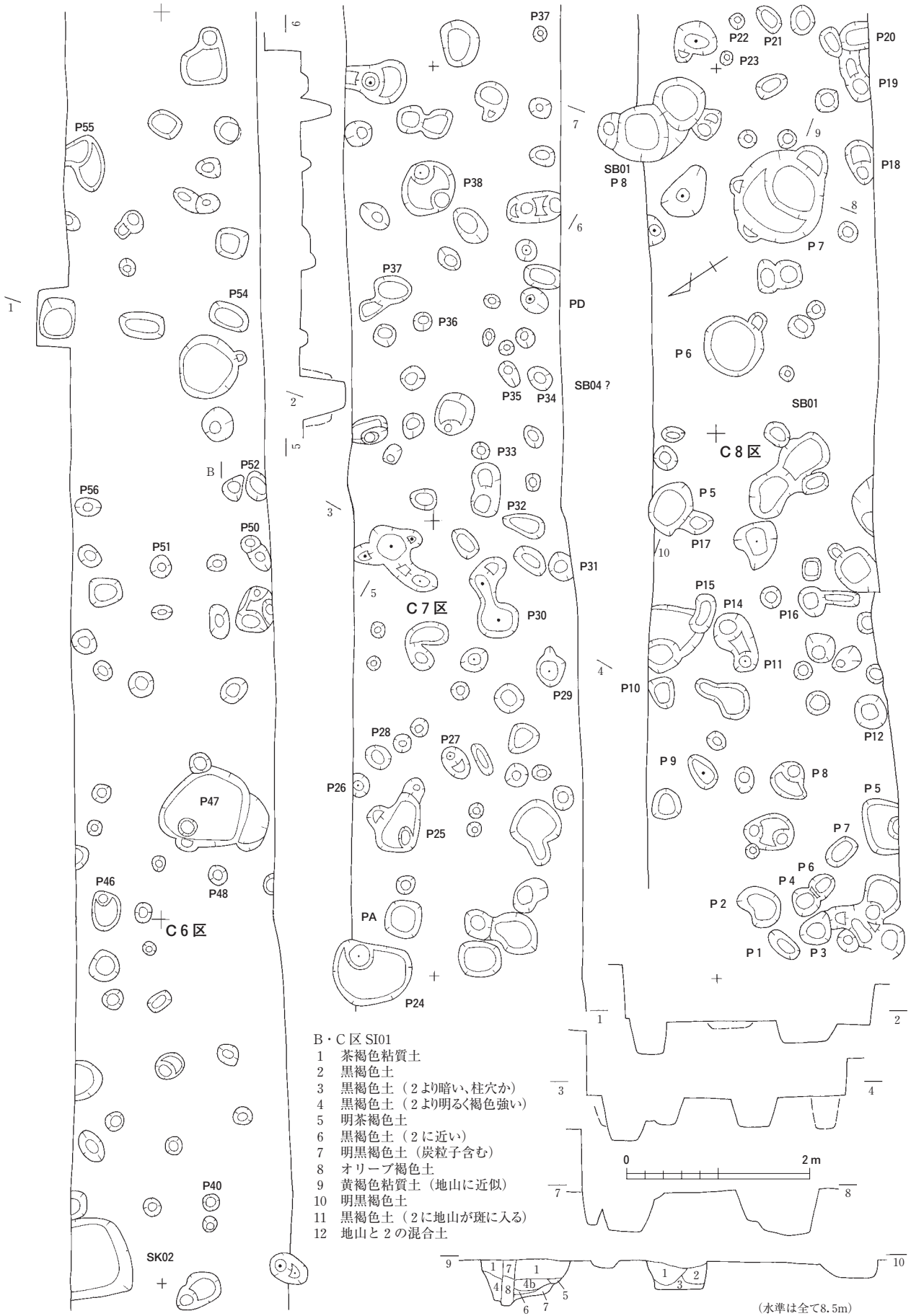
第10図 B区遺構図2



第11図 B区遺構図3



第12図 C区遺構図1



第13図 C区遺構図2



第14図 C区遺構図3

思われ、幅広の高台を横ナデにより高台幅を狭くする。18は坏部が椀状（Ⅱ2期か）、19は小型坏蓋（Ⅱ1期）、20は轆の羽口（孔径先端部25mm、破損部側は30×32mm）であり、椀形滓（72×42×31mm、重量136.7g）が出土した。

SI03（第18図、図版4）はD7区に位置し、検出面は8.3mであり、隅円方形（東西6.3m、深さ15cm）と思われる。中の大型柱穴（P55・45）は新しいが、PAは古い可能性があるなど全ての前後関係を取れえていない。西側には溝（幅24～40cm、深さ20cm）があり、南西コーナーでは不整形な形（別溝）が南側に延びる。南面には壁に沿って深いピット列（11・12ライン）があり、調査区北壁には焼土がある。第31図25～28、第37図139～143（下層出土）を図化し、27はやや厚いので大型甌であろうか。143は塙であり、頸部に沈線を巡らす。P201から第31図29、P199から第36図113が出土した。P47・49から第37図138の破片が出土した。

C区拡張区のP206周辺には長方形の柱穴配置（SI04？第16図3～13ライン、南北柱間2.1m・2.35m・2m、東西柱間1.5m・1.7m・2m・1.6m）があり、竪穴住居の主柱穴ならば南東隅柱から0.8・1.1mの距離に40～50cmの壁溝（深さ10～20cm）らしき溝がある。

掘立柱建物 SB01（第20図、図版6）はD9・10区、検出面は8.4mである。東西方向（31・32ライン）の柱穴がやや幅が広くて大きいので東西棟の建物（主軸方位は磁北—50°—西）と思われる。東西の柱間は1.8+1.3～1.4mなので、3間以上（5間程度か）と思われる。南北の柱穴（29・30ライン）は3間（柱間1.1m）であり、SK11内の柱穴・SK11で4間（4.1m柱間80cm・4.4m柱間1.1m）である。よって3間以上×3か4間の建物が想定される。

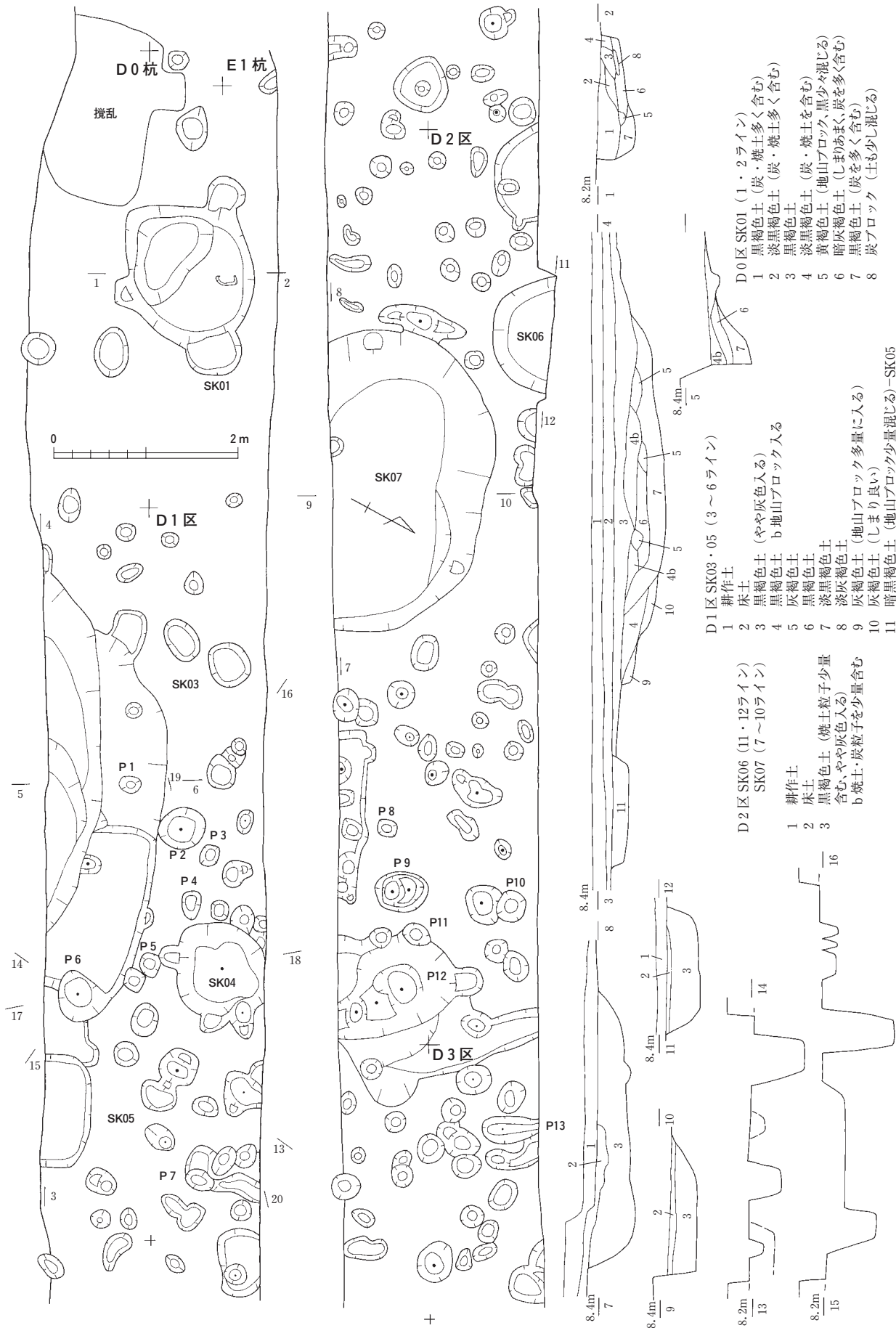
SB02（第20図9～14ライン、図版5）はD11・A区拡張区、検出面は8.4mである。平成14年度E11区SD01内柱穴・SK02・P5が同じ建物の柱穴である。南北棟（約43㎡、主軸方位磁北—26°—東）であり、東西4間（柱間1.4+1.1+1.2+1.2m）、南北は東側2間（柱間1.8m）、西側3間（柱間1.9+1.5+1.8m）を確認したが、2間（1.8+1.6m）増えて5×4間（8.6×5m）の建物である。

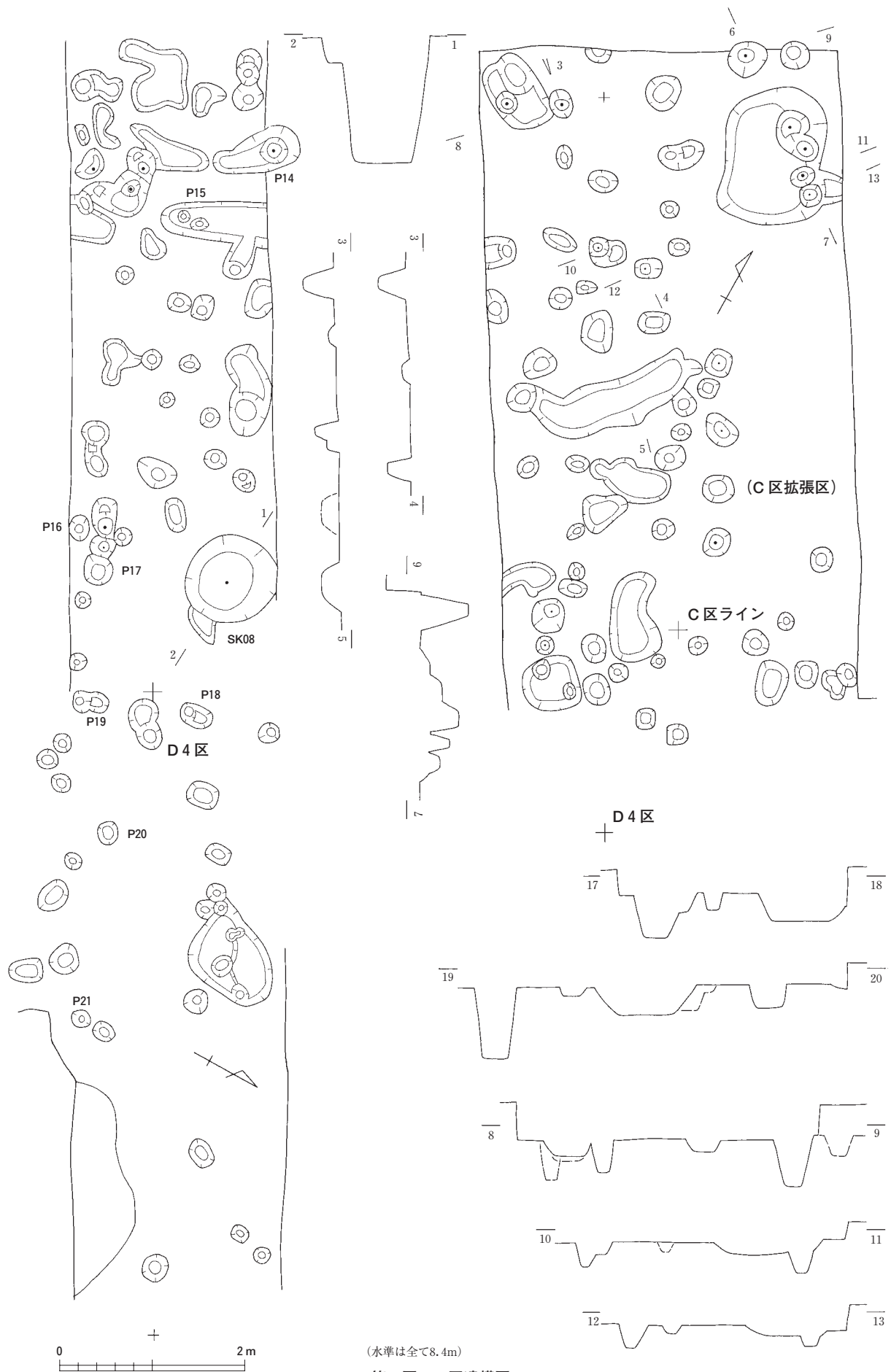
SB03・04（第20図、図版5）はA区拡張区、検出面は8.4mである。東西棟の建物（主軸方位磁北—63°—東）であり、建替えの可能性があろう。拡張区南側のクランク部分には竈の痕跡があり、第37図150が出土した。SB03は南北方向3間（15・16ライン、4.2m柱間1.4+1.6+1.2m）であるが、P159南側柱穴を使えば4間（1.2+0.8+1+1.2m）ないし2間（1.9+2.3m）となる。東西方向の南側は2間（P151～17ライン、2+1.8m）、北側はP164～163の間1.4mと柱間が一定しない。しかし、南北方向を南側に1間（1.1m）伸ばすと、28・27ラインは4間（6.7m柱間1.3+1.8+1.8+1.8m）があり、建物の規模（建替えか庇）を考える必要がある。48（P164）、118（P152）、150（P84）が出土したが細片である。

SB04は平成14年度E区SB01と同じ建物であり、P167が第115図SB01の右端の柱穴と同じである。南北4間（P156まで4.4m柱間1+1.1+1.1+1.2m）、東西1間（2.2m）を確認したが東西は3間（6m）であり、床面積は約26.4㎡と思われる。しかし、南北方向をP167～PCまでの柱間2mとすると南北3間であり、東西3間（P78～PC）は柱間1.8mであり、平成14年度E区SB01の柱間2mよりやや狭い。

以下に、可能性がある建物などを記述する。D1区SK04を基点として、17～20ラインや13～16ラインに建物を想定可能であろうか。またD3杭付近とD5杭付近は、深いピットが多いが、P12・SK09は風倒木であり、建物になる可能性は少ないと思われる。

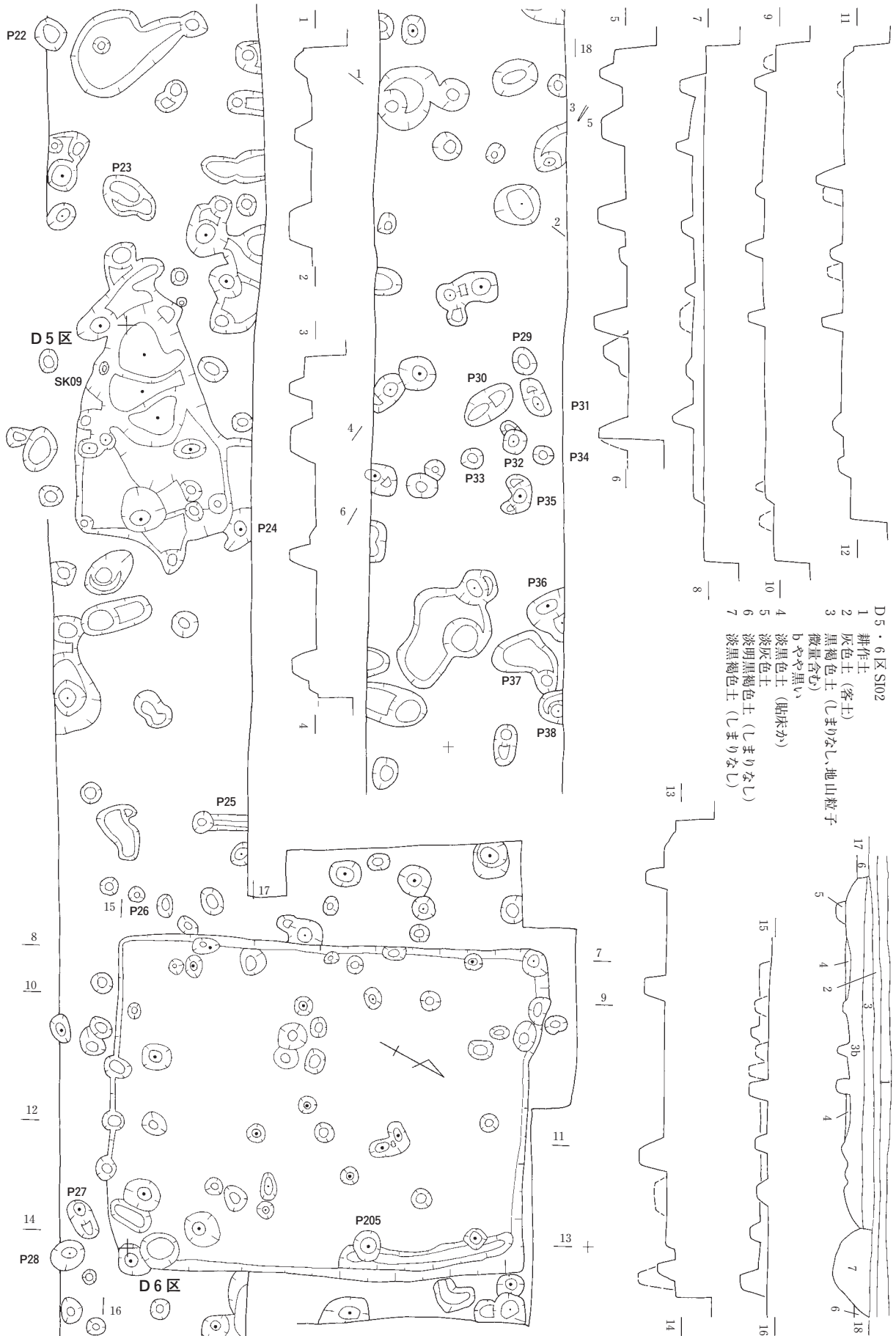
D7区SI03周辺と西側（平成14年度E区7区付近）でも大型柱穴が集中しており、調査区幅が狭いので建物を確定するには限界がある。P55・A（図版5）は方形の大型柱穴（90cm前後×1m以上、



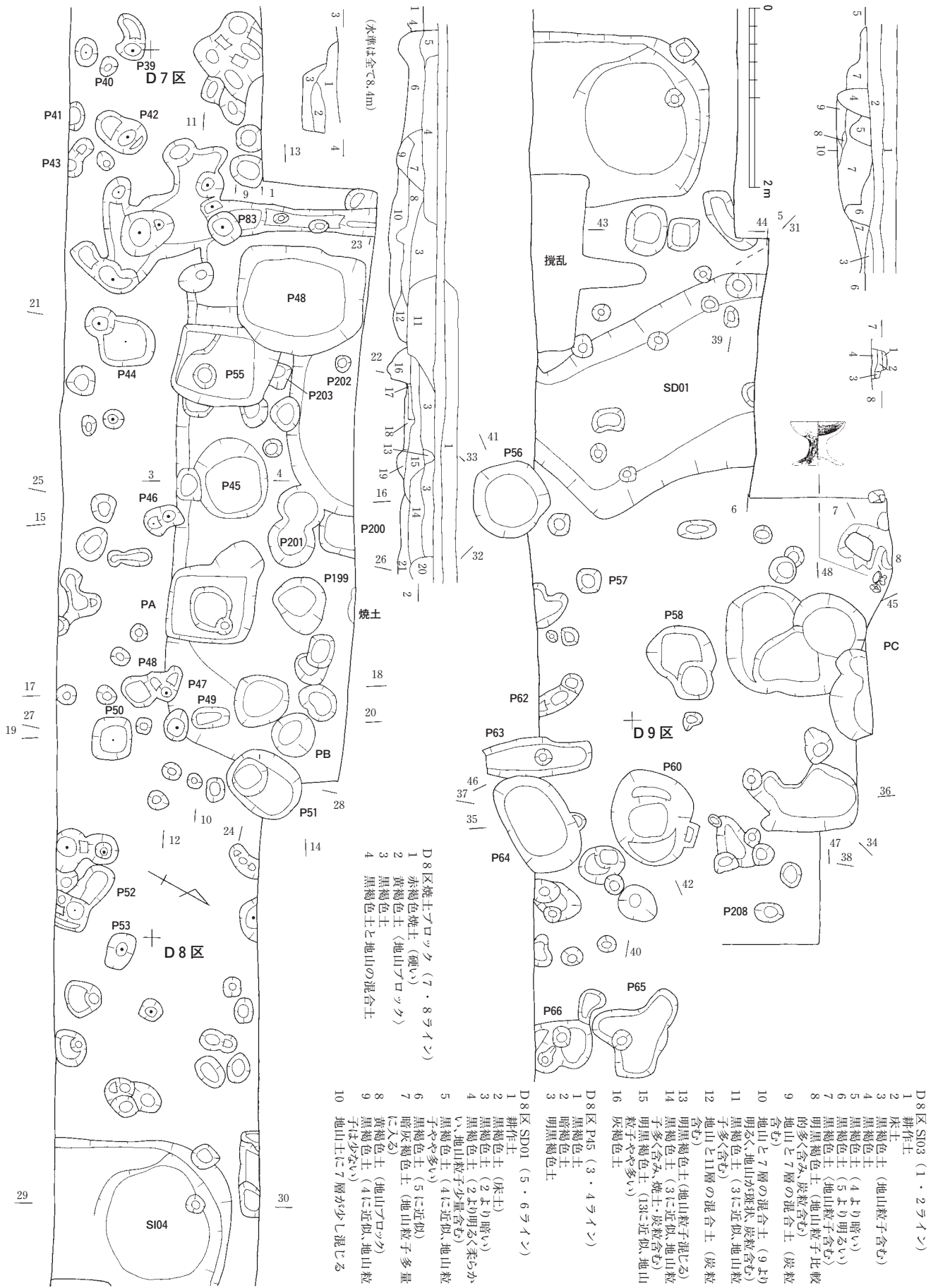


(水準は全て8.4m)

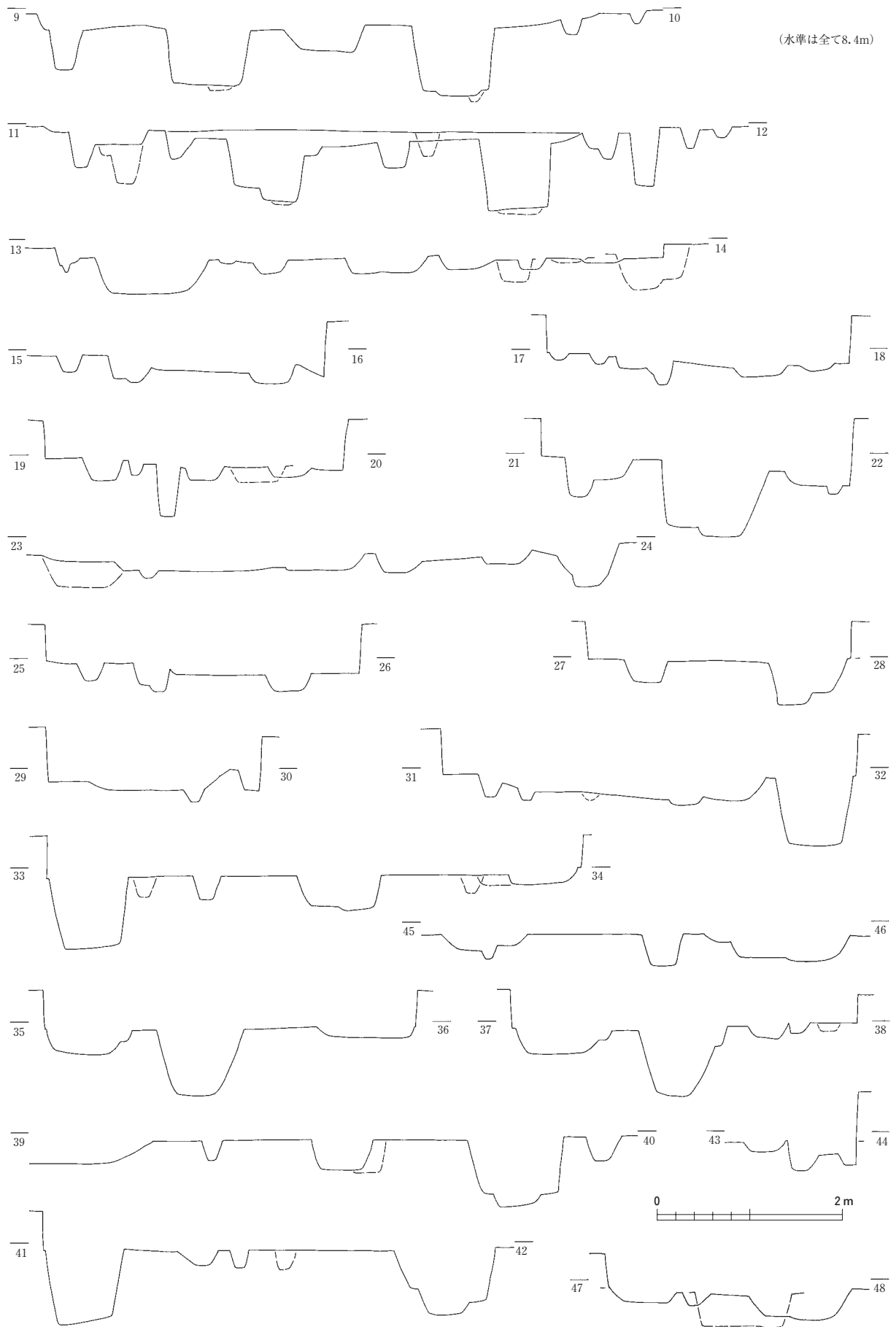
第16図 D区遺構図2



第17図 D区遺構図3



第18図 D区遺構図4



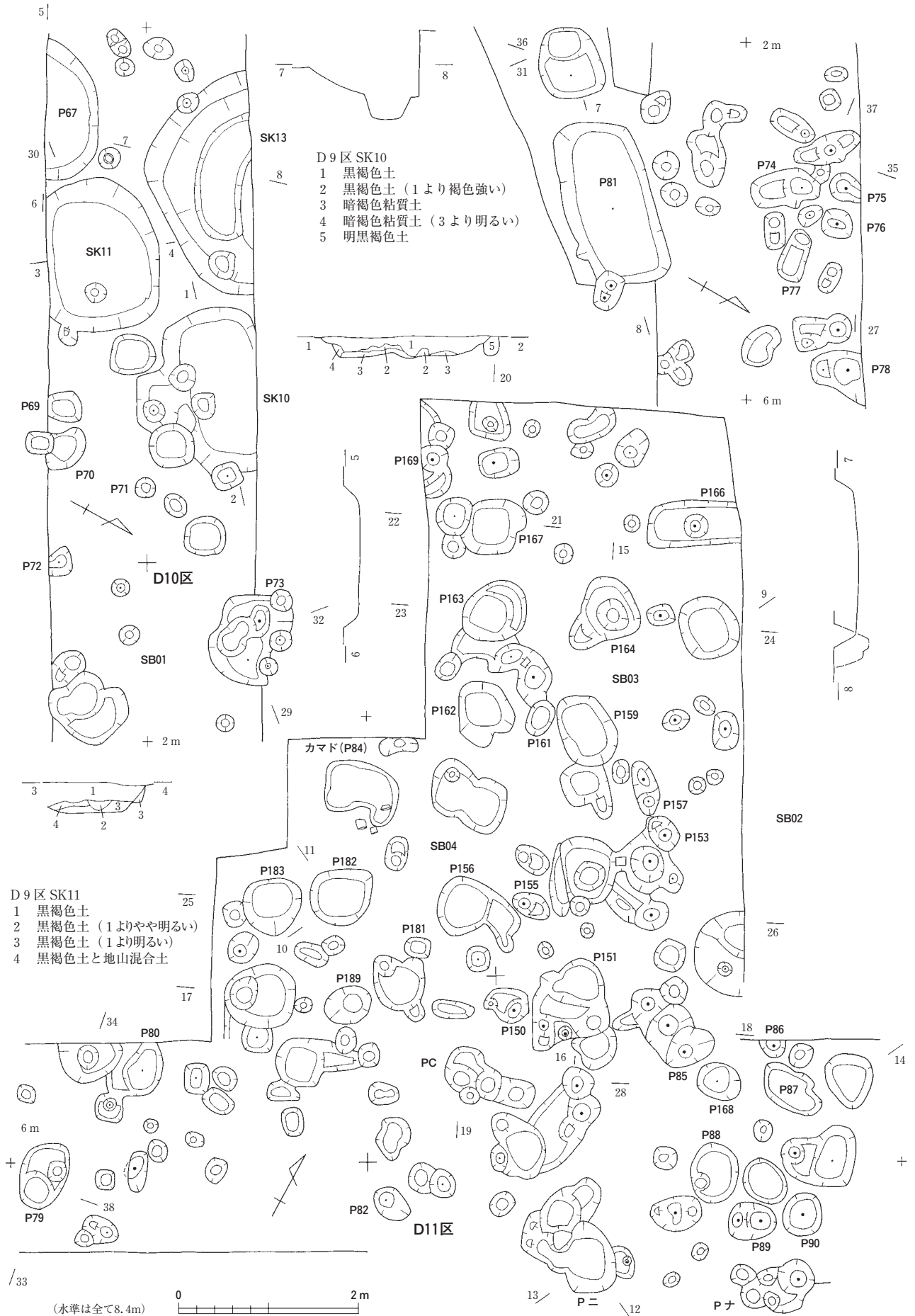
第19図 D区遺構図5

深さ約80cm)であり、間にP45(90×80cm、深さ40cm)が存在する。この大型柱穴(SB05?主軸方位磁北—60°—東)は1間の建物とすると柱間2.6m、2間とすると1.3+1.3mであり、多角形配置の建物になるのではあろうか。P45から須恵器(I期坏身)と土師器(非ロクロ甕2点)が出土した。

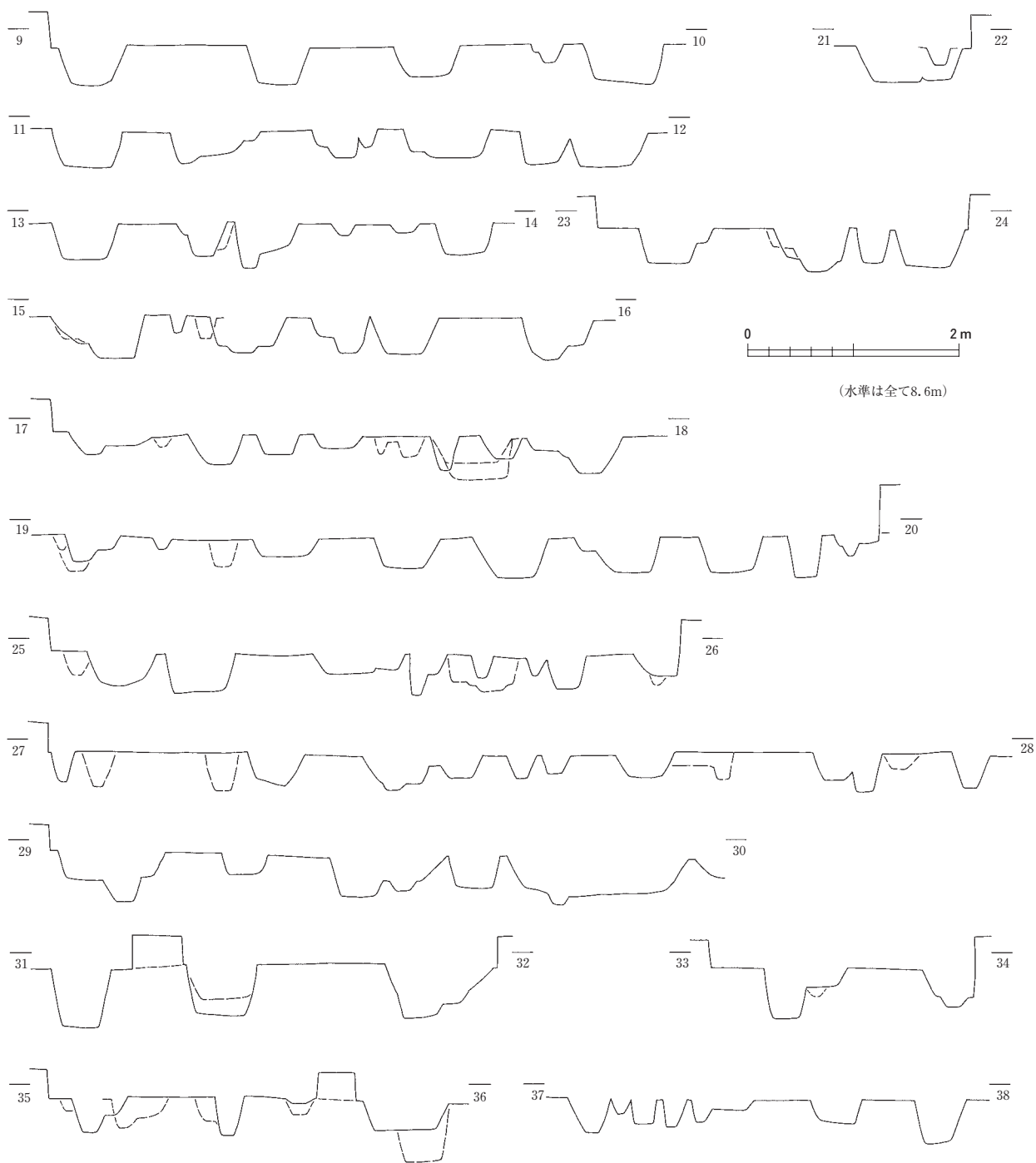
D7~9区では、P50・51(柱間1.6m)を東側として23・24ラインと直行する25・26ライン(SB06?3間、柱間0.9+1.1+0.6+0.7m)、21・22ライン(SB06b?4か5間、柱間0.9+1.1+1.1+1.7m、主軸方位磁北—74°—東)を西側とする建物を想定可能である。またP50・B(柱間2m)を東側として13・14ラインが直行し、4間(1.4+1.1+1+1.2m)×1間(北側1.4・2.1m、南側1.1・1.8・2.1m)以上の建物(SB07?主軸方位磁北—60°—東)を想定可能である。P84からは第31図23・24が出土した。第37図138はP47・49・84から破片が出土した。またP51とP199から土師器非ロクロ甕が出土した。

D8・9区では、P56を隅柱とするとSB08?(主軸方位は磁北—15°—東)は、31・32ライン(3間1.4+1.1+1.1m)、33・34ライン(2.9か1.1+1.8mと2m)が直行するが、31ポイント側の柱穴は浅くて小さく、34ポイントの柱も浅いので難しい面もある。また、P60を隅柱として39・40ラインの延長(4間1.9+1.4+1.4+1.9m)、37・38ライン(1.4m)と43・44ライン(1.1m)が直行するので東西4間、南北3間以上の建物(SB09?主軸方位は磁北—69°—東)が想定可能であり、SD01底のカーブ地点のピットを使うと東西3間、南北2間以上の建物が想定可能である。また35・36ライン(1.3+2m)と47・48ライン(1.9m)が直角に交わり、建物(SB10?主軸方位磁北—30°—西)とすると東西方向は47・48ラインに限定する必要はなく、西側は43・44ラインなる可能性がある。D8・9区大型柱穴P56・60の柱間3.9~4m(主軸方位磁北—40°—東)であり、建物というより単独の柱か門などを想定すべきなのであろうか。周辺から竈と土師器高坏(第31図32、図版5)が出土した。I2~II1期と思われ、内面内黒でミガキは底側縦方向、口縁部横方向である。D8区P54(I期坏身)、P56(高坏脚、無台坏、土師器甑把手、土師器非ロクロ甕)、P60(須恵器蓋)、P61(須恵器甕)、P63(I期坏身、II期蓋、第37図149)、P64(第32図36・37)、D8・9区SI上面包含層から第37図144~147が出土した。8・9区包含層から148が出土した。149は混和材から梯川流域産ないし、福井平野産であろう。

その他の遺構と遺物 SK01~07はD0~2区(第15図)、検出面は8.2~8.3mである。SK01は楕円形(1.7×1.5m、深さ30~44cm)で12・85・86が出土した。SK03は大型の土坑(5.3×1.2m、深さ45cm)でP1付近までは浅く、東側から深くなる。第33図55~58はSK03出土の可能性が高い。55は完形の坏G(II1期)で外面に記号文があり、3本は浅く最後に深く長い直線を引く。57はII2期の坏であり、体部に蓋の口縁部が2個体溶着する。口縁部は熱により歪みと微剥離が認められる。蓋は斜めに落ち込み、そこから自然釉が多量に流れ込んで反対側に近い部分(内面の1/4:65×35mmの幅)に厚く溜まる。この須恵器は蓋と正位で他の2個のセットの上に載せられて焼成された。58はロクロ土師器の甕であり、口縁部は丸く仕上げている。55は少し古いが遺構はII1新~II2期との教示を得た。SK04は隅円方形(1.1×1m、深さ35cm)の柱穴と思われる。第30図14・15と土師器塀・87が出土した。塀は外面細いハケ調整、内面はタテミガキ調整で一部赤彩痕がある。SK05は隅円方形(124×52cm、深さ20cm、第35図88)、SK06(図版3)は円形(直径1.2m、深さ30~36cm)と思われる。SK07(図版3)は楕円形(3.4×2.2m以上、深さ30cm)の大型土坑で須恵器(埴輪、I期坏身、有台坏)、土師器小皿、加賀焼(第35図89・90)とバンドコ(第31図21・22)が出土した。SK08はD3区北側(第16図)、楕円形(98×98cm、深さ1.3m)で須恵器有台坏小片が出土した。SK09はD4・5区にある風倒木であり、土師器小甕底部が出土した。D9区北側(第20図)には土坑群が存在し、



第20図 D区遺構図6



第21図 D区遺構図7

検出面は8.4mである。SK10は楕円形（1.9×1.1m、深さ20cm）、SK11も楕円形（1.7×1.3m、深さ36～39cm）、P67も楕円形（1.6×0.6m、深さ15cm）である。SK11から第32図39・40が出土し、39はⅣ期の無台坏、40は7世紀後半の有台坏と思われる。SK13は隅円方形（2.2m以上、深さ60cm）と思われ、第32図41・42が出土した。41は口縁部を丸く仕上げる甕であり、42は口縁部を面取りする塙でハケ幅が広い。41はⅡ3期、42はⅡ3～Ⅲ期と思われる。

SI04（第18図）はD8区の土坑と溝（SD01）であった。隅円長方形（2×2m以上、深さ8～16cm）の中に円形の土坑（1.8×1.2m、深さ10～15cm）が存在する。上面から第37図144～147が、遺構からは第32図33～35が出土した。34は内面に須恵器窯破片が溶着している。他に7世紀後半の須恵器蓋の小破片がある。35は鍛冶炉に伴う轆の羽口で、遺構からは椀形滓2点（73×53×30mm102.8g、32×28×12mm8.9g）と錆膨れした鉄器1点（18×11×9mm、2.4g）、検出面の包含層からは椀形滓（50×36×14mm、27.8g）が出土した。SD01はほぼ直角に曲がり、東西方向は幅広く（1.8～2.1m以上）、南北方向は狭い（0.7m以上）。須恵器蓋（Ⅱ期）と非ロクロ土師器甕と土師器塙の小破片が出土し、時期は7世紀後半以降と思われる。P81はD10区、検出面8.4～8.5mで長方形（2×1m、深さ20～30cm）である。

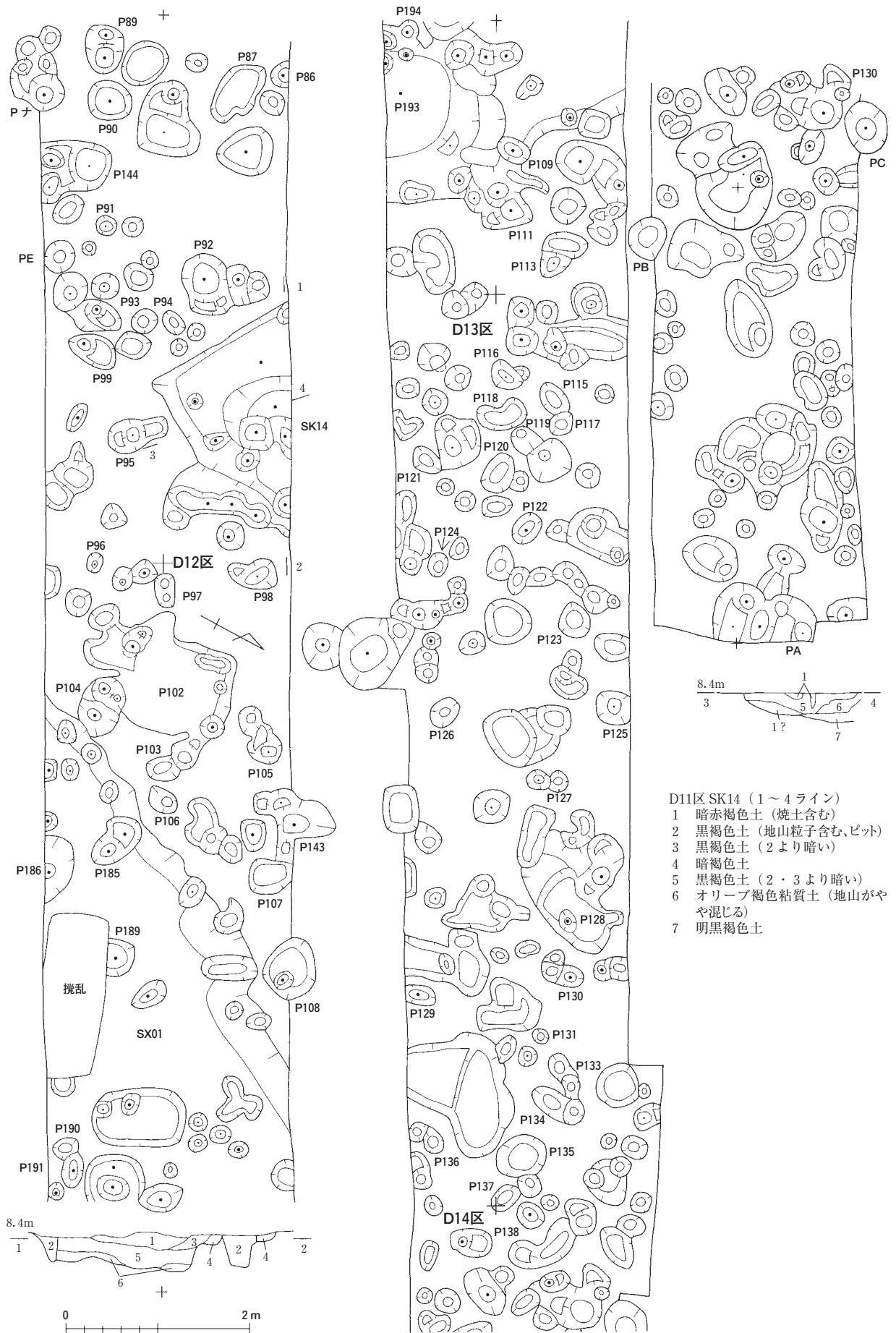
SX01はD12区に位置する溝（深さ10～20cm）であった。第33図50・51、第34図70が出土し、70は須恵器製の紡錘車であり、孔径は6mmと思われる。他に土師器赤彩椀、土師器高杯、須恵器、椀形滓（37×36×24mm34.2g、32×27×13mm16.7g、27×16×11mm8.4g、19×16×14mm4.1g、34×30×11mm7.1g、30×20×12mm4.5g）が出土した。

D1区P6から椀形滓（29×17×17mm、10g）、D2区P9から椀形滓（44×33×28mm、37.2g）、D3区P16から轆の羽口（第30図16）が出土した。第31図30はD7区包含層出土の須恵器坏蓋で時期はⅡ1～Ⅱ2期と思われる。D9P63から第32図43～45、第37図149が出土した。44は土師器甕で口縁部が短い。149は梯川流域から持ち込まれた土器である。D9区P64から第32図36～38が出土した。36はⅡ2～3期の有台坏と思われ、37は高坏脚部だが還元せず、白色である。38は椀形滓で下側全面に砂粒（鍛冶炉の表面）が付着する。D10区拡張部P207から砂岩製の切石（46）が出土し、3面が生きており2面は火を受ける。第32図49はD11区SK14とD12区P102から出土した須恵器坏で口縁部内外面（4mmまで）に重焼きの痕がある。D区拡張区P157には土師器高杯の破片、包含層からは第30図4、第36図117が出土した。4は須恵器有台坏で高台を外側に張り出させており、時期はⅡ2期と思われる。D11区P86から第32図47が出土し、口縁部端部～外面（12mmまで）重ね焼きの痕があるが、口縁部から3mm以下と以上では痕跡が異なる。D13区P120から非ロクロ甕と高坏（共に土師器）が出土した。D13区P126から須恵器有台坏（第33図52）が出土し、色調は灰白色で軟質である。D13区P130から須恵器蓋（第33図53）が出土し、天井部は自然釉があるが、ケズリ調整と思われる。D13区P138から土師器高坏（第33図54）が出土し、内面は内黒である。

4. E区

掘立柱建物 SB01（第23図10・9ライン、図版6）は9.3mに5間（柱間2.2+1.5+1.4+1.4・1.8+2.4m、主軸方位磁北—43°—東）があり、両端の柱間がやや広い。東側に建物が広がり、P90から建替えないし2棟の切合いもあろう。E2区P88から第33図60が出土し、外面に火だすきが2本平行してある。SK05から第33図67が出土し、非ロクロの土師器甕で外面は磨耗が著しい。Ⅱ2～Ⅱ3期の須恵器坏口縁部細片3点が出土した。SB02（第23図5～8ライン、図版6、主軸方位磁北—2°

第2節 遺構と遺物



第22図 D区遺構図8

一東)は 2×2 間以上の建物と思われ、11・12ラインから総柱建物の可能性もあろう。南北4.6m(柱間 $2.1+1.8 \cdot 2.5$ m)、東西3.1m($1.6+1.5$ m)である。SB03(第24図、図版7、主軸方位磁北 -54° 一東)はE5区に位置し、 4×2 間以上の建物と思われる。P10の存在(柱間 $1.3 \sim 1.4$ m)から4ポイント東側を拡張したが柱穴は無かった。東西方向は5.1m(柱間 $1.1+1.4+1.5+1.1$ m)、南北方向東側2.4m(柱間 $1.3+1.1$ m)・西側2.7m($1.3+1.4$ m)であり、P126から第33図66が出土し、側面・下面の造りは雑である

その他の遺構・遺物土 E7～8区・F1区周辺(第25図)では深いピットや遺物を出土したピットをやや多く検出したが建物を認定するには至らなかった。SK01(第23図)はE2区、不整形($1.4 \times$ m、深さ20cm)で第33図62が出土し、方形透かしを持つ。SK02はE2区南側、やや楕円形(1.5×1 m、深さ20cm)である。SK03はE3区、深い部分は 1.3×1 mで北側に30cm突出部(深さ20cm)を持つ。第33図63が出土し、小片がSK07から出土し、内面は1方向のユビナデである。SK06はE5区東側、不整形(1.6×1.2 m以上、深さ40cm)で中に柱穴(検出面から深さ $25 \cdot 36$ cm)がある。内外面タキ調整の土師器長胴甕の丸底が出土した。

E1区SK06(井戸、図面紛失)とE2区SD02(SK07)は、素掘りの井戸(第23図、図版6)であり水源は深い為に2m以内で掘り下げを中止した。両井戸の間には東西方向の溝があり、SK07が切っており、南側の土坑も溝の一部になる可能性もある。SK06下層から黄瀬戸、越前焼播鉢、唐津焼皿(第37図151)が出土したので近世以降である。SK07から第33図59、珠洲焼播鉢、加賀焼播鉢、加賀焼甕、黄瀬戸、軟質凝灰岩の破片が出土した。59は珠洲V期の播鉢(14世紀末～15世紀前半)であり、遺構の時期は近世の可能性が高いと思われる。SD03(第24図、図版7)はE4区、東北東に掘られた溝である。検出時はSD02と共に古墳の周溝と思われたが、珠洲焼の播鉢(6×4 cm)、須恵器坏口縁3点、須恵器有台坏1点が出土し、中世以降の溝(幅 2.2 m以上、深さ30cm)であり、東側は90cmと深い。南側には楕円形(1.3×0.9 m、深さ20cm)の土坑があるが、古い遺構と思われる。SD01から第33図64が出土した。64は須恵質埴輪であるが酸化によりにぶい橙色であり、内面の上側はナデで滑らかである。

E2区P91から第33図61、E5区P10からは第33図69が出土した。61は肩部の屈曲が強く胴部下半にはタキ痕を持つ。69は土師器塼であり9世紀中頃と思われる。E2区P89からI期の須恵器坏、E5区P7から椀形滓($42 \times 31 \times 15$ mm 19.2 g)が出土した。

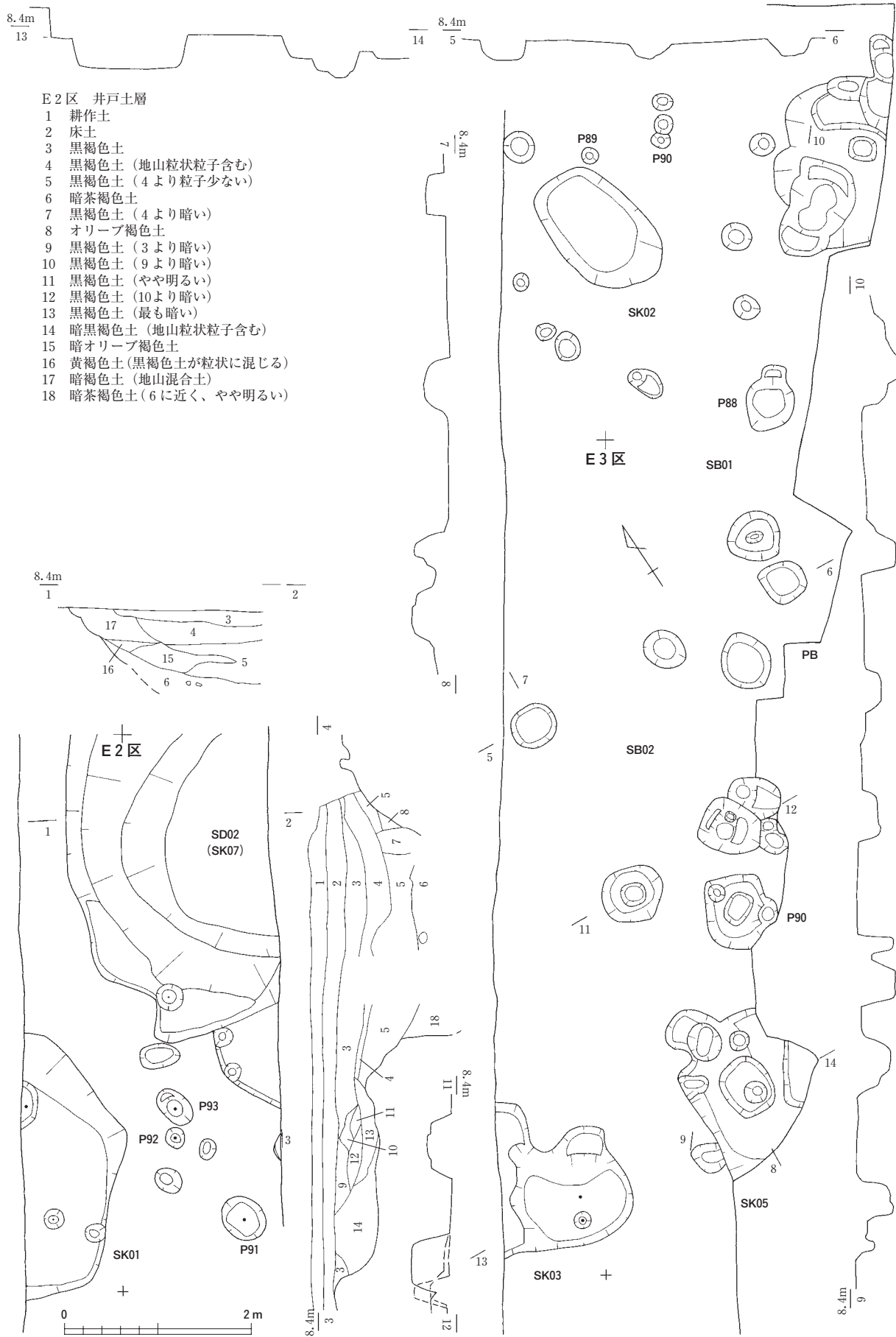
5. F・G地区

F区SB01(第26図、図版7・8)は大型の側柱建物であり、主軸方位は磁北 -51° 一東である。5間(8.8 m柱間 $2+1.7+1.7+1.6+1.8$ m) \times 3間以上(4.2 m柱間 $1.5+1.3+1.4$ m: 1.4 m)である。SB01P1からIV期の盤小片(第36図137)が出土した。F1区P64・包含層(I期の須恵器坏)、P65(II期の土師器塼)、F2区P68(須恵器坏)などがあるが小片である。第33図68はG11区P6出土の定角式磨製石斧であり、両刃なので縄文時代の石斧と思われる。

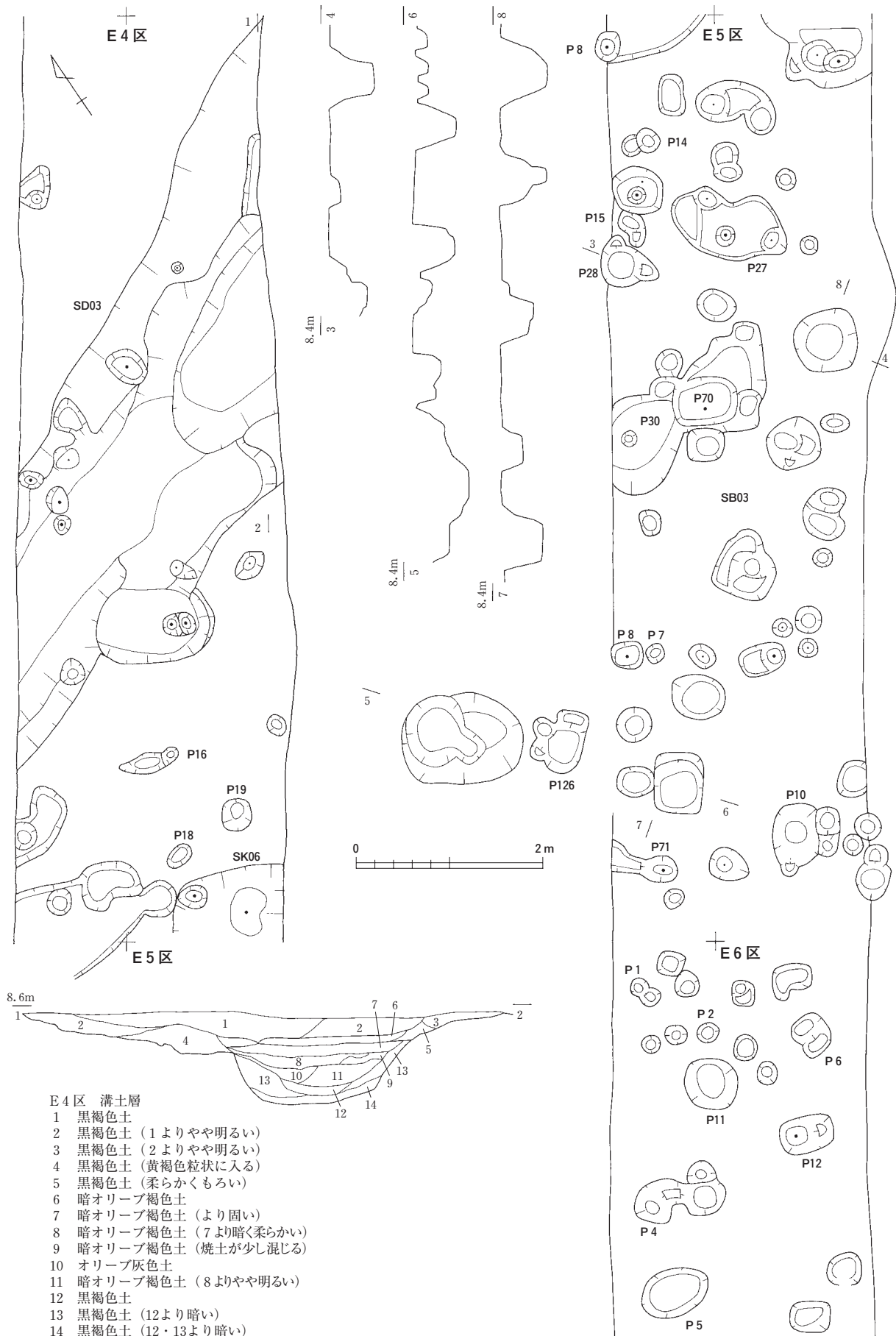
6. H・I地区

H区は幅 $3 \sim 4$ m、長さ 20 m、I区は幅 $3 \sim 4$ mで $9+22$ mの限定された調査区(図版8)である。H区の溝(第29図)は幅 $1.7 \sim 3$ m、深さ $20 \sim 50$ cmであるが、幅は $2.1 \sim 2.5$ mの部分が多い。外側は

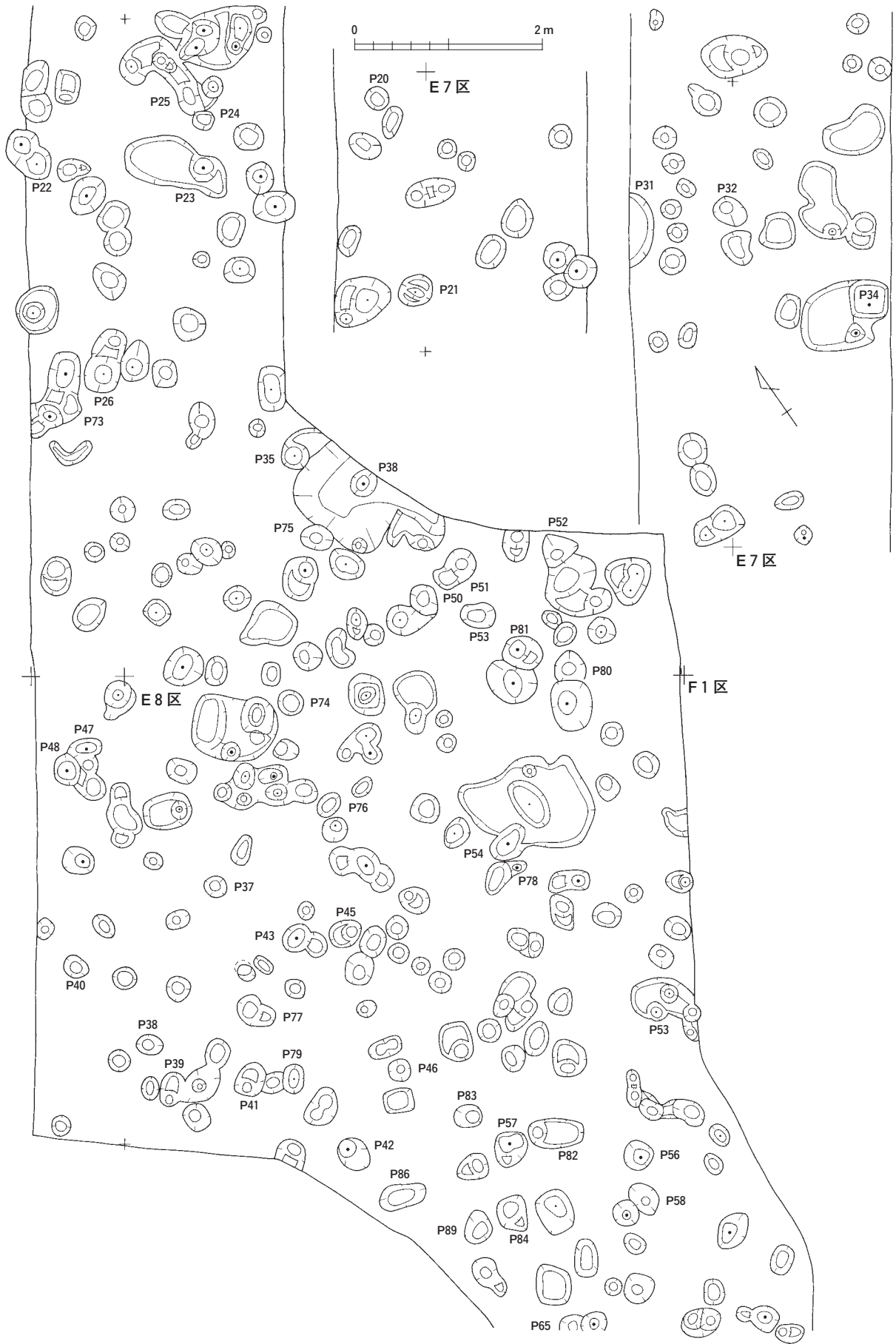
第2節 遺構と遺物



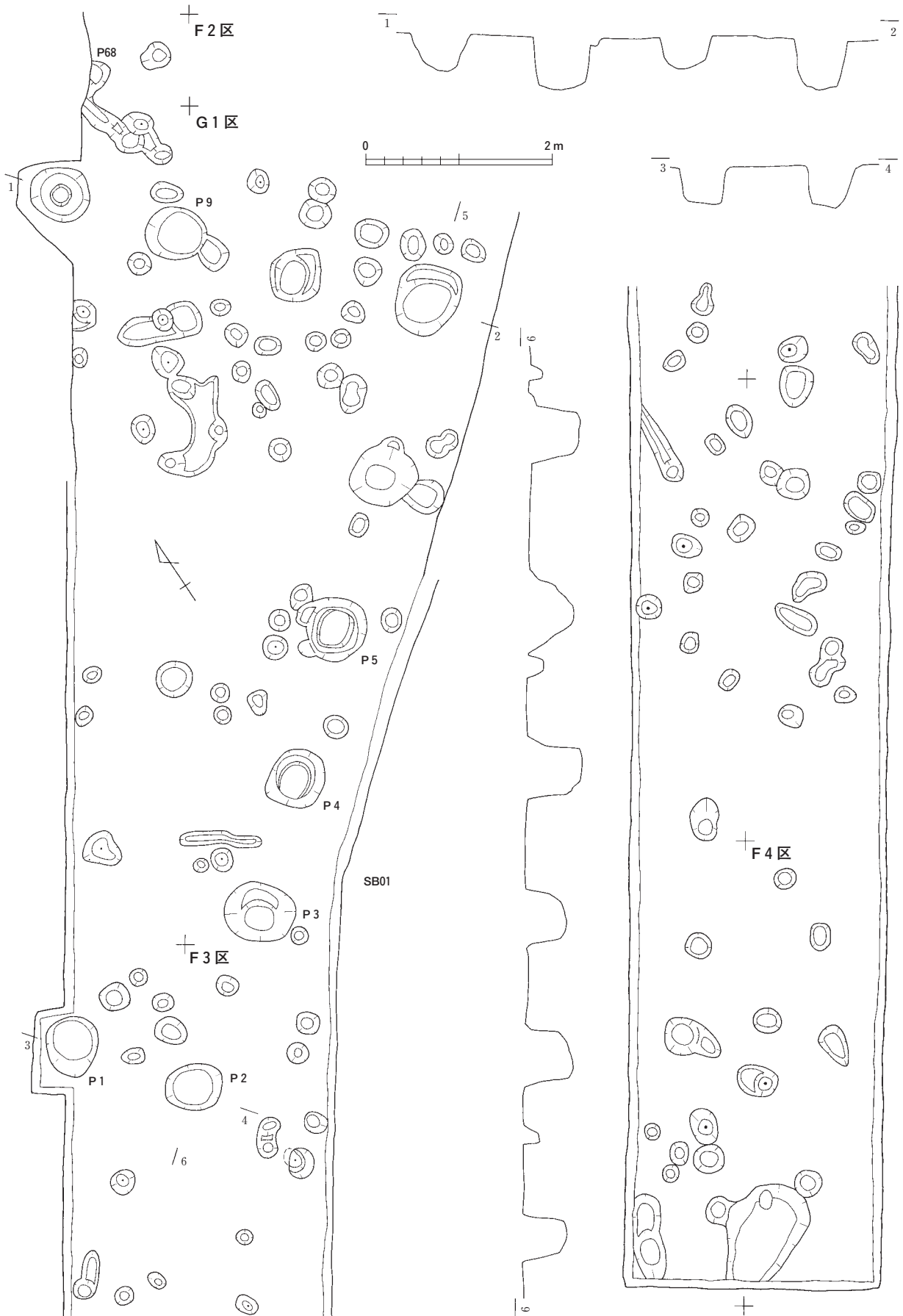
第23図 E区遺構図1



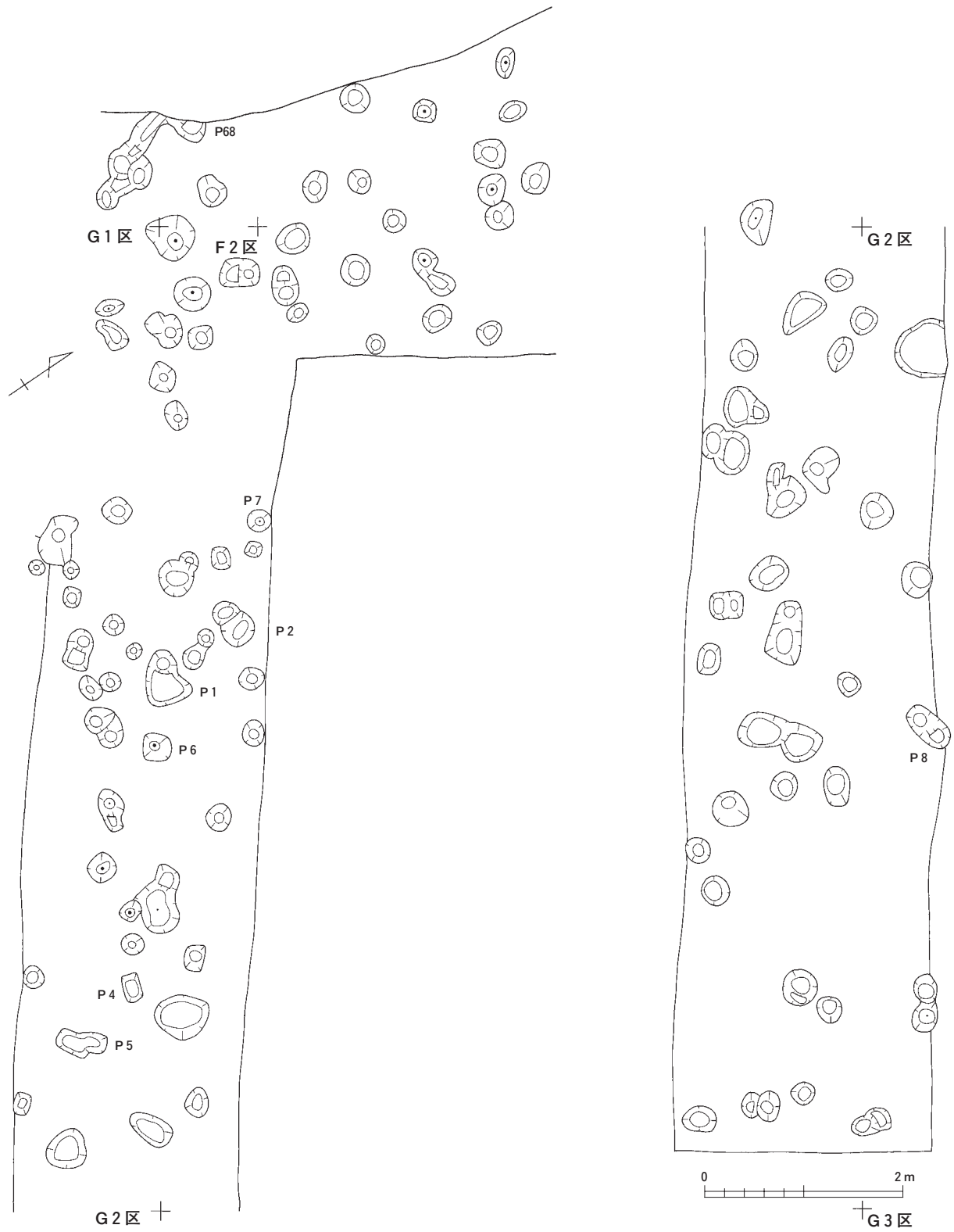
第24図 E区遺構図2



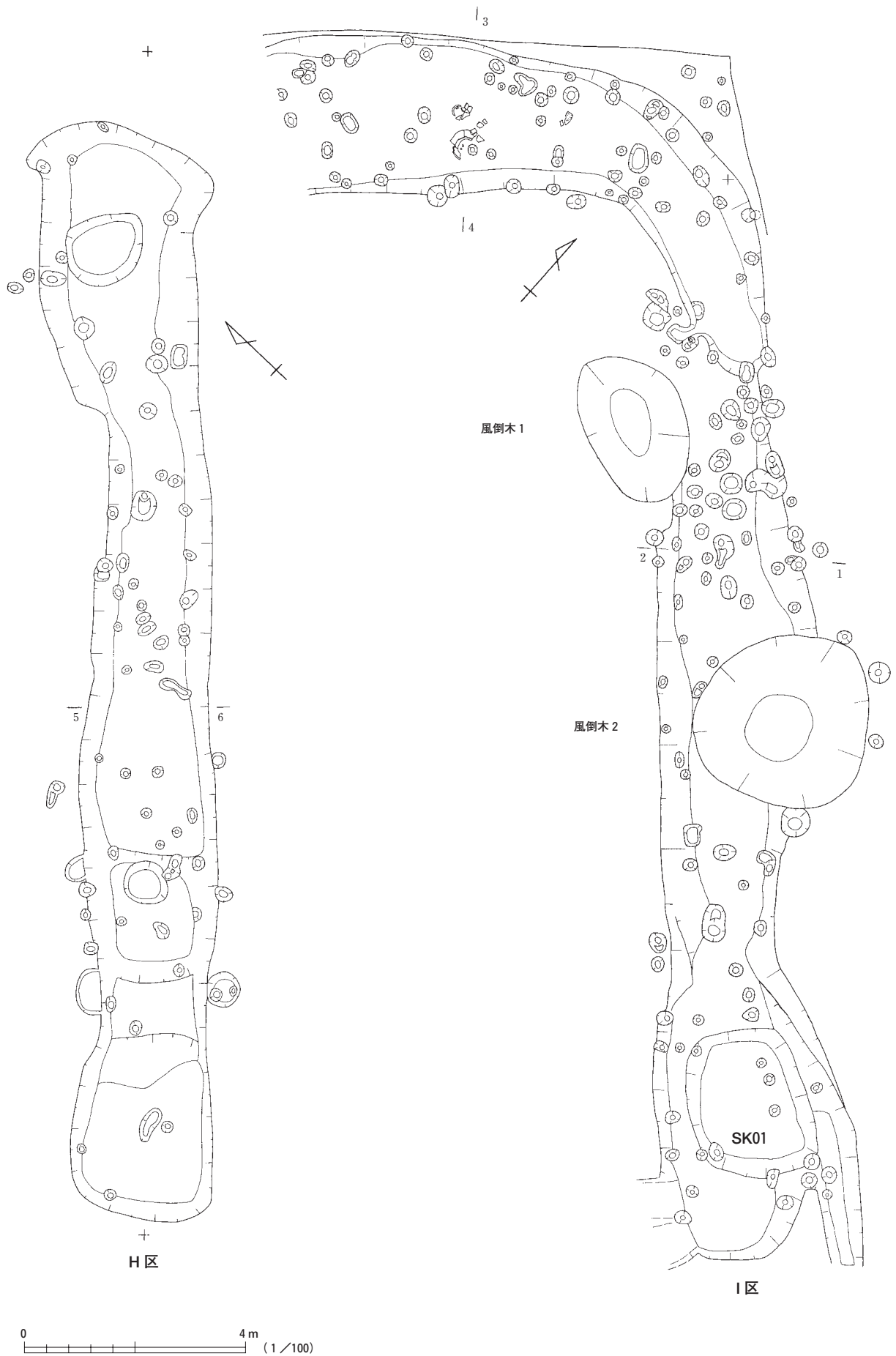
第25図 E区遺構図3



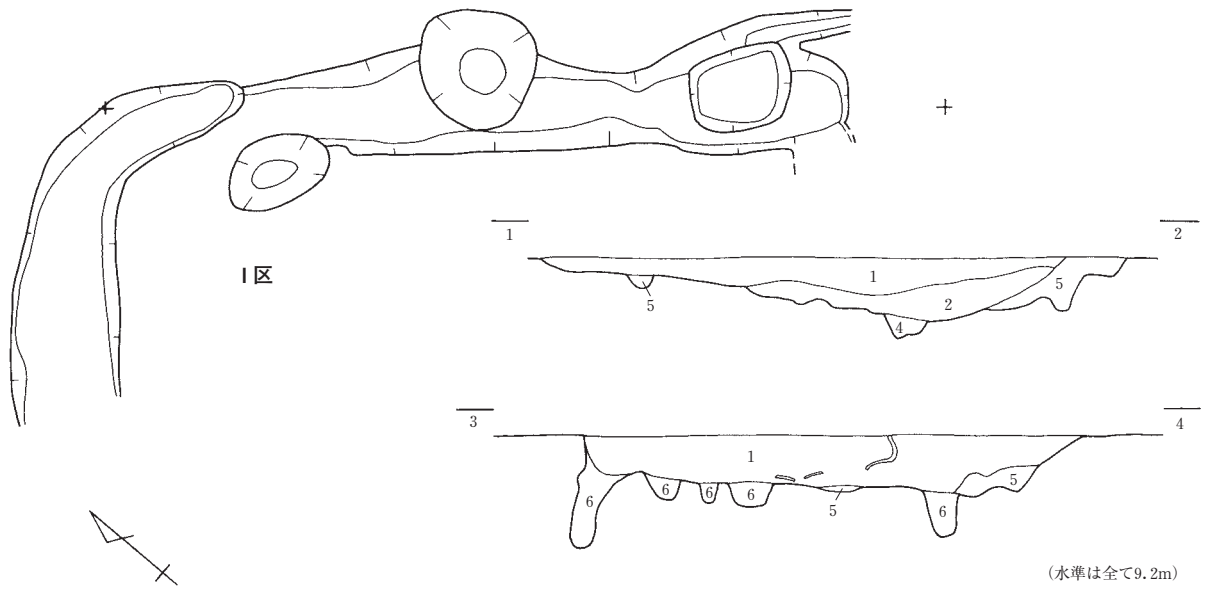
第26図 F区遺構図



第27図 G区遺構図

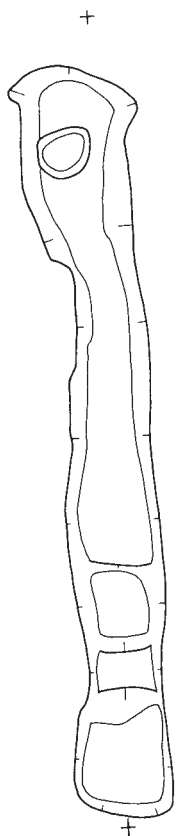
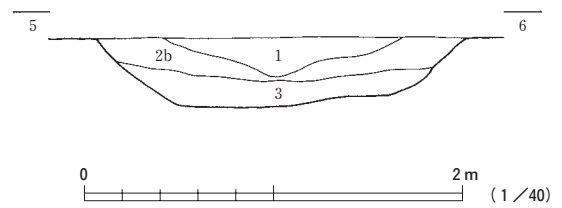


第28図 H・I区遺構図1



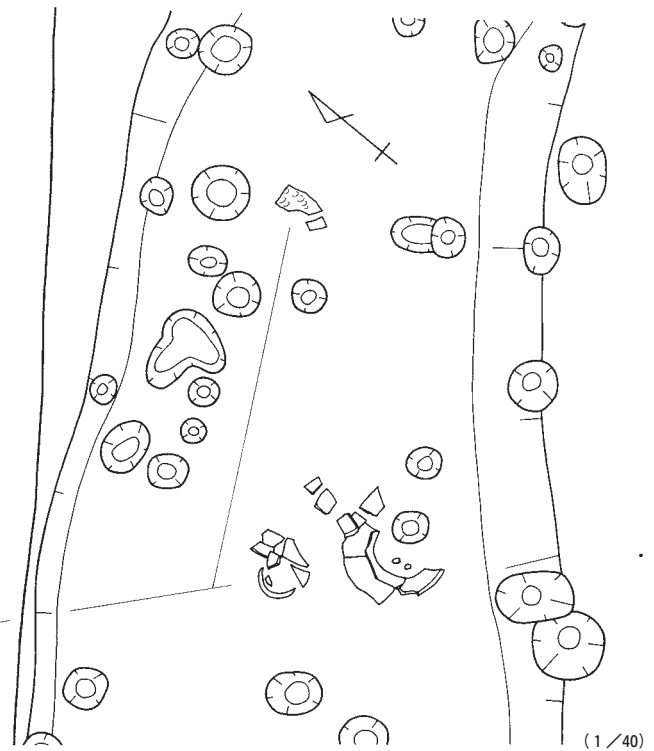
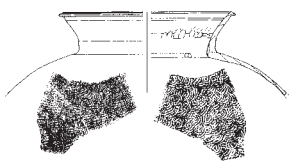
H・I区溝 (第28図1～6ライン)

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 (1より暗い)
- b 褐色が強い
- 3 黒褐色土 (1より明るい)
- 4 黒褐色土 (2より暗い)
- 5 暗灰褐色土
- 6 暗褐色土

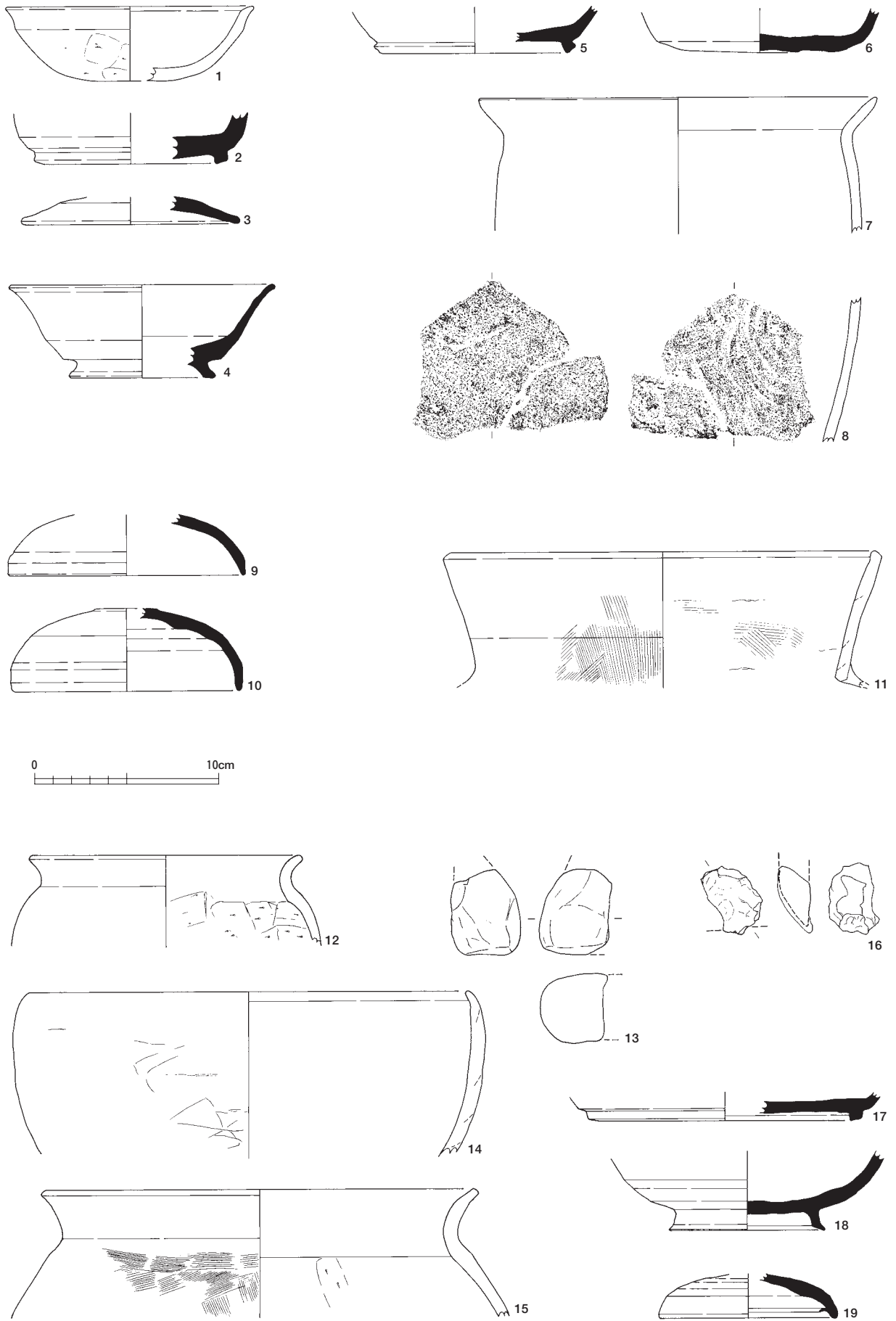


第34図71

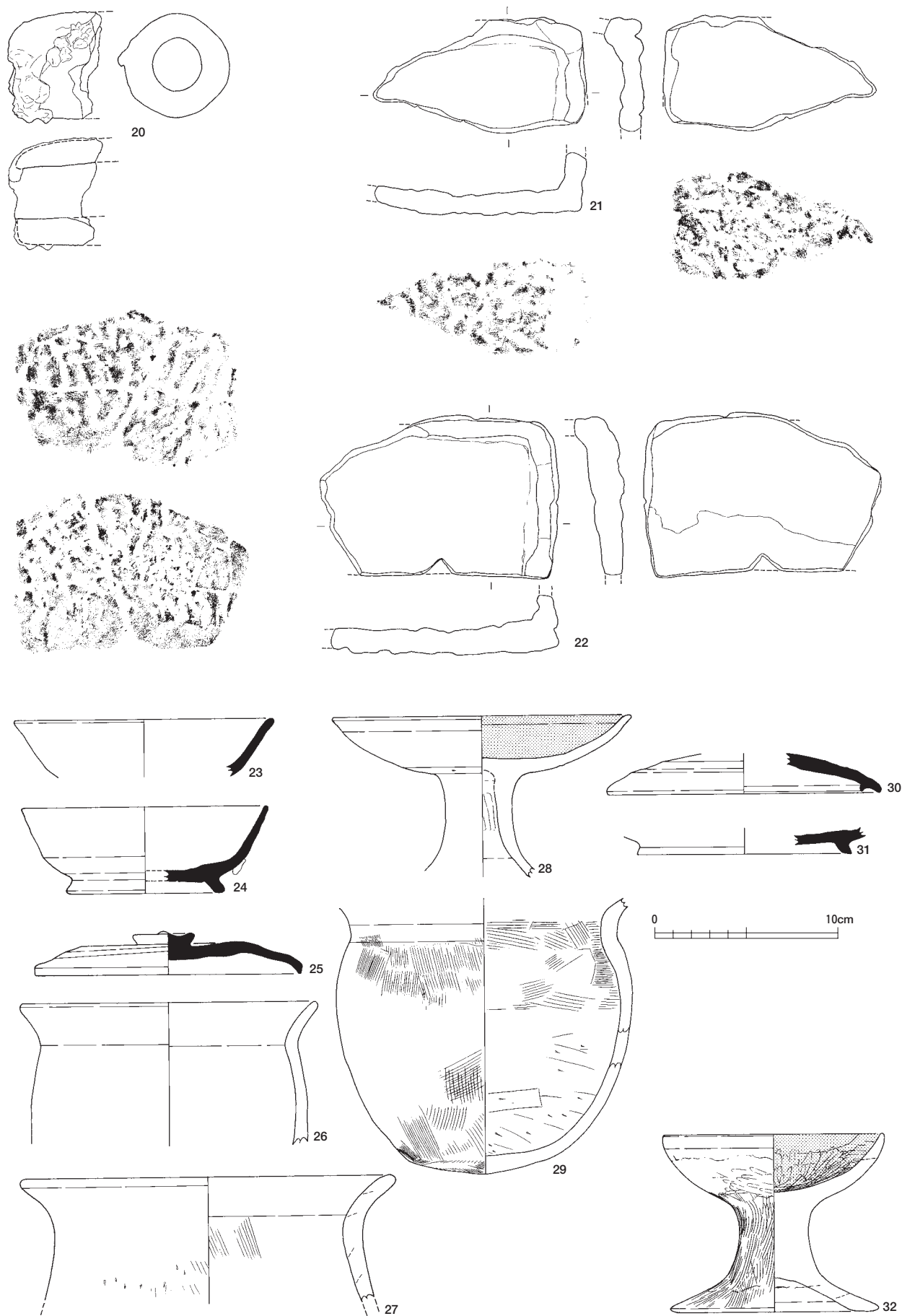
(1/20)



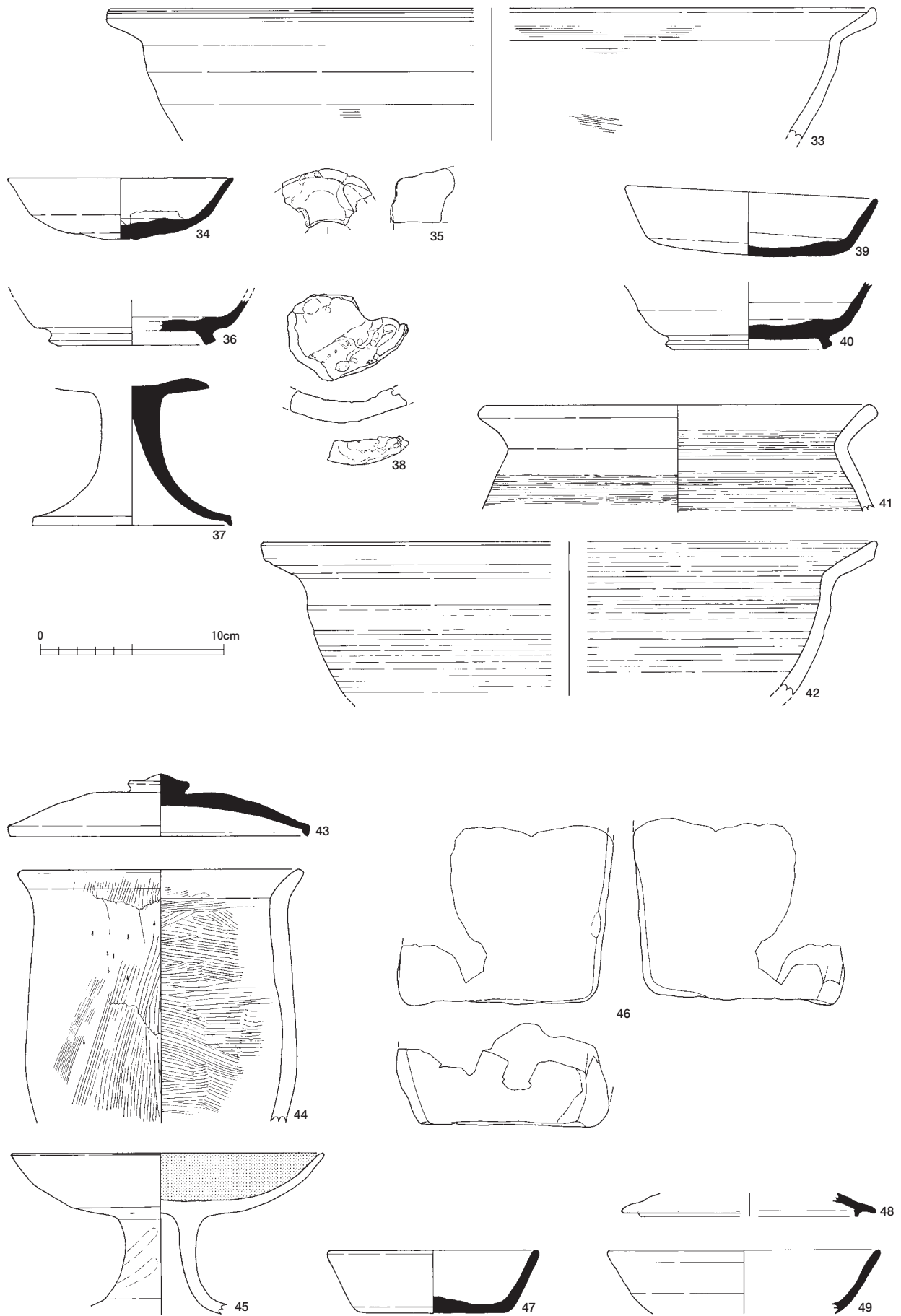
第29図 H・I区遺構図2



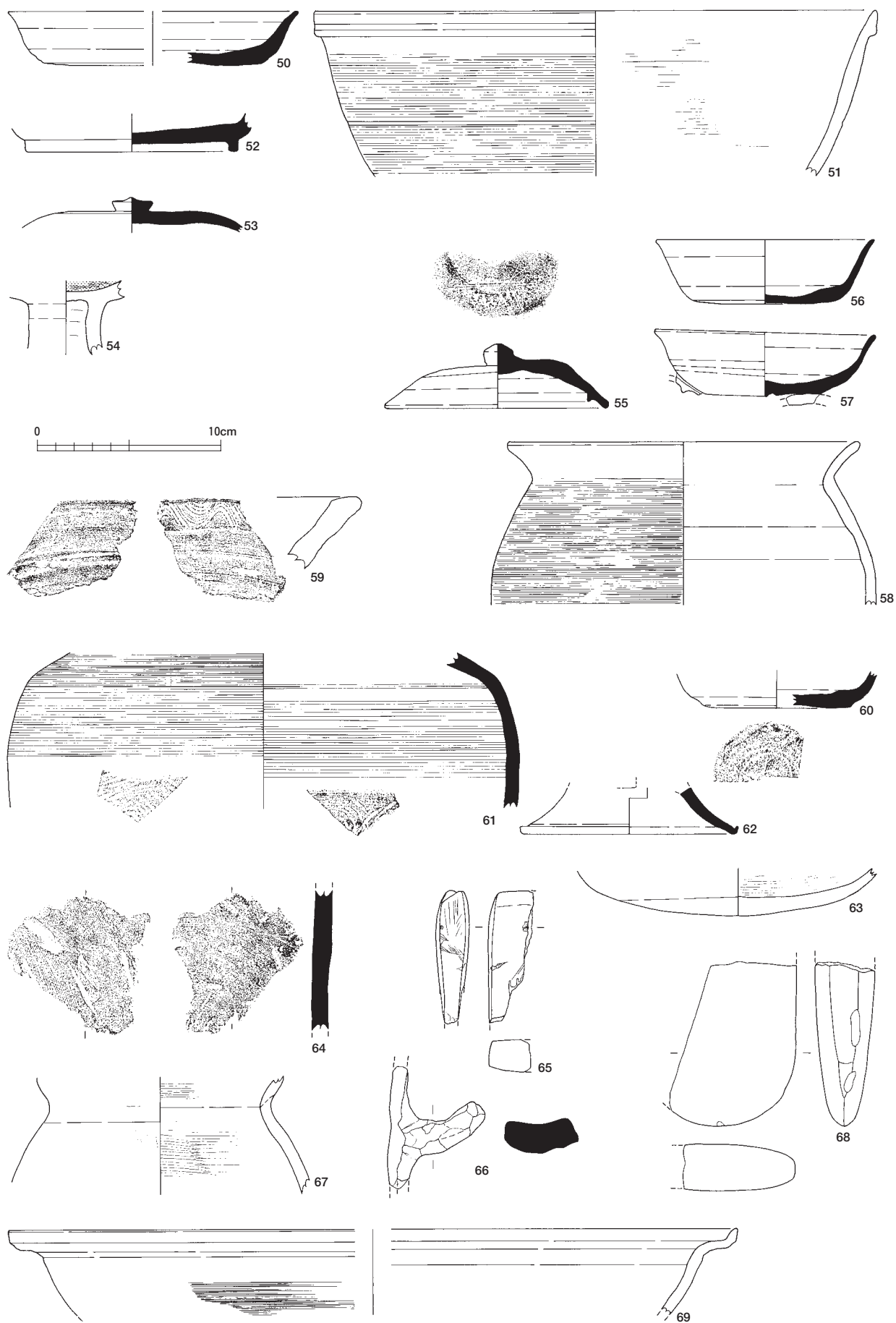
第30図 調査区出土遺物1



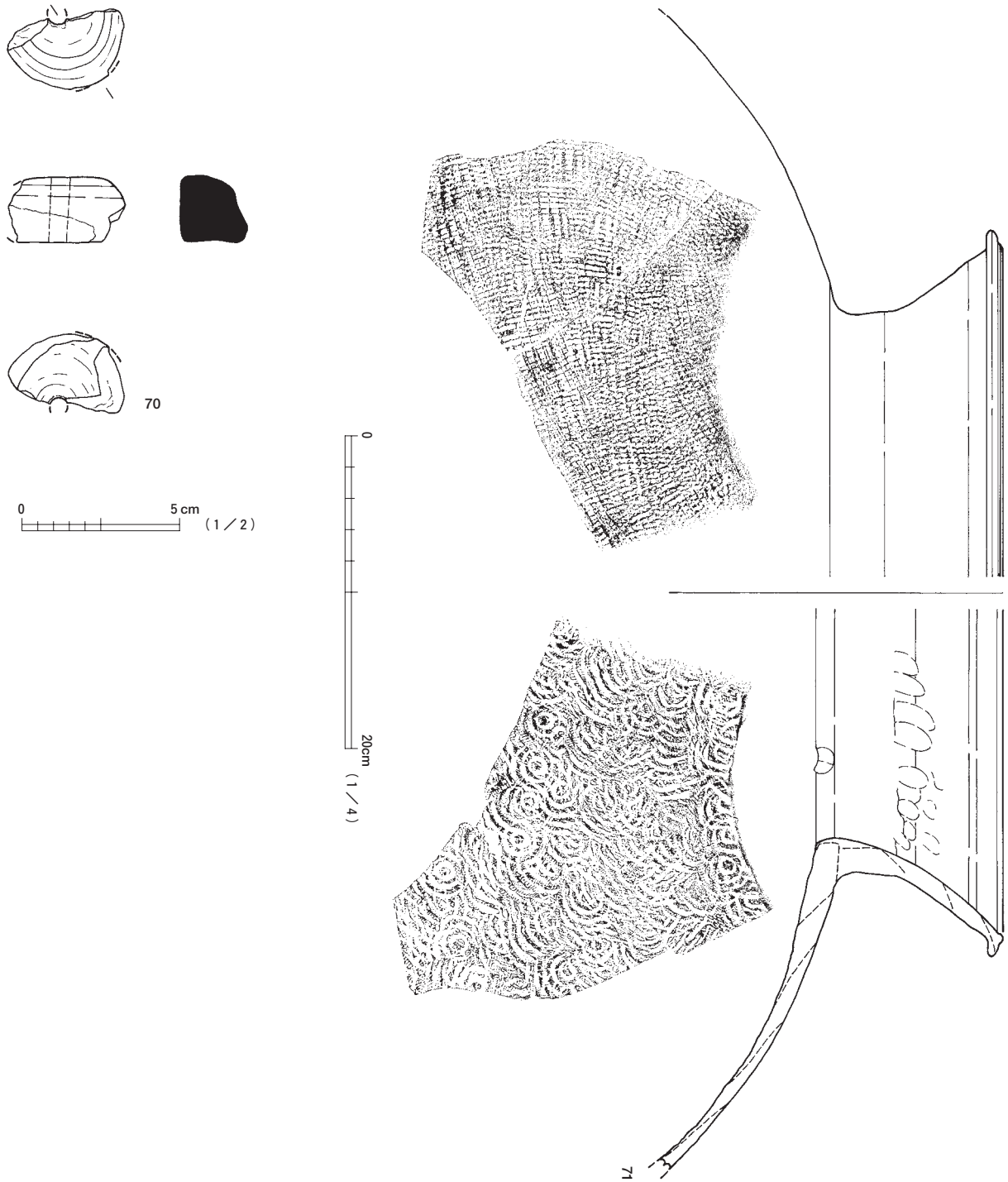
第31図 調査区出土遺物2



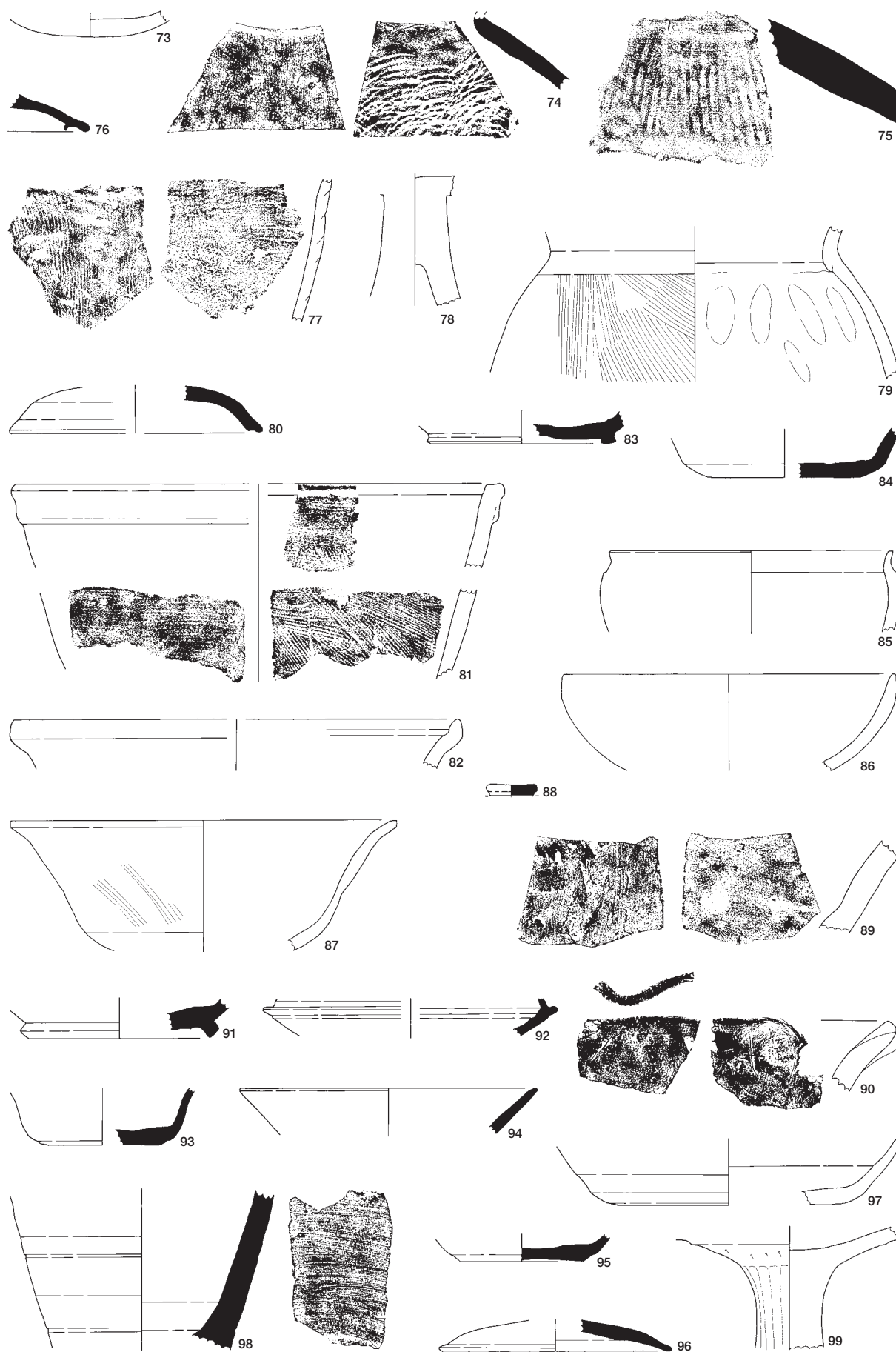
第32図 調査区出土遺物 3



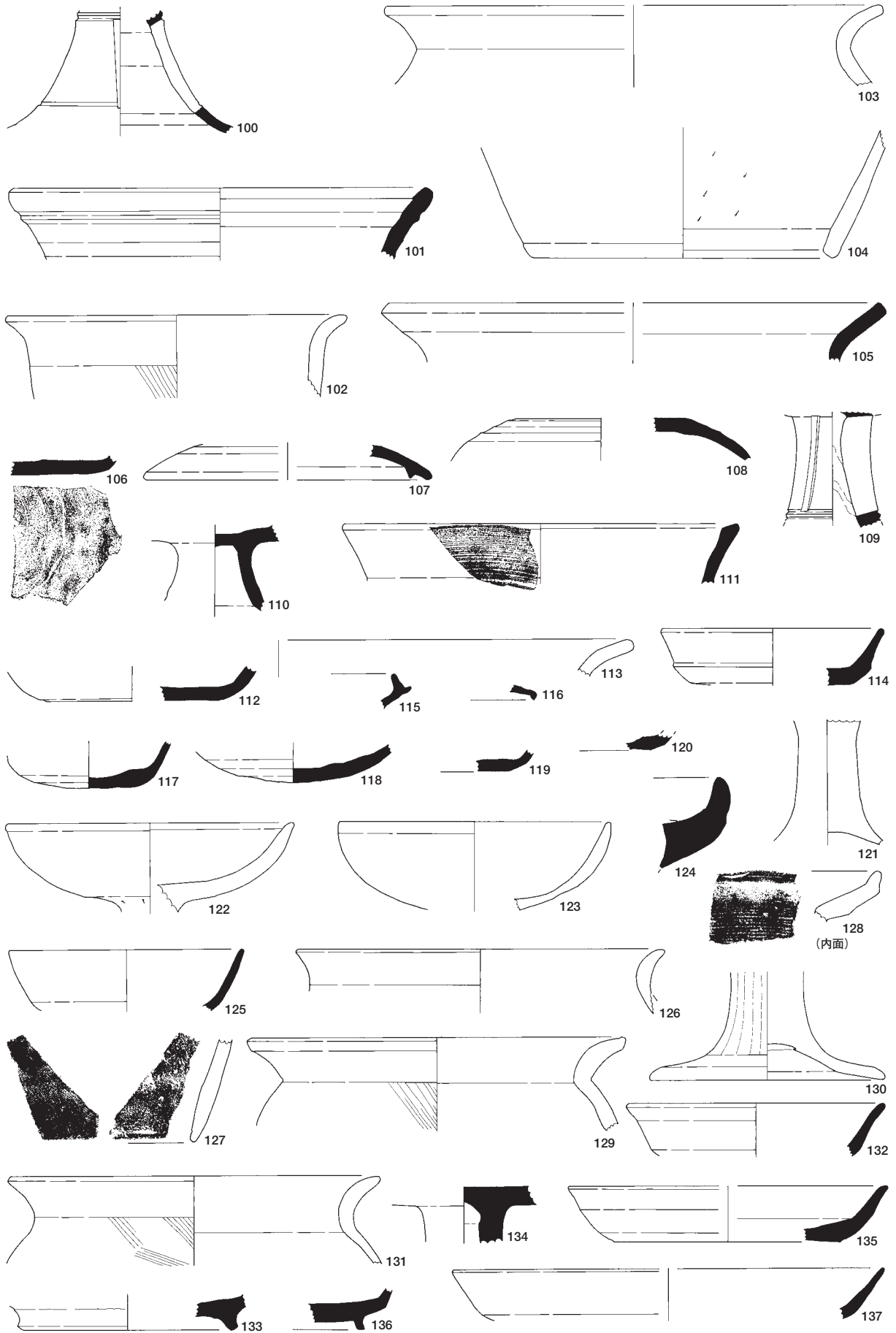
第33図 調査区出土遺物 4



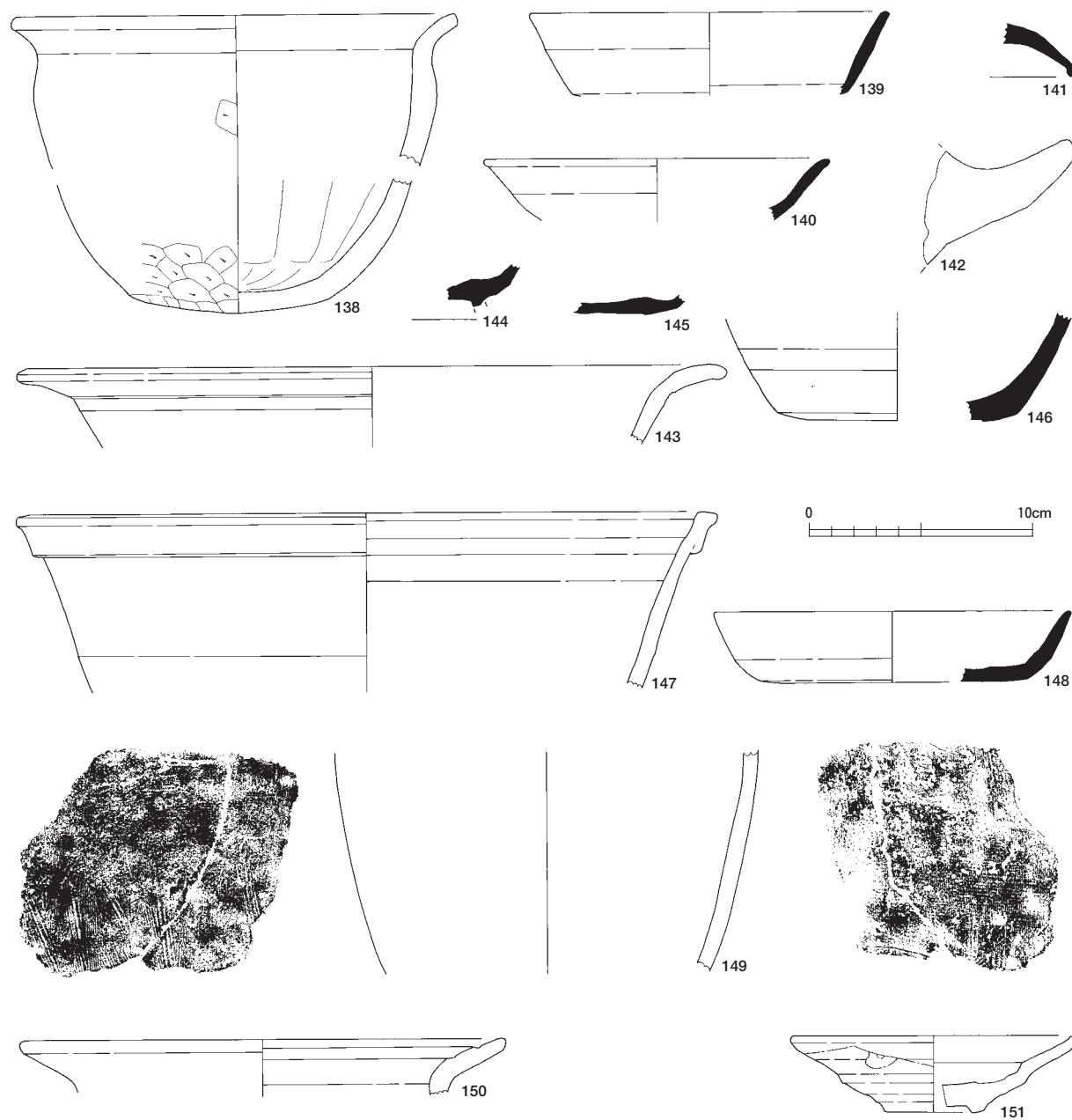
第34図 調査区出土遺物 5



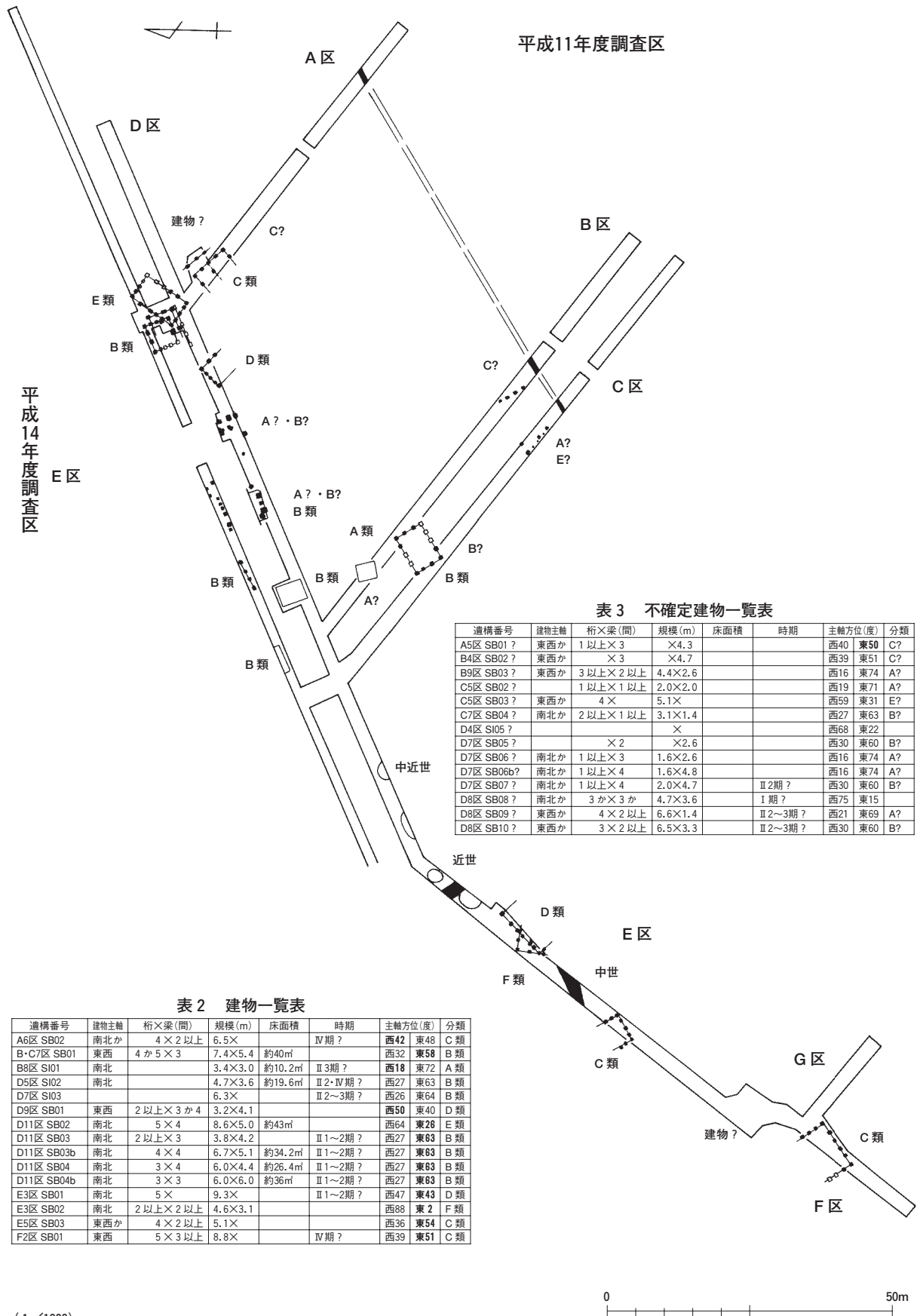
第35図 調査区出土遺物6



第36図 調査区出土遺物7



第37図 調査区出土遺物 8



第38図 平成11年度調査区

やや溝の形は凹凸があるが、内側はほぼ直線的である。I区は溝から須恵器甕（第34図71）が出土し、風倒木1（2.8×1.8m、深さ80cm）・風倒木2（3.4×3.1m、深さ1m）とSK01（2.7×2.2m、深さ50cm）などを確認した。溝は農道下から5.5m地点で曲がり始め、ほぼ直角に南東側19m延びていく。SK01の東側で南側に巡っていたが、南東側に延びるかは調査区の制約で確認出来なかった。北東側は幅2.2～2.9m、深さ10～30cmであり、コーナー部分にかけては少し浅くなる。コーナー部分は幅1.8mであり、外側は10cm、内側が20cmの深さである。風倒木1の北側の溝は浅いために、コーナー部分が繋がらないように見える。風倒木1以東は幅2～3.5m、深さ30～40cmである。H区溝南端とI区溝コーナーまでは35mあり、直角に南東に曲がり、17.7mで直角に曲がるようである。不時発見と調査区の制約から、方墳としてもI区の溝はほぼ半分と足りず、建物などの区画としても内部を確認出来なかったので全体を捉え切れなかった。第34図71はI区SD出土であり、破片は1m以内（第29図）に存在し、床から10～20cm浮いて出土し、口縁部上端は底から30cm上にあった。口縁部に2箇所ラフな波状文があるが、幅が狭くて浅い。頸部内面の屈曲部には指に深いオサエがある。外面のタタキは格子目であるが木目痕は確認できない。内面は同心円文タタキであり、横方向の木目痕がある。I区SDでは土師器壺の底部（底径6.2cm、厚さ2cm）が出土した。胎土は流紋岩基調であり、石英（クリスタル）・長石・角閃石も含む。

第3節 まとめ

平成11年度調査の確実な竪穴住居3棟、掘立柱建物10棟があり、主軸方位によるグループ化（第38図）を試みた。確実な遺構では、磁北から東へ振れる角度が70°前後（A類、B区SI01）、60°前後（B類、B区SB01など）、50°前後（C類、F区SB01など）、40°前後（D類、D区SB01）、30°前後（E類、D区SB02）、0°前後（F類、E区SB02）などがある。不確実な遺構もD区SI05?とD区SB08?以外はいずれかに分類化可能（表2・3参照）である。以下と表は確実なものをA類、不確実をA?と表記する。遺構はD1～14区に集中し、建物群もD5～11区周辺に集中しており、遺跡の主要部である。付近からI～II期の遺物が多く出土し、B類とA?・B?が多く同じ地点に集中する傾向がある。C類はA6区周辺・B4区（C?）・E5区・F2区に分散的に認められる。少ない遺物（細片）と不明確な同伴関係であるが、A・B類はII2期前後、C類はIV期の可能性が想定しうるが確証は少ない。縄文時代の遺物もあるが、当調査区ではI期（7世紀前半）から人々が住み始め、II期（7世紀後半～8世紀初頭頃）がピークと思われ、鍛冶作業を行っていた。また南加賀古窯群から運ばれた須恵器の中に使用不能と思われるものがあり、須恵器の製作・運搬に関与した人々が居たのであろうか。IV期（8世紀中頃～9世紀初頭）の建物もあるが、以後は不明確であり、中世以降はD・E区境付近で生活の痕跡が確認される。

第4表 平成11年度土器観察表

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径 (cm) 底径 (cm)	器高 (cm) 重量 (g)	色調 (内)		胎土	焼成	調整 (内)		備考(残存率など)	実測 番号
							色調 (外)				調整 (外)			
99	1	土師器 甕	A5	SK01東 包	13.5	4.1	にぶい黄橙 にぶい黄橙		細砂粒多、 流紋岩基調	良	ミガキ ヨコナデ、ケズリ	口縁：12/36	D 97	
99	2	須恵器 有台坏	A6	Pス		(2.8)	灰 灰		細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	底部：6/36、外 面に重焼痕	D 96	
99	3	須恵器 蓋	A6・7	Pツ 包含層	12.0	(1.5)	灰 灰		細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ	口縁：8/36	D 95	
99	4	須恵器 有台坏	A区西堀	包含層	14.4 7.8	5.1	灰白 灰白		細砂粒、粗 砂少	良	ロクロナデ ロクロナデ	底部：10/36	D 94	
99	5	須恵器 有台坏	B6	西側包含層	10.0	(2.55)	にぶい黄橙 灰黄		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	底部：13/36、内 面に使用痕	D 91	
99	6	須恵器 無台坏	B8	竅穴 (SI01)	8.8	(2.45)	灰		細砂粒、粗 砂多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	底部：36/36、底 部に溶着痕	D 93	
99	7・8	土師器 甕	B8	竅穴 (SI01)	21.7	(7.5)	浅黄橙 にぶい橙		細砂粒少 流紋岩基調	良	不明、同心円タタキ 不明	口縁：5/36 摩 減著しい	D 92	
99	9	須恵器 坏蓋	C4	SD02	12.8	(3.35)	にぶい黄橙 にぶい黄橙		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	口縁：9/36	D 103	
99	10	須恵器 坏蓋	C5	包含層	12.3	4.55	灰 灰		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	口縁：9/36	D 102	
99	11	土師器 甕	C6	SK02	23.2	(7.5)	橙 橙		細砂粒多、 流紋岩基調	良	ヨコナデ、ハケ、ナデアゲ ヨコナデ、ハケ	口縁：1/36	D 104	
99	12	土師器 甕	D0	SK01	(14.6)	(5.95)	にぶい赤褐 橙		粗砂多、流 紋岩基調	良	ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ、不明	口縁：9/36	D 105	
99	14	土師器 鉢	D1	SK04	(23.95)	(9.05)	にぶい黄橙 にぶい黄橙		粗砂多、流 紋岩基調	良	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ナデ	口縁：6/36	D 107	
99	15	土師器 甕	D1	SK04	(23.35)	(7.05)	橙 にぶい赤褐		粗砂多、焼土塊、 石英質基調	良	ヨコナデ、ケズリ、ナデ ヨコナデ、ハケ	口縁：8/36	D 106	
99	17	須恵器 有台坏	D5堀	SI02 包含層	(15.0)	(1.55)	明青灰 明青灰		粗砂多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	底部：4/36	D 113	
99	18	須恵器 坏身	D5堀	SI02 包含層	8.3	4.4	明青灰 青灰		粗砂多、礫 極少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ	底部：7/36 一 部降灰	D 112	
99	19	須恵器 蓋	D5、D5堀	SI02 包含層	(9.6)	(2.4)	明青灰 明青灰		粗砂多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	口縁：16/36 つ まみ痕	D 114	
99	23	須恵器 坏	D6	P84	14.2	(3.15)	灰白 灰白		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	口縁：5/36	D 152	
99	24	須恵器 有台坏	D6	P84	(13.3) (8.0)	(4.8)	明青灰 明青灰		粗砂多、白 い礫極少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	口縁：7/36 外部溶 着物、内面に使用痕	D 115	
99	25	須恵器 蓋	D7	SI03	14.6	2.4	灰 灰		礫、粗砂含 む	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ	口縁：2/36 つ まみ径3.4cm	D 117	
99	26	土師器 甕	D7	SI03	16.2	(7.9)	にぶい黄橙 にぶい橙		細砂粒多、 流紋岩基調	良	磨耗 磨耗	口縁：11/36	D 154	
99	27	土師器 甕	D7	SI03	20.0	7.0	浅黄橙 浅黄橙		粗砂多、流 紋岩基調	良	ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ後ハケ	口縁：4/36	D 118	
99	28	土師器 高坏	D7	SI03	(16.2)	(9.05)	黒 浅黄橙		粗砂多、焼土塊、 流紋岩基調	良	ミガキ 磨耗、ケズリ	口縁：10/36	D 119	
99	29	土師器 甕	D7	P201	(7.3)	(15.1)	橙 橙		粗砂多、流 紋岩基調	良	ヨコナデ、ハケ、ケズリ ヨコナデ、ハケ	外部スス付着	D 116	
99	30	須恵器 蓋	D7	包含層	15.0	(2.2)	灰 灰		細砂少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	口縁：2/36	D 144	
99	31	須恵器 有台坏	D8	Pit58	11.8	(1.45)	灰 灰		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	底部：5/36	D 153	
99	32	土師器 高坏	D8堀	焼土付近	12.0 11.4	9.8	内黒 にぶい橙		細~中粒砂多、 流紋岩基調	並	ミガキ、内黒 ヨコナデ、ミガキ、ハケ	口縁：17/36、脚 部内面に黒班	D 122	
99	33	土師器 埴	D8	SI04	(43.4)		にぶい黄橙 にぶい黄橙		中~粗砂粒多、 流紋岩基調	並	ヨコナデ、カキメ ヨコナデ、カキメ	口縁：3/36 内側ス ス付着。全体に摩減	D 121	
99	34	須恵器 坏・蓋	D8	SI04	12.4	3.4	灰 灰		中粒砂まじり、 黒色粒まじり	並	ロクロナデ ロクロナデ	口縁：2/36 口縁端部 自然釉 内側窯壁付着	D 120	
99	36	須恵器 有台坏	D9	Pit64	8.2	2.5	灰白 灰		細砂、粗砂 含む	良	ロクロナデ ロクロナデ	底部：15/36 外 面に自然釉	D 134	
99	37	須恵器 高坏	D9	Pit64	10.9	7.25	灰白 灰白		細砂、粗砂 多	良	ロクロナデ ロクロナデ	底部：4/36	D 132	
99	39	須恵器 無台坏	D9	SK11	13.6 10.0	3.5	灰白 灰白		細砂、粗砂 含む	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	口縁：11/36	D 135	
99	40	須恵器 有台坏	D9	SK11	(8.4)	(4.8)	明青灰 暗赤灰		粗砂多	並	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	底部：18/36	D 133	
99	41	土師器 甕	D9	SK13	21.0	5.9	橙~にぶい橙 橙		粗砂多、流 紋岩基調	良	ヨコナデ、カキメ ヨコナデ、カキメ	口縁：6/36	D 137	

第3節 まとめ

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径 (cm) 底径 (cm)	器高 (cm) 重量 (g)	色調 (内)		胎土	焼成	調整 (内)		備考(残存率など)	実測 番号
							色調 (外)	調整 (外)						
99	42	土師器 埴	D9	SK13	(39.6)	8.5	にぶい黄橙 にぶい黄橙	粗砂多、流 紋岩基調	良	ヨコナデ、カキメ ヨコナデ、カキメ	口縁：3/36 外部スス付着	D 136		
99	43	須恵器 蓋	D9	Pit63・64	16.3	3.4	灰白 灰白	わずかな礫、 粗砂多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ	口縁：4/36 つまみ径 3.4cm、外面全体に自然釉	D 131		
99	44	土師器 甕	D9	Pit63	15.05	14.0	にぶい黄橙 にぶい黄橙	わずかな礫、 粗砂含む	良	ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ、ハケ	口縁：4/36	D 130		
99	45	土師器 高坏	D9	Pit63	17.1	8.2	黒 にぶい橙～黒	粗砂多、流 紋岩基調	良	ミガキ、内黒 磨耗、ケズリ、ナデ	口縁：3/36 磨耗顕著	D 129		
99	47	須恵器 坏	D11	Pit86	(11.4) (8.1)	(4.5)	明青灰 明青灰	粗砂多、礫 極少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	口縁：4/36 降 灰、重焼き痕	D 138		
99	48	須恵器 蓋	D11 拡	Pit164	(14.0)	(1.3)	明青灰 明青灰	粗砂多	良	ロクロナデ ロクロナデ	2/36 降灰	D 139		
99	49	須恵器 坏	D11、D12	SK14、Pit102	14.9	(3.5)	灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	口縁：6/36	D 155		
99	50	須恵器 坏	D12	SX01	(15.9) (12.6)	3.0	灰 灰	0.1mm以下 の粗砂多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	口縁：3/36 底 部：6/36	D 141		
99	51	土師器 甕	D12	SX01	31.0	(9.15)	橙色 橙色	0.1mm前後の粗砂 多、流紋岩基調	良	ヨコナデ、カキメ ヨコナデ、カキメ	口縁：5/36	D 140		
99	52	須恵器 有台坏	D13	Pit126	11.7	(2.1)	灰白 灰白	細砂多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	底部：11/36 内 外面磨耗	D 142		
99	53	須恵器 蓋	D13	Pit130	(1.95)		灰白 灰白	0.1mm以下 の細砂多	良	ロクロナデ ヘラケズリ後ナデ	外部降灰あり	D 143		
99	54	土師器 高坏	D13	Pit138	(4.1)		黄灰 浅橙	細砂多	良	ミガキ、内黒 ヨコナデ	内面内黒	D 145		
99	55	須恵器 蓋		SK	12.4	3.6	灰黄 灰黄	0.1mm以下 の粗砂多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ	外形ゆがみ 完形	D 108		
99	56	須恵器 坏		SK	12.0 8.0	3.6	灰 灰	黒色粒子多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	底部：20/36 口縁：11/36	D 111		
99	57	須恵器 坏		SK	12.2 6.5	3.7(4.2)	灰 灰	0.1mm以下 の細砂多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	口縁：26/36 重 焼きで2個体付着	D 110		
99	58	土師器 甕		SK	19.4	(9.0)	にぶい橙 にぶい橙	0.1mm以下の粗砂 多、流紋岩基調	良	ヨコナデ、ロクロナデ ヨコナデ、カキメ	口縁：9/36 所々スス付着	D 109		
99	59	珠洲焼 播鉢	E2	SD02南 下層		(3.2)	灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	波状文	D 126		
99	60	須恵器 無台坏	E2	Pit88	8.2	(2.1)	灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ離し	底部：15/36 火 だすき	D 124		
99	61	須恵器 壺	E2	Pit91	(8.6)		灰 灰	細砂粒多	良	カキメ、同心円タタキ カキメ、平行タタキ		D 100		
99	62	須恵器 高坏	E2	E2区 SK01 北	11.5	(2.6)	灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	底部：6/36 方 形透し穴	D 127		
99	63	土師器 甕・埴	E2・3	SK03、SD02北 下層	13.0	(2.8)	橙 橙	細砂粒多、 流紋岩基調	良	一方向のナデ 磨耗		D 123		
99	64	須恵器 埴輪	E4	SD03 No41	(7.7)		にぶい橙 にぶい橙	細砂粒多	良	ハケ ハケ		D 101		
99	65	須恵器 甕	E5	Pit126			灰白 灰白	細砂粒多	良	ロクロナデ ナデ		D 98		
99	67	土師器 甕	E3	SK05	(6.5)		にぶい橙 にぶい橙	細砂粒多、 流紋岩基調	良	ハケ ヨコナデ、ハケ	外面磨耗	D 125		
99	69	土師器 埴	E5	E5区 Pit10	(40.2)		浅黄橙 にぶい褐	細砂粒～極粗砂 粒、流紋岩基調	並	ロクロナデ？ ロクロナデ、カキメ	口縁：3/36、磨 耗	D 99		
99	71	須恵器 甕	I	SD No.1～5	(44.0)		灰褐 褐灰	細～中粒砂 まじり	良	ヨコナデ、同心円タタキ ヨコナデ、タタキ		D 128		
99	73	土師器 埴	A5	SK01東 包含層	7		暗灰 浅黄橙	細砂粒多	良	ミガキ、内黒 磨耗		ヒ 23		
99	74	須恵器 甕	A6	Pitア			暗オリーブ 灰	細砂粒少	良	同心円タタキ 平行タタキ、カキメ	外面は自然釉	ヒ 1		
99	75	須恵器 甕	A6 拡	Pitハ			灰白 浅黄橙	細砂粒少	不良	不明 平行タタキ	生焼け	ヒ 2		
99	76	須恵器 蓋	A6 拡	Pit又			灰 灰白	細砂粒少	良	ロクロナデ ケズリ、ロクロナデ	外側に降灰	ヒ 3		
99	77	土師器 甕・甗	A6 拡	Pit又			灰白 にぶい橙	砂粒多	良	ケズリ ハケ	外面に輪積み痕あ り	ヒ 4		
99	78	土師器 高坏	A6	包含層			浅黄橙 浅黄橙	砂粒多	良	ナデか		ヒ 5		
99	79	土師器 甕	C6	SK02			にぶい橙 にぶい橙	砂粒多	良	ヨコナデ、ナデアゲ ヨコナデ、ハケ		ヒ 6		

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径 (cm) 底径 (cm)	器高 (cm) 重量 (g)	色調 (内)		胎土	焼成	調整 (内)		備考 (残存率など)	実測 番号
							色調 (外)				調整 (外)			
99	80	須恵器 蓋	B 8	竪穴			灰白 灰		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 7	
99	81	土師器 甌	B 8	竪穴			橙 橙		砂粒多	良	ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ	胴部：4/36	ヒ 8	
99	82	土師器 甗	B 8	竪穴	(23.6)		橙 橙		砂粒多	良	ヨコナデ ヨコナデ	口縁：5/36	ヒ 9	
99	83	須恵器 有台坏	C 8	Pit工		10.2	灰白 灰		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 21	
99	84	須恵器 無台坏	C 8	包含層	8.2		浅黄橙 浅黄橙		細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り離し		ヒ 22	
99	85	土師器 壺	D 0	土坑 1	15.2		にぶい褐 にぶい橙		砂粒多	良	磨耗 磨耗、ヨコナデ		ヒ 42	
99	86	土師器 壺	D 0	土坑 1	17.6		浅黄橙 浅黄橙		砂粒多	良	ミガキか 磨耗		ヒ 43	
99	87	土師器 埴	D 1	土坑 4	(20.6)		にぶい橙 にぶい赤橙		砂粒多	良	磨耗 ハケ		ヒ 10	
99	88	須恵器 蓋	D 1	土坑 5			灰 灰		細砂粒多	良	ロクロナデ	摘み径2.8	ヒ 40	
99	89	加賀焼 甗	D 2	土坑 7			黄褐 褐		細砂粒多	良	ヨコナデ 板ナデ	内面に薄く降灰	ヒ 12	
99	90	加賀焼 播鉢	D 2	土坑 7			黄橙 にぶい黄橙		砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	片口	ヒ 11	
99	91	須恵器 有台坏		土坑 8		10	灰 灰		細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り離し	高台径9.6	ヒ 32	
99	92	須恵器 坏身	D 3	Pit17			灰白 オリーブ灰		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	外面に炉壁粒子付着、受け部径(15.8)	ヒ 41	
99	93	須恵器 無台坏	D 5	SI02		7	灰白 灰		細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り離し		ヒ 14	
99	94	須恵器 坏	D 5	SI02	(16)		灰白 灰白		細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ	口縁部内外面に重焼き	ヒ 13	
99	95	須恵器 無台坏	D 3	SI02		6.6	灰 灰		細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り離し		ヒ 31	
99	96	須恵器 蓋	D 5	SI02		12.4	オリーブ灰 灰白		細砂粒多	良	ロクロナデ ケズリ?、ロクロナデ		ヒ 15	
99	97	土師器 壺	D 9	SI02		13	にぶい橙 にぶい橙		細砂粒・角 閃石多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ	内外面赤彩。SI04出土か、グリッド注記間違いか	ヒ 19	
99	98	須恵器 壺	D 5	SI02			灰 暗灰		細砂粒多	良	ロクロナデ、カキメ ロクロナデ		ヒ 28	
99	99	土師器 高坏	D 5	SI02			浅黄橙 浅黄橙		砂粒多	良	ミガキか ヨコナデ、ケズリ、ミガキ		ヒ 34	
99	100	須恵器 高坏	D 5	SI02			灰白 暗灰		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	方形透かし、2段3方か	ヒ 30	
99	101	須恵器 壺・甗	D 5	SI02			灰白 灰白		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	口縁端部に自然釉	ヒ 27	
99	102	土師器 甗	D 5	SI02			浅黄橙 浅黄橙		砂粒多	良	ヨコナデ ヨコナデ、ハケ		ヒ 36	
99	103	土師器 甗	D 5	SI02			にぶい黄橙 橙		砂粒多	良	ヨコナデ ヨコナデ		ヒ 38	
99	104	土師器 甌	D 5	SI02			にぶい黄橙 にぶい橙		砂粒多	良	ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ、磨耗		ヒ 35	
99	105	須恵器 甗	D 5	SI02	(26.6)		灰白 灰白		細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	頸部径(22.6)	ヒ 29	
99	106	須恵器 無台坏	D 5 拵	SI02			灰 灰		細砂粒多	良	ロクロナデ ヘラ切り離し		ヒ 18	
99	107	須恵器 蓋	D 5 拵	SI02	(15.4)		灰白 灰白		細砂粒少	良	ロクロナデ ケズリ、ロクロナデ	口縁：4/36	ヒ 26	
99	108	須恵器 蓋	D 5 拵	SI02			灰 灰		砂粒多	良	ロクロナデ ロクロケズリ、ロクロナデ		ヒ 33	
99	109	須恵器 高坏	D 5 拵	SI02			灰 灰		細砂粒多	良	シボリ ロクロナデ	3方の方形透かし、2段か	ヒ 20	
99	110	須恵器 高坏	D 5 拵	SI02			灰 灰白		細砂粒	良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 17	
99	111	須恵器 壺	D 5 拵	SI02	(21.2)		灰黄褐 灰黄褐		細砂粒多	良	ロクロナデ カキメ?	口縁5/36	ヒ 16	
99	112	須恵器 無台坏	D 7	Pit52		9.4	浅黄橙 浅黄橙		細砂粒少	良	ロクロナデ ヘラ切り離し		ヒ 37	
99	113	土師器 甗	D 7	Pit199	(37.8)		浅黄橙 浅黄橙		砂粒多	良	ヨコナデ ヨコナデ	口縁：4/36	ヒ 39	

第3節 まとめ

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	色調 (内)	胎土	焼成	調整 (内)	備考(残存率など)	実測 番号
				層位	底径 (cm)	重量 (g)	色調 (外)			調整 (外)		
99	114	須恵器 高坏?	D 9	包含層	11.8 8.8	3.1	灰 灰	砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ナデ	口縁：4/36	ヒ 50
99	115	須恵器 坏身	D10	Pit73			灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	細片	ヒ 46
99	116	須恵器 蓋	D10	Pit80			灰 灰白	砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ	細片	ヒ 45
99	117	須恵器 無台坏	A 西菰	包含層	7.4		暗灰 浅黄橙	細砂粒多	不良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り離し後ナデ	生焼け	ヒ 25
99	118	須恵器 無台坏	D11 菰	Pit152			浅黄橙 灰白	細砂粒少	不良	ロクロナデ ヘラ切り離し	細片	ヒ 47
99	119	須恵器 無台坏	D11	Pit89			灰 暗灰	砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切離し	細片	ヒ 49
99	120	須恵器 無台坏	D11 菰	Pit180			灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切離し	細片	ヒ 48
99	121	土師器 高坏	D11 菰	Pit157			黄橙 黄橙	砂粒多	良	ナデカ ミガキカケズリ		ヒ 44
99	122	土師器 高坏	D12	SX01	13.6		橙 橙	砂粒多	良	ミガキ ヨコナデ、ミガキ、ケズリ		ヒ 61
99	123	土師器 塊	D12	SX01	24.6		浅黄橙 浅黄橙	細砂粒多	良	ミガキ 口縁部ヨコナデ、磨耗		ヒ 59
99	124	須恵器 甗	D12	Pit108			灰白 灰白	細砂粒少	良	ナデ	把手のみ	ヒ 60
99	125	須恵器 坏	D12	Pit187	12.6		灰白 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	体部：12/36	ヒ 58
99	126	土師器 甗	D12	Pit187	20.2		にぶい橙 にぶい橙	細砂粒多	良	ヨコナデ ヨコナデ	口縁：4/36	ヒ 56
99	127	土師器 甗	D12	Pit187			にぶい橙 にぶい橙	細砂粒多	良	ケズリ、ヨコナデ ハケ、ヨコナデ		ヒ 57
99	128	土師器 埴	D13	Pit117			黄橙 橙	細砂粒多	良	ヨコナデ、カキメ ヨコナデ		ヒ 55
99	129	土師器 甗	D13	Pit120	20.4		橙 橙	細砂粒多	良	ヨコナデ ヨコナデ、ハケ	頸部径16.8	ヒ 63
99	130	土師器 高坏	D13	Pit120			黄橙 橙	細砂粒多	良	磨耗 ミガキ、ヨコナデ		ヒ 62
99	131	土師器 甗	D13	Pit120	20.2		橙 橙	細砂粒多	良	ヨコナデ ヨコナデ、ハケ	頸部径17.4	ヒ 64
99	132	須恵器 坏	D13	Pit128	13.8		灰 暗灰	細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ	口縁：5/36	ヒ 54
99	133	須恵器 有台坏	D13	Pit128	13		灰白 灰白	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	底径：4/36	ヒ 53
99	134	須恵器 高坏	D13	Pit141			灰白 灰白	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 51
99	135	須恵器 無台坏	D13	Pit140	(17.4) (12.2)	3.1	灰 灰	細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ	底部：4/36	ヒ 52
99	136	須恵器 有台坏	D14	包含層			灰白 灰白	細砂粒少	不良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 65
99	137	須恵器 盤	F 3	SB01Pit 1	(23.2)		灰 暗灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	体部：3/36	ヒ 24
99	138	土師器 甗	D7~9	Pit47・49・84 SI 上面包含層	19.6 8.8		橙 橙	砂粒多	良	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ナデ、ケズリ	頸部径17.8	ヒ 77
99	139	須恵器 坏	D 7	SI03 下層	16.2 12.4		灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 68
99	140	須恵器 坏	D 7	SI03 下層	15.6		灰白 灰白	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 67
99	141	須恵器 蓋	D 7	SI03 下層			灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ヘラケズリ、ロクロナデ	細片	ヒ 69
99	142	土師器 甗	D 7	SI03 下層			浅黄橙 浅黄橙	細砂粒多	良	ナデ ナデ	把手のみ	ヒ 76
99	143	土師器 埴	D 7	SI03 下層	31		橙 橙	砂粒多	良	ヨコナデ (ロクロナデか) ヨコナデ (ロクロナデか)	頸部径27.2	ヒ 72
99	144	須恵器 有台坏	D 8・9	SI 上面 包含層			灰白 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ヘラ切り離し、ロクロナデ		ヒ 70
99	145	須恵器 無台坏	D 8・9	SI 上面 包含層			灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ヘラ切り離し		ヒ 71
99	146	須恵器 壺	D 8・9	SI 上面 包含層	10.4		灰白 灰白	細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロケズリ、ロクロナデ		ヒ 73

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径 (cm) 底径 (cm)	器高 (cm) 重量 (g)	色調 (内)		胎土	焼成	調整 (内)		備考(残存率など)	実測 番号
							色調 (外)				調整 (外)			
99	147	須恵器 甃	D8・9	SI 上面 包含層	30		灰白 灰白		砂粒少	不良	ロクロナデ ロクロナデ	生焼け	ヒ 66	
99	148	須恵器 無台坏	D8・9	包含層	15.4 12	3.2	灰 灰		細砂粒少	良	ロクロナデ ヘラ切り離し、ロクロナデ	口縁部外面に重焼 き痕	ヒ 74	
99	149	土師器 甃	D9	Pit63			明黄褐 黄褐		砂粒多	良	ナデ、ハケ ハケ	梯川流域産か(茶 色砂粒)	ヒ 78	
99	150	土師器 甃	D10	焼土ビット 掘り方	21.4		浅黄橙 浅黄橙		細砂粒少	良	ヨコナデ ヨコナデ	頸部径16.8	ヒ 75	
99	151	肥前焼 皿	E1	SK06 下層			橙		砂粒無し	良	ロクロナデ ロクロナデ、高台ケズリ	灰釉	ヒ 79	

第5表 遺物観察表

調査年度	報告番号	器種	地区	出土地点	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	実測番号
99	13	粘土塊	D0	SK1	4.7	4.0	3.8		色調：淡橙 胎土：粗砂多、焼土塊含む	石-3
99	16	ふいごの羽口	D3	Pit16					胎土：粗砂多	石-4
99	20	ふいごの羽口	D5 拡	SI02・包含層					胎土：粗砂多、礫少量	石-5
99	21	バンドコ	D2	SK07	12.8	23.45	7.3	634.7		石-11
99	22	バンドコ	D2	SK07	18.1	26.25	6.4	1296.2		石-7
99	35	ふいごの羽口	D8	SI04					孔径 内側：3.4 外側：(8.0)	石-6
99	38	鉄滓	D9	Pit64	6.65	4.75	1.2	68.78		石-8
99	46	切石	D10 拡	Pit207					外側灰白色砂岩、部分的に煤付着	石-9
99	65	砥石	E4	SD03No.33	(7.2)	(2.4)	1.8	(37.82)	凝灰岩	石-1
99	68	磨製石斧	G1	Pit06	9.02	7.01	3.33	247.3	凝灰岩か	石-2
99	70	紡錘車	D12	SX01	2.6	3.75	2.1	18.9	須恵質、孔径6mm	石-10

第4章 平成12年度調査

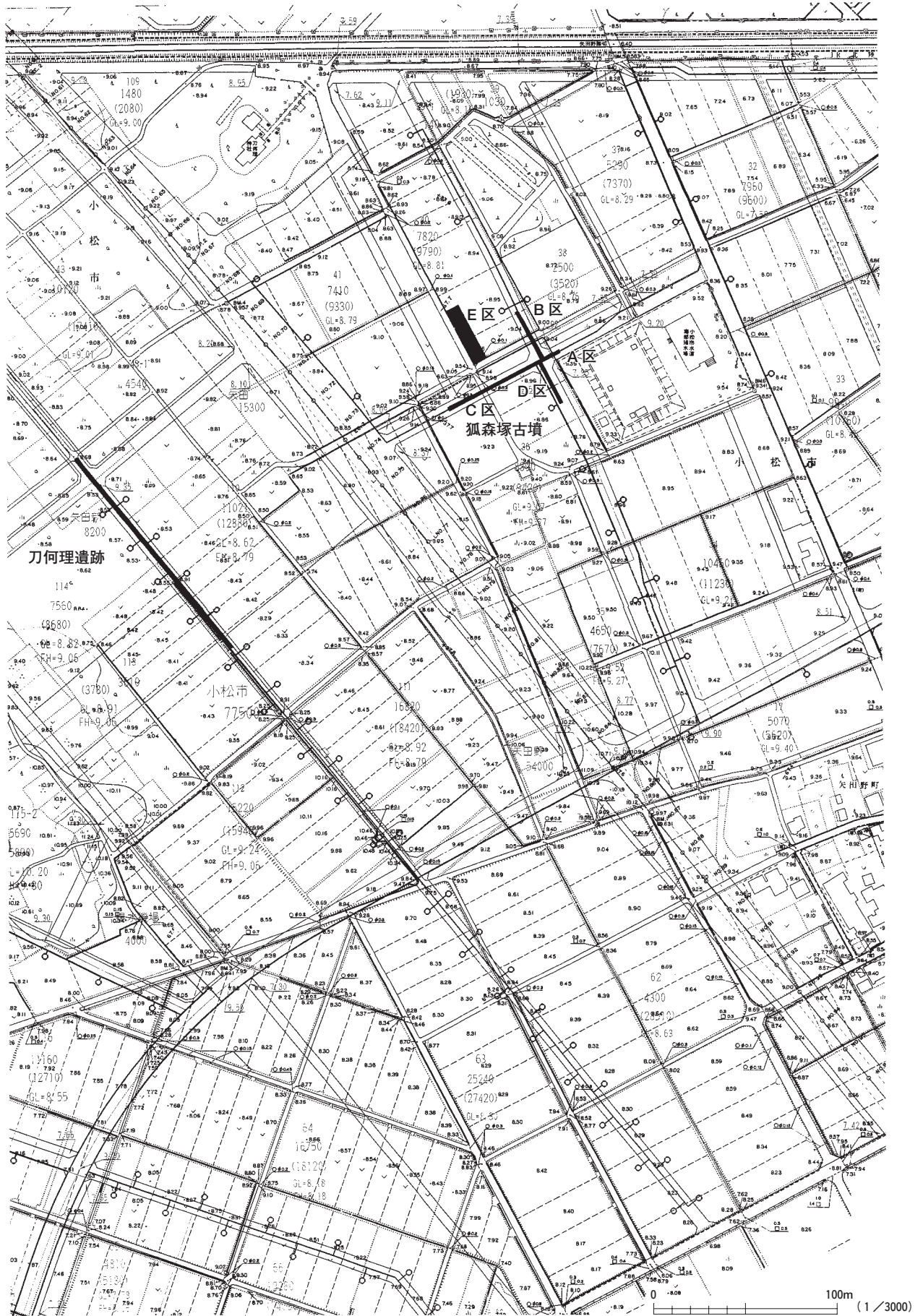
第1節 概要

平成12年度調査は狐森塚古墳・刀何理遺跡450㎡の調査依頼（第39図）があり、平成12年9月25日～11月15日まで実施した。久田・荒木・谷内が調査を担当し、刀何理遺跡から調査を実施した。刀何理遺跡の調査区は既存農道部分であり、既存パイプラインの為に多くの部分が攪乱であった。調査実施中に依頼箇所より遺跡が延びることが判明し、文化財課などと協議を行い、盛土されていない地点まで調査区（図版14）を拡張して調査面積は530㎡となった。刀何理遺跡の地山は14区8m、1区は8.15mであり、西側が若干高くなっている。刀何理遺跡調査終了後に狐森塚古墳の調査に入った。狐森塚古墳付近は、遺跡地図では矢田野遺跡に包括されていたが市道側（東側）の攪乱が大きく、包含層も削平されていた。平成10年度の分布調査で周溝と思われる溝を検出し、周辺に存在した狐森塚古墳（明治42年発見、第39図刀何理神社の西側100m付近）に伴う古墳群の広がりを想定して狐森塚古墳と呼称された。狐森塚古墳は不整形な十字架形の調査区（第40図）であり、クロス部分を基点としてA区左側をB区、下側をC区と呼称した。起点から3m南西側から南西に延びる右側をD区とした。A1区北側とD2・3区に攪乱があり、また市道までの間も攪乱が多かった。すでに工事により耕作土が集積されており、E区では4条の溝が確認されたので古墳の周溝の可能性を想定して幅10cmのトレンチを入れて土層確認のみを行った。両遺跡とも出土遺物は少なく半箱弱であった。

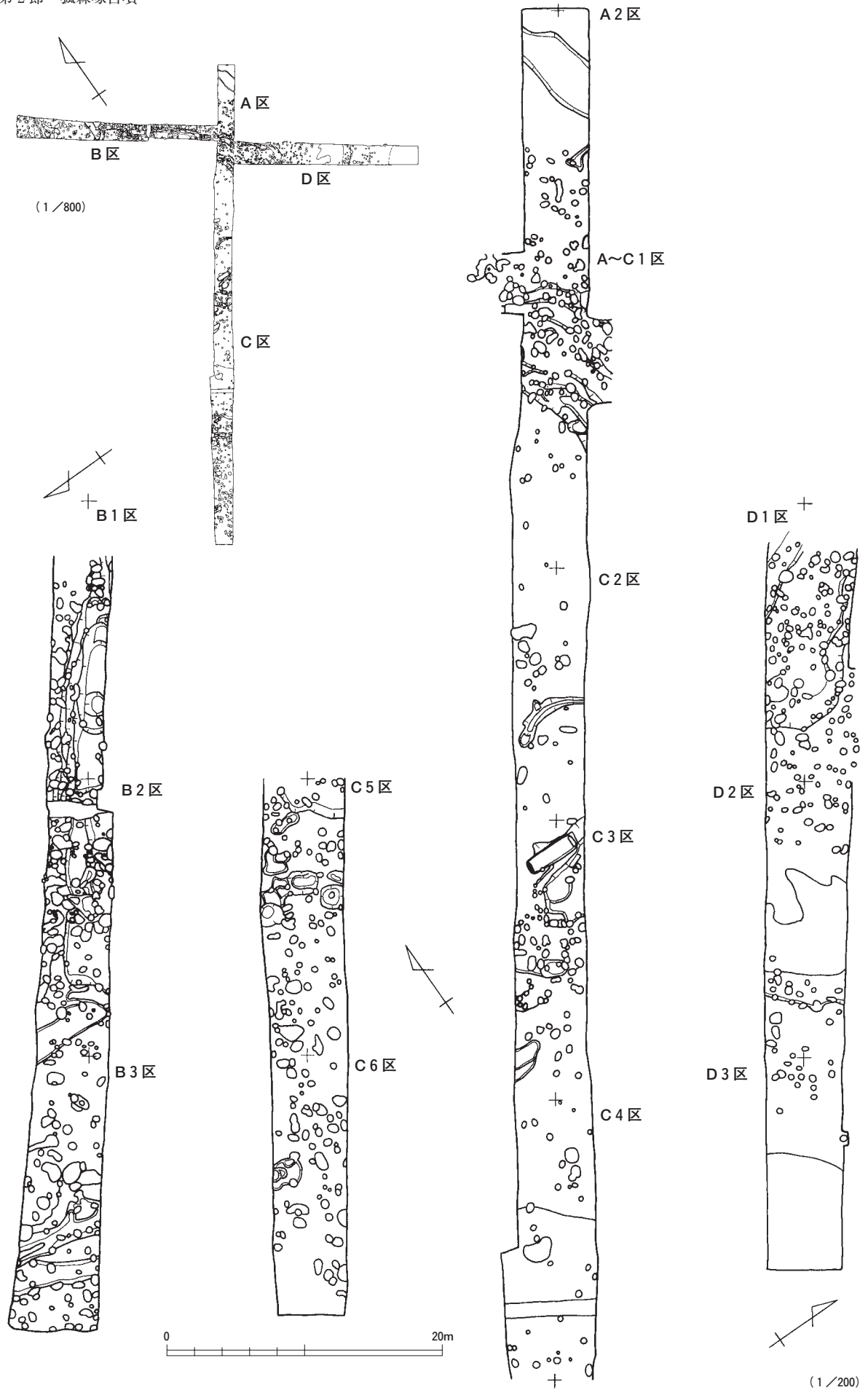
第2節 狐森塚古墳

SD02（第41～43・45・46図、図版12）はB2区からD1区に続く溝であり、調査中は古墳の周溝の可能性を想定した。B2区7.5m地点からC1区を通り、D1区8地点で直角に曲がる長さ26mの溝と思われる。外側はB1区で外側に若干膨らみ、また深さも60～80cmであり、部分的に1mもある。他の区では深さ40～60cmであり、両コーナー部は20～40とやや浅い。C1区4m付近では弧状になっており、立ち上がりは緩やかである。この部分の溝幅は4.1mである。出土遺物は須恵器では第44図6～9、土師器細片約30点、柱状高台（第43図1）、瀬戸天目碗細片2点と近世陶器細片4点などが出土した。

SX01（第41図）はC3区に位置し、検出面は8.9mである。当初は古墳の周溝と思われたが、浅い溝と木棺墓であり、切合い関係は把握出来なかった。溝は木棺墓の西側（8ポイント付近）では段を持たずに南側に下がっており、第41図3・4ラインでは北側からの緩やかな堆積が認められる。東西方向の溝（幅4.3m）と思われ、C3区6m地点の西壁の溝（深さ9cm）も同じ溝の可能性（幅4.7mか）があろう。最深部は40cmであるが、南側は20～5cmと浅い。木棺墓は長さ2.1m、幅65cm、深さ19～29cmであり、総じて南側と東側が低くなっている。小口板を埋め込んだ痕跡（東側45×15cm深さ8cm、西側40×13cm深さ6cm）があり、I類（福永1985）と思われる。棺の内寸は1.6～1.7×35～40cmと思われ、主軸方位は磁北—88°—西である。木棺の中央部よりやや西側に坏身がセットで据えられていた（図版13）。蓋が西側で裏返しに置かれており、坏身・坏蓋（第43図4・5）の口縁部がほぼ水平の状態ですら3cm程度浮いて出土した。他に第43図2・3、第44図10がSX01出土であるが、木棺墓ではなく溝からの出土であろう。2は土師器内黒碗であり、口縁部外面は横ナデにより窪む。



第39図 調査位置図



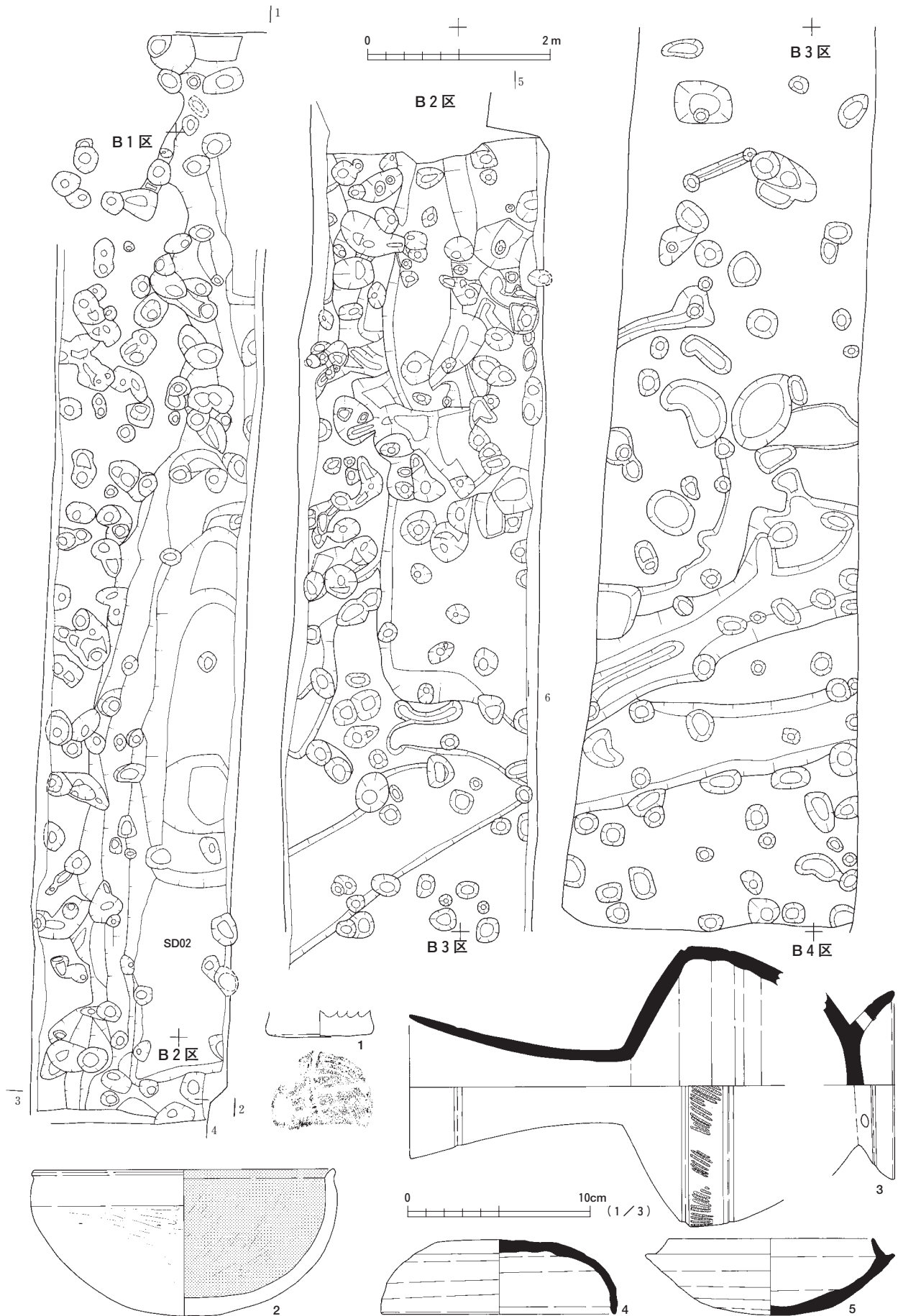
第40図 狐森塚全体図



第41図 狐森塚古墳遺構図1

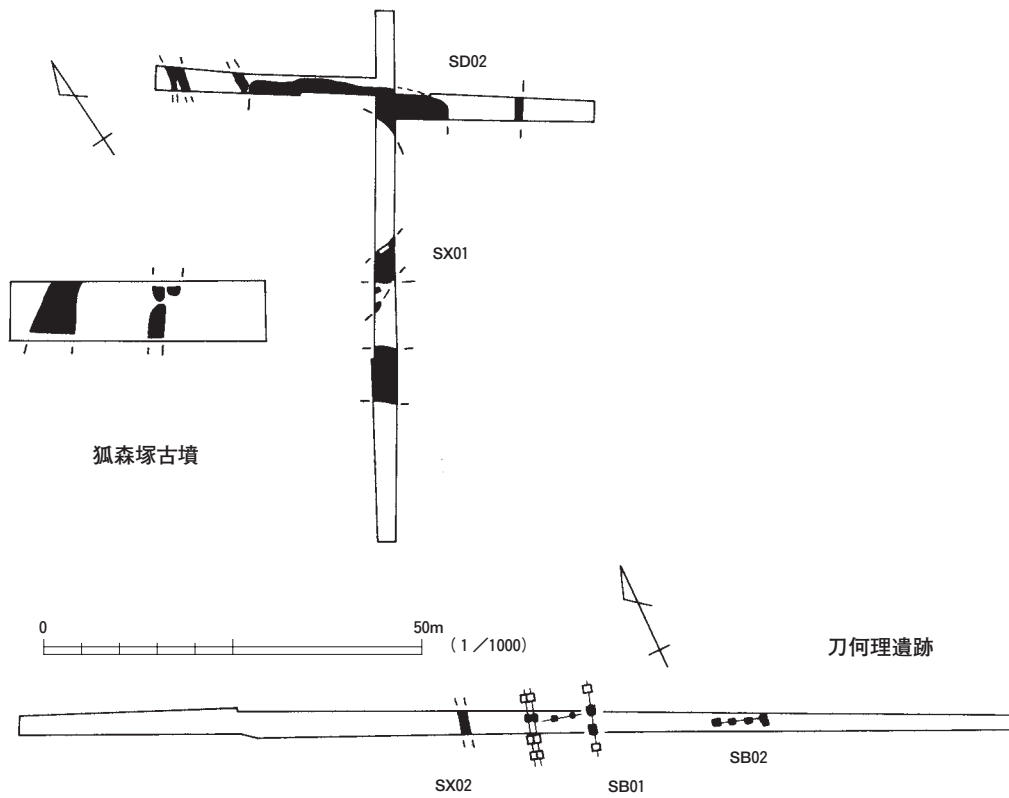
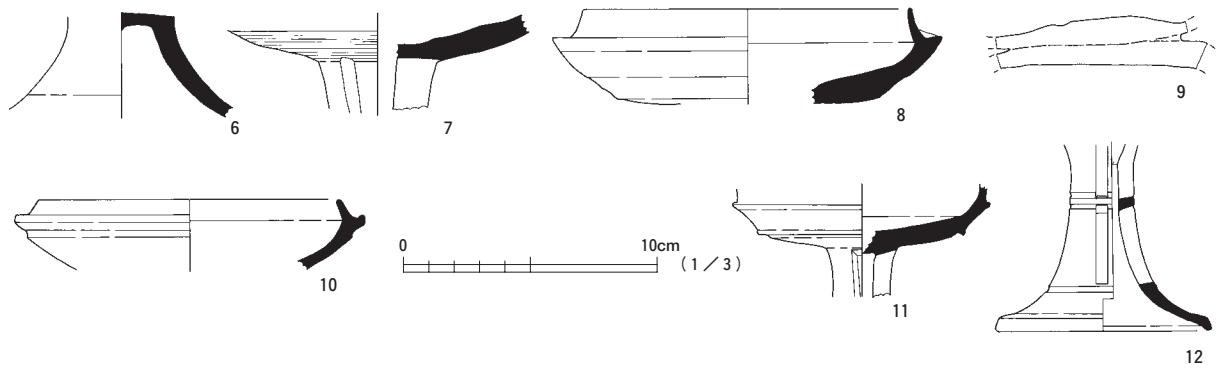


第42図 狐森塚古墳遺構図2

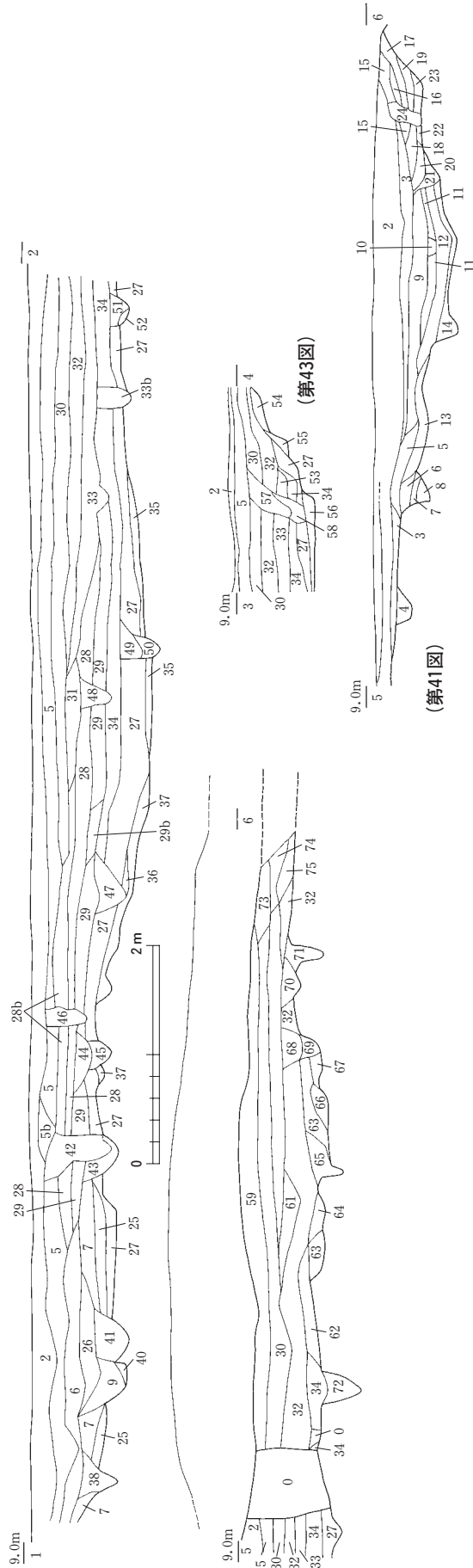


第43図 狐森塚古墳遺構図3

第2節 狐森塚古墳



第44図 狐森塚古墳出土遺物と主要遺構図



第45図 狐森塚古墳遺構図4

- | | | | |
|------|------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| SD02 | 1 耕作土 | | |
| | 2 黒褐色土 (小礫・炭化物少し含む) | 26 黒褐色土 (小礫含む) | 52 褐灰色土 (粘性有り) |
| | 3 黒褐色土 (小礫少し、炭化物含む) | 27 黄色土 (少ししまる) | 53 褐灰色土 (小礫含む) |
| | 4 黒褐色土 | 28 黒褐色土 (若干粘性有り、炭化物粒少し、小礫含む) | 54 暗褐色土 (若干粘性有り、地山小ブロック含む) |
| | 5 黒色土 (小礫少し含む) | 29 暗褐色土 (炭化物粒少し、小礫含む) | 55 黒褐色土 (若干粘性有り、炭化物粒少し、地山小ブロック含む) |
| | 6 暗褐色土 | 30 黒褐色土 | 56 褐灰色土 (粘性有り、炭化物粒少し、地山小ブロック含む) |
| | 7 黒褐色土 | 31 黒色土 (少ししまり、若干粘性有り、小礫少し含む) | 57 黒褐色土 (小礫少し含む) |
| | 8 黄褐色土 (地山小ブロック含む) | 32 黒色土 (少ししまり、小礫少し含む) | 58 黒褐色土 (少ししまりあり、炭化物粒少し、小礫含む) |
| | 9 黒褐色土 (炭化物粒少し、小礫含む) | 33 灰黄褐色土 (砂っぽく、炭化物粒少し、小礫含む) | 59 黒褐色土 (少ししまりあり、小礫少し含む) |
| | 10 黒褐色土 (炭化物粒・小礫少し含む) | 34 黒褐色土 (若干粘性有り、炭化物粒少し、地山小ブロック含む) | 60 黒褐色土 (若干粘性有り、小礫少し含む) |
| | 11 黒褐色土 (10層に橙色土混じる) | 35 黒褐色土 (若干粘性有り、炭化物粒少し、地山小ブロック含む) | 61 黒褐色土 (若干粘性有り、小礫少し含む) |
| | 12 黒褐色土 (炭化物粒少し、小礫含む) | 36 黒褐色土 (若干粘性有り、地山小ブロック多く、炭化物粒少し含む) | 62 黒褐色土 (地山小ブロック・炭化物粒少し含む) |
| | 13 黒褐色土 (炭化物粒・地山粒子少し含む) | 37 暗褐色土 (小礫少し含む) | 63 黒褐色土 (地山小ブロック含む) |
| | 14 灰褐色土 (若干粘性有り、地山小ブロック含む) | 38 暗褐色土 (小礫少し含む) | 64 黒褐色土 (地山小ブロック含む) |
| | 15 黒褐色土 (地山小ブロック含む) | 39 黒褐色土 (地山含む) | 65 暗褐色土 (炭化物粒少し、地山小ブロックを含む) |
| | 16 黒褐色土 (小礫含む) | 40 黒褐色土 | 66 黒褐色土 (炭化物粒少し、地山小ブロックを含む) |
| | 17 黄褐色土 (若干粘性有り、炭化物粒少し含む) | 41 黒褐色土 (小礫少し含む) | 67 褐色土 (若干粘性有り) |
| | 18 黒褐色土 (若干粘性有り、炭化物粒・小礫少し含む) | 42 暗褐色土 (若干粘性有り、炭化物粒少し、小礫含む) | 68 黒褐色土 (地山小ブロック含む) |
| | 19 暗褐色土 (若干粘性有り、地山小ブロック多い含む) | 43 黒褐色土 (小礫少し、炭化物粒含む) | 69 黒褐色土 (ザラザラ感) |
| | 20 黒褐色土 (若干粘性有り、小礫少し含む) | 44 黒褐色土 (小礫・地山少し含む) | 70 黒褐色土 (少ししまりあり) |
| | 21 黒褐色土 | 45 黒褐色土 (地山小ブロック含む) | 71 褐灰色土 (若干粘性有り、炭化物粒少し、地山小ブロックを含む) |
| | 22 黒褐色土 (若干粘性有り) | 46 黒褐色土 | 72 暗褐色土 |
| | 23 黄褐色土 (若干粘性有り、地山小ブロック含む) | 47 黒褐色土 (少し粘性有り、炭化物粒少し、地山小ブロック含む) | 73 黒褐色土 |
| | 24 黒色土 | 48 黒褐色土 (ザラザラ感) | 74 黒褐色土 |
| | 25 黒褐色土 (少ししまる) | 49 暗褐色土 (地山小ブロック少し含む、ザラザラ感) | 75 黒褐色土 |
| | | 50 暗褐色土 (粘性有り、地山小ブロック少し含む) | |



第46図 狐森塚古墳遺構図5

3は長頸壺であり、短い脚を持ち円形透かしを3個持つ。第44図11・12は2個の方形透かしを持つ高坏であり、上面から出土した。

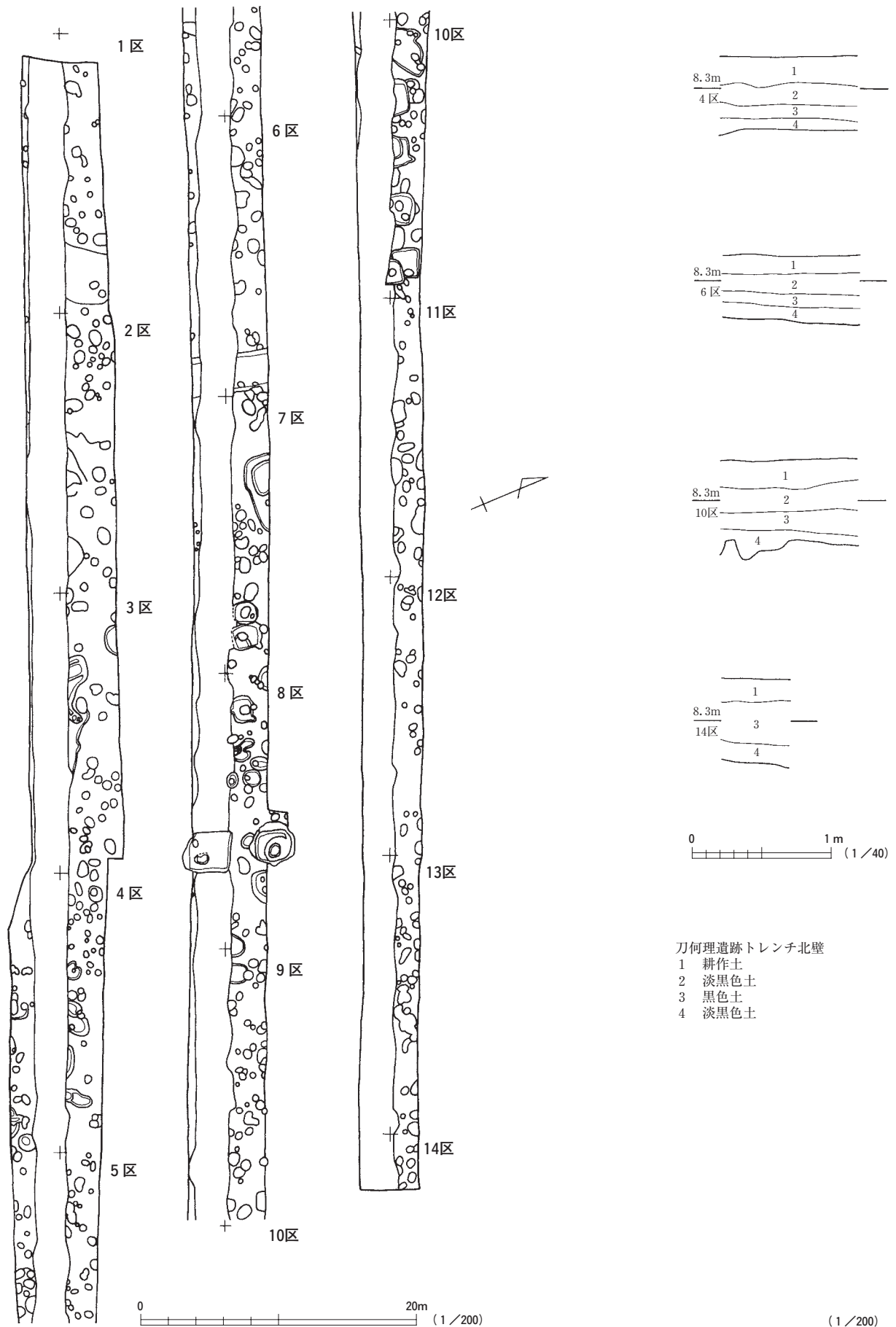
B2区西の溝（幅0.9～1.1m、深さ6～10cm）、B3区の東側溝（幅1.1～1.4m、深さ30～40cm）と西溝（0.7～1m、深さ10～15cm）があるが、遺物は出土しなかった。C2区にある弧状の溝は幅25～50cm、深さ10～15cmであり、所々に出っ張りがある。遺物は出土しなかった。C5区5m地点ではやや大きいピット（東側85×85cm深さ17cm中心部45cm、西側85×80cm深さ24cm）があり、柱間は2.4mであるが、周辺には深いピットがない。C5区P8から灰白色流紋岩の剥片が出土した。C4・5区には幅7～7.2mの溝があるが最深部でも10cmである。D2区には幅1.2m以上、深さ9cmの溝があるが、攪乱を受けている。D区では近世陶磁器が10点ほど出土した。

第3節 刀何理遺跡

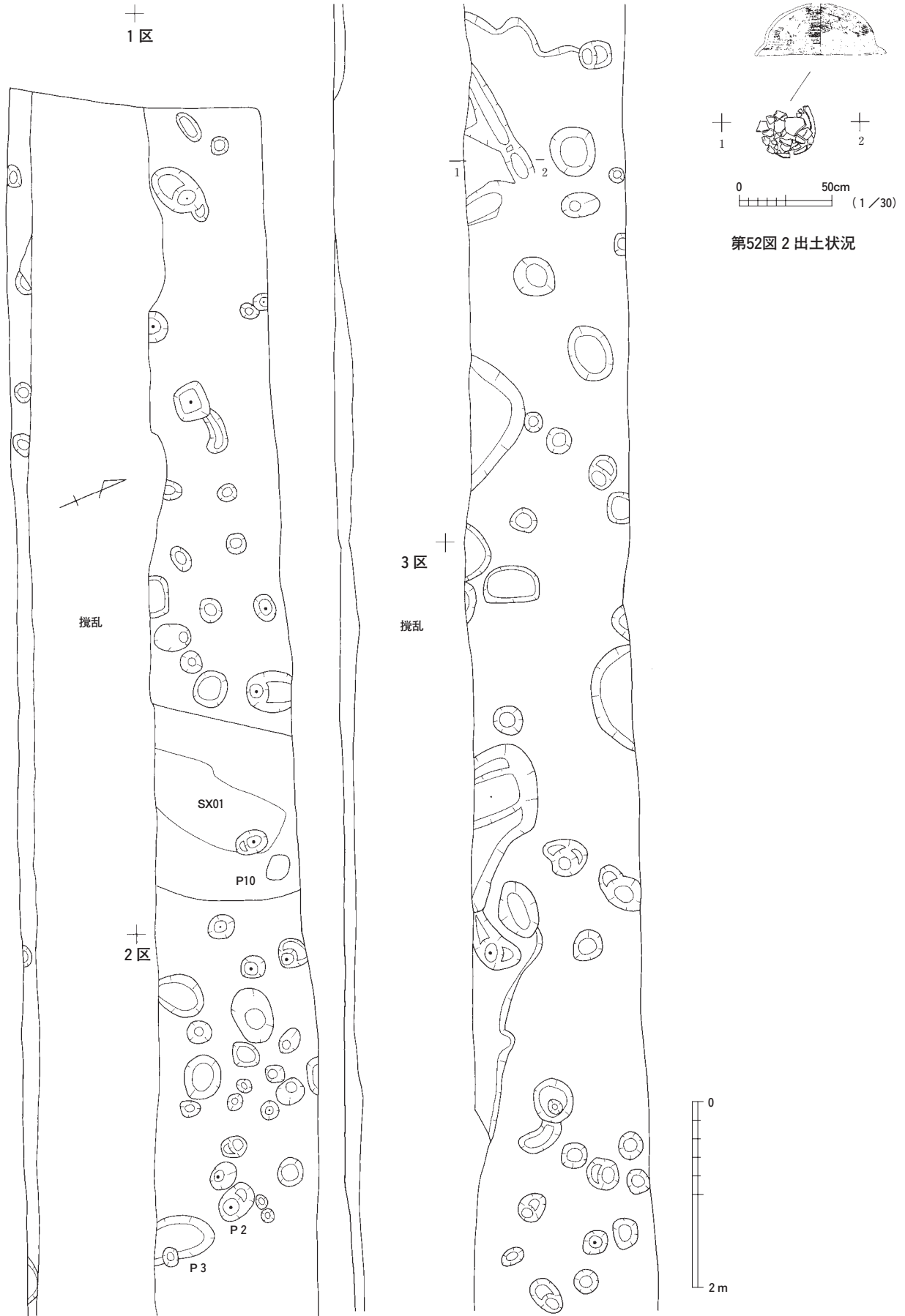
SB01（第50図、図版14）は7・8区に位置し、地表面は8.5m、検出面は8mである。検出時は東西方向3間で8.6mか7.8mの建替え（磁北—76°—西）を想定したが、SK01（95×70cm、深さ23cm、中央柱穴深さ7cm）ともう1つの柱穴（70×60cm、深さ20cm、底柱穴深さ9cm）もラインから外れている。SK02（80×90cm、深さ65cm）の底では50×30cmで白色化しており、柱の痕跡と思われる。SK03はSK02と接しており、0.9×1.2m、深さ65cm、中央の柱穴は9cm深い。SK04は大型の柱穴であり、北側の壁以外には段（図版14）があり、造り替えが想定される。南北は1.92mであるが、南側1段目は深さ10cm、2段目は検出面から14cmと浅いので、幅1.5mが中心である。東西方向は1.5mだが、西側の1段目は10cmと浅いので、幅1.2mが主体であり、底の深さは検出面から55・80・85cmである。南側の攪乱を掘り下げたら柱穴の南側（1.3m×0.9m、深さ55～63cm）のみが確認された。底には2箇所の白色化（40×30cm、50×34cm）があり、柱の痕跡と思われる。SK04との柱間は2.7・2.8mと長いが、柱穴が大きいので間にはないと思われる。主軸方位は磁北—17°—東であり、17°で平行移動するとSK02・03との柱間が2.6・2.8mである。よって主軸方位は磁北—17°—東の南北棟であり、建替えがあり、幅は7.3・7.8・8.1・8.6mのうちの2つの建物であろう。また6・5ラインは柱間2.4～2.7+2.5mであり、ポイント5の地点が2.5～2.7mは攪乱部であるが2つの柱穴とも30cmと浅く、攪乱部はもっと深い為に柱穴は存在しなかった。主軸方位は磁北—76°—西である。

SB02（第51図、図版15）は10区に位置し、地表面は8.5～8.6m、検出面は7.9～8mである。3間（6.3m 柱間1.8+2+2.3m）であり、主軸方位は磁北—68°—西である。西側の柱間が狭く、東側が広いので最低でも西側にもう1間延びるものと思われる。10区の杭横にあるピットは深さ9cmと浅いので使えず、9区攪乱と表示した部分が若干南側に膨らんでいるので2間延びる可能性が高いか。遺物はSK05のみ出土し、便宜的に西から柱穴1～4と呼称する。柱穴1（1.6×0.7m、深さ50cm）、に南側は攪乱であり、柱穴2（1.2×0.8m、深さ60・45cm）の北西側には直径20cmのはみ出しがある。柱穴3（1.2×0.9m、深さ50cm）であり、底には13cm深い柱穴があり、その柱穴の南側には白色化した部分（厚さ2cm）が有り、柱の痕跡と思われる。柱穴4（SK05）は造り替えられおり、南側（90×70cm、深さ67cm）・北側（1.1×1m、深さ57cm）であり、底には柱穴（南側深さ2～4cm）、北側（深さ15cm）がある。南側が若干深い切合いは押さえられなかった。SB02bは6.3m 柱間1.8+2+2.4mであり、主軸方位は磁北—70°—西である。SK04から3点の土器細片（須恵器坏と甕、土師器甕）と粘土塊細片が出土したのみである。

SK01からは第52図4、SK02からは粘土塊（93.3g）、SK03からは炭（152.2g）が出土した。炭は



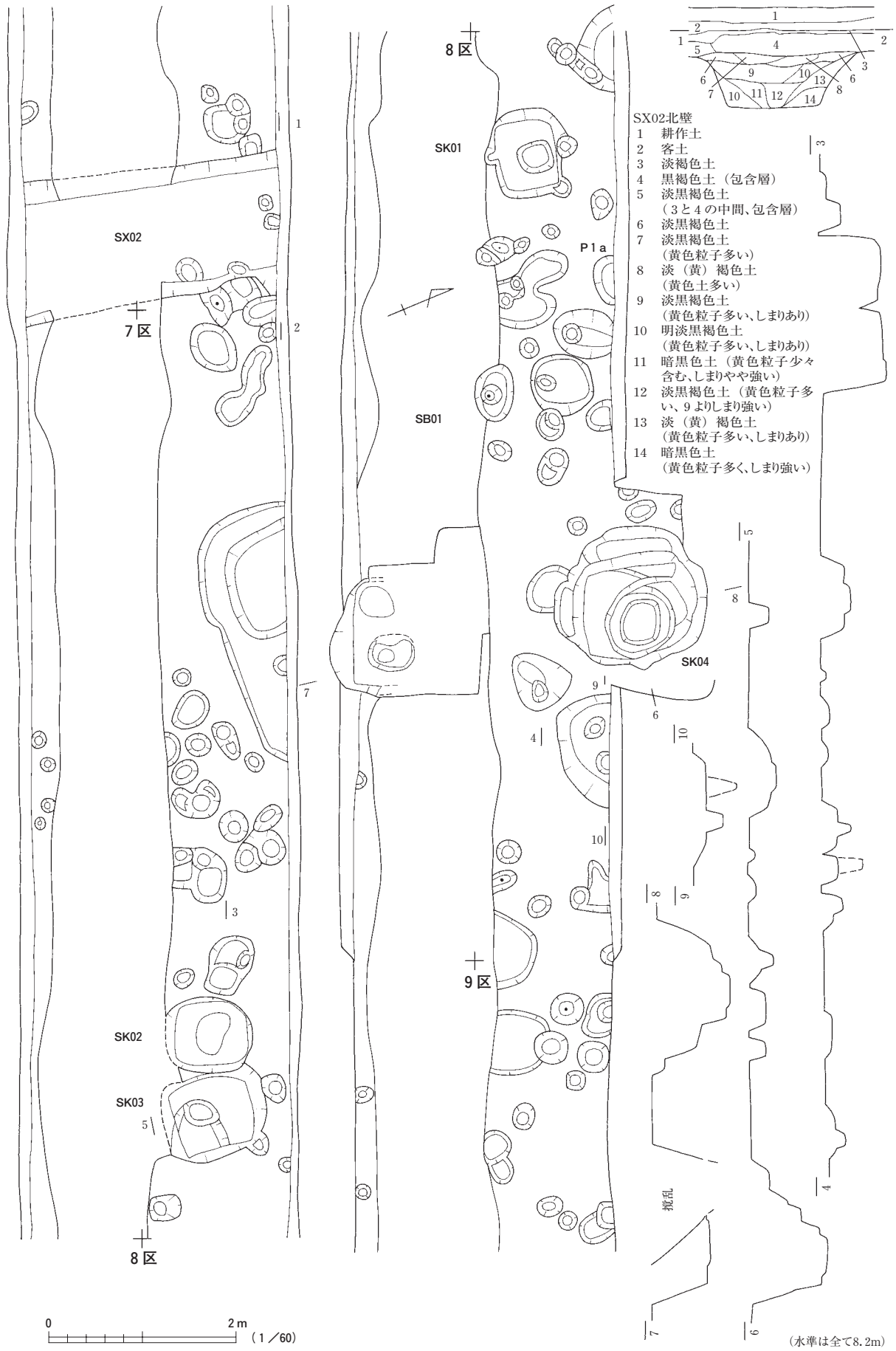
第47図 刀何理遺跡全体図



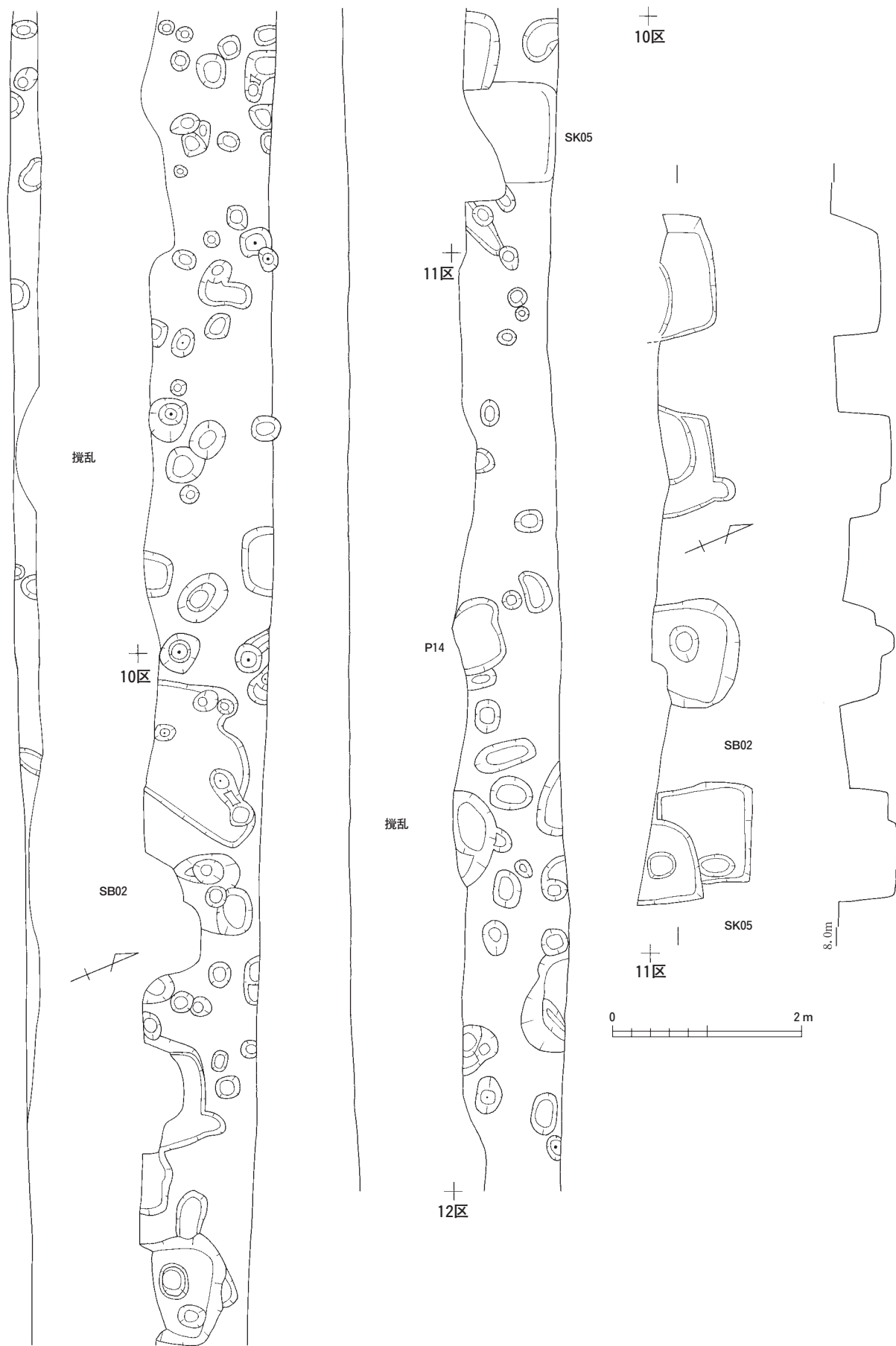
第48図 刀何理遺跡遺構図1



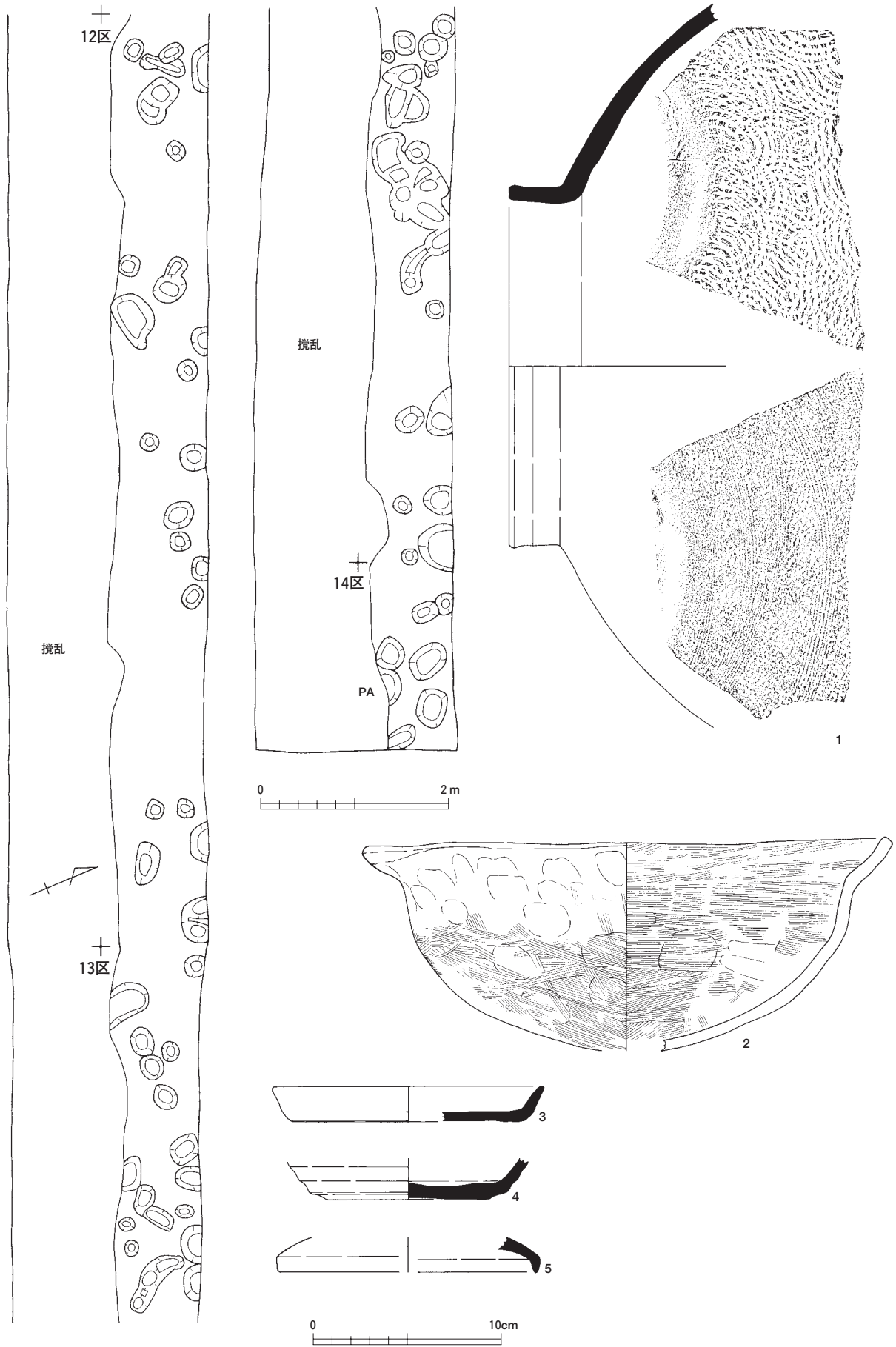
第49図 刀何理遺跡遺構図2



第50図 刀何理遺跡遺構図3



第51図 刀何理遺跡遺構図4



第52図 刀何理遺跡遺構図5

第3節 刀何理遺跡

第6表 狐森塚古墳遺物観察表

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径 (cm) 底径 (cm)	器高 (cm) 重量 (g)	色調 (内)	胎土	焼成	調整 (内)	備考(残存率など)	実測 番号
							色調 (外)			調整 (外)		
00	1	土師器 柱状高台	D	SD02	5.6		浅黄橙 浅黄橙	細砂粒少	良	ヨコナデ		D 90
00	2	土師器 内黒坑	C3	SX01 上層	16.6	8.1	黒 にぶい黄橙	細砂粒少	良	ヘラミガキ ヨコナデ、ヘラミガキ		D 89
00	3	須惠器 長頸壺	C3	SX01 上層	7.8 10.1		灰 灰オリーブ	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	円形孔3箇所	D 88
00	4	須惠器 坏蓋	C3	SX01	12.9	4.1	灰 灰	細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切離し	完形、5とセット	D 86
00	5	須惠器 坏身	C3	SX01	11.3	4.3	灰 灰	細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切離し	完形、4とセット	D 87
00	6	須惠器 高坏	B1	SD02 上・中層			灰白 灰	細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 1
00	7	須惠器 高坏	B1	SD02 上・中層			灰 灰白	細砂粒多	良	ロクロナデ カキメ	自然釉	ヒ 2
00	8	須惠器 坏身	C1	SD02 上層	12.8 10.6	3.7	灰 暗灰	細砂粒多	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り離し	受け部径15.6、受け部に自然釉溜まる	ヒ 4
00	9	須惠器 坏身・坏蓋	D	SD02			灰 灰	細砂粒少	良	タタキ、ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り離し	上側坏身、下側坏蓋	ヒ 7
00	10	須惠器 坏身	C3	SX01	11.8		灰白 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 3
00	11	須惠器 高坏	C3	SX01 上面			灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ロクロケズリ		ヒ 6
00	12	須惠器 高坏	C3	SX01 上面	8.4		灰白 灰白	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ		ヒ 5

第7表 刀何理遺跡遺物観察表

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径 (cm) 底径 (cm)	器高 (cm) 重量 (g)	色調 (内)	胎土	焼成	調整 (内)	備考(残存率など)	実測 番号
							色調 (外)			調整 (外)		
00	1	須惠器 短頸壺	14区	PitA	19.1		灰褐色 灰白	砂粒多	良	ロクロナデ、同心円タタキ ロクロナデ、カキメ、タタキ		D 84
00	2	土師器 埴	2区	包含層	27.8		にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂粒多	良	指オサエ、ハケ 指オサエ、ハケ		D 81
00	3	須惠器 盤	1・2区	包含層	14.6 12.6	1.9	灰 灰	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	重焼き痕	D 82
00	4	須惠器 無台坏	8区	SK01	8.8		灰白 灰白	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切離し		D 83
00	5	須惠器 蓋	5区	Pit 4			灰黄褐 灰黄褐	細砂粒少	良	ロクロナデ ロクロナデ	外面に降灰	D 85

消炭の様に柔らかく、年輪の雰囲気ではスギ材と思われる。4は底径8.8cmの無台坏であり、底部はヘラ切り離し後ナデである。SX01（第48図）は1区に位置し、地表面は8.7m、検出面は8.1mであり、風倒木痕であった。深さ30cmであり、P10からは炭化材が出土した。SX02（第50図、図版16）は6区に位置し、地表面は8.4m、検出面は7.9mである。逆台形の溝（幅1.3～1.6m、深さ57cm）であり、北側が数cm低く、北北東（磁北 -14° 一東）に向かう。7区3m地点の土坑は深さ13cmであり、2段目は14cm深くなっている。10区1m地点の土坑は深さ8cmである。第52図1は拡張した14区PA出土の須恵器壺であり、外面は格子タタキ後ハケ調整が部分的に入る。内面の同心円タタキに対して木目は水平である。2はL字状の溝（深さ北側8～17cm、東側5～13cm）のコーナー部分で、口縁部は地山から15cm上、底部は20cm浮いてうつ伏せ状態（第48図、図版13）であり、土器の間や下からは炭が混じった土があった。土師器の塙であり、口縁部は全て残るが、底2/3は残っていなかった。非ロクロであり、全体には指頭による押さえ痕が多くあり、外面に頸部以上はハケ調整がなされない。L字状の溝は竪穴住居の壁溝なのであろうか。3は7区北壁包含層出土であり、須恵器の盤であり、底部はヘラ切り離し後ナデである。II 2～IV 1（古）期であろうか。5は5区P4出土の須恵器蓋であり、細片であるがII 2～III期頃と思われる。2区Pから椀形滓（39×29×18mm、25.4g）、1区SX01から須恵器・土師器（共に細片各1点）、9区P10から炭、他の遺構は石や褐鉄鉾が出土した。

第4節 まとめ

狐森塚古墳（第44図）では方形に巡る東西幅26m（SD02）があり、古墳の周溝と思われた。C区では南側にSX01（溝、距離は東側13.5m、西側19m）と溝（距離は東側28.5m、西側30m）があり、南側の溝は削平を受けているにしても浅すぎ、古墳とすると墳形に問題がある。SX01（木棺墓）は現地で棺を組み立てたと思われる点が挙げられる。狐森塚古墳は中村と称する旧村社八幡神社跡（上野1965）にあった前方後円墳（主軸25m、高さ1.5m、上野1957）であり、凝灰岩製の石室は南北に長く、須恵器提瓶1個、管状把手一対、埴1個、坏1組、坏（生焼けか）1個、碗1個、金環2個（直径9分、小松市史では銀環）が出土（江沼郡役所1925）したようである。古墳の位置は推定だが第39図刀何理神社の西側と思われることや刀何理遺跡では遺跡が広がったことなどからも分布調査の方法・遺跡名称の付け方などに問題があったのではなかろうか。刀何理遺跡では2棟の掘立柱建物を検出したが、SX02溝はSB01と7.3mの距離にあり、関係があるのであろうか。

- | | | | |
|------|------|--------------------------|----------|
| 上野与一 | 1957 | 「南加賀の古墳時代」『県下の貝塚と古墳』 | 石川県図書館協会 |
| 上野与一 | 1965 | 「考古篇」『小松市史（4）風土・民俗篇』 | 小松市教育委員会 |
| 福永伸哉 | 1985 | 「弥生時代の木棺墓と社会」『考古学研究』32-1 | 考古学研究会 |

第5章 平成13年度調査

第1節 調査概要

平成13年度調査は、平成11年度調査に続く矢田野遺跡第2次調査にあたり、平成13年8月20日～11月5日に1,200㎡について調査を実施した。調査区は大きく4つのトレンチ（第53図）からなり、北西－南東方向のトレンチを南からA～C区、南西－北東方向のトレンチをD区と呼称した。また、各区を10m間隔で区切り、アラビア数字を振って小区画とし、その基点は、A～C区は北西、D区は北東からとした。各調査区とも開発による包含層の削平のため、遺構は耕土直下から検出された。

A（1～10）区は延長99mのトレンチで、多数の木根痕が見られたが、遺構密度は薄い傾向にあり、風倒木痕、小穴の他は顕著な遺構は検出されなかった。なお、A2区の水道管が埋設された農道にかかる3m20cm分については調査を行っていない。

B（1～15）区は延長146.6mのトレンチで、竪穴住居跡2棟、大溝1条の他、土坑、小穴、風倒木痕等が検出された。竪穴住居跡、大溝は調査区西寄りで見られた。小穴は調査区全体に分布するが、その大半が木根痕と見られ、実際の密度は薄い傾向にあると見られる。なお、B区でも農道にかかる約2.5m分については調査を行っていない。

C（1～15）区と平成14年度（第3次）調査のA（1～15）区（以下14-A区と呼称する）は、その距離約1.5mと近接した調査区であり、同一遺構も検出されていることから、ここで同時に報告することとする。C区、14-A区はそれぞれ延長144.4m、142.4mのトレンチである。竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡6棟以上の他、土坑、小穴等を検出した。なお、2年度にわたって調査しているため、同名の遺構番号が存在するが、報告にあたっては、基本的には調査時における遺構番号を尊重し、遺構番号の前に調査区名をつけることで区別することとする。また、C1区の水道管が埋設された農道にかかる約2.8m分については調査を行っていない。

D（1～13）区は延長127mのトレンチで、JR北陸本線沿いの調査区である。竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡8棟以上の他、土坑、小穴等が検出された。D区では7世紀代に入る遺物も出土しているが、主に6世紀代の遺物が出土しており、検出遺構の多くが当該期に属すると思われる。

第2節 遺 構

1. A区の遺構

SK01（第55図）

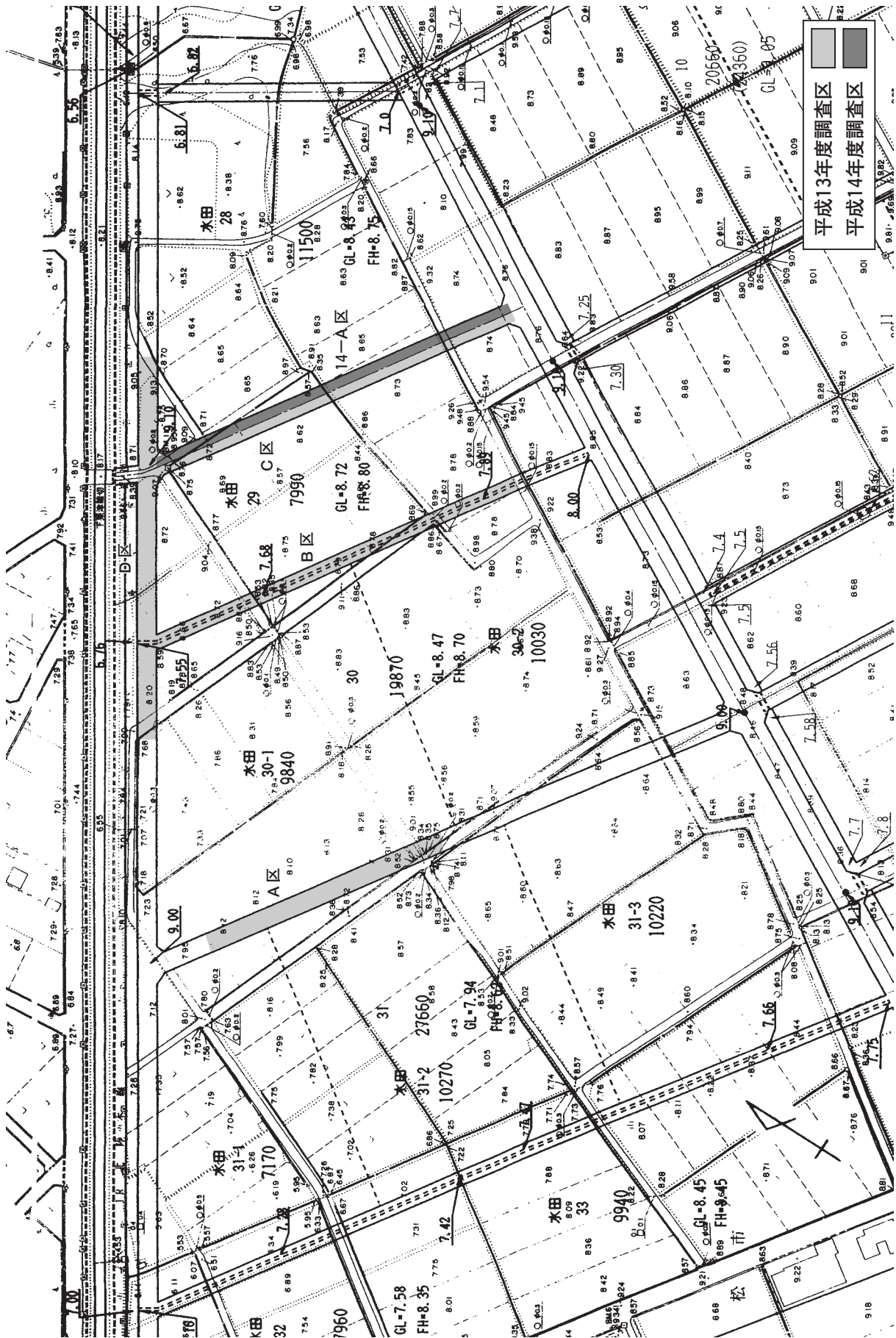
A5区で検出された。径1.3～1.4mの平面不整形を呈し、検出面からの深さは10～29cmを測る落込み。

SK02（第55図）

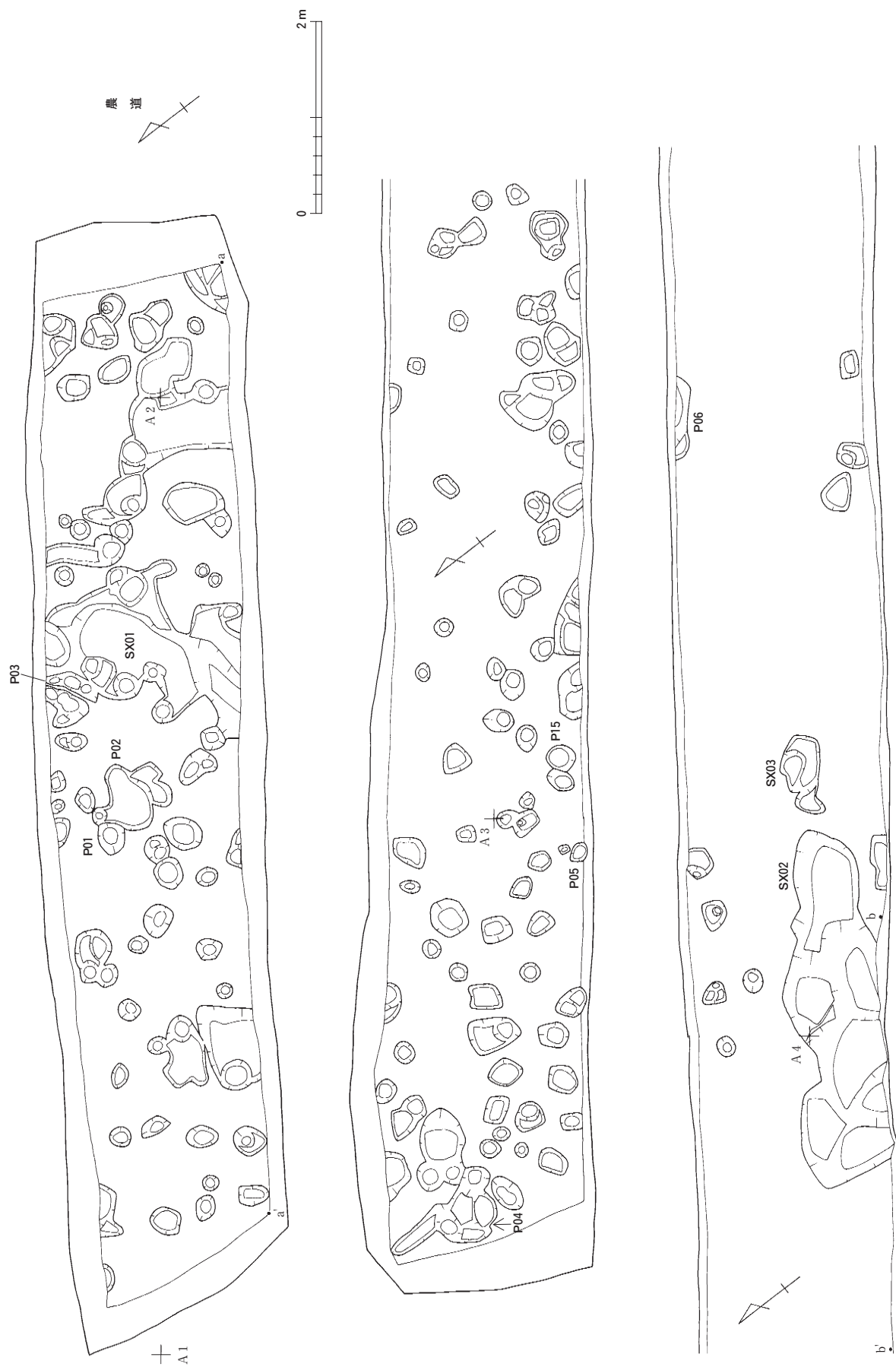
A6区で検出された。長径1.35m、短径1.05mの平面不整楕円形を呈し、検出面からの深さは17～21cmを測る土坑。

SK03（第56図）

A9区で検出された。直径1m程度の平面略円形を呈し、検出面からの深さは11～18cmを測る土坑。



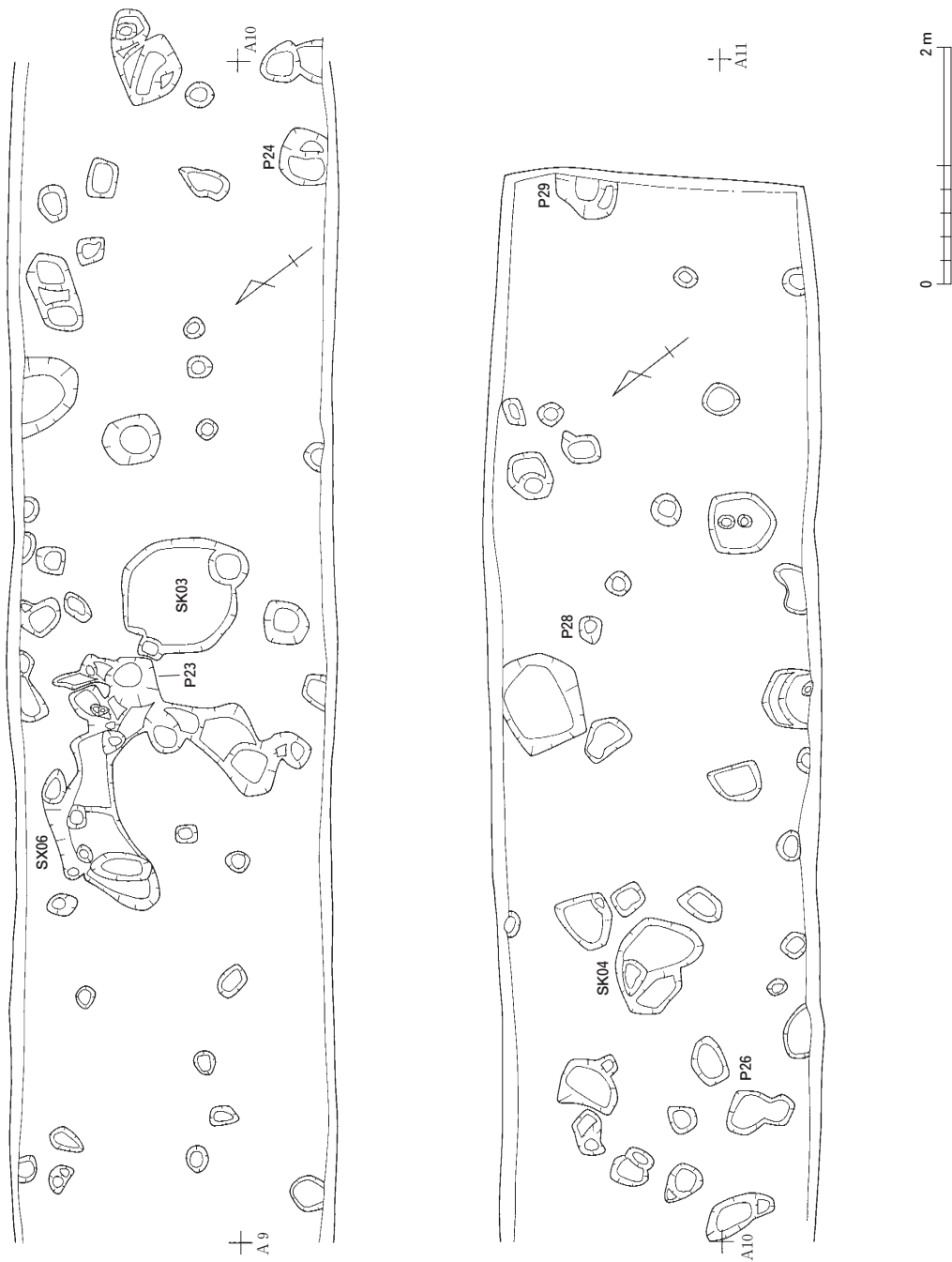
第53図 調査区位置図 (S=1/2,000)



第54図 A区遺構実測図1 (S=1/60)



第55図 A区遺構実測図2 (S=1/60)



第56図 A区遺構実測図3 (S=1/60)

SK04 (第56図)

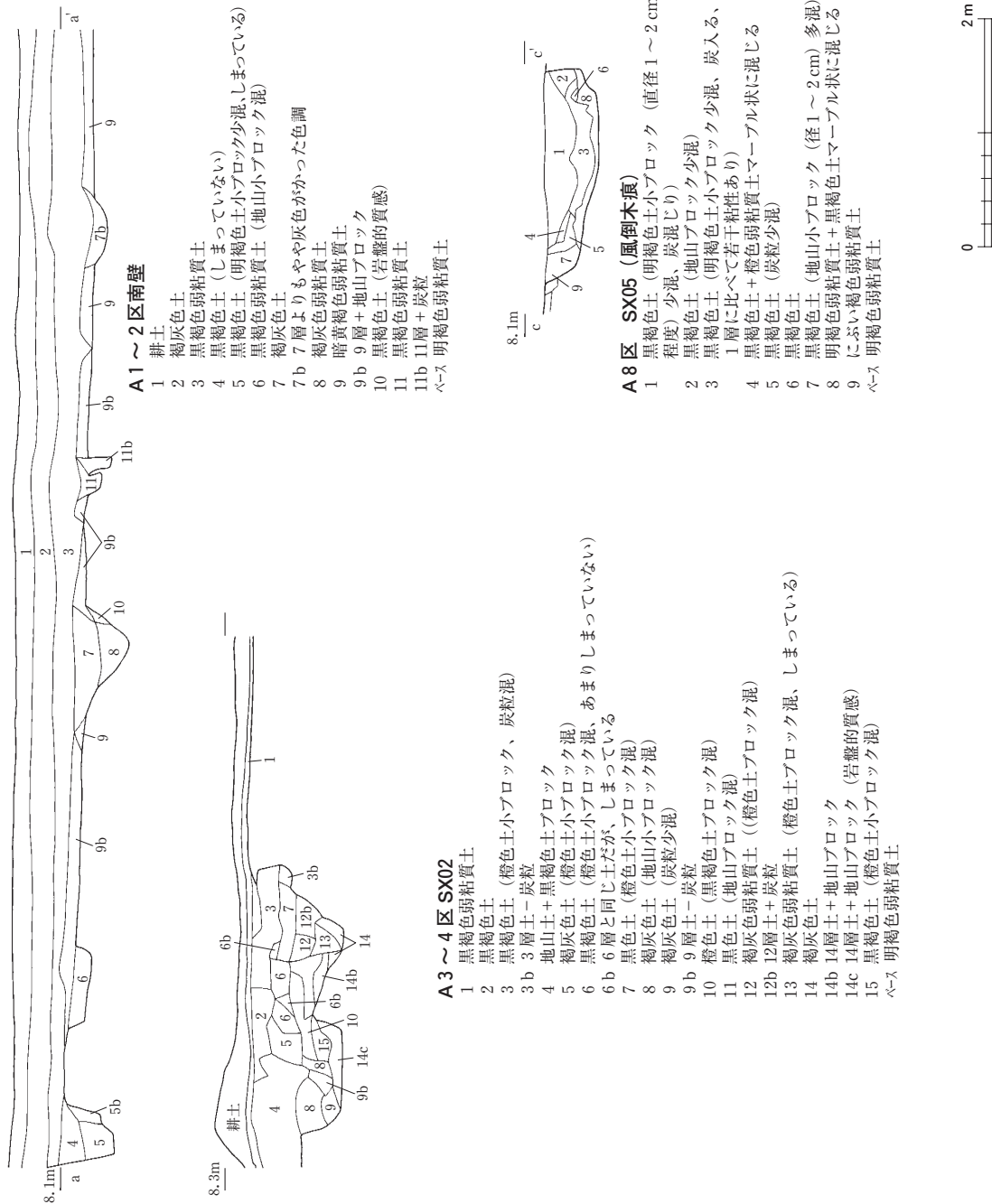
A10区で検出された。長径0.95m、短径0.55mの平面不整楕円形を呈し、検出面からの深さは16～30cmを測る。

SX01 (第54図)

A1区で検出されたが、調査区が狭小なため全体を検出できていない。平面不定形を呈し、検出面からの深さ14～39cmを測る風倒木痕と思われる。

SX02 (第54・57図)

A3～4区で検出されたが、調査区が狭小なため全体を検出できていない。平面不定形を呈し、検



第57図 A区遺構実測図4 (S=1/60)

出面からの深さ57～77cmを測る風倒木痕と思われる。

SX03 (第54図)

A4区で検出された。平面不定形を呈し、検出面からの深さ6～13cmを測る落込み。

SX04 (第55図)

A5区で検出された。北北東-南南西方向から東南東方向へ折れる幅0.15～0.60mの溝状を呈する。検出面からの深さは4～9cmを測る。調査区が狭小なため全体を検出できていない。

SX05 (第55・57図)

A8～9区で検出された。直径2m程度の平面不整円形を呈し、検出面からの深さ32～48cmを測る

風倒木痕である。

SX06 (第56図)

A 9区で検出された。U字型に湾曲する幅0.3～0.45mの溝状の浅い落込みで、検出面からの深さ4～11cmを測る。

2. B区の遺構

SI01 (第58・61図、図版17)

B 1区で検出されたが、狭小な調査区のため、全体を検出できていない。一辺6.5m程度の平面方形プランの竪穴住居跡と推定され、検出面からの深さは16～26cmを測り、床面には深さ10～19cmの壁溝が廻らされている。貼床土は黄色地山質粘土を主とし、5～10cm程度の厚さで見られる。

SI02 (第58・61図、図版17)

B 3～4区で検出されたが、狭小な調査区のため、全体を検出できていない。一辺3.5m程度の平面方形プランの竪穴住居跡になると思われ、検出面からの深さは14～22cmを測る。なお、柱穴や、貼床・硬化面などの痕跡は確認できなかった。

SD01 (第58・61図、図版17)

B 3区で検出されたが、出土遺物から、7世紀前半代の遺構と見られる。幅約5m、検出面からの深さ約80cmを測り、北西肩へは急角度で立ち上がり、南東肩へは緩やかな立ち上がりを見せる。形態や遺構配置などの観点からも古墳周溝ではなく、建物等に付随する施設の可能性があるが、調査区が狭小であり、判断がつかかねる。

SK01 (第59・62図、図版17)

B 7区で検出されたが、狭小な調査区のため、全体を検出できていない。検出面からの深さ12～33cmを測る落込み。肩部が緩やかに落ち込んでおり、また、底面が凹凸しており、上場も不定形であることから、竪穴住居跡とは考えにくい。

SK02 (第60・62図、図版17)

B12区で検出された。調査区が狭小で全形は不明である。検出面からの深さ30～50cmを測る土坑。

SX01 (第60図)

B 9区で南西端の一部を検出した。検出面からの深さ4～11cmを測る浅い落込み。

SX02 (第60図)

B10区で検出されたが、全体を検出できていないが、平面不定形で、検出面からの深さ4～9cmを測る浅い落込み。底面がかなり凹凸し、上場も不定形であることから、竪穴住居跡とは考えにくい。

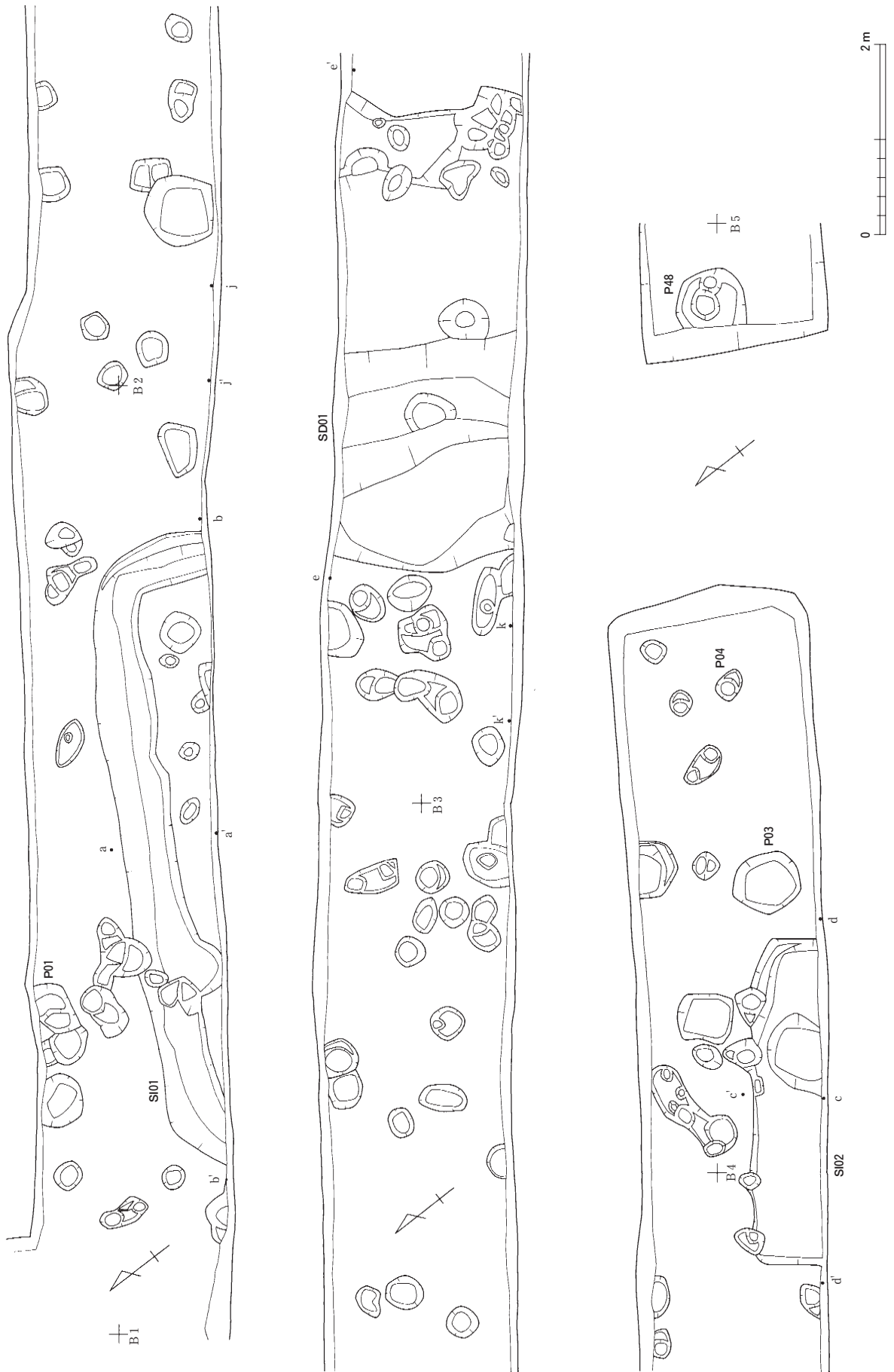
風倒木痕 (第61・62図)

B14～15区で検出されたが、全体を検出できていないが、南北3.7m以上、東西1.2m以上検出面からの深さ1.1～1.3mを測る大型の風倒木痕である。

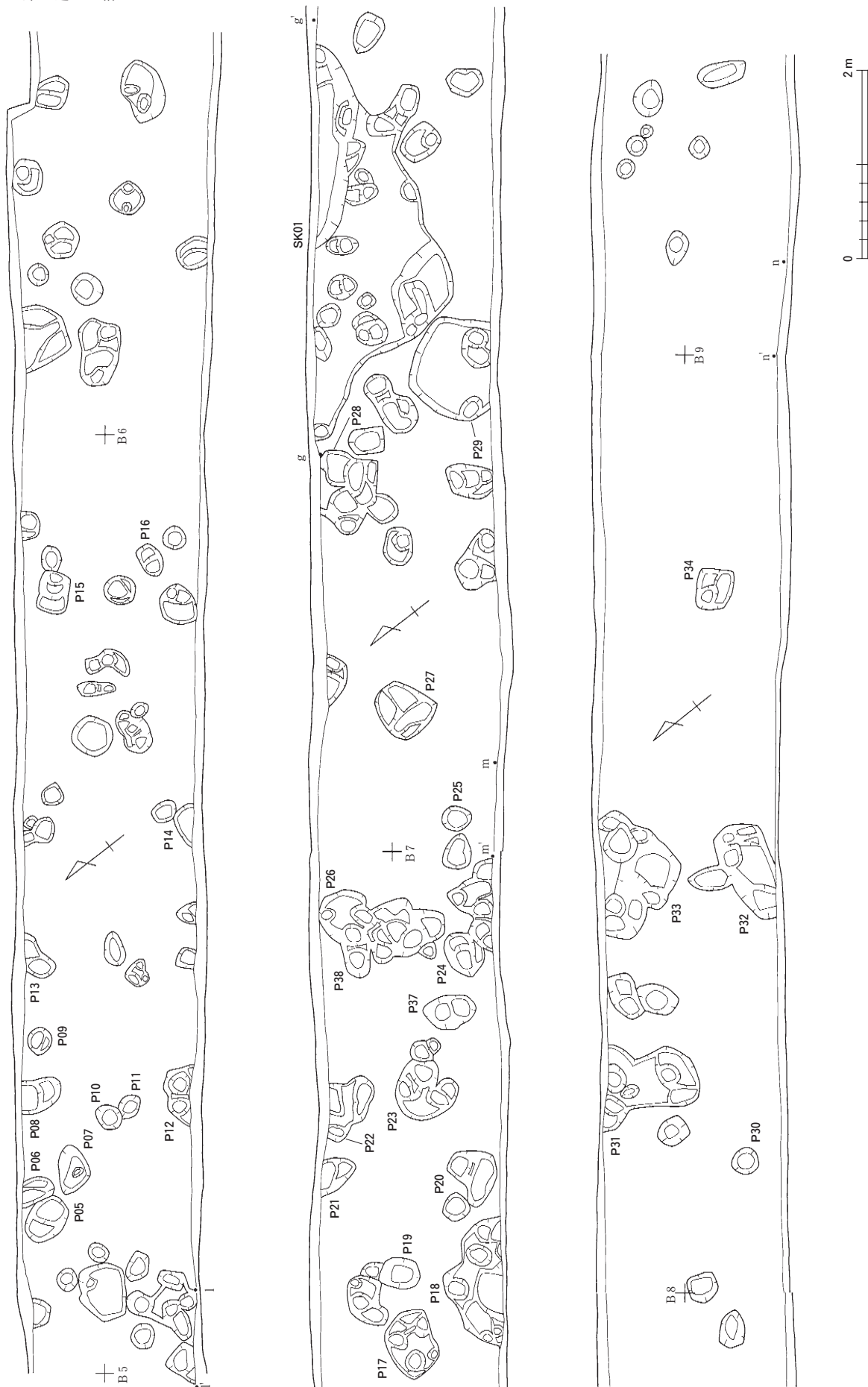
3. C区・14-A区の遺構

SI01 (第64・75・76図、図版18)

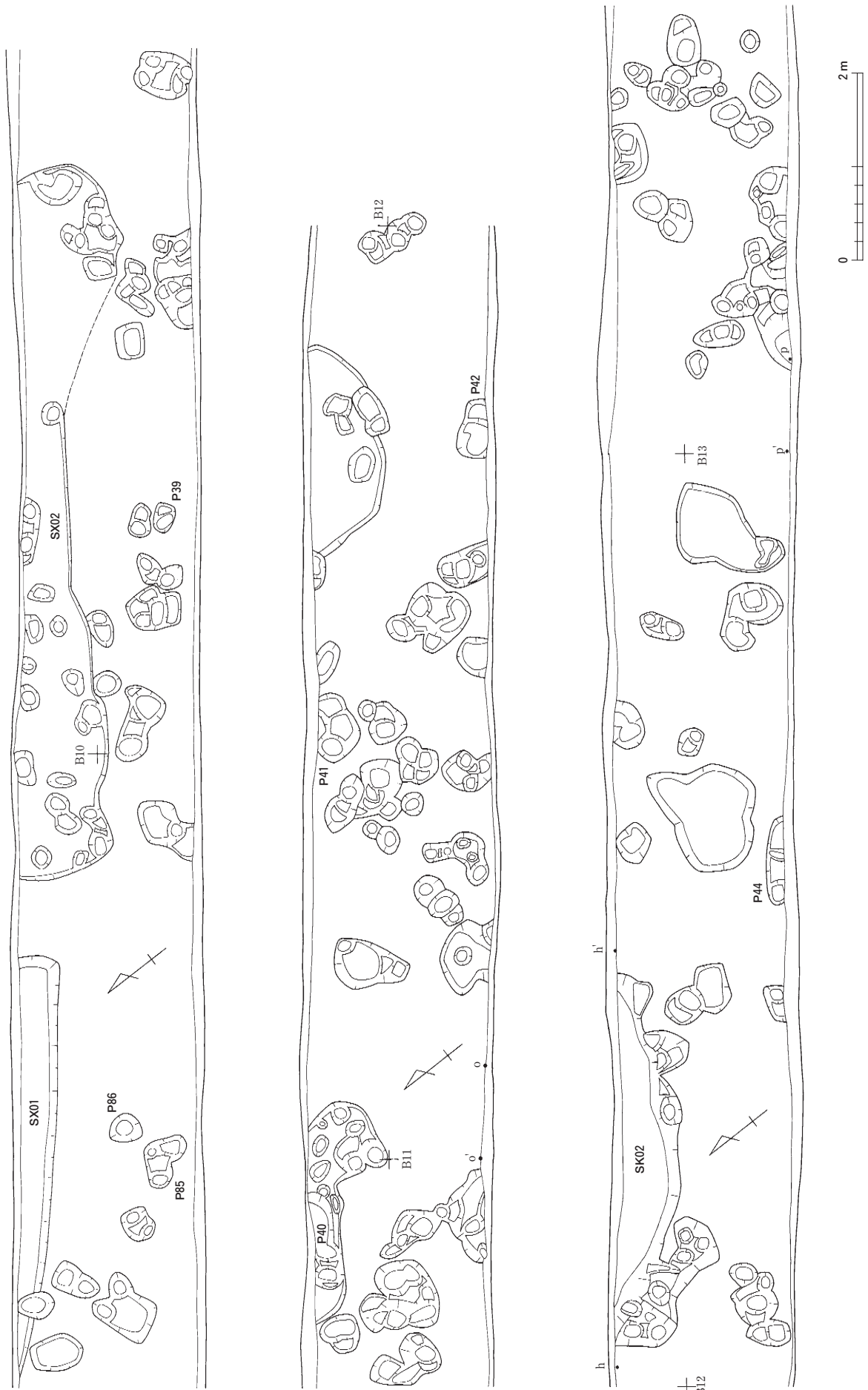
C 1・2区と14-A 1・2区の2つの調査区で検出された竪穴住居跡。全体を検出できなかったが、1辺7.5m程度の平面方形プランと推定され、検出面からの深さは26～40cmを測る。また、床面には



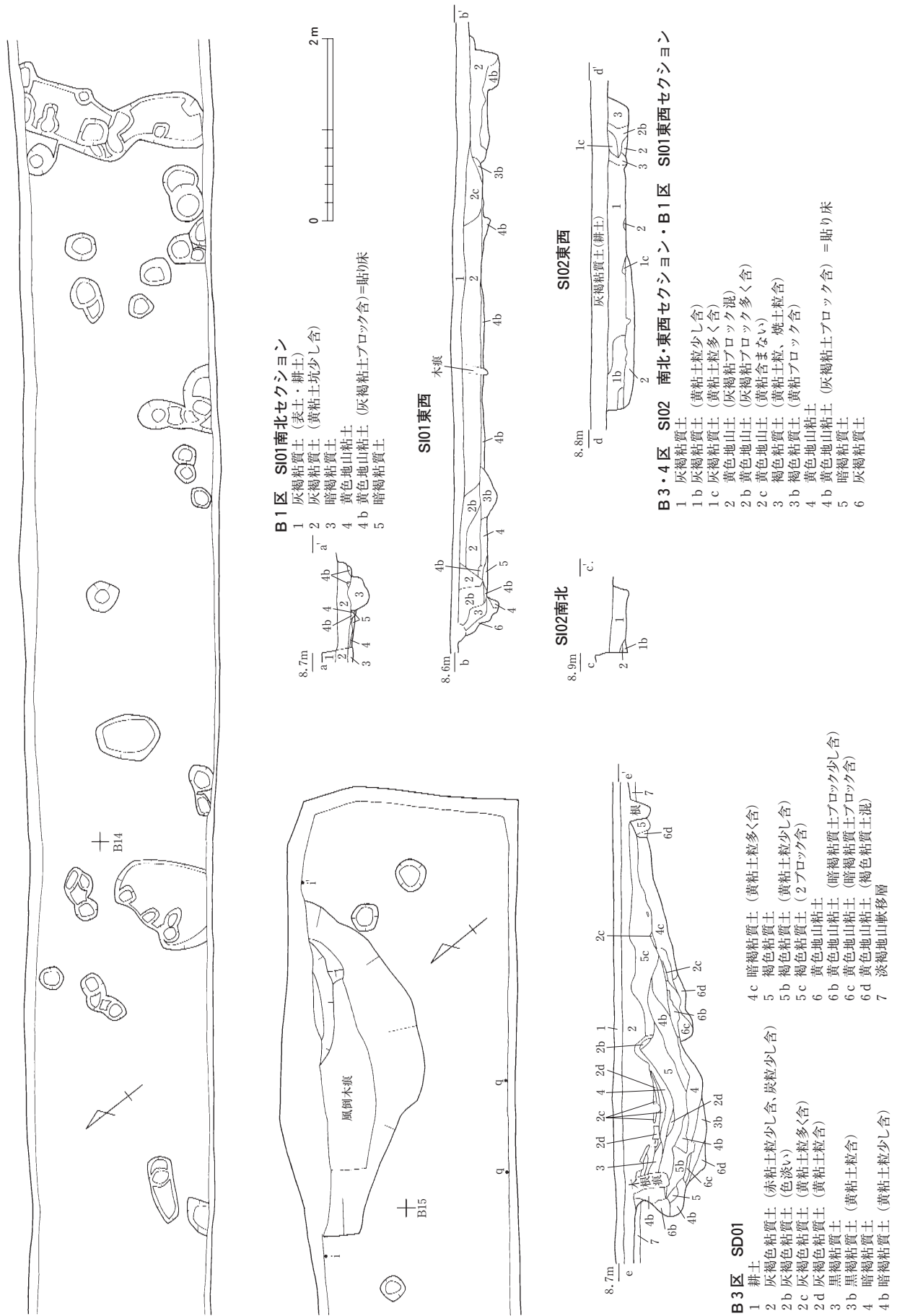
第58図 B区遺構実測図1 (S=1/60)



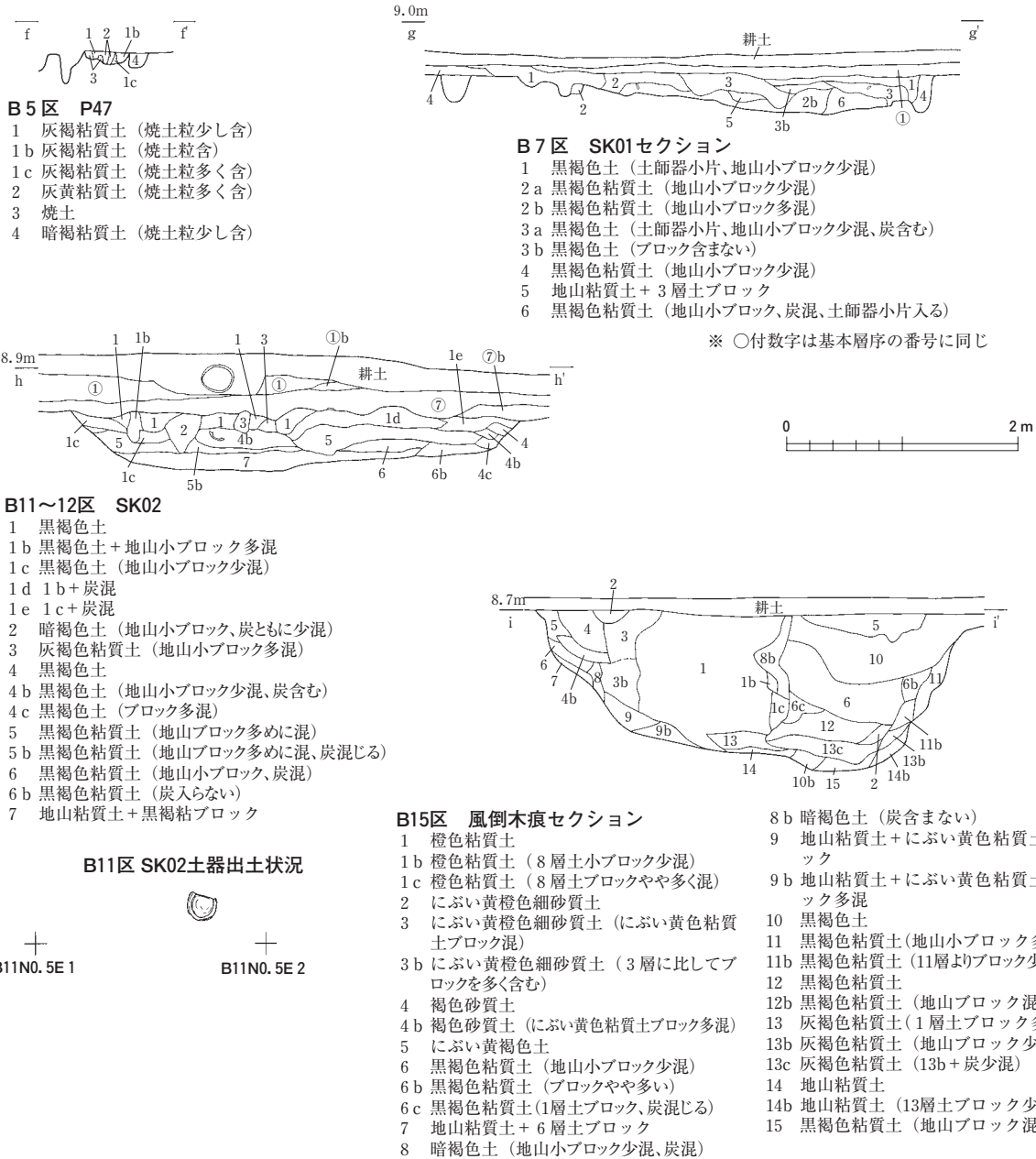
第59図 B区遺構実測図2 (S=1/60)



第60図 B区遺構実測図3 (S=1/60)



第61図 B区遺構実測図4 (S=1/60)



第62図 B区遺構実測図5 (S=1/60)

深さ12~20cmの壁溝が廻らされていた。壁溝は外側が垂直に立ち、その部分で幅約3cm、深さ8~10cmで暗褐色土が認められた。立壁板跡と思われる。また、褐色粘土混黄白色粘砂を主とした貼床土が、南東の大ピット・中央の溝状の部分などで12~15cmの厚さで見られた。

建物の北西側壁面にL字型をなすカマドが設置されている。カマド袖は地山土の混在する褐色粘土で形成されている。南袖は約1mの長さで検出したが、北袖は明瞭に検出できなかった。袖に密着して袖石と思われる砂岩質の石が検出されている。また、カマド内部には被熱部がなく、底面の検出は困難を極めたが、土層断面の観察より、セクションポイントp側の第15層で被熱土が見られたことから、この辺りまでカマド内であったと推定されよう。焚口の被熱部は最厚部で20cmに及び、被熱部下の地山土は砂質化していた。貼床土の第11層と12・12b層(第75図)では、このような被熱した地山土と見られる黄褐色砂質土が含まれていた。また、焚口の被熱範囲から見て、南袖に直交して



B・C区基本層序

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 黒褐色弱粘質土 1 b 黒褐色弱粘質土 (地山ブロック混(多め)) 1 c 黒褐色弱粘質土 (小さい地山ブロック少混、炭含む) 1 d 黒褐色弱粘質土 (ブロックやや多めに含む) 2 黒褐色粘質土 2 b 黒褐色粘質土 (地山ブロック多混) 2 c 黒褐色粘質土+ブロック+炭含む (土器入る(B5区)) 3 地山粘質土 3 b 地山粘質土 (小さい黒褐粘ブロック含む) 3 c 地山粘質土 (黒褐粘ブロック多混) | <ul style="list-style-type: none"> 4 黒褐色弱粘 (直径2~3mmの小石が入る、小石、土器含む) 5 黒褐色粘質土 (炭少量、焼土含む、あまりしまっていない) 6 暗褐色粘質土 (地山粘質土ブロック少混) 6 b 暗褐色粘質土 (ブロック含まない、やや暗めの色感) 7 黒褐色粘質土 (炭、地山小ブロック混) 7 b 黒褐色粘質土 (ブロックやや多く含む) 8 黒褐色粘質土 (炭、地山小ブロック少量混) 8 b 黒褐色粘質土 (ブロック多混) 8 c 黒褐色粘質土 (ブロック、炭ともに含まない) |
|--|--|

第63図 B区遺構実測図6、C・14-A区遺構実測図1 (S=1/60)

検出された部分は煙道ではなく、カマド内に突き出た障壁であったと考えられる。なお、カマド袖の除去後に、壁溝と袖端の掘りこみ及び袖下のピットを検出した。

柱穴については、主柱穴の有無は明確でないが、カマド奥と南東・北東側壁溝中に、平面楕円形及び隅丸長方形で、径或いは1辺35~50cm、深さ60cm超のピットが見られ、側柱と思われる。

C区 SI02 (第65・77図、図版19)

C3区で検出された。全形を検出でなかったが、1辺2.5m程度の平面方形プランの竪穴住居跡になると思われる。検出面からの深さは26~33cmを測る。床面には黄色粘質土系の貼床土が見られ、直上で平安時代の土器が検出された。また、貼床上でカマド構築材の一部と見られる焼土塊が土器と一

緒に出土している。また、調査区の壁際で明確ではないが、建物北西部では落ち込み状の遺構を切り込んでおり、これも竪穴であった可能性がある。

14-A区 SI02 (第65・77・78図、図版18)

14-A3区で検出された竪穴住居跡。全形を検出できず、規模も明らかでない。検出面からの深さは9～28cmで、床面からカマド跡と思われる被熱痕、袖石と見られる凝灰岩が検出されたが、カマド自体のプラン・方向ははっきりできなかった。また、カマドの周辺部からは、壁石と見られる焼けた石とともに土器がまとまって出土している。

また、竪穴との関係は不明確だが、南東側に近接して鍛冶炉と見られる被熱痕を検出した。被熱範囲は外側が赤変、内側は青灰色に変色していた。その直東の金床石には鉄片が付着しており、北西部に凹みがあることから、本来丸かった金床石が半欠したものと見られる。

SI03 (第64・65・76・77図、図版18)

14-A2区で検出された。全形を検出できなかったが、北西-南東方向4.1～4.7m、南西-北東方向1.9m以上の不定形で、柱穴や、貼床・硬化面などの痕跡も確認できなかったため、竪穴ではないと思われる。検出面からの深さは5～25cm。

SB01 (第67・79図、図版19)

14-A6区で検出された掘立柱建物跡。全体を検出できていないが、3間(4.63m)×1間(1.02m)以上の規模で、長軸方位はN63°W。柱穴は径0.4～0.6m、検出面からの深さ26～47cmを測る。

SB02 (第66・79図、図版19)

14-A4～5区で検出された掘立柱建物跡。全体を検出できていないが、3間(5.3m)以上の規模で、長軸方位はN40°Wを指す。柱穴は径0.6～0.8m、検出面からの深さ28～38cmを測る。

SB03 (第66・79図、図版19)

C3～5区と14-A3～5区の2つの調査区にまたがって検出されている。全体を検出できていないが、6間(11.8m)×1間(3.4m)以上の規模を持つ側柱の掘立柱建物跡で、長軸方位はN41°Wを指す。柱穴は1辺0.8～0.9mの方形、検出面からの深さ45～67cmを測る。柱穴の土層断面では、柱痕が確認でき、また、柱痕部分の床面は柱の圧力により硬くしまり、少しくぼんでいた。柱穴からは少量の土器片の他に牛もしくは馬の顎骨と歯が出土している。

SB04 (第64・76図)

14-A1区で検出された掘立柱建物跡だが、全体を検出できていない。規模1間(1.4m)以上×1間(1.4m)で、長軸方位N40°Wを指す。柱穴は径49～73cm、検出面からの深さ27～39cmを測る。

SB05 (第68図)

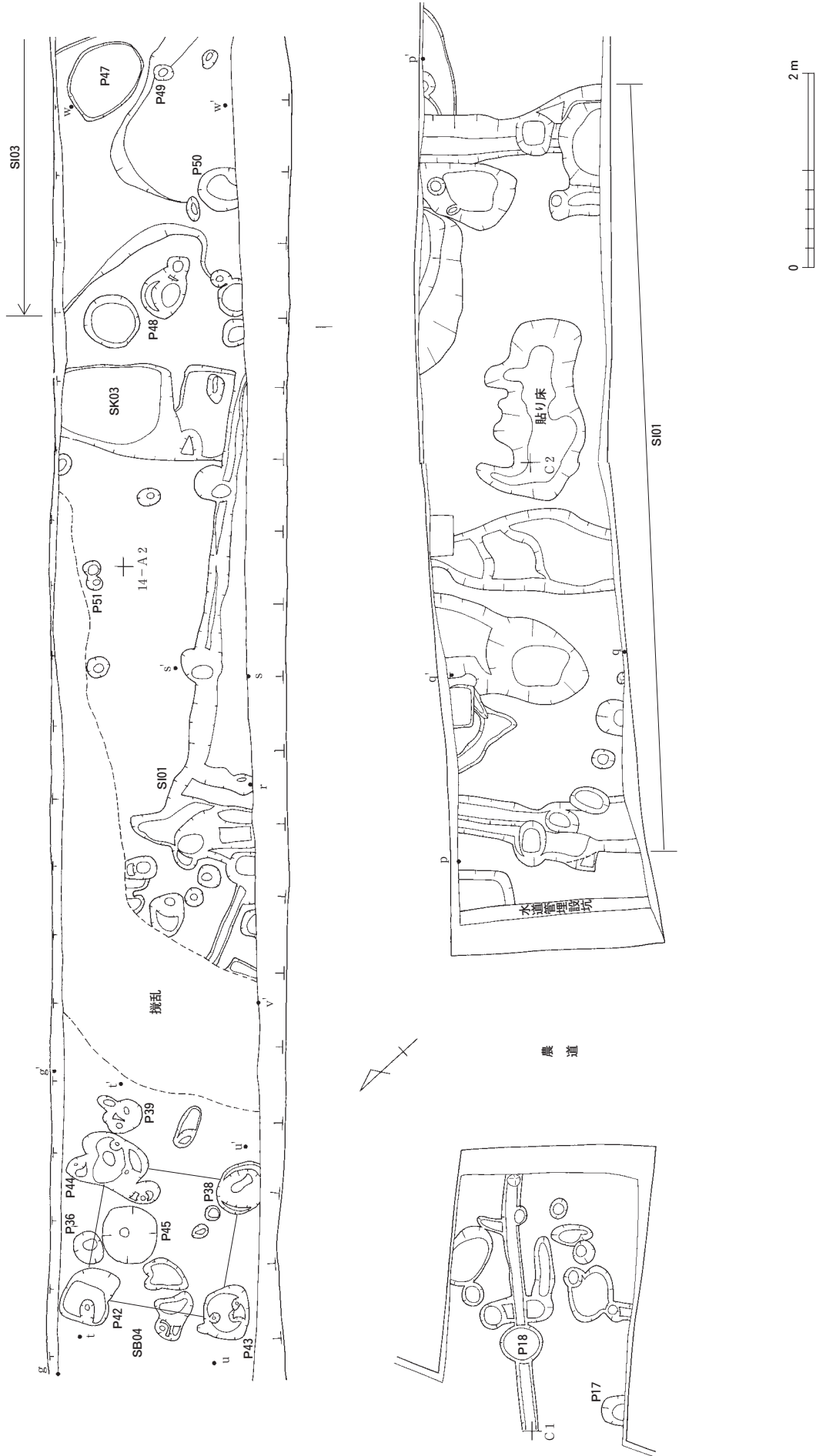
14-A7区で検出された掘立柱建物跡だが、全体を検出できていない。規模1間(1.65m)以上×1間(1.48m)で、長軸方位N60°Wを指す。柱穴は径35～53cm、検出面からの深さ23～36cmを測る。

SB06 (第70・80図)

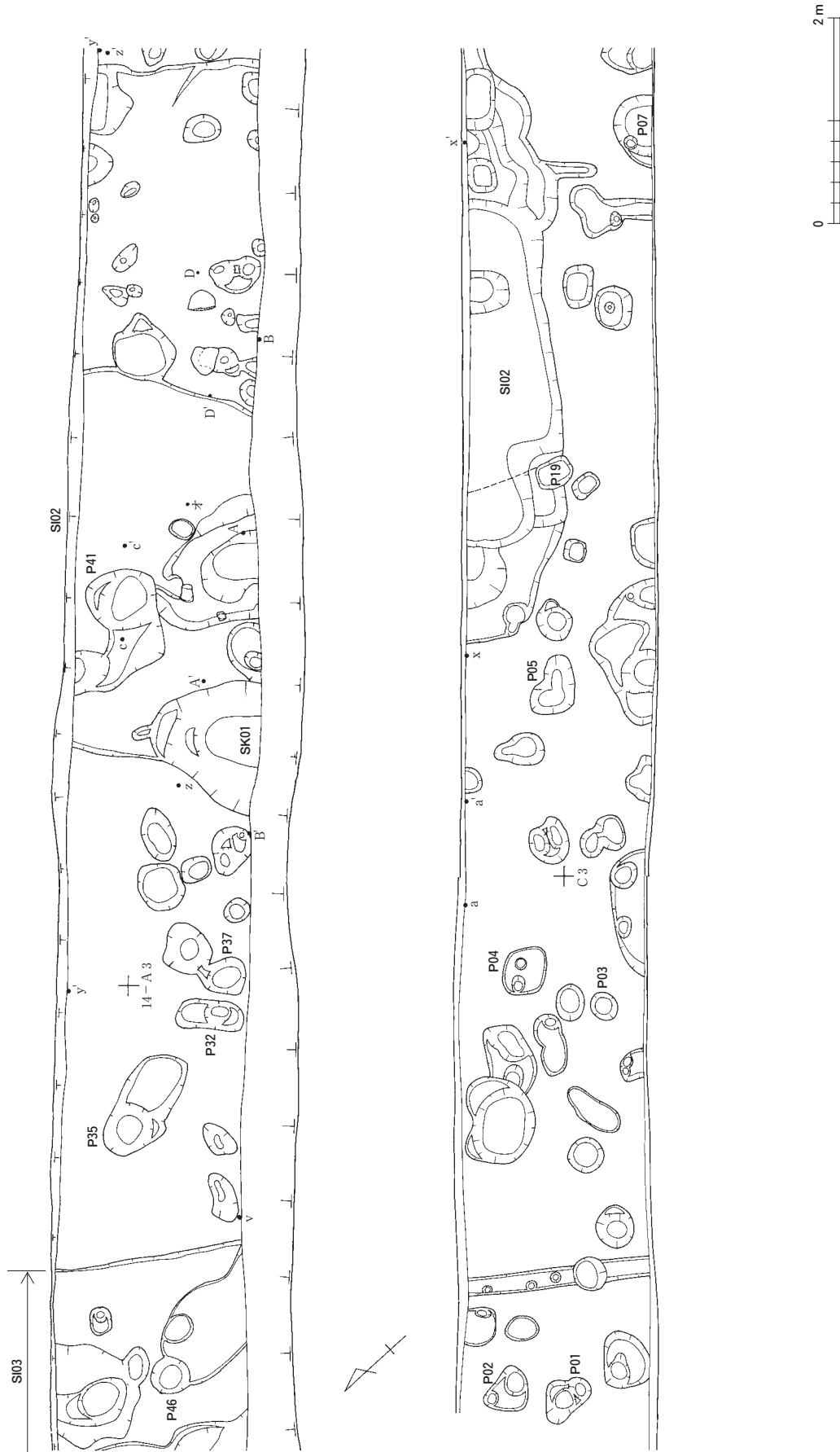
14-A10区で検出された掘立柱建物跡だが、全体を検出できていない。規模1間(3.5m)×1間(2.1m)以上で、長軸方位N41°Wを指す。柱穴は1辺0.6～0.75mの方形で、検出面からの深さ44～47cmを測る。

SK01 (第65図)

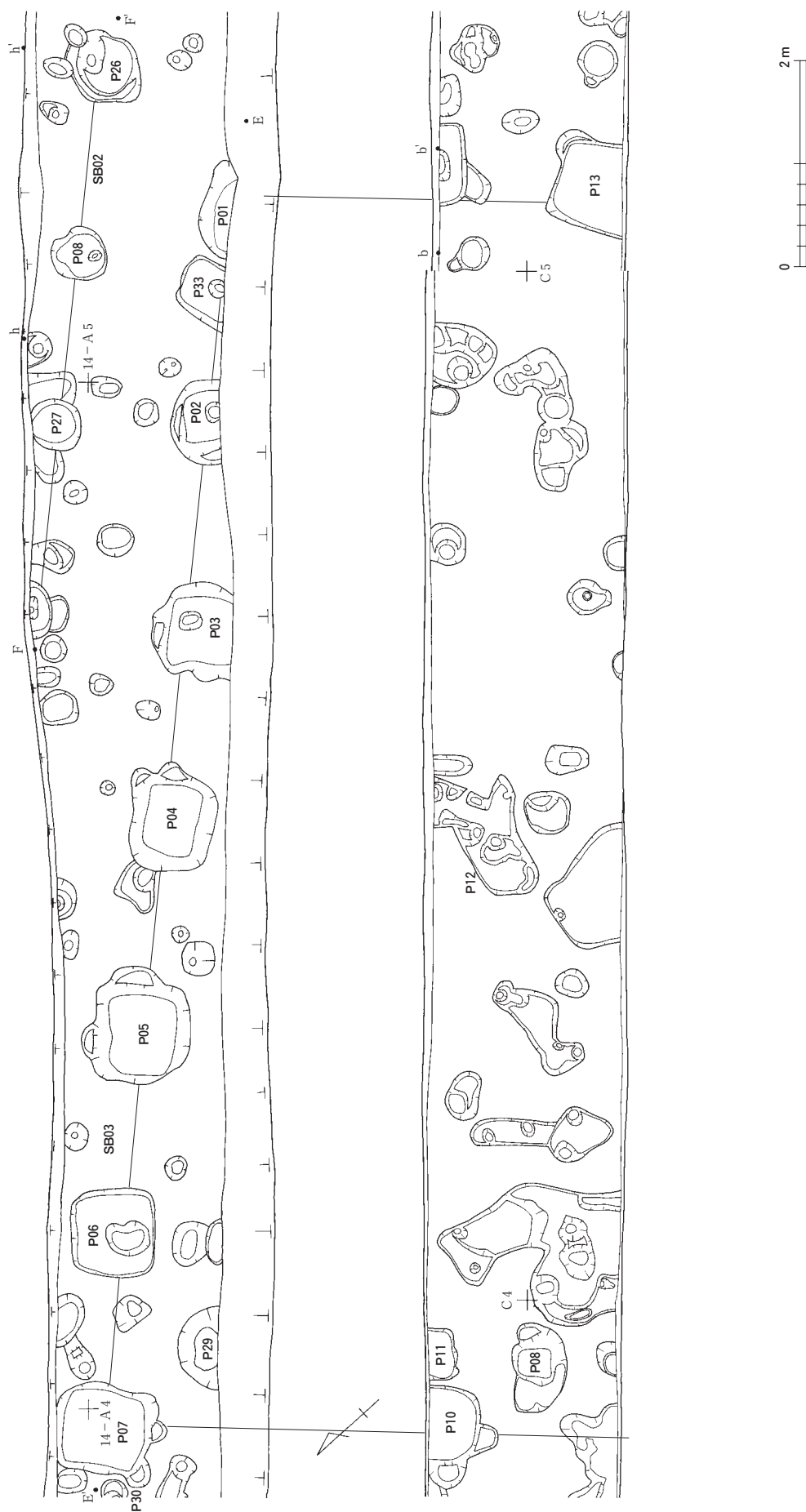
14-A3区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。北西-南東方向1.3m、南西-北東方向1.08m以上、検出面からの深さ55～61cmで、SI02を切り込んでいる土坑。



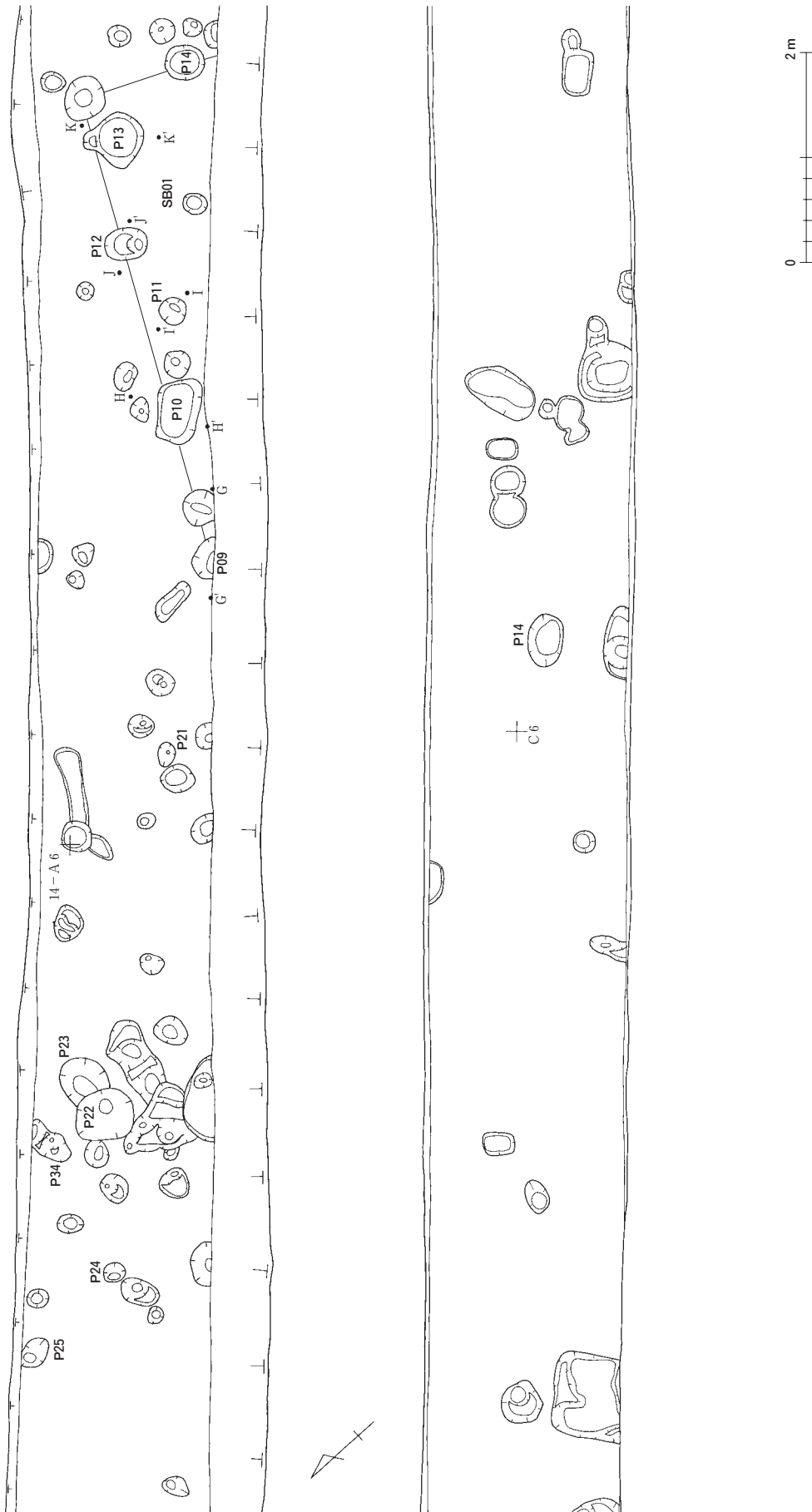
第64図 C・14-A区遺構実測図2 (S=1/60)



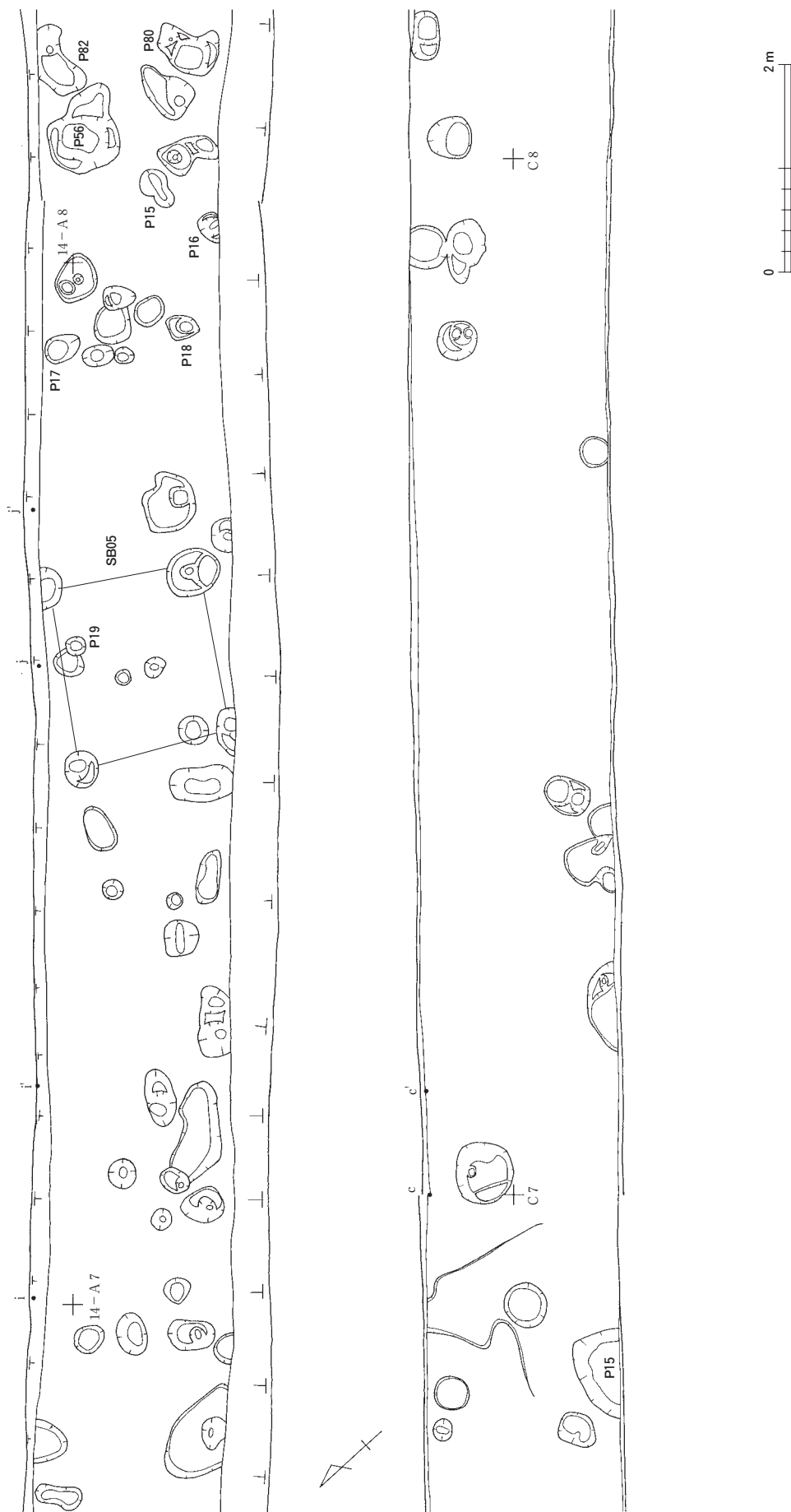
第65図 C・14-A区遺構実測図3 (S=1/60)



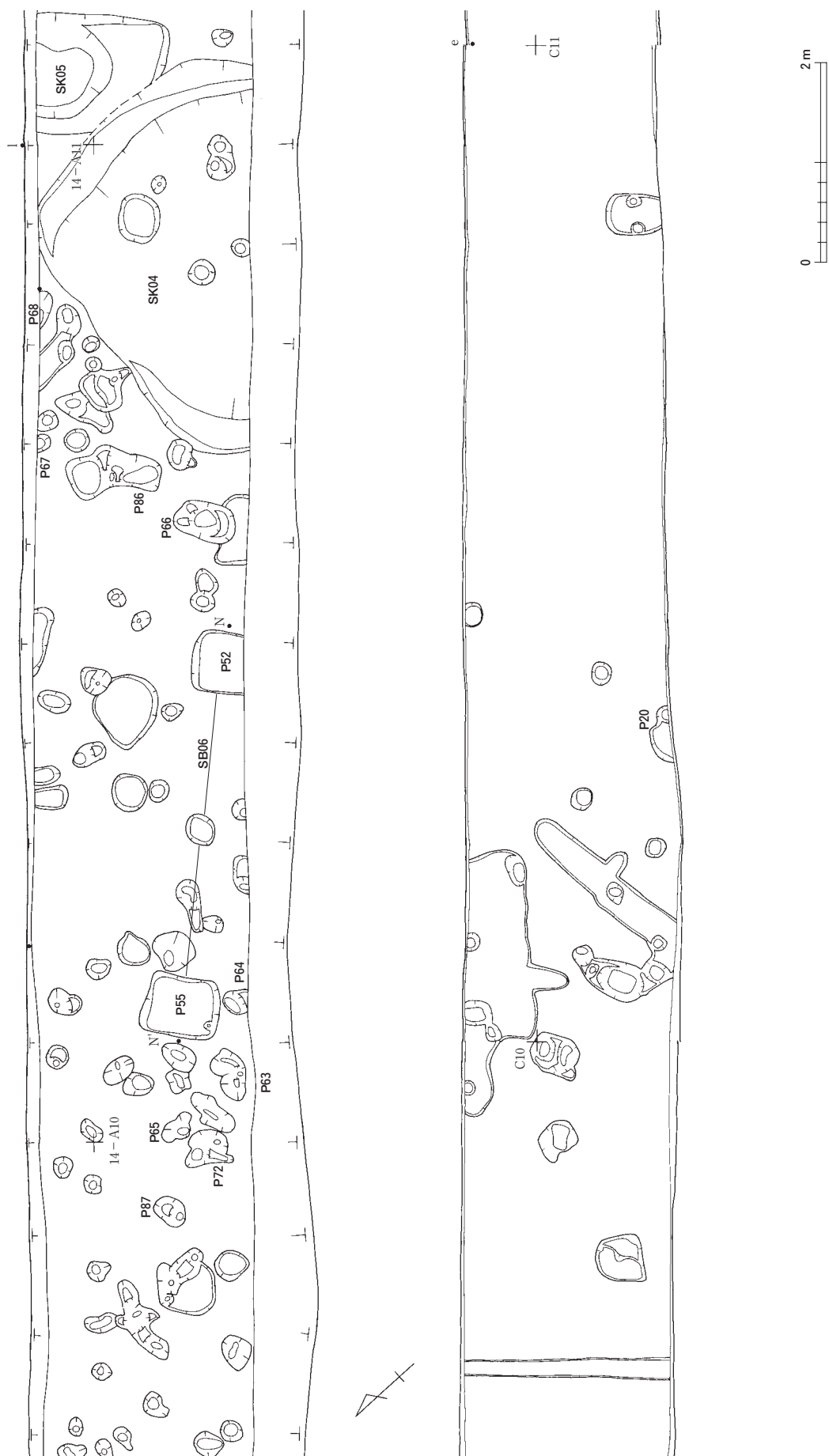
第66図 C・14-A区遺構実測図4 (S=1/60)



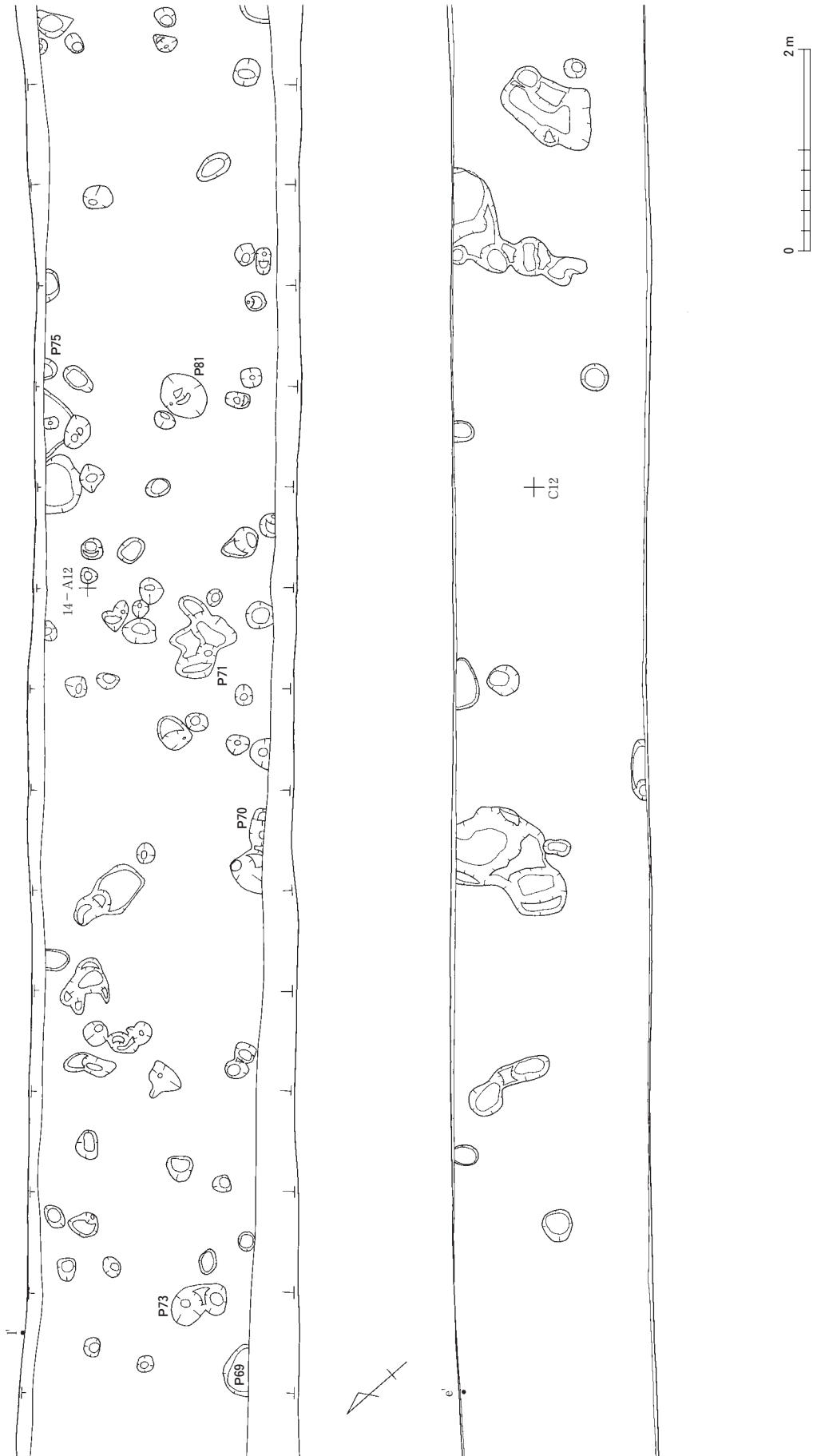
第67図 C・14-A区遺構実測図5 (S=1/60)



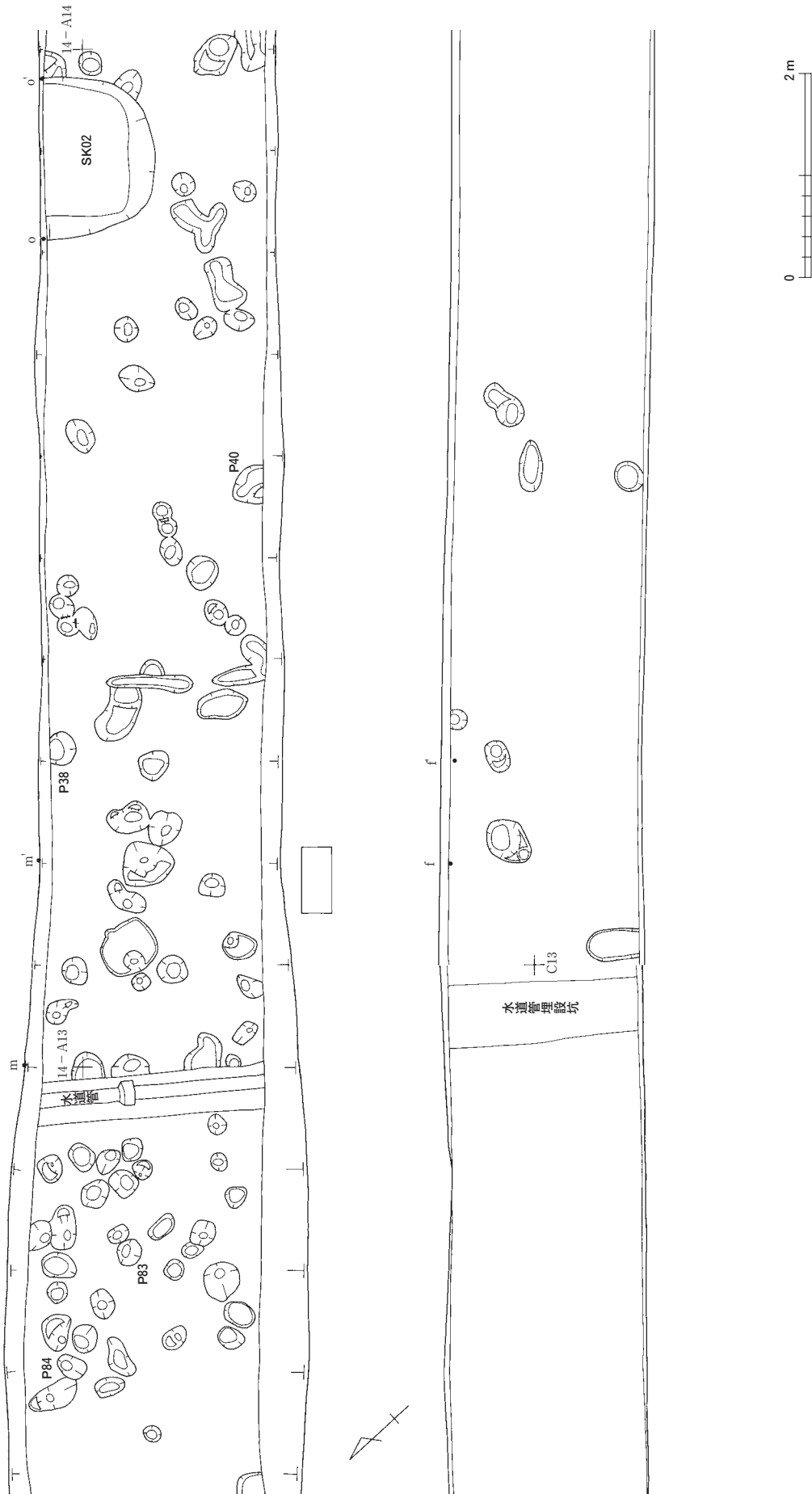
第68図 C・14-A区遺構実測図6 (S=1/60)



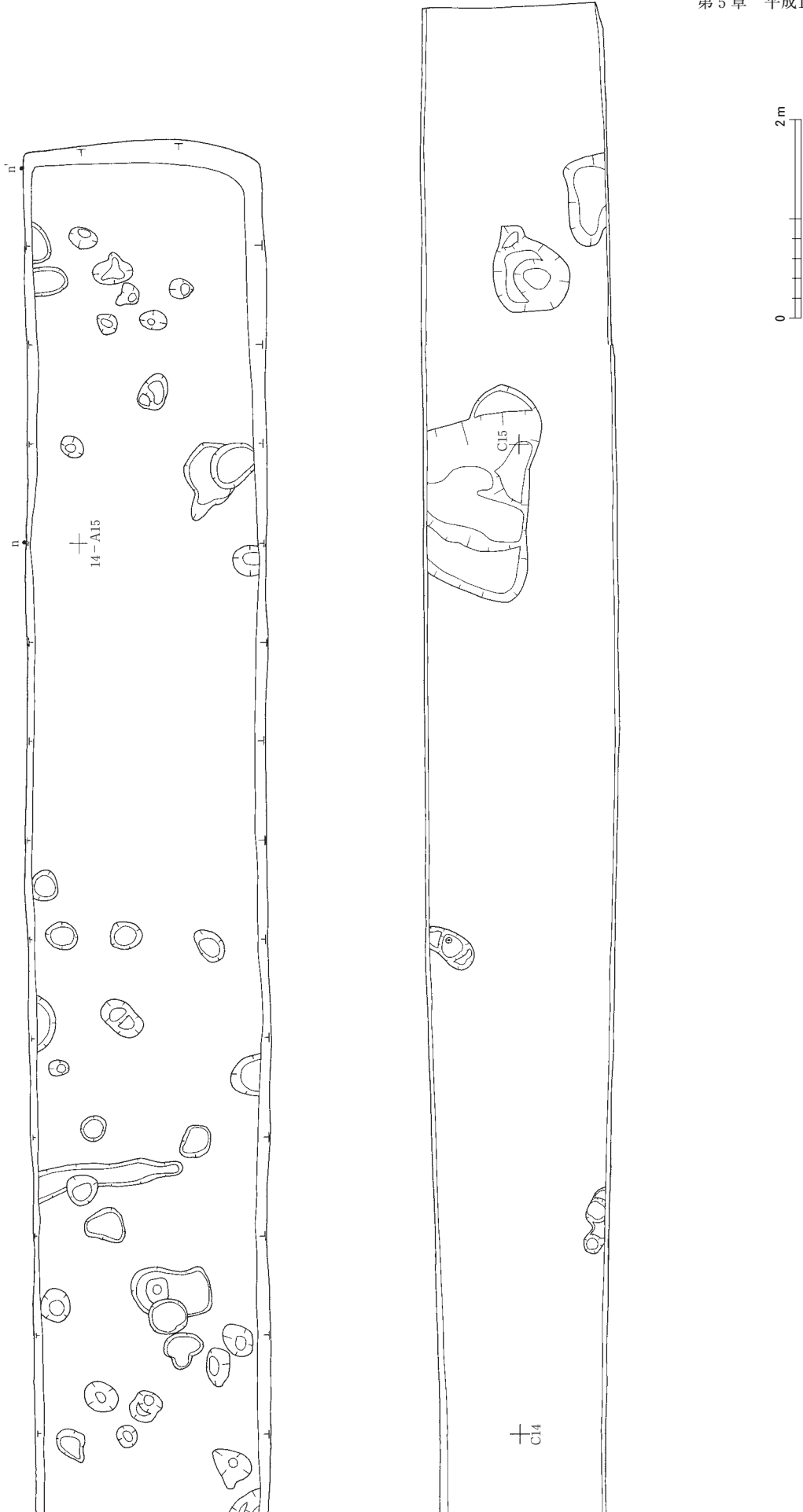
第70図 C・14-A区遺構実測図8 (S=1/60)



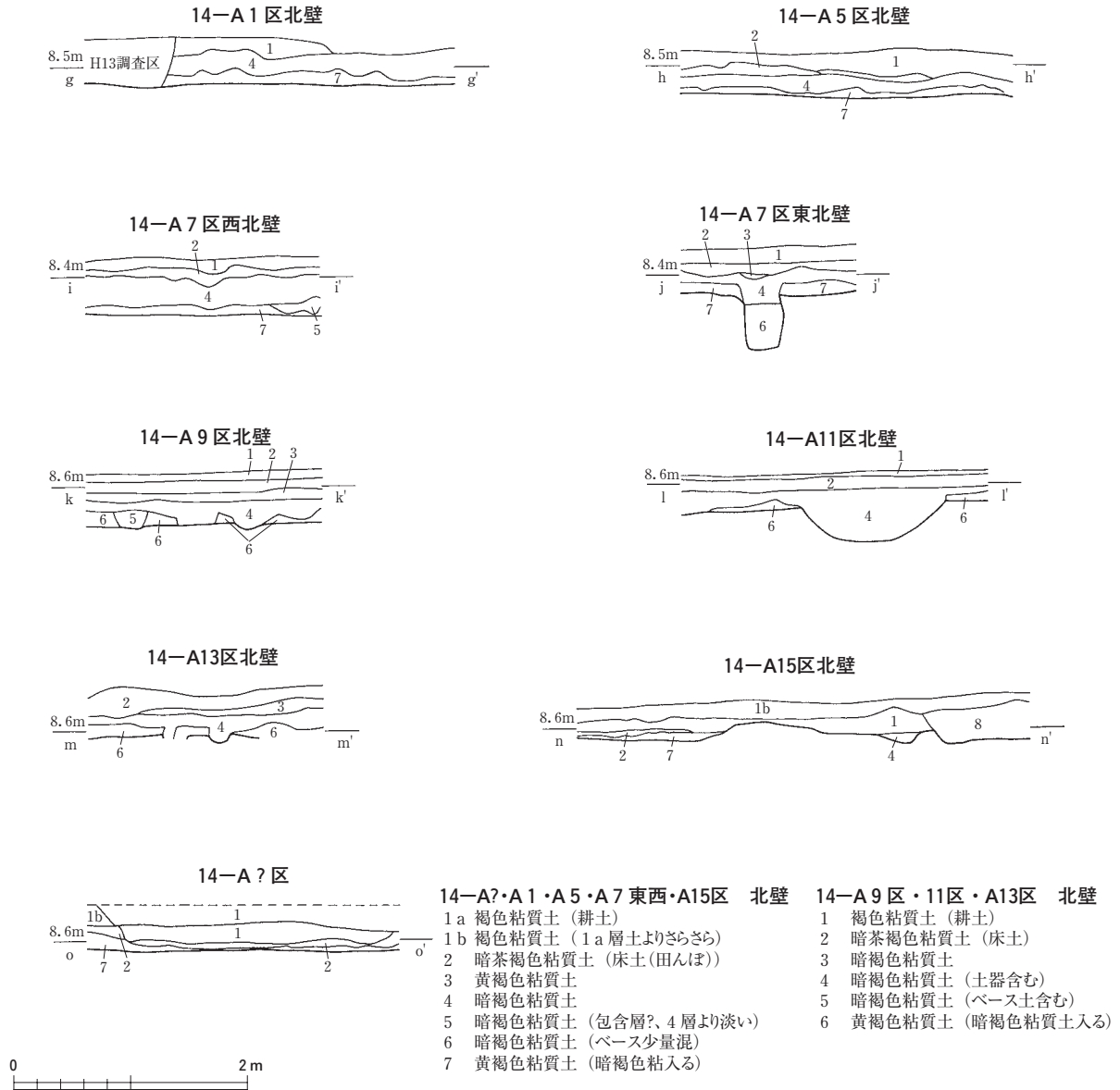
第71図 C・14-A区遺構実測図9 (S=1/60)



第72図 C・14-A区遺構実測図10 (S=1/60)



第73図 C・14-A区遺構実測図11 (S=1/60)



第74図 C・14-A 区遺構実測図12 (S=1/60)

SK02 (第72・80図)

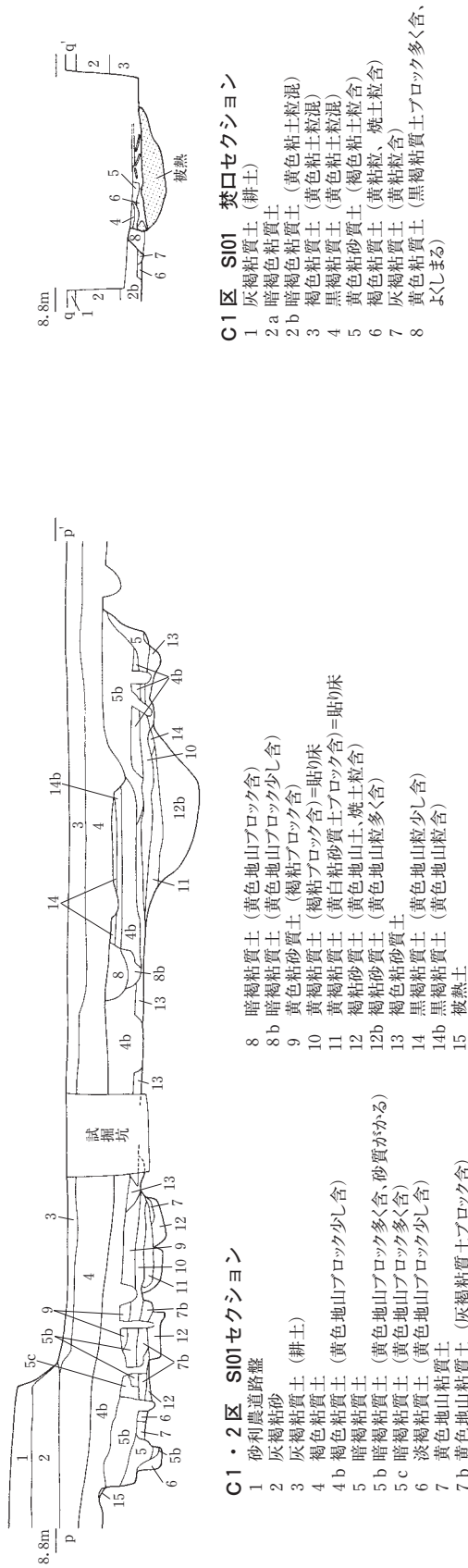
14-A13区で検出された。全体を検出できていないが、1辺1.6m程度の隅丸方形プランとなろうか。検出面からの深さは27~32cmを測る。

SK03 (第64図)

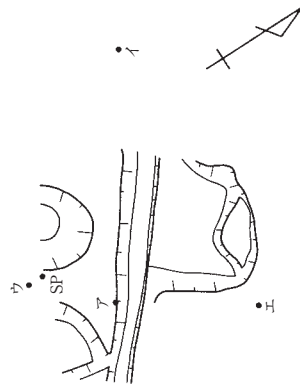
14-A2区で検出された。全体を検出できていないが、掘り方は北西-南東方向0.75m~0.9m、南西-北東方向1.18m以上の平面長方形形状になると思われ、検出面からの深さは32~41cmを測る。

SK04 (第70図)

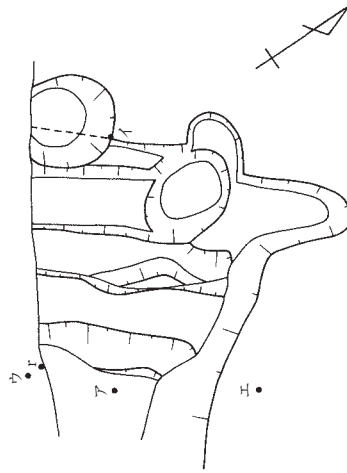
14-A10~11区で検出された。全体を検出できていないが、掘り方は1辺2.8~3.1m程度の平面隅丸方形プランを呈すると思われ、検出面からの深さは72~89cmを測る。東辺でSK05を切り込む。



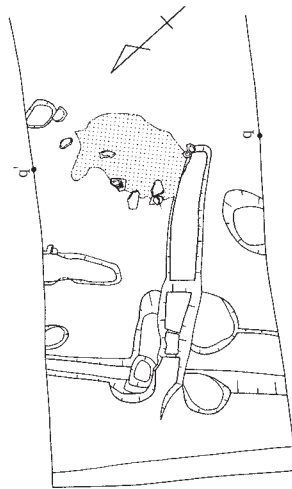
14-A1区 S101カマド軸除去後検出遺構 (S=1/30)



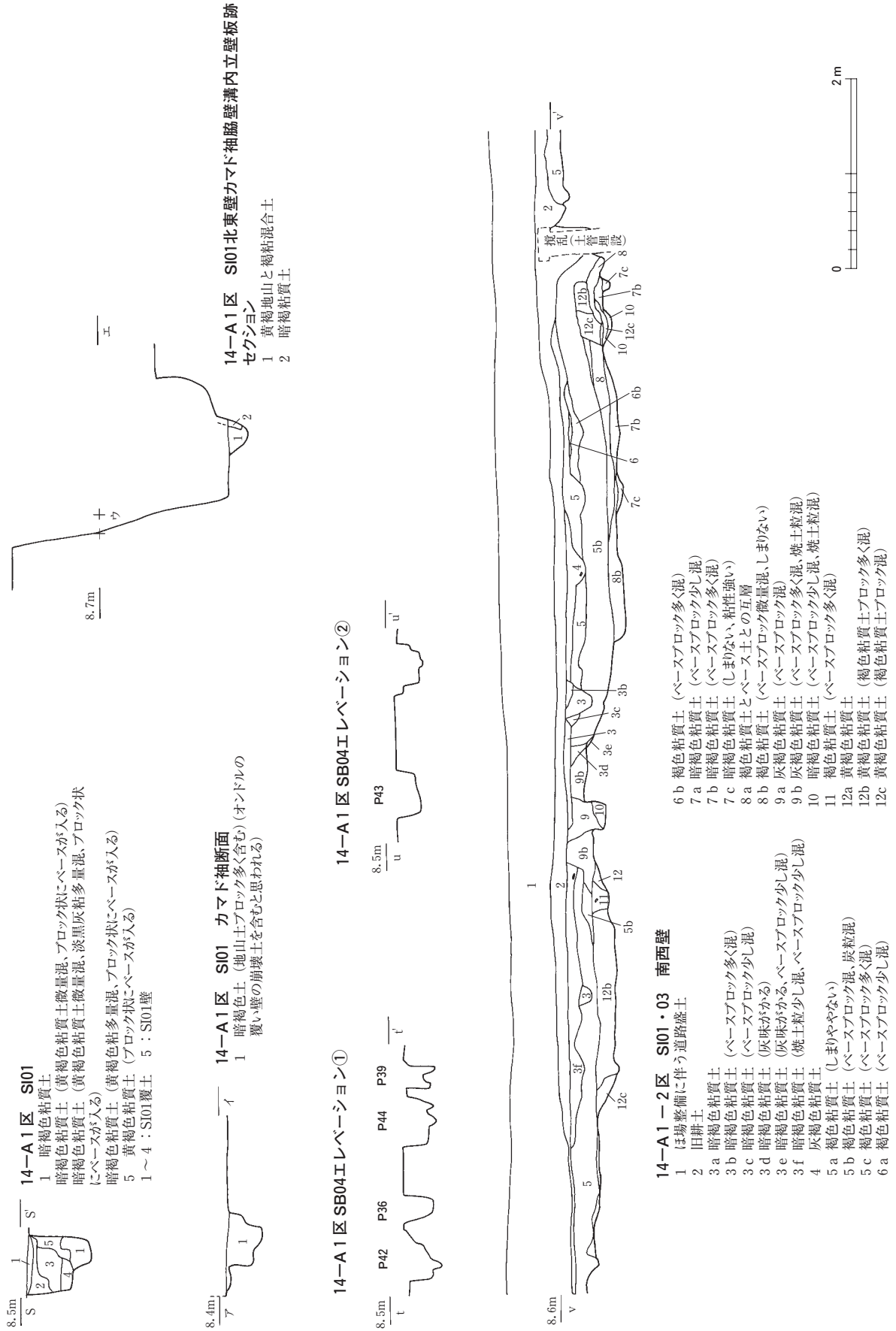
14-A1区 S101カマド平面図 (S=1/30)



C1区 S101カマド検出状況 (S=1/60)

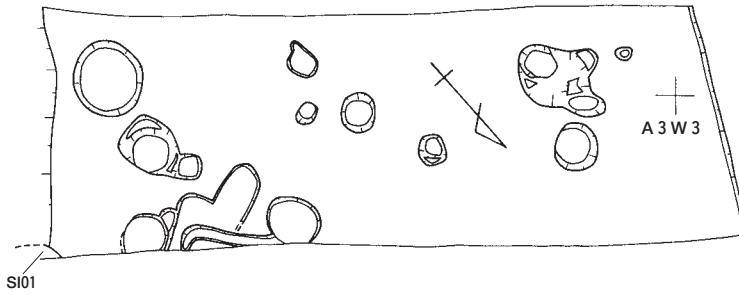


第75図 C・14-A区遺構実測図13 (S=1/30、1/60)



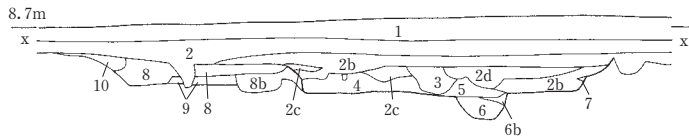
第76図 C・14-A区遺構実測図14 (S=1/60)

14-A 2区 SI03内上面検出遺構 (S=1/60)



14-A 2区 SI03

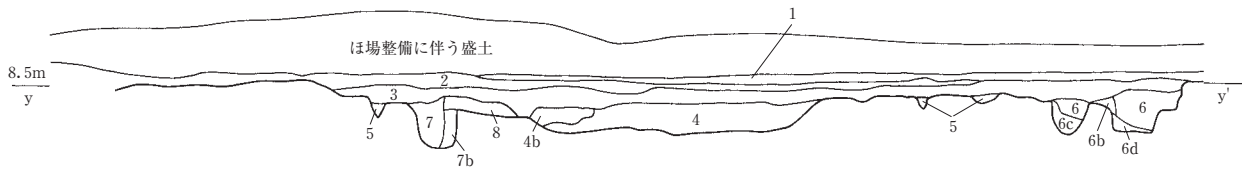
- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗褐色粘質土 (炭粒、ベースブロック少量混)
- 3 暗褐色粘質土 (ベースブロック多量混)



C 3区 SI02セクション

- 1 耕土 (灰粘)
- 2 灰褐粘質土 (黄粘土粒少し含)
- 2 b 灰褐粘質土 (黄粘土粒含)
- 2 c 灰褐粘質土 (黄粘土粒多く含)
- 2 d 灰褐粘質土 (黄粘土粒多く含、焼土粒含)
- 3 褐色粘質土 (黄粘土粒多く含、焼土粒多く含)
- 4 淡褐粘質土 (黄粘土粒多く含、焼土粒含)
- 5 黄色粘質土 (褐粘土粒含)
- 6 暗褐粘質土
- 6 b 暗褐粘質土 (黄粘土粒含)
- 7 黄粘土
- 8 褐色粘質土 (黄粘土粒含)
- 8 b 褐色粘質土 (黄粘土粒多く含、焼土粒含)
- 9 灰黄褐粘質土 (褐粘土粒含)
- 10 灰褐粘質土

C 3区 SI02床上土器出土状況 (S=1/30)



14-A 3区 杭から SI02北東壁面

- 1 灰褐色粘質土 (旧耕土)
- 2 褐色粘質土 (炭粒、ベース土ブロック少し混)
- 3 暗褐色粘質土 (炭粒、ベース土ブロック少し混)
- 4 a 褐色粘質土 (ベース土ブロック多く入る、しまり甘い)
- 4 b 褐色粘質土 (ベース土ブロック多く入る、焼土入る)
- 5 褐色粘質土 (木根痕か?)
- 6 a 暗褐色粘質土 (ベース土ブロック少し入る)
- 6 b 暗褐色粘質土
- 6 c 暗褐色粘質土 (ベース土ブロック多く入る)
- 6 d 暗褐色粘質土 (ベース土ブロック多量に入り、色黄味かかる)
- 7 a 灰褐色粘質土
- 7 b 灰褐色粘質土 (8層土ブロック入る)
- 8 黄褐色地山質土



14-A 3区 SI02 アゼ1 南セクション

- 1 暗褐色土 (地山土ブロック、暗褐色土ブロック多量に含む)
- 2 褐色土 (地山土ブロック、炭粒、焼土含む)
- 3 暗褐色土 (地山土ブロック、暗褐色土ブロック含む)
- 4 黒褐色土 (黒色土ブロック、地山土ブロック少量含む)
- 5 暗黄褐色粘質土
- 6 暗褐色土

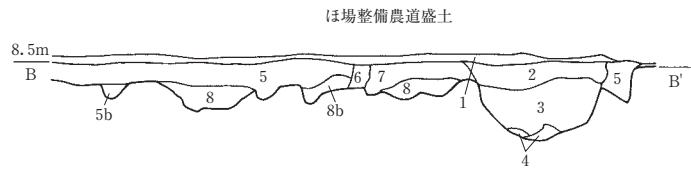


第77図 C・14-A区遺構実測図15 (S=1/30、1/60)



14-A3区 SI02 アゼ2 北セクション

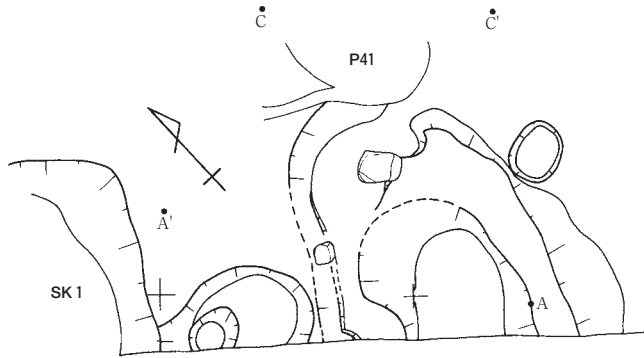
- 1 暗橙褐色土 (焼土多量に含む、土器多く含む)
- 2 暗褐色土 (地山土ブロック多く含む)
- 3 暗褐色土 (地山土ブロック、焼土含む)
- 4 3層に同じ (壁石をすえる時の土)
- 5 黄褐色土 (地山土ブロックをベースに暗褐色土混)



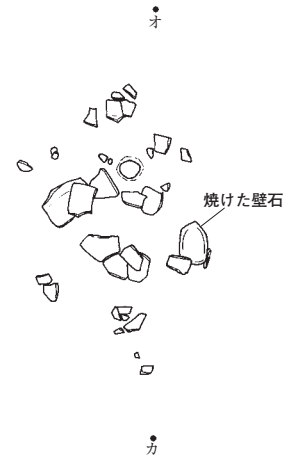
14-A3区 SK01・SI02 (カマド辺)

- 1 暗茶褐色粘質土 (旧耕土)
- 2 暗褐色粘質土 (しまる、ベース少量混)
- 3 暗褐色粘質土 (さらさら)
- 4 黄褐色粘質土 (ベースよりさらさら、粘性弱い、しまり弱い)
- 5a 褐色粘質土 (ベース土粒少し入る)
- 5b 褐色粘質土 (木根痕か?)
- 6 暗黄褐色粘質土 (焼土粒多く、炭粒少し入る)
- 7 褐色粘質土 (焼土粒少し、炭粒微量入る)
- 8a 褐色粘質土 (ベース土ブロック少し入る、しまり甘い)
- 8b 褐色粘質土 (ベース土ブロック少し入る、しまり甘い、焼土粒入る)

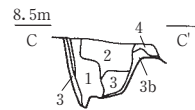
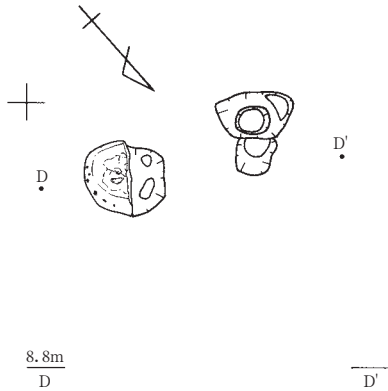
14-A3区 SI02カマド平面図 (S=1/30)



14-A3区 SI02カマド周辺土器出土状況 (S=1/30)



14-A3区 SI02金床石及び鍛冶炉平面図 (S=1/30)



A3区 P41

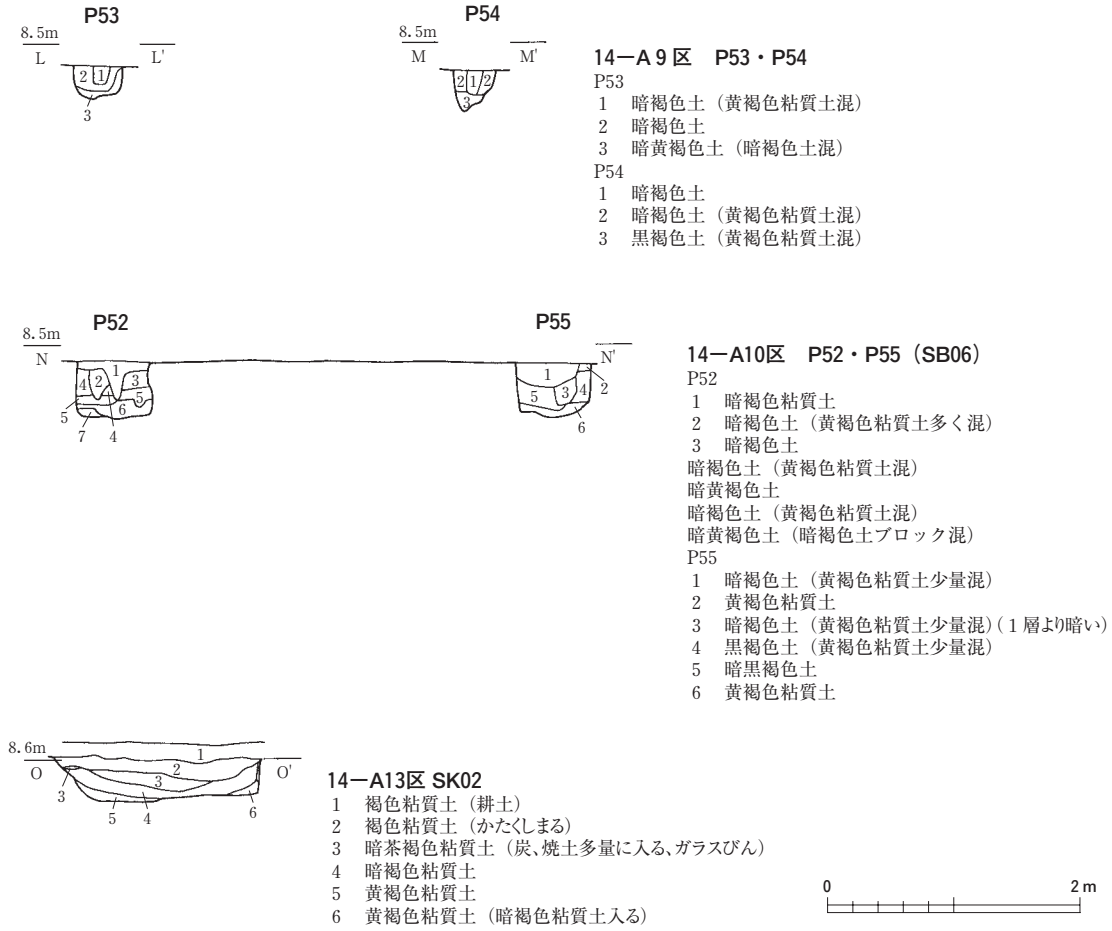
- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗褐色粘質土 (ベースブロック多量混)
- 3a 黄褐色粘質土 (暗褐色粘少量混)
- 3b 黄褐色粘質土 (暗褐色粘多量混)
- 4 暗褐色粘質土 (ベース少量混)

A3区 SI02金床石及びカジ炉断面図

- 1 青灰
- 2 赤



第78図 C・14-A区遺構実測図16 (S=1/30、1/60)



第80図 C・14-A区遺構実測図18 (S=1/60)

SK05 (第70図)

14-A11区で検出された。全体を検出できていないが、掘り方は北西-南東方向1.2m、南西-北東方向1.35m以上の平面長方形状になると思われる、検出面からの深さは22~34cmを測る。西辺でSK04に切り込まれている。

4. D区の遺構

SB01 (第82・87図、図版19)

D4~5区で検出されたが、全体を検出できていない。3間(3.98m)×1間(1.53m)以上の側柱建物と思われる、長軸方位N28°Eを指す。柱穴は径0.47~0.64m、検出面からの深さ32~58cmを測る。

SB02 (第82・87図、図版19)

D3~4区で検出されたが、全体を検出できていない。3間(4.43m)×1間(1.43m)以上の総柱建物と思われる、長軸方位N40°Eを指す。柱穴は径0.38~0.73m、検出面からの深さ23~52cmを測る。

SB03 (第81・87図)

D3区で検出された掘立柱建物跡。調査区が狭小なため、全体を検出できていないが、規模2間(2.23m)以上×1間(0.98m)以上で、長軸方位N37°Eを指す。柱穴は径0.35~0.53m、検出面からの深さ27~35cmを測る。

SB04 (第83・89図、図版20)

D7~8区で検出された掘立柱建物跡だが、全体を検出できていない。3間以上(5.23m)×1間(2.04m)以上の総柱建物と思われる。長軸方位N28°Eを指す。柱穴は径0.4~0.86m、検出面からの深さ18~32cmを測る。ほぼ同位置のSB08とは建て替えの関係にある。

SB05 (第82・88図、図版19)

D5~6区で検出された掘立柱建物跡。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。2間(3.25m)×1間(1.47m)以上の規模を持つ。長軸方位N84°Eを指す。柱穴は径0.6~0.8mで、壁際に位置するP15に至っては径1m程になると思われる。また、検出面からの深さは47~59cmを測る。

SB06 (第84・90図)

D8~9区で検出された掘立柱建物跡だが、全体を検出できていない。規模2間(4.02m)以上×1間(1.93m)以上で、長軸方位N33°Eを指す。柱穴は径0.59~0.98m、検出面からの深さ47~54cmを測る。

SB07 (第83・89図、図版20)

D6~7区調査区で検出された掘立柱建物跡。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。規模3間(5.57m)以上×2間(3.82m)以上の総柱建物と思われる。長軸方位はN27°Eを指す。柱穴は、北西壁際のP101を除けば径1.1~1.8mと大きく、検出面からの深さ30~76cmを測る。

SB08 (第83・89・90図)

D7~8区で検出された掘立柱建物跡。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。規模3間(4.2m)×2間(3.3m)以上の側柱建物と思われる。長軸方位はN31°Eを指す。柱穴は径50~83cm、検出面からの深さ32~52cmを測る。ほぼ同位置にあるSB04とは建て替えの関係にある。

SD01 (第82図)

D5区で検出された、北北東-南南西方向に延びる溝。幅0.19~0.24m、検出面からの深さ10cm弱を測る。SX01を切り込んでいる。

SD02 (第81図)

D3区で検出された、北北東-南南西方向に延びる溝。幅0.25~0.34m、検出面からの深さ16~21cmを測る。SK04・P26に切られている。

SK01 (第82図)

D5区で検出された土坑だが、北側のみの検出に留まった。径1.2m程度の平面円形もしくは楕円形プランの掘り方になるうか。検出面からの深さは約10cmを測る。

SK02 (第82・87図)

D5~6区で検出された。直径1.2m程度の不整円形で、検出面からの深さ67cmを測る。SK03・SK08とともに、柱間距離約2m、軸方位N22°Eを指す建物の柱列をなす可能性がある。

SK03 (第82・87図)

D5区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていないが、直径約1.2m、検出面からの深さ80cmを測る平面円形または楕円形のプランの掘り方と想定される。

SK04 (第82・87図)

D3区で検出された。SD02を切り込んでいる。直径1.1m程度の平面略円形を呈し、検出面からの深さは73～83cmを測る。

SK05 (第81・86図)

D1区で検出された。調査区が狭小なため、南東側のごく一部の検出にとどまった。北東－南西方向1.78m以上、南東－北西方向0.33m以上、検出面からの深さ33cmを測る土坑。

SK06 (第83・88図)

D7区で検出された。全体を検出できなかったが、直径1.8m程度の平面略円形の土坑と想定されようか。検出面からの深さは約40cmを測る。

SK07 (第83・88図)

D6区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。検出時には1辺3.1m、検出面からの深さ9～22cmの平面方形プランの竪穴ではないかとも考えたが、掘削を進めると、底面が相当凸凹していることがわかり、竪穴ではないと思われる。須恵器坏蓋・坏身、土師器皿・壺などが出土している。

SK08 (第82図)

D6区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。直径1.2m程度の平面略円形を呈すか。検出面からの深さは90cmを測る。SB05の柱穴P56に切り込まれる。

SK09 (第84・90図)

D9区で検出された。平面プランは1辺1.5～1.9mの平面隅丸方形を呈し、検出面からの深さは11～26cmを測る。

SK10 (第85・90図、図版20)

D11区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていないが、長径2.9m、短径2.2m程度の平面楕円形プランの掘り方を持つと思われる。検出面からの深さは30～44cmを測る。

P110 (第85・91図)

D12区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。直径3m程度、検出面からの深さ118cmの平面円形または楕円形の掘り方を持つと思われる。

SX01 (第82図)

D5区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。平面不整形で、検出面からの深さ9～15cmを測る浅い落ち込み。SD01に切られる。

SX02 (第81図)

D1区で検出された。平面不整形で、長径1.5m、短径1m程度、検出面からの深さ16～25cmを測る浅い落ち込み。

SX03 (第81・86図)

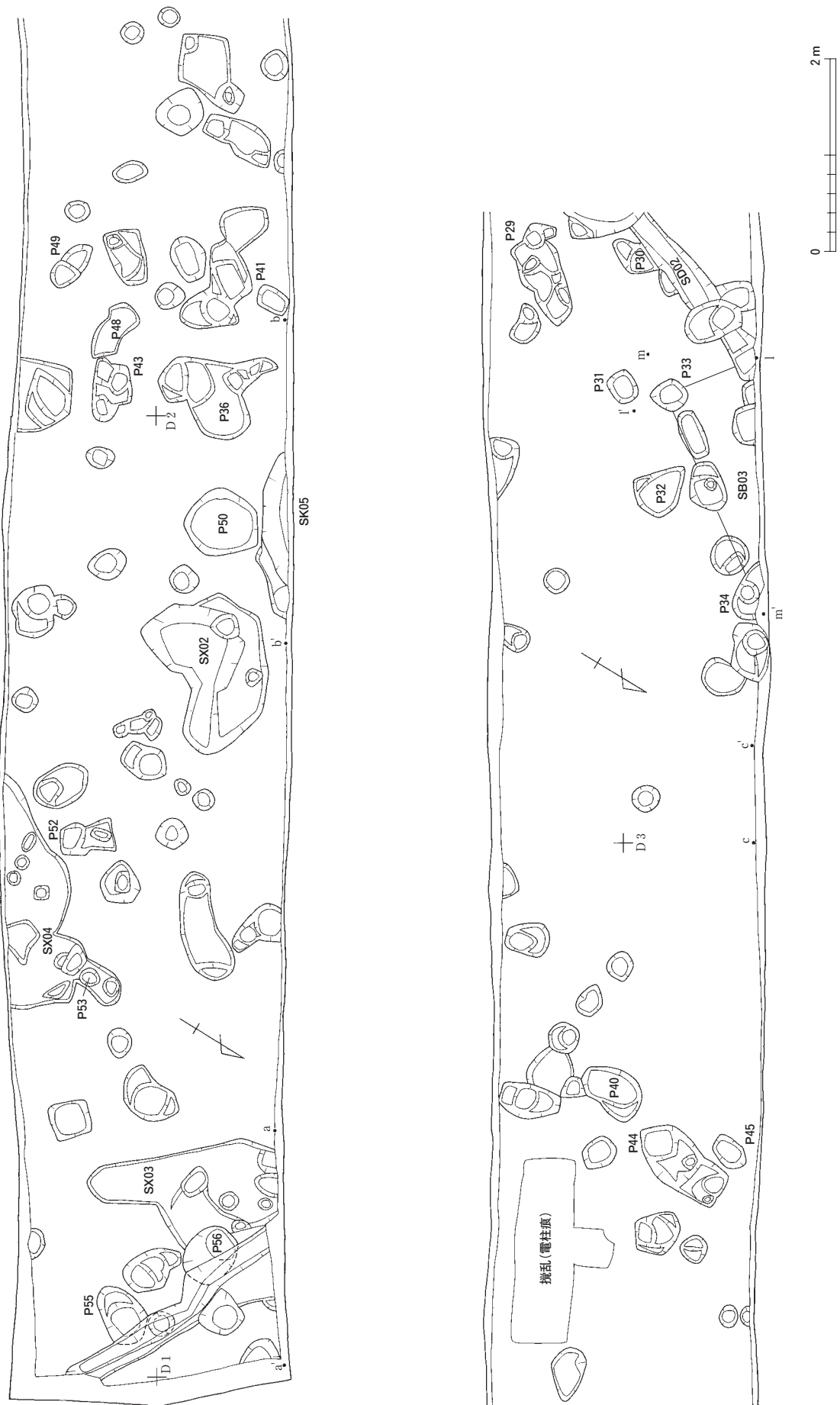
D1区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。平面不整形で、検出面からの深さ6～10cmを測る浅い落ち込み。未命名の溝状遺構やP56に切られている。

SX04 (第81図)

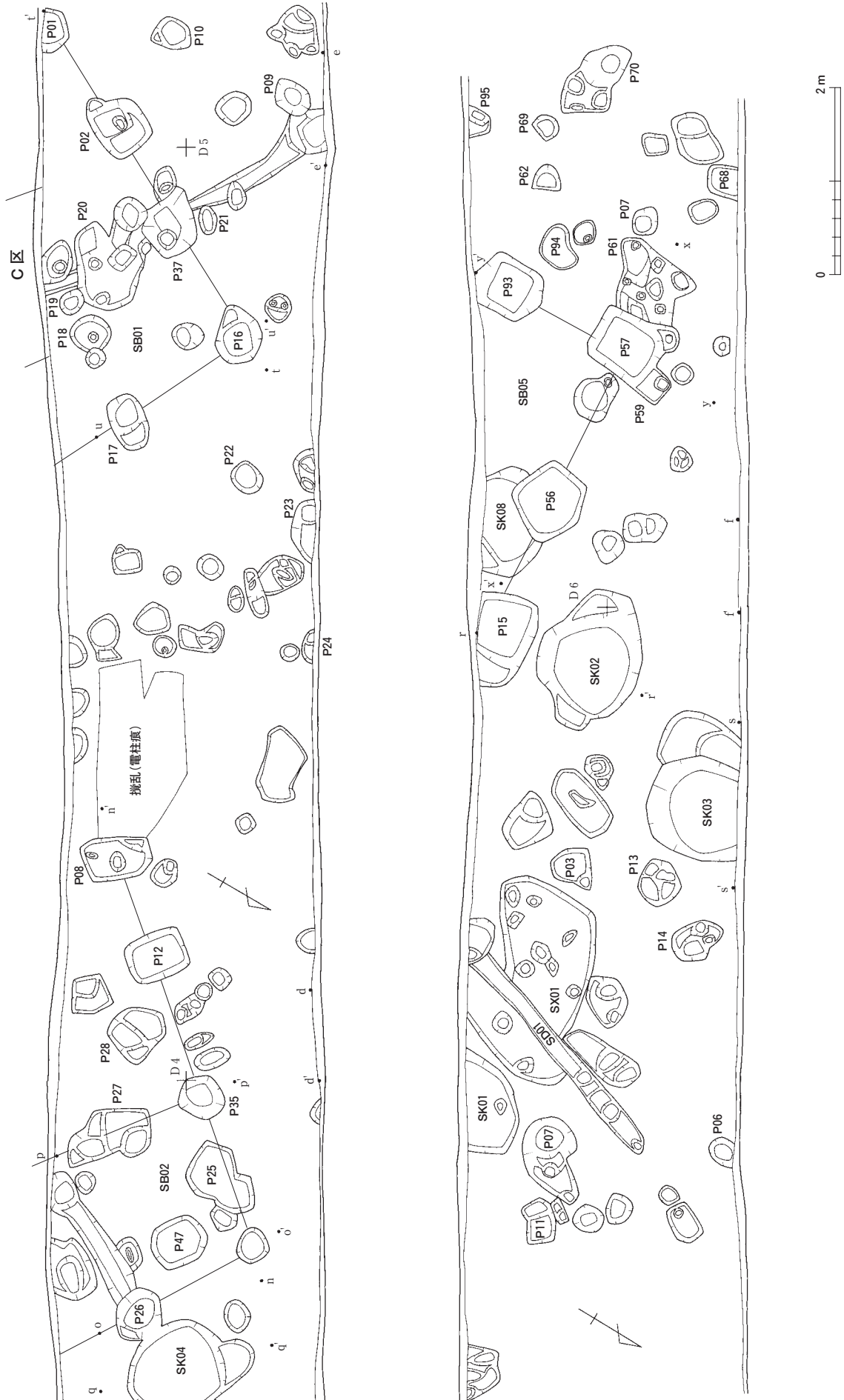
D1区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていない。平面不整形で、検出面からの深さ10～15cmを測る浅い落ち込み。

SX05 (第83・88図)

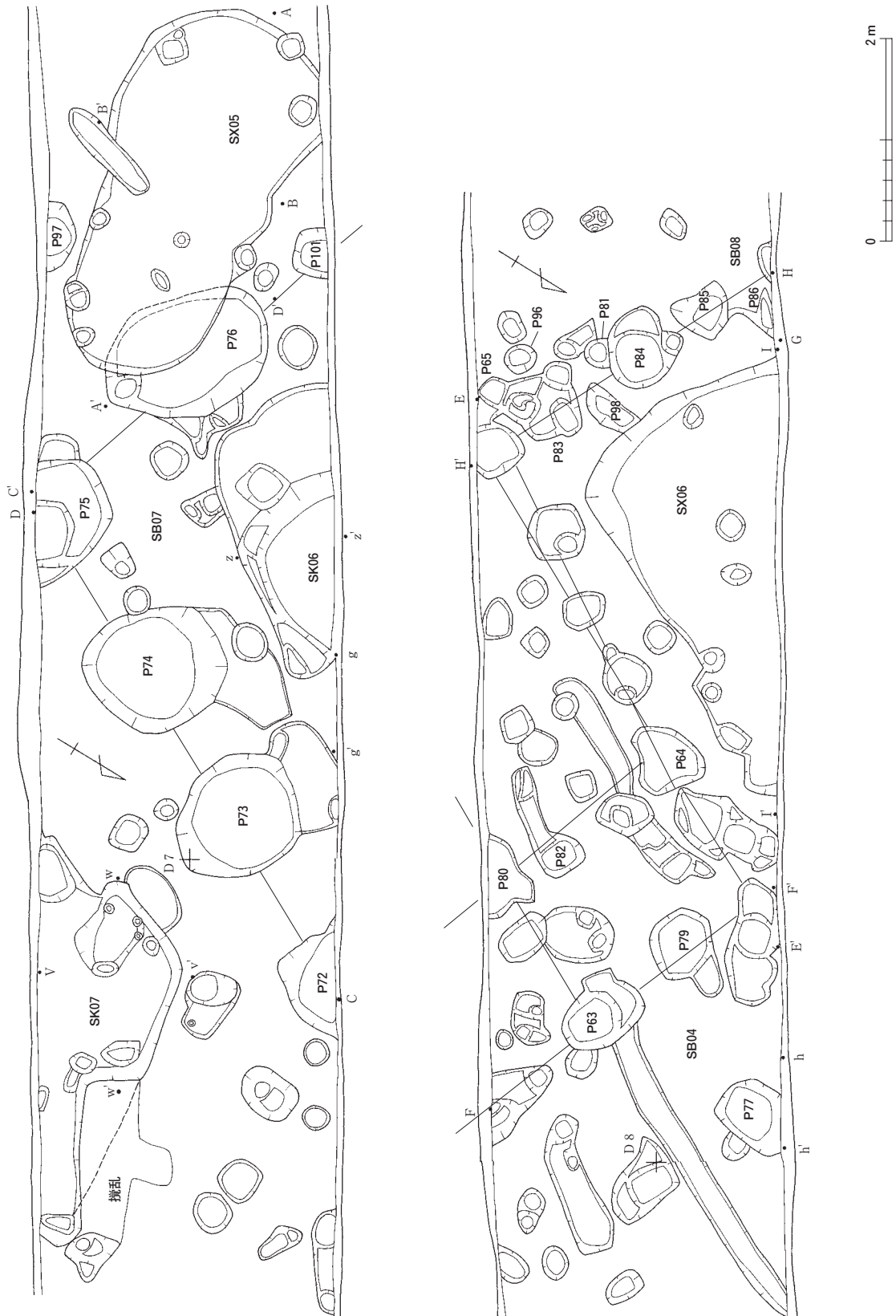
D7区で検出された。長径3.87m、短径1.55～1.83mの平面長楕円形を呈する落ち込み。検出面から



第81図 D区遺構実測図1 (S=1/60)

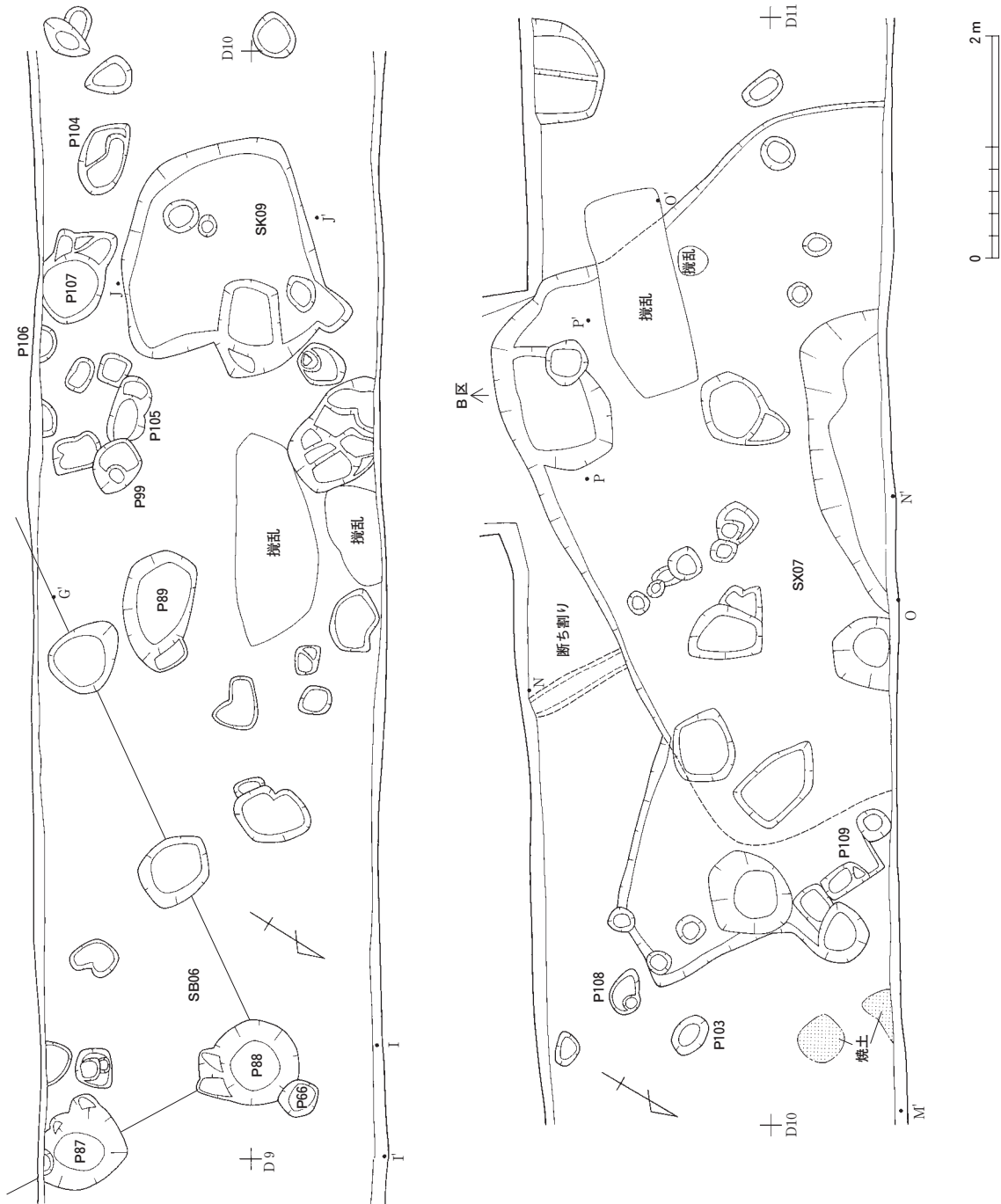


第82図 D区遺構実測図2 (S=1/60)



第83図 D区遺構実測図3 (S=1/60)

の深さは8～14cmで、掘立柱建物跡SB07の柱穴P76を切り込む。覆土は第1層土系を基本とし、一部に貼り付けたような第2層土が見られるが、覆土も安定せず複雑に混在している。また、底面もかなりの凸凹が見られることから、この遺構が一体の土坑であるとは考えにくい。



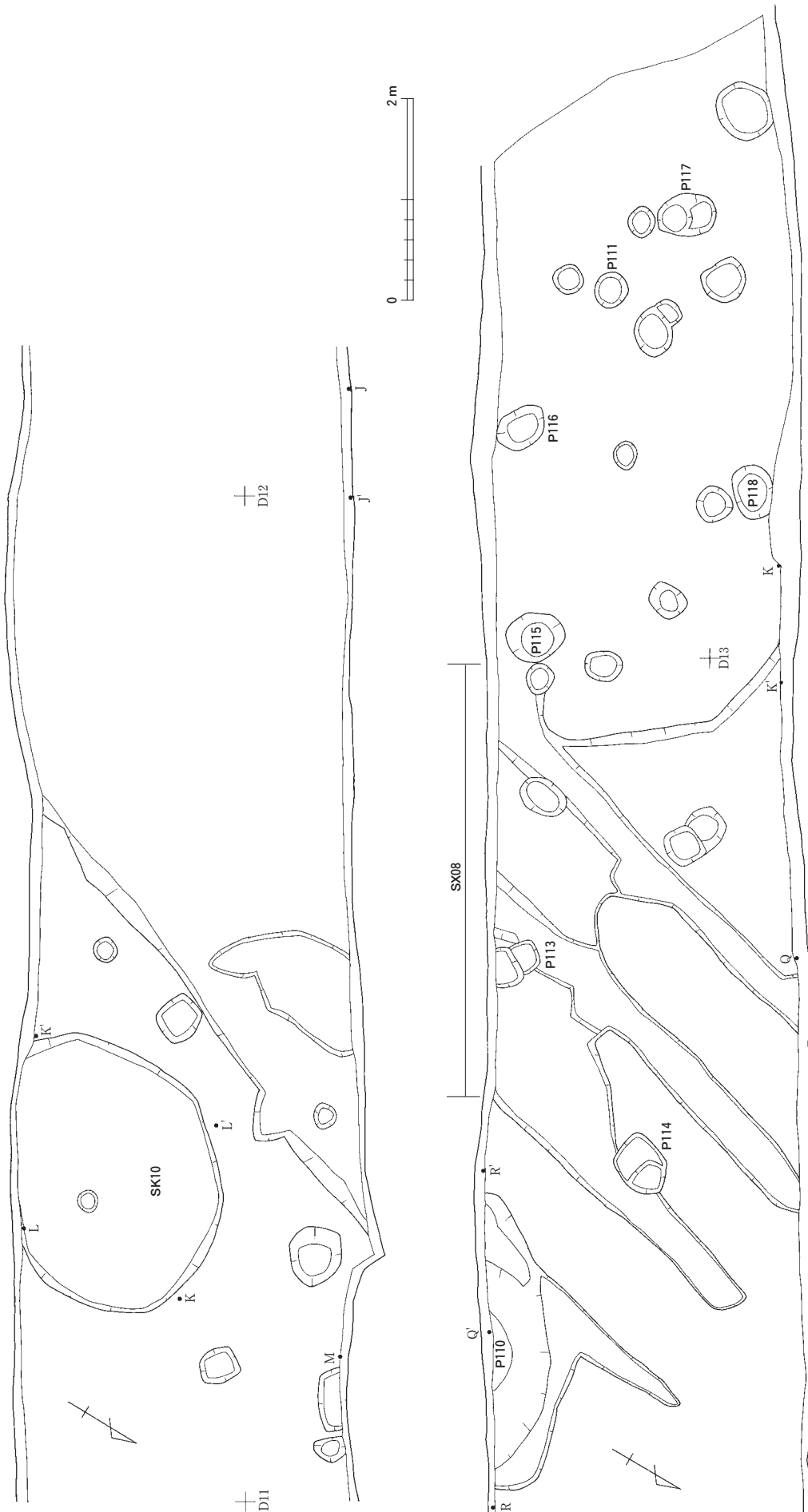
第84図 D区遺構実測図4 (S=1/60)

SX06 (第83・90図)

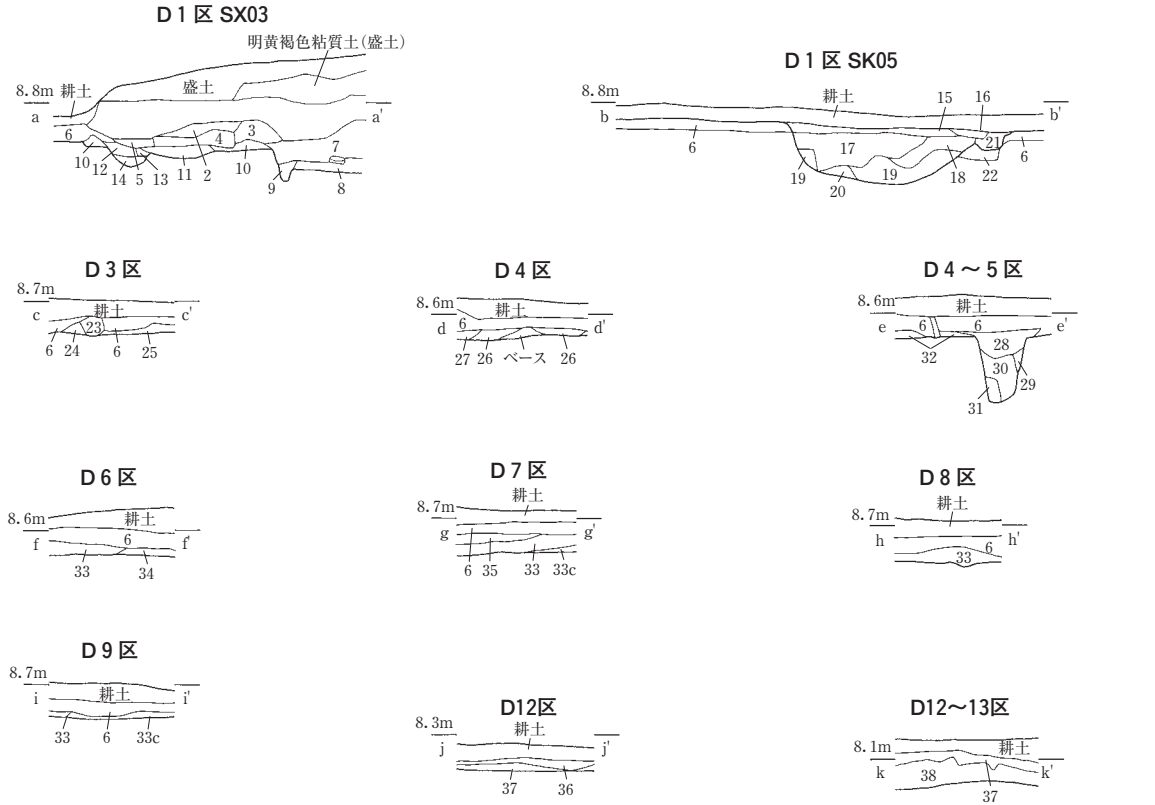
D8区で検出されたが、全体を検出できていない。検出面からの深さは6～13cmで、方形の竪穴住居跡として復元できる可能性がある。なお、底面において貼床・硬化面などの痕跡は確認できなかった。

SX07 (第84・91図、図版20)

D10区で検出された。調査区が狭小なため、全体を検出できていないが、1辺5.4m程度、検出面からの深さ8～13cmの平面方形プランの竪穴住居跡として復元できると見られる。底面において貼床



第85図 D区遺構実測図5 (S=1/60)



D区基本層序

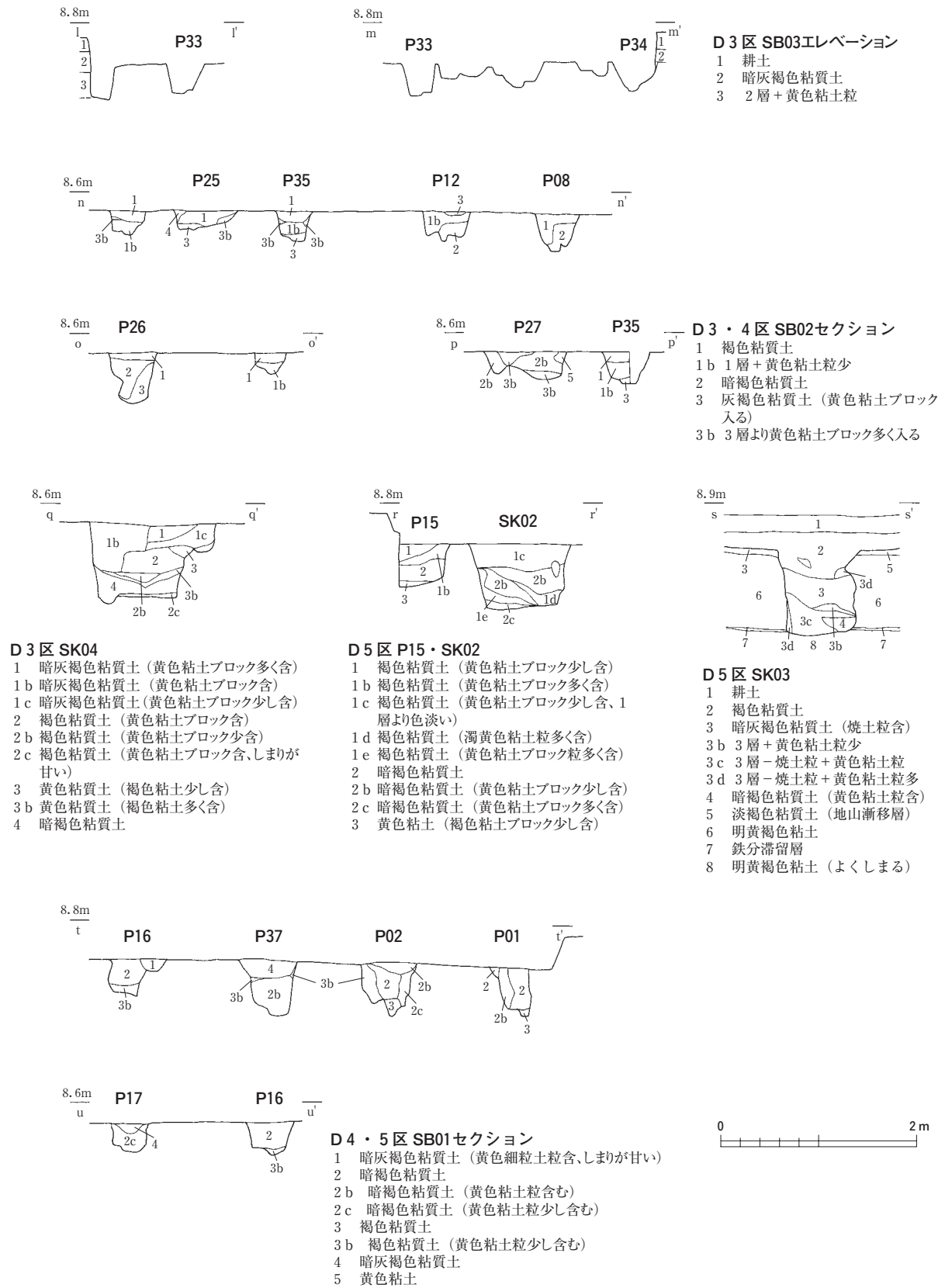
- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 22 21層土+地山土マーブル状 |
| 2 暗褐色土 | 23 暗褐色粘質土 |
| 3 黒褐色土 | 24 6層土+地山マーブル状 |
| 4 にぶい黄褐色土 (サラサラした質感、地山小ブロック混) | 25 暗褐色土 (サラサラとした質感) |
| 5 黒褐色弱粘 | 26 褐色粘質土 |
| 6 黒褐色粘質土 (地山ブロック少混) | 27 暗褐色弱粘質土 (地山ブロック少混) |
| 6b 黒褐色粘質土 (炭入る) | 28 黒褐色弱粘質土 (地山小ブロック少混) |
| 7 黒褐色粘質土 (地山小ブロック少混) | 29 黒褐色粘質土 (地山ブロック混) |
| 8 黒褐色粘質土 (地山ブロック混(やや多い)) | 30 黒褐色粘質土 |
| 9 黒褐色粘質土 (地山ブロック混、粘性やや強い) | 31 30層+地山小ブロック混 |
| 10 黒褐色土+地山土マーブル状 | 32 暗褐色弱粘質土 |
| 11 黒褐色土 (地山ブロック少混) | 33 黒褐色弱粘質土 (地山ブロック少し混じる) |
| 12 黒褐粘=SX03 | 33b 黒褐色弱粘質土 (地山ブロックやや多く混入、炭入る(少量)) |
| 13 12層+地山ブロック=SX03 | 33c 黒褐色弱粘質土 (地山ブロック多く混じる) |
| 14 黒褐粘=SX03 | 34 黒褐色粘質土 (地山ブロック少混) |
| 15 黒褐色土 (地山小ブロック少混) | 34b 黒褐色粘質土 (ブロック多混) |
| 16 黒褐色土 | 34c 黒褐色粘質土 (34層+炭) |
| 17 黒褐色粘質土 (地山ブロック混)=SK05 | 35 地山土+6層土 (マーブル状に混ざる) |
| 18 黒褐色粘質土=SK05 | 36 灰黄褐弱粘 (地山小ブロック混) |
| 19 黒褐色粘質土 (地山ブロック少混)=SK05 | 37 地山土+36層土 (マーブル状に混) |
| 20 黒褐色粘質土=SK05 | 38 黒褐色土 |
| 21 黒褐色粘質土 (径5mm程度の赤褐色土塊少混)=SK05 | ベース 暗褐色粘質土 |

第86図 D区遺構実測図6 (S=1/60)

・硬化面などの痕跡は確認できなかった。また、北東壁側のピットと中央やや南東寄りの地点で見られるピットは直径約0.3m、床面からの深さ50~68cmを測り、支柱穴になると思われる。7世紀初めの遺物が出土している。また、北東側に近接して焼土が検出されたが、堅穴との関係は明らかでない。

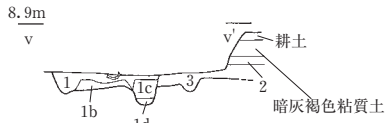
SX08 (第85・91図)

D12区の調査区南西端の方向へ緩やかに落ちて行く部分で検出されたが、全体を検出できていない。平面不整形で、複数の溝と落込みが繋がったような形を呈する。検出面からの深さ2~14cmを測る。



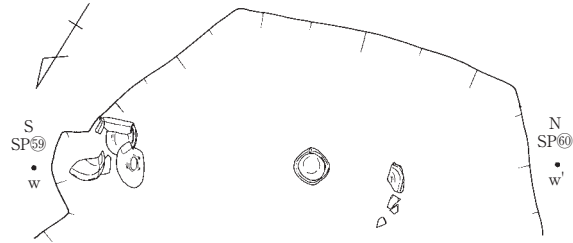
第87図 D区遺構実測図7 (S=1/60)

D 6 区 SK07土器出土状況 (S=1/30)



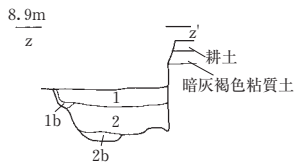
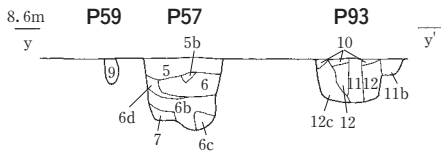
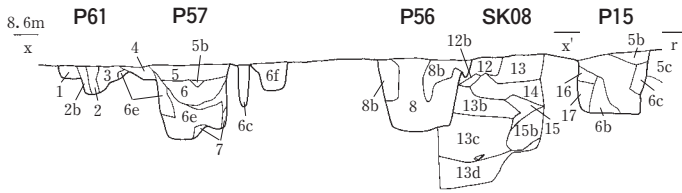
D 6 区 SK07

- 1 灰褐色粘質土
- 1b 1層+黄色粘土粒
- 1c 灰褐色粘質土 (土のしまりが甘くボソボソとした感じ)
- 1d 1層+黄色粘土粒多
- 2 灰褐色粘質土 (焼土粒含)
- 3 濁灰褐色粘質土 (灰色粘質土ブロック、黄色粘質土ブロック含)



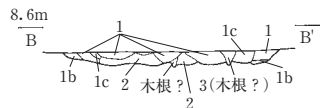
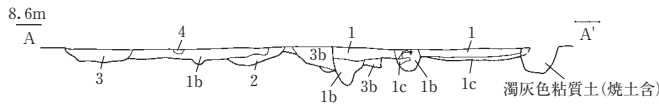
D 6 区 SB05セクション

- 1 暗褐色弱粘質土
- 2 灰褐色粘質土 (地山小ブロック混)
- 2b 2層に比して地山ブロックが多い
- 3 褐色粘質土
- 4 3層+地山ブロック
- 5 黒褐色弱粘質土 (地山ブロック少混)
- 5b 5層に比して地山ブロックが多い
- 5c 5層-地山ブロック
- 6 黒褐色粘質土 (地山ブロック混)
- 6b 6層に比して地山ブロック多い
- 6c 6層-地山ブロック
- 6d 黒褐色粘質土 (ややしまっている)
- 6e 6層に比べて混ざる地山ブロックが小さく、少ない
- 6f 6層に比べて地山ブロック少ない
- 7 地山+黒褐色粘質土 (マーブル状に混、あまりしまっていない)
- 8 黒褐色粘質土
- 8b 8層+地山ブロック多
- 9 暗褐色弱粘質土
- 10 黒褐色粘質土 (地山ブロック少混)
- 11 黒褐色粘質土
- 11b 11層+地山ブロック少
- 12 褐色粘質土 (地山ブロック多混)
- 12b 12層-地山ブロック
- 12c 12層より更に地山ブロックを多く含む
- 13 黒褐色粘質土 (地山ブロック混)
- 13b 黒褐色粘質土 (少ししまっている、地山ブロック少混)
- 13c 13b層+地山ブロック多混 (かなり多い)
- 13d 13b層+地山ブロック混
- 14 黒褐色粘質土 (地山ブロック混)
- 15 暗褐色粘質土 (あまりしまっていない、地山小ブロック混)
- 15b 15層+地山ブロック多混 (かなり多い)
- 16 灰褐色粘質土 (地山ブロックやや多混)
- 17 地山質土 (黒褐色粘質土少混)



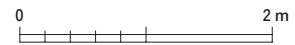
D 7 区 SK06

- 1 灰褐色粘質土
- 1b 1層+黄色粘土粒少
- 2 黒褐色粘質土
- 2b 2層+黄色粘土粒多

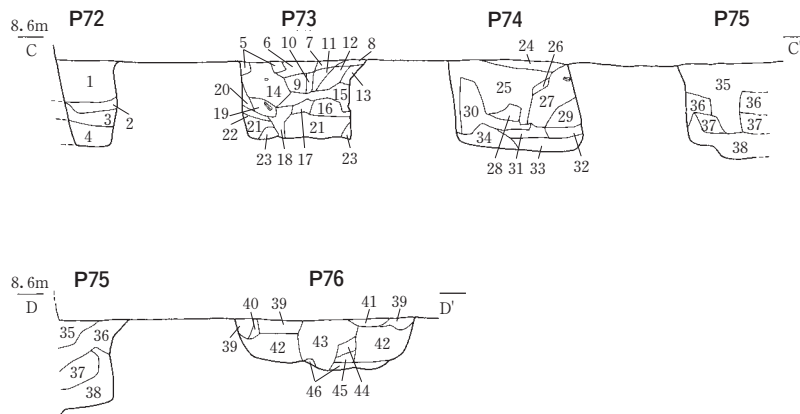


D 7 区 SX05

- 1 灰褐色粘質土
- 1b 1層+黄色粘土粒
- 1c 1層+黄色粘土粒多
- 2 灰白色粘質土 (褐色粘土ブロック含)
- 3 黒褐色粘質土
- 3b 3層+黄色粘土粒
- 4 黄色粘質土

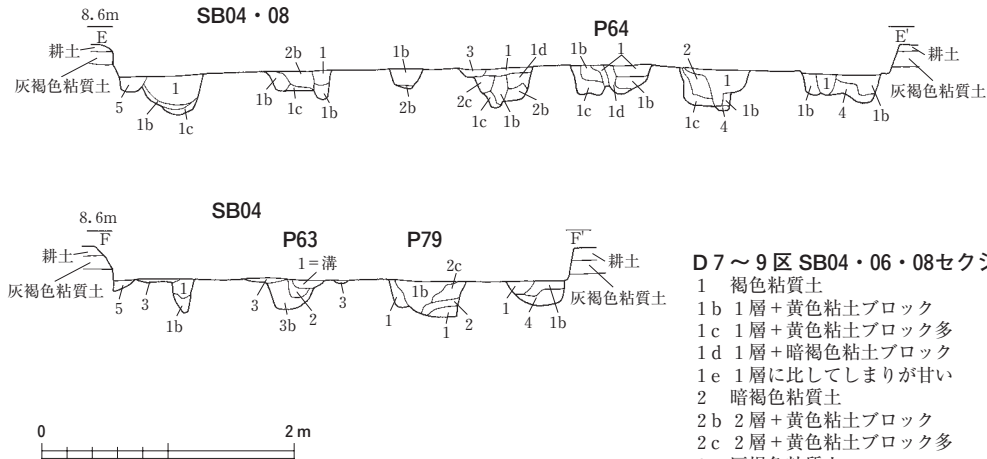


第88図 D 区遺構実測図 8 (S=1/30、1/60)



D6～7区 SB07

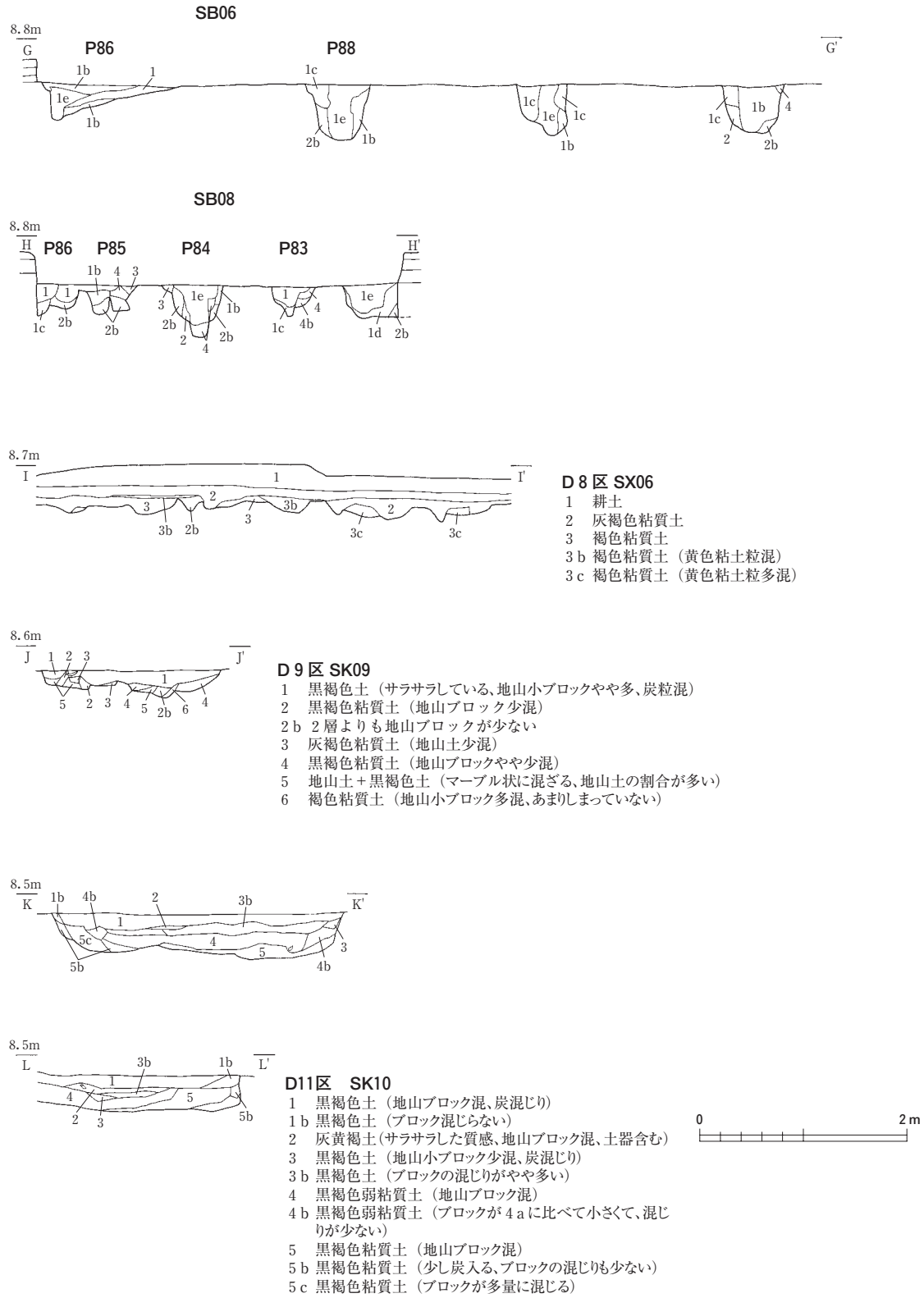
- | | |
|---|--|
| <p>1 黒褐色土 (地山小ブロック少混、土器入る)</p> <p>2 黒褐色粘質土 (地山ブロック混)</p> <p>3 黒褐色粘質土</p> <p>4 黒褐色粘質土 (地山ブロック混、あまりしまっていない(ややフカフカ))</p> <p>5 黒褐色土 (地山ブロック多混)</p> <p>6 黒褐色弱粘質土 (地山ブロック少混)</p> <p>7 黒褐色土 (サラサラした質感、地山小ブロック多混、炭少し入る)</p> <p>8 黒褐色土 (サラサラした質感、地山小ブロック少混)</p> <p>9 黒褐色粘質土 (地山ブロック多混)</p> <p>10 暗褐色粘質土 (地山小ブロック多混、炭少し入る)</p> <p>11 橙色粘質土 (暗褐粘小ブロック少混)</p> <p>12 黒褐色粘質土 (地山小ブロック少混)</p> <p>13 暗褐色粘質土 (地山ブロック混)</p> <p>14 黒褐色粘質土 (小石入る、地山ブロック少混、ややしまり気味)</p> <p>15 黒褐色粘質土 (地山小ブロック若干混、炭少し入る、ややしまる)</p> <p>16 黒褐色粘質土 (地山ブロック多混 (相当量))</p> <p>17 黒褐色粘質土 (地山小ブロック若干混)</p> <p>18 黒褐色粘質土 (地山小ブロック少混)</p> <p>19 明褐色粘質土 (土器入る、黒褐粘若干入る)</p> <p>20 黒褐色粘質土 (地山小ブロック混)</p> <p>21 黒褐色粘質土 (あまりしまっていない(ややフカフカ)、地山小ブロック多混)</p> <p>22 黒褐色粘質土 (あまりしまっていない)</p> <p>23 21層に比べて地山ブロックの混じり具合が少ない、またブロックもやや小さい</p> <p>24 黒褐色土 (サラサラした質感、にぶい褐色粘質土ブロック少混)</p> | <p>25 黒褐色粘質土 (地山小ブロック混、炭少し入る)</p> <p>26 黒褐色粘質土 (地山ブロック多混、炭少し入る)</p> <p>27 黒褐色粘質土 (地山小ブロック混、土器入る)</p> <p>28 黒褐色粘質土 (地山小ブロック混)</p> <p>29 黒褐色粘質土 (地山小ブロック少混)</p> <p>30 黒褐色粘質土 (地山小ブロック混)-30～32層他に比べてやや粘性強い</p> <p>31 黒色粘質土 (地山小ブロック混)</p> <p>32 黒色粘質土 (地山小ブロック混 (31層に比べると少なめ))</p> <p>33 地山土+縦状に黒褐色粘質土 (あまりしまっていない)</p> <p>34 黒褐色粘質土 (地山ブロック多混、あまりしまっていない(ややフカフカ))</p> <p>35 黒褐色土 (地山小ブロック混、炭入る) →柱痕?</p> <p>36 黒褐色粘質土 (地山小ブロック少混、炭少し入る)</p> <p>37 黒褐色粘質土 (地山小ブロック若干混)</p> <p>38 黒褐色粘質土 (地山土ブロック多混、あまりしまっていない(ややフカフカ))</p> <p>39 黒褐色土 (ややサラサラした質感)</p> <p>40 黒褐色土 (地山小ブロック多混)</p> <p>41 極暗褐色土 (ややサラサラした質感、地山小ブロック少混)</p> <p>42 黒褐色粘質土 (地山小ブロック少混、炭少、赤褐色土の粒(径2～10mm程度)若干入る)</p> <p>43 黒褐色弱粘質土 (地山ブロック若干混、炭少) →柱痕?</p> <p>44 黒褐色弱粘質土 →柱痕?</p> <p>45 黒褐色弱粘質土 (地山小ブロック混) →柱痕?</p> <p>46 黒褐色粘質土 (地山ブロック混、あまりしまっていない)</p> <p>ベース 明褐色粘質土</p> |
|---|--|



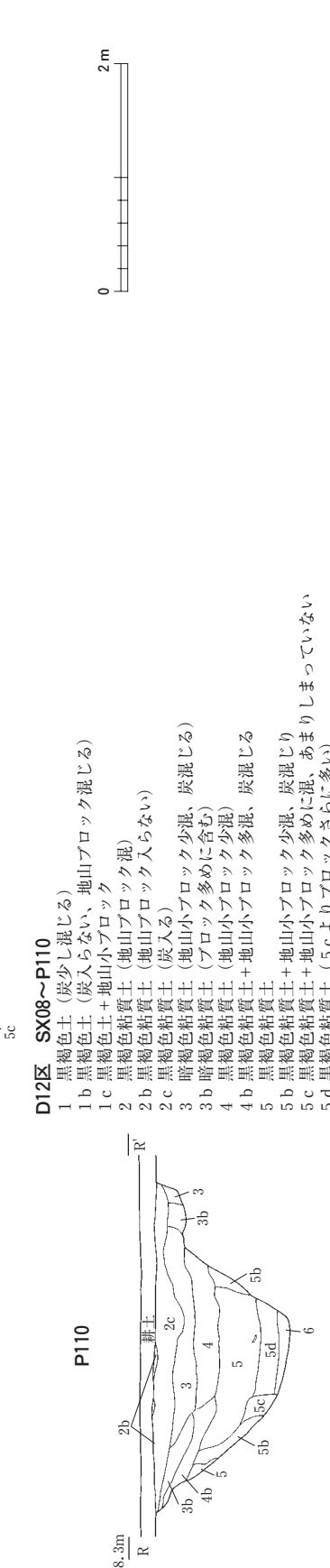
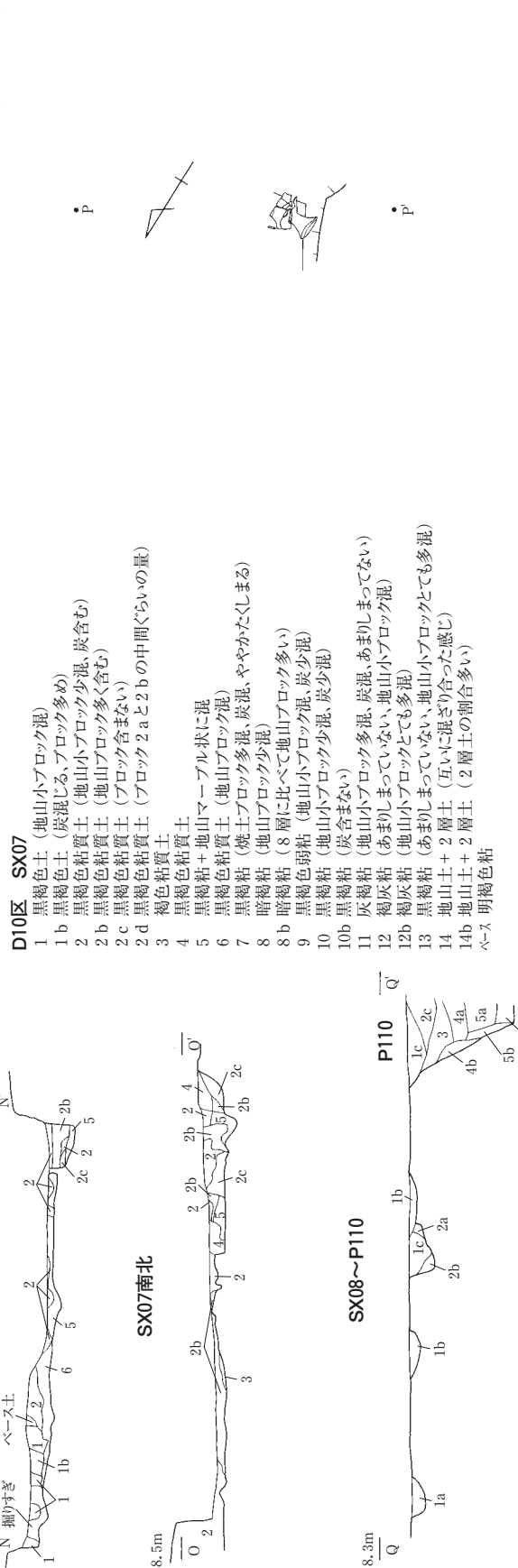
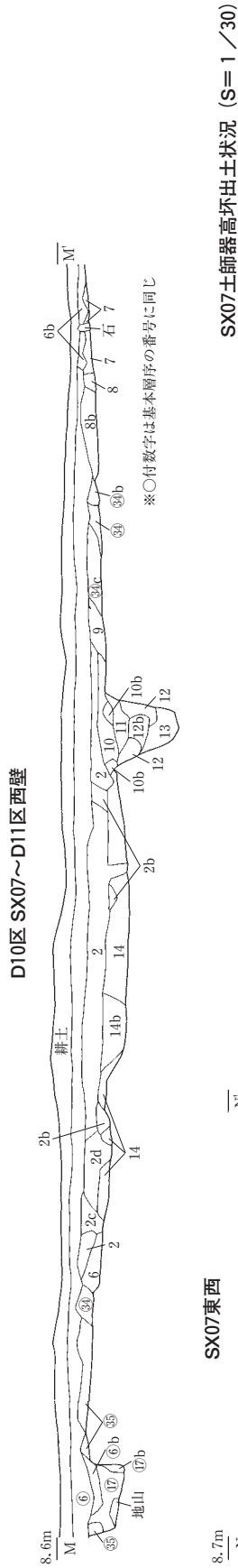
D7～9区 SB04・06・08セクション

- 1 褐色粘質土
- 1b 1層+黄色粘土ブロック
- 1c 1層+黄色粘土ブロック多
- 1d 1層+暗褐色粘土ブロック
- 1e 1層に比してしまりが甘い
- 2 暗褐色粘質土
- 2b 2層+黄色粘土ブロック
- 2c 2層+黄色粘土ブロック多
- 3 灰褐色粘質土
- 4 黄色粘質土 (褐色粘土ブロック含)
- 4b 4層+褐色粘土ブロック多
- 5 褐色粘質土 (しまりがなくボソボソ、黄色粘土ブロック含む)

第89図 D区遺構実測図9 (S=1/60)



第90図 D区遺構実測図10 (S=1/60)



第91図 D区遺構実測図11 (S=1/30、1/60)

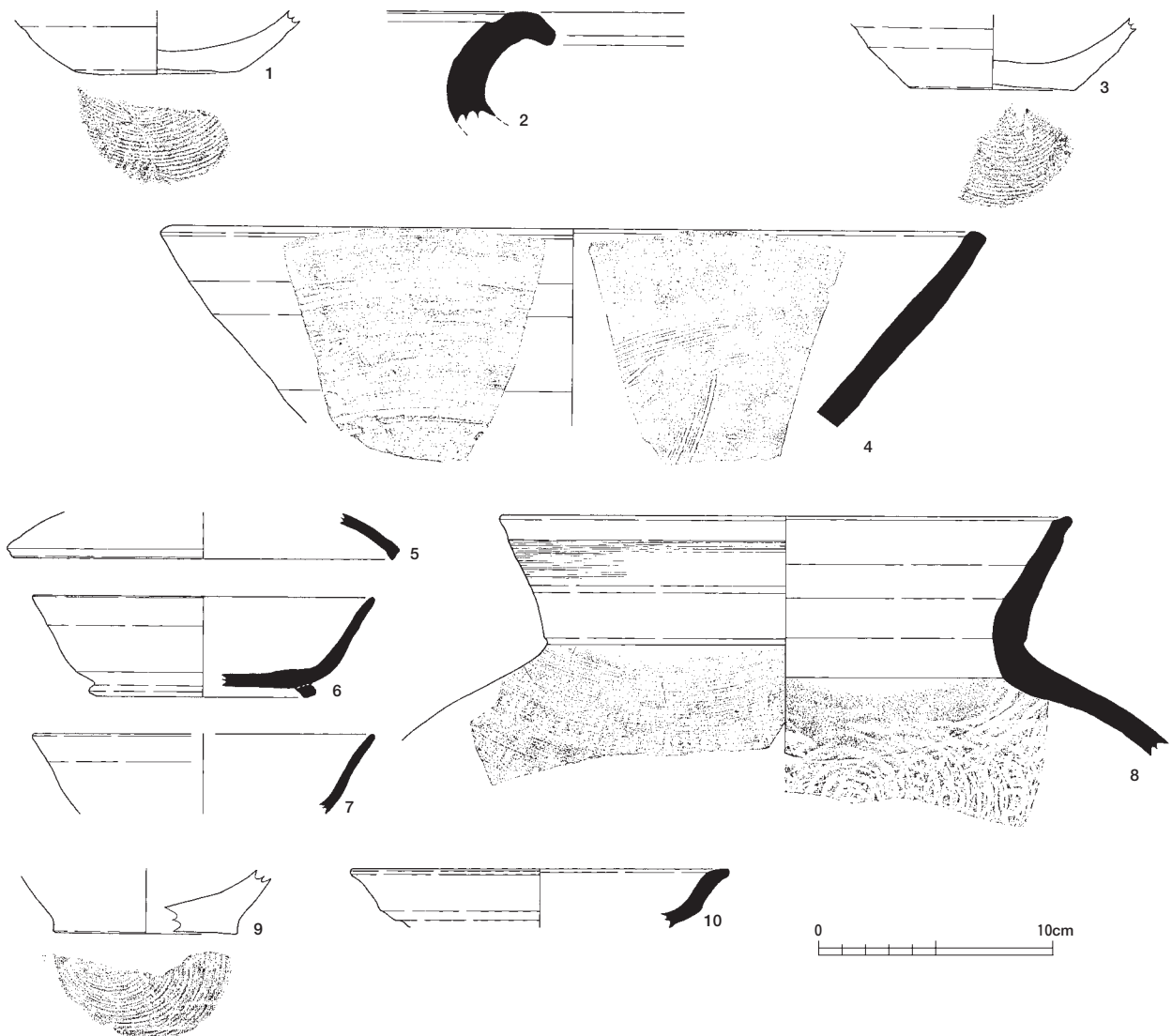
第3節 遺物

1. A 区 (第92図)

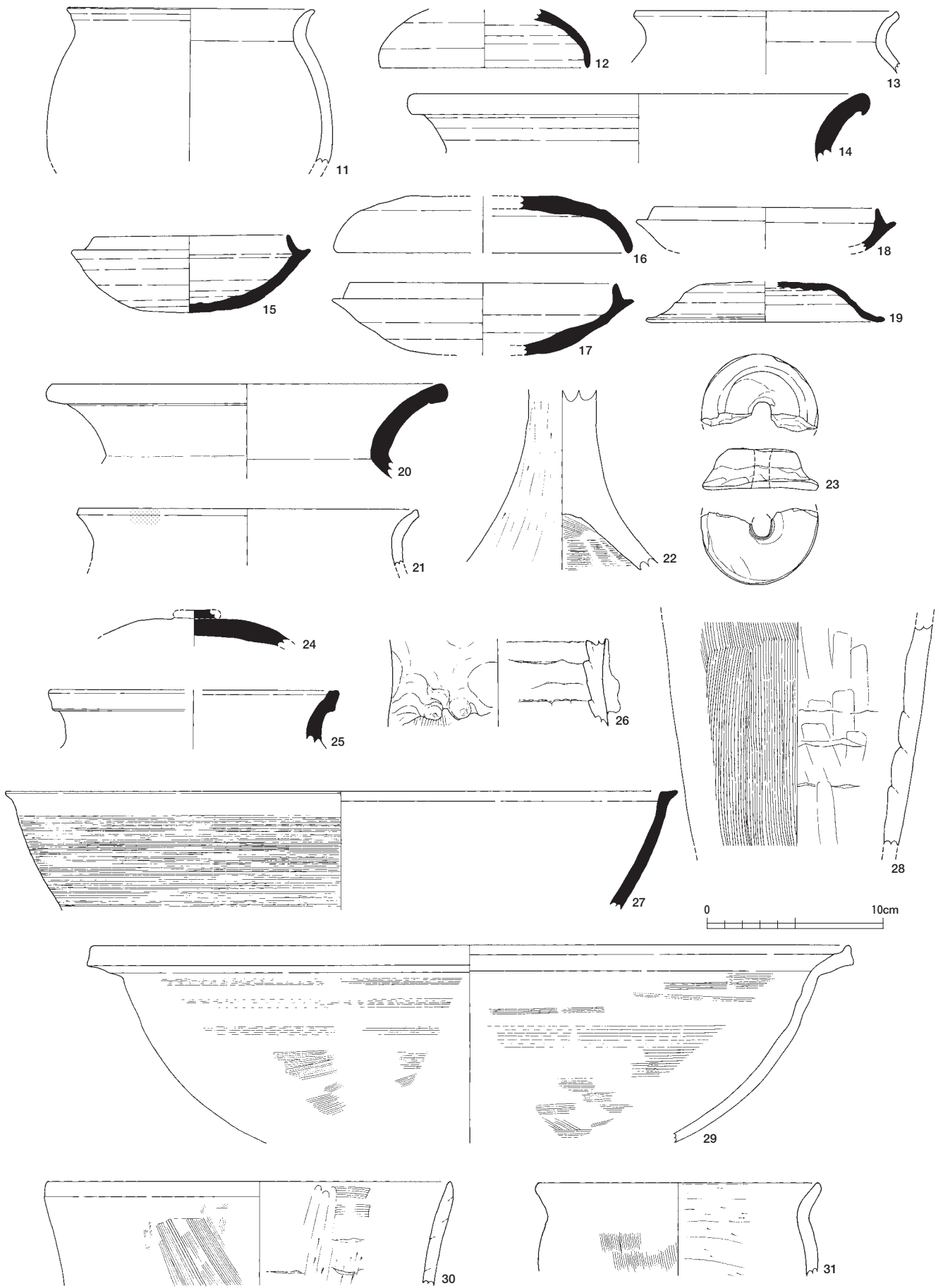
SK01出土の土師器壺1、珠洲焼甕2およびSX01出土の土師器壺3は12世紀後半代のもの。SX02出土の加賀焼すり鉢4は13世紀代に、P1出土の9は12世紀後半代に位置付けられる。5～8はSX05出土である。6は口径14.3cm、器高4.3cmの坏B身であり古代Ⅲ期（第3・4節の編年は田嶋明人1988「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会に依拠した。）に位置付けられる。

2. B 区 (第93図)

SK01出土の12は口径11.6cmの古代Ⅰ期の坏H蓋。SK02出土の15は、口径10.9cmを測る古代Ⅰ期の坏H身であり、林窯跡群産とみてよからう。16～23はSD01出土である。16は口径16.3cmの偏平な器形をなす坏H身であり、17は口径15.0cm、外面はヘラ切り後不調整である。古代Ⅰ期のものであ



第92図 A区出土遺物 (S=1/3)



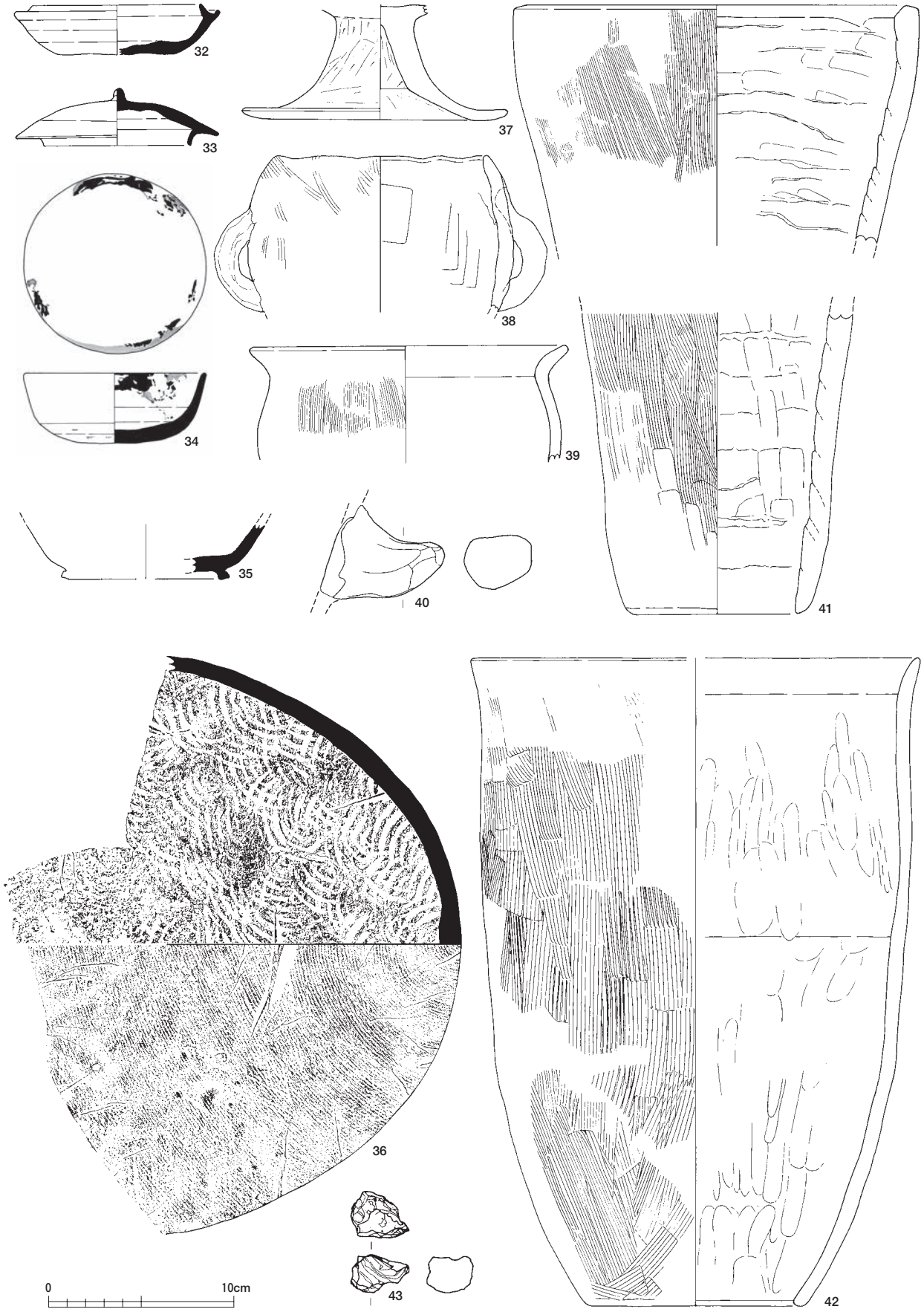
第93図 B区出土遺物 (S=1/3)

る。19の蓋は口径12.8cm、器厚は0.3～0.4cmと薄く、断面赤褐色の精緻な胎土をもつ。搬入品とみられる。20は口径42.4cm、頸部から折れて体部となるが、この屈折点以下の体部内面がよく摩耗している。22は中実の大型高坏脚部である。外面は縦位のケズリにより仕上げる。23は須恵質の紡錘車である。SD01覆土とその上の耕作土間から出土しており他よりもたらされた可能性がある。台形を呈し、底部直径6.6cm、頂部直径3.4cm、高さ2.3cm、半欠しており重量51.5g、完形であれば100gほどであろう。底面は平坦に、側面は凹みを持ち、緩やかに頂部となる。中央に直径1.1cmの孔を穿つ。この孔部分を含め表面に顕著な摩耗は認められない。SD01は古代Ⅰ期の遺構とみてよからう。

24はSX01出土であり、有蓋高坏の蓋とみられる。26はP47出土の羽口である。内面は輪積みのままであり、外面はハケメ調整する。直径は復元で12.0cmである。外面には溶解したガラス質の滓が付着し、内・断面は還元し淡紫～淡灰白色を呈する。当初は土師器転用羽口とみたが該当する器種は見あたらず、専用品として製作したものと考えたい。27は口径38.0cmを測る鉢。P19出土の28は器厚1cm前後と厚く、内面に輪積み痕を残し、外面には縦位にハケ調整を加える。焼成は甘く、内壁約0.2cmは淡橙色、ほかは淡黄橙色を呈する。40と同じくカマドに伴う円筒形土器とみたい。砂粒の含みが少なく軽量の胎土や色調は93と酷似する。29～31は農道拡張区出土である。農道拡張区は、使用中の農道にかかり当初調査対象から外していた箇所であるが、B5区端で直径約50cmの被熱面が検出されたことから拡張した箇所である。29は口径42.4cmを測る鍋であり、外面及び内面上半をカキメ調整し、外面下半は手持ちケズリを加える。奈良時代以降の所産である。

3. C 区 (第94・95図)

32～42はSI01出土であり、そのうち32、33、37～39、42はカマド焚口部の被熱床面にのった状態で出土したもので、本遺構の年代を示唆する遺物である。32の坏H身は口径9.0cmを測り、最終段階で小径化した中でも特に小型の部類である。33の坏G蓋は口径7.8cm、つば部は水平に長く伸び、薄いかえり高0.7cm、直径0.7cmの小型乳頭状つまみをもつ。34は焚口からL字に曲がって伸びる煙道部壁に口縁部を接した状態で出土した。口径9.3cm、器高3.7cmを測る。端正な形をなし、底部外面をていねいにロクロヘラケズリする。口縁部内面と外面の一部には褐色の漆状物が付着する。以上の須恵器については古代Ⅰ期としてよからう。37は焚口前の被熱部上で42、38とともに出土した(第94図)。裾の大きく開く底脚高坏である。38は丸い体部、内湾する口縁部をもつ把手付鉢である。口縁は水平をなさず凸凹し雑な作りの印象を受ける。内面はナデで仕上げる。外面はハケメ調整するが被熱によるものか淡赤褐色を呈し、把手部分を含め器表がぼろぼろと剥離している。35、40、43は床から10～50cm上がった遺構覆土からの出土である。36の横瓶は端部に円形の重ね焼き痕が残り、内部の釉溜まりからも横立し焼成したことがうかがえる。39は口径16.4cmの小型の甕である。40はC2区で床面より15cm浮いた覆土中出土の円筒型土器であり、上下端部分が遺存している。上端は上面及び内面に0.8～0.9cm幅の面を取り、下端は先細りさせ端部を丸く収める。内面は輪積み痕を残したままナデ仕上げし、外面は縦位にカキメを加える。上半の色調は内面暗桃色、外面淡黄橙色。下半は上半より堅緻であり、強く被熱した印象を受ける。上半の内外色変化が漸移的なのに対し、下半は器肉中程で内面淡赤褐色、外面淡褐～淡灰色と二分される。ただ、先細りする下端から約3cmの範囲は淡黄橙色を呈し、特に外面は上半と同じくやや甘い焼成である。円筒型土器について、その用途はカマドにともなう煙道・煙突などの排煙施設の部材との考えがあるが、本品についても、形状や被熱状況からみて排煙部材の可能性を考えるものであり、下半の先細り部分を何かに差し込んで使用したことを推測したい。本品について、単体であったか、さらに延長したかは判断しがたいが、上端部の内傾する



第94図 C区出土遺物1 (SI01、S=1/3)

幅広の面取りについて、さらに上に円筒を継ぎ足す際に有効ではなかいかと考える。42の甑は焚口内外から出土したものが接合した。上下で直接接合する部位はないが口径24.0cm、器高34.7cmと推測する。堅緻な焼成で、器厚は0.6cmと薄い。

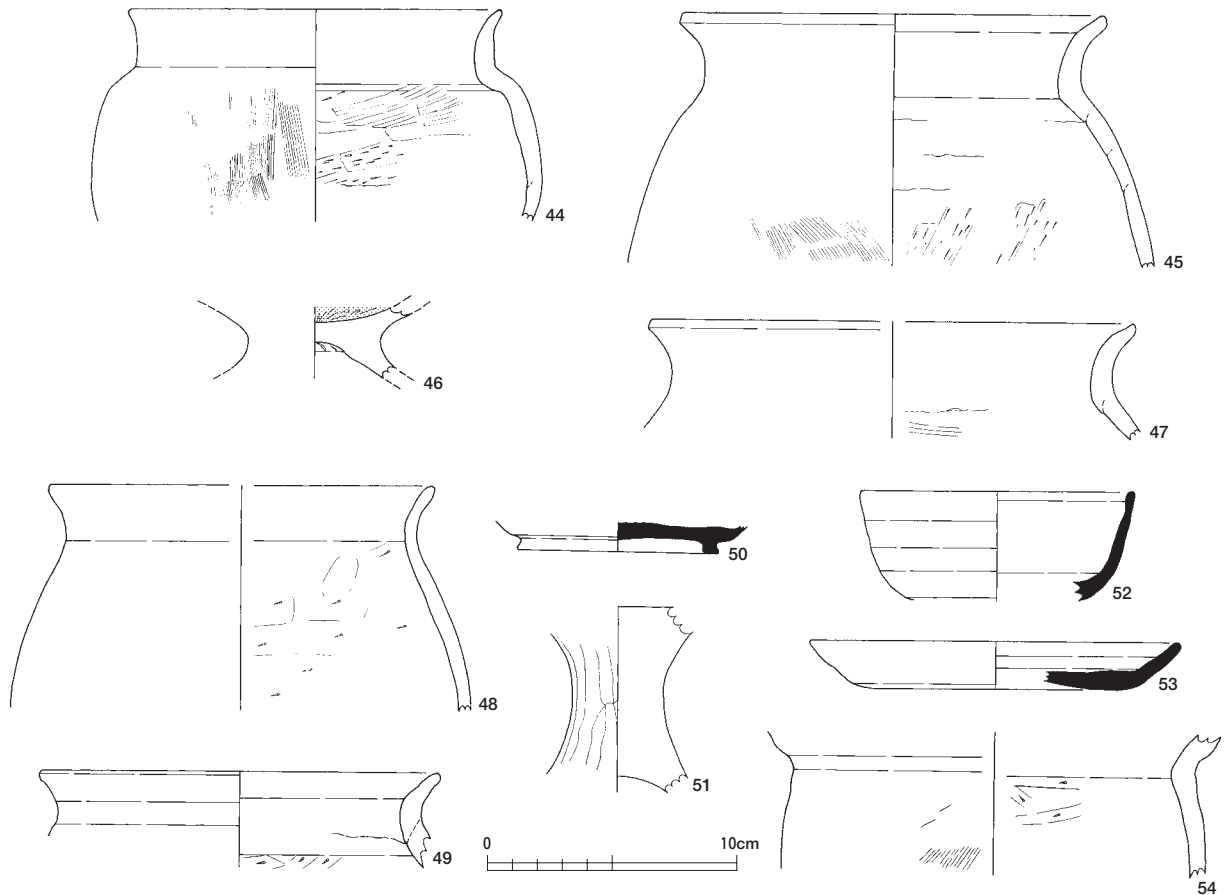
44は口径14.6cm、45は口径16.5cm、ともにSI02内の貼り床直上出土の土師器甕である。ともにくびれ、やや伸張する頸部を持つ。P13出土の46は、内面黒色処理の底脚高坏である。

4. 平成14年度調査 A 区 (第95図)

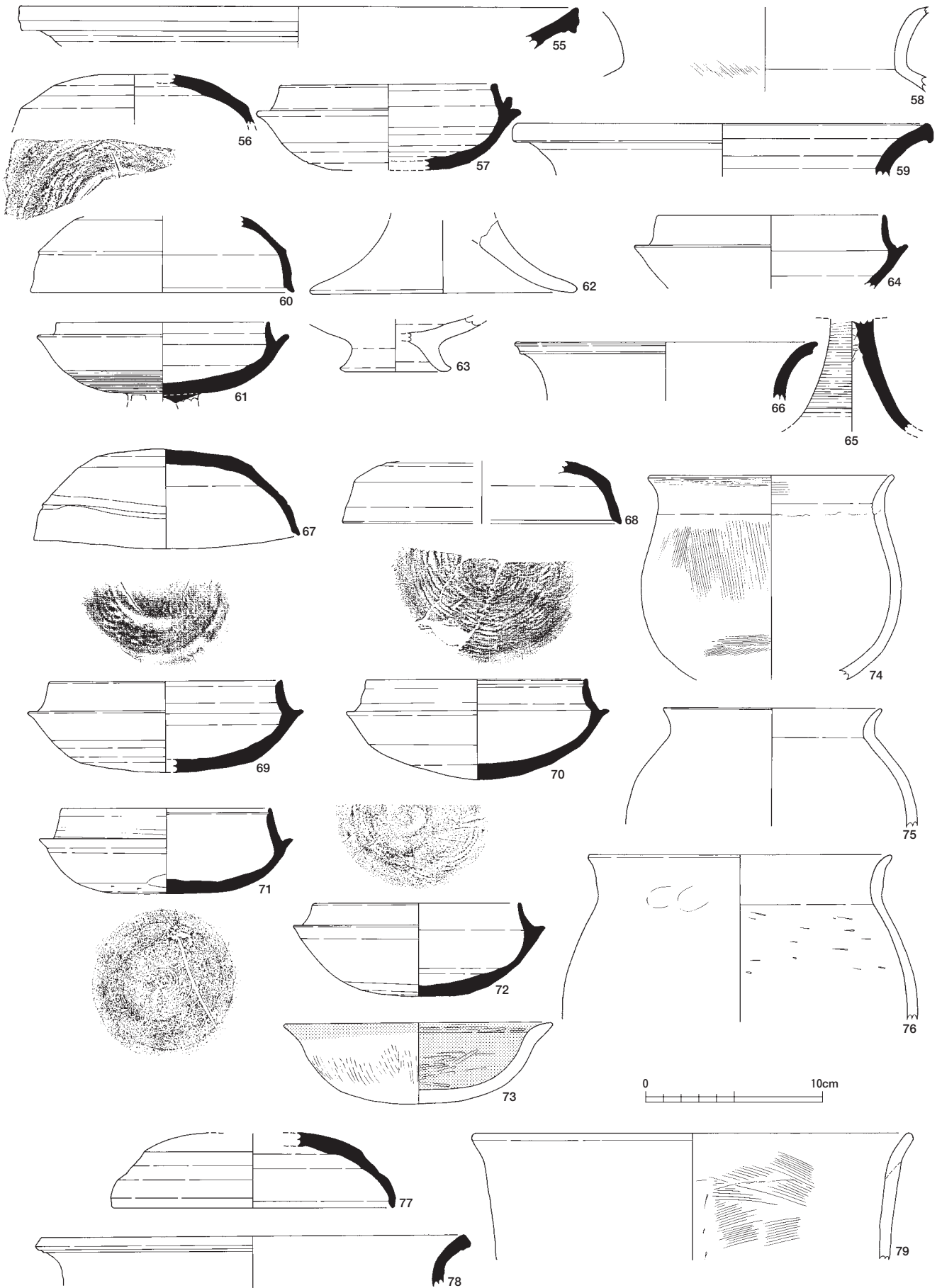
48~54は平成14年度調査 A 区出土の遺物である。51は中実の高坏脚部で、外面ケズリにより仕上げ、坏部は黒色化しミガキを加える。52の坏 G 身は口径10.8cm、端正な器形をなし、底部はヘラケズりする。53の皿は口径14.8cm、器高1.9cm、古代V₂期に位置付けられる。

5. D 区 (第96・97図)

56~59はSK03出土である。57は口径12.0cm、丸身を帯びた底部を持ち器高4.8cm、端部を丸く収める立ち上がり高は1.5cmを測る。古墳時代第4様式Ⅱ₁期のもの。60~63はSK04出土である。60は肩部弱く段をなし、段をなす口唇部には浅い沈線を加える。同Ⅱ₁期のもの。61は口径11.8cmの有蓋高坏である。三方透かしを持ち坏底部外面にはカキメを加える。同Ⅱ₁期に下る可能性がある。62の高坏脚裾部は大きくなめらかに開く。63は高い脚部を持つ土師器碗である。64~66はSK06出土のもの。64は口径12.6cm、立ち上がり高2.1cmを測る。同Ⅱ₁期のもの。65の高坏は透かしを持たない。67~76はSK07覆土中からの出土であるが、うち69~74は出土状況を図化(第96図)した。中でも69~



第95図 C区出土遺物2 (SI02、ピット、S=1/3)、平成14年度調査A区出土遺物 (S=1/3)



第96図 D区出土遺物1 (SD、ピット、包含層、S=1/3)

71は接して出土しており一括品としてよいものである。67はゆがみの大きいもので、口径14.6cm。天井部と口縁部の境は沈線により稜状とし、口唇端部の内傾面は浅い沈線により描出する。68は天井部2/3程度に回転ヘラ削りを加え、偏平な天井部から段を持って口縁部に至る。口唇部内面には面を取る。69は口径13.0cm、焼成はやや甘く、内面に同心円当て具痕が残る。内径する立ち上がり高1.8cm、端部に内傾する面を持つ。70は底部内面に同心円当て具痕が残る。淡灰白色の生焼け品であり、口径12.3cmを測るが、堅緻な焼成であればもう少し小径であったと推測される。71は平坦な底部2/3の範囲に回転ヘラ削りを加える。内傾する立ち上がり高2.0cm、段はなさず、沈線を一条加える。72は口径11.8cm、立ち上がり高1.3cm、丸い底部を持ち器高は5.2cmと高い。内面に同心円当て具痕が残り、口唇部は丸く収める。73は口径14.9cm、器高5.2cm、あまり腰の張らない丸い体部をもつ碗であり、口縁部は外反する。内面を黒色処理しミガキを加える。外面の調整は摩耗のため不鮮明だが、上半は平行タタキを加えている。SK07について、72に同Ⅱ₂期に下る可能性があるが主体はⅡ₁期としてよかろう。77～79はSK09出土。77はやや偏平な器形をなし、口径15.6cm、器高4.2cmを測る。先細りする口唇部は、内面にわずかだが面を設ける。なお、図化していないがSK10からは、古墳時代第4様式Ⅱ₂期～古代Ⅰ₁期に位置付けられる作りの雑な坏H蓋が出土している。

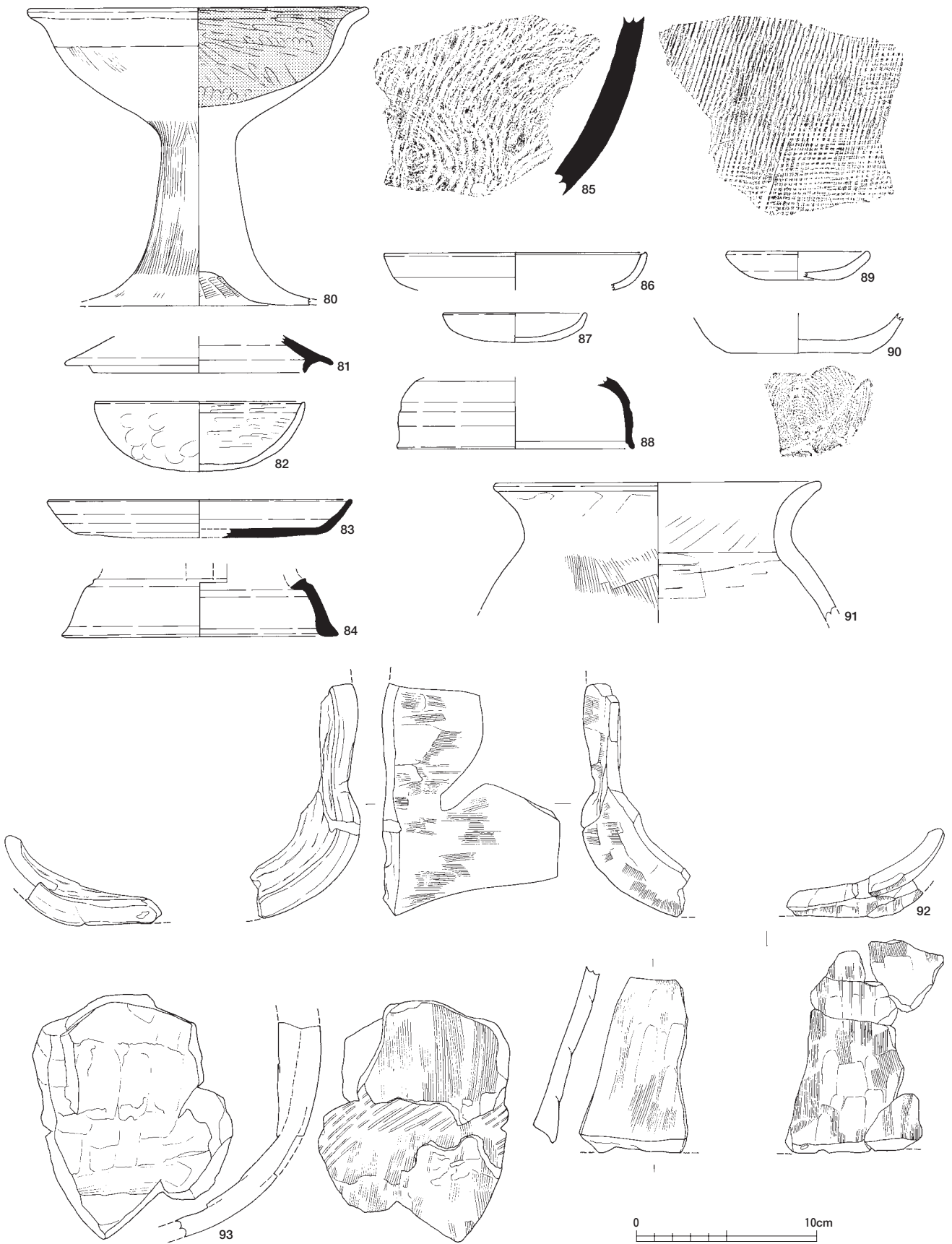
80の大型長脚高坏は堅穴住居とみられるSX07床面で横倒し状態で出土した(第91図)。口縁部が短く外反する碗形坏部をもち坏部内面を黒色処理する。81はP17出土の坏G蓋。口径11.6cmを測る。P34出土の82は口径11.6cm、器肉0.3～0.4cmと薄く赤褐色の発色をなす胎土からも土師器碗とみた。摩耗し調整は不鮮明であり、あるいは坏H蓋の可能性もある。

P42出土の83は口径16.8cm、器高2.1cm、古代Ⅴ₂期に位置付けられる。P56出土の84は透かしを持つ壺脚部であり、外側をつまみ出した接地面は平坦とする。破断面赤茶色をなす精良な胎土を持つ。P69出土の土師皿86、87は13世紀前半に位置付けられるものである。P72出土の88は口径12.9cm、肩部は沈線により稜を描出し、口唇部の面は沈線をめぐらし段状とする。P117出土の土師皿89は15～16世紀代に位置付けられる。P118出土の碗90は糸切り底を持ち、12世紀後半代に位置付けられる。

91～93は遺物包含層出土である。92のカマド型土器は平面隅丸の長方形をなすとみられ、内面には輪積み痕を弱く残し、外面はケズリののち縦位にハケメ調整を加える。93は器種・器形不明だが、内面の輪積み痕や、1cm前後の器厚、外面のハケメ調整、砂粒の含みが少なく軽量の胎土、焼成、淡黄橙色の色調および外面のハケメ調整がB区P19出土の28と酷似しており、同じくカマド部材の一つと推測する。図の上下左右について不安があるが、輪積み痕からみて、一端の丸く収まる部位に当たり、小孔をもつ可能性もあるが、41のように大きく開口することはない。部分的に器壁は2～3枚重ねられており、最厚部で約2cmを測る。内側の一枚をカキメ、タタキ調整した後、さらに外側に肥厚しケズリ、縦位のハケメを加えている。

第4節 小 結

平成12年度調査区域は矢田野遺跡の南西部分が対象となった。事前の分布調査結果を裏付けるようにA～C区南あるいは西端部では遺構分布は希薄となり、大型の風倒木痕(B区)や大小の木根跡が目立ち、集落端部の状況をうかがわせた。主体はJR北陸線沿いのD区とこれに接する範囲にある。D区に位置する土坑SK3～7などが古墳時代第4様式Ⅱ₁期(6世紀中葉)に位置付けられ、これらに重複して検出された8棟を越える掘立柱建物群についても直接時期を示す資料はないが、遺物分布からみて該期に属するものが多いであろう。6世紀後半の活動は希薄となり、ついで古代Ⅰ期(7世紀前半)段階でL字形カマドを持つ堅穴住居跡C区SI01やB区SK01・02、SD01が存在し、第2の



第97図 D区出土遺物2 (SK、S=1/3)

盛期となる。以後は希薄であり、顕著な遺構は検出されなかったが、古代Ⅲ期（8世紀前半）、古代Ⅴ期（9世紀中頃）、中世2様式期や室町時代の遺物が散発的に認められた。出土遺物では特にカマド型土器、円筒形土器、紡錘車、羽口等が注意され、器種・器形不明の93については、カマドと煙突をつなぐ接続部品の可能性があり類品の増加が待たれる。

調査年度	報告番号	種類器種	地区	遺構層位	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm) 重量(g)	色調(内) 色調(外)	胎土	焼成	調整(内) 調整(外)	備考	図化番号
01	1	土師器 碗(底部)	A 5	SK01	7.1		橙 橙	粗砂少量含	良	ナデ ナデ、糸切り		38
01	2	珠洲焼 甕	A 5	SK01			灰 灰	細砂少量、 粗砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		37
01	3	土師器 碗(底部)	A	SX01	6.9	(3.1)	鈍黄橙色 鈍黄橙色	細砂少量、 粗砂少量、 礫少量含	良	ナデ ナデ、糸切り		34
01	4	加賀焼 すり鉢	A 3~ 4区	SX02	33.8		灰黄 鈍黄	細砂少量含	良	ロクロナデ、タタキ ロクロナデ、タタキ		29
01	5	須恵器 坏蓋	A 8	SX05	16.0		灰 灰	細砂微量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		32
01	6	須恵器 有台坏身	A 8	SX05	14.3 9.0	4.3	灰 灰	粗砂微量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ		31
01	7	須恵器 坏身	A 8	SX05	(14.4)		灰 灰	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		33
01	8	須恵器 甕	A 8	SX05	24.0		灰白 灰白	細砂少量、 粗砂微量含	良			30
01	9	土師器 壺(底部)	A 1	P 1	7.6		鈍黄橙色 鈍黄橙色	細砂微量含	良	ナデ ナデ、糸切り		36
01	10	須恵器 高坏	A 9	P24	15.9		黄灰 灰黄褐	細砂少量、 粗砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		35
01	11	土師器 甕	B3/4	SI02 セクション	13.6		鈍橙色 鈍橙色	細砂並量、 粗砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		16
01	12	須恵器 坏蓋	B 7	SK01	11.6		灰白 青灰色	細砂微量、 粗砂並量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ?		26
01	13	土師器 甕	B 7	SK01	14.6		灰褐 鈍黄褐	細砂並量、 粗砂並量含	良	ナデ ナデ		28
01	14	須恵器 甕	B 7	SK01	25.0		青灰色 灰色	細砂多量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		27
01	15	須恵器 坏身	B11	SK02	10.9 4.4	6.9	灰黄 灰白	細砂並量、 粗砂微量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ		25
01	16	須恵器 坏蓋	B 1	SD01 セクション	16.3	3.2	灰色 灰色	細砂少量、 粗砂微量含	良	ロクロナデ後ナデ ヘラケズリ、ロクロナデ		18
01	17	須恵器 坏身	B 3	SD01	15.0	4.1	灰色 灰色	細砂並量、 粗砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り		15
01	18	須恵器 坏身	B 1	SD01 セクション	12.6		灰白色 灰色	細砂少量、 粗砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		19
01	19	須恵器 坏蓋	B 3	SD01	12.8	(2.3)	青灰色 暗青灰色	精緻	良	ロクロナデ ロクロナデ→ヘラ切り		14
01	20	須恵器 甕	B 3	SD01	21.9		明青灰色 青灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ		13
01	21	土師器 壺	B 3	SD01			暗灰色 淡黄橙色	細砂並量、 粗砂並量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		10
01	22	土師器 高坏	B 3	SD01			橙色 橙色	細砂多量、 粗砂多量含	良	ハケメ、ハケ状工具によるケズリ ケズリ		11
01	23	須恵器 紡錘車	B 3	SD01 ②層	径6.6	2.3 (51.5)	淡灰	細砂並量含	良	ナデ		46
01	24	須恵器 高坏蓋	B 9	SX01			灰白色 灰白色	細砂並量、 粗砂並量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		17
01	25	須恵器 甕	B 8	P30	(16.1)		明青灰色 青灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		149
01	26	土製品 羽口	B 5	P47			灰白色 灰白色	細砂並量、 粗砂少量含	良	接合痕 付着物あり		24
01	27	須恵器 鉢	B 9	P35	38.0		灰白色 灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ カキメ		23
01	28	土製品 円筒形土器	B6/B5	P19/農道拡張区			橙色 橙色	細砂少量、 粗砂微量含	良	ナデ ハケナデ		146
01	29	土師器 鍋	B 9	検出面	42.4		鈍黄橙色 鈍黄橙色	細砂少量含	良	ハケナデ、ナデ ハケナデ、ナデ	外面、スス付着	20

第8表 出土遺物観察表1

調査年度	報告番号	種類	地区	遺構層位	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm) 重量(g)	色調(内) 色調(外)	胎土	焼成	調整(内) 調整(外)	備考	図化番号
01	30	土師器 甔	B5	検出面	22.6		鈍黄橙色 鈍黄橙色	細砂少量、 粗砂少量含	良	ハケナデ後強いナデ ハケナデ後ナデ		21
01	31	土師器 甕	B5	農道拡張区	15.6		浅黄橙色 橙色	細砂並量、 粗砂少量含	良	ケズリ→ナデ、ナデ ナデ、ハケメ		22
01	32	須恵器 坏身	C2	SI01 底直	9.0 6.4	2.7	灰白色 灰色	細砂微量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ		8
01	33	須恵器 坏蓋	C1	SI01 焚口周辺床直	7.8 0.6	3.1	明青灰色 明青灰色	細砂微量、 粗砂並量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り		7
01	34	須恵器 無台坏身	C1	SI01 焚口No3	9.3 6.5	3.7	灰黄褐色 灰黄色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ		9
01	35	須恵器 有台坏身	C1	SI01 底+10~50cm	9.0		灰白色 灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		42
01	36	須恵器 横瓶	C2/C2	SI01/SI01 肩部斜面			明青灰色 明青灰色	細砂少量含	良	同心円タタキ 平行タタキ→カキメ		40
01	37	土師器 高坏	C1	SI01 焚口No1	14.2		燈色 燈色	細砂並量、 粗砂多量含	良	ロクロナデ、ケズリ、ナデ ロクロナデ		6
01	38	土師器 鉢	C1/C1	SI01/SI01 焚口周辺床直/ 焚口No2	11.2		鈍褐色 鈍橙	細砂並量、 粗砂並量含	ヤヤ不良	ナデ ハケメ		2
01	39	土師器 甕	C1	SI01 焚口周辺床直	16.4		浅黄褐色 橙色	細砂少量、 粗砂並量含	良	ナデ、ハケ後ナデ? ナデ→ハケ		3
01	40	土師器 (把手)	C1	SI01 底+10~50cm			灰色 浅黄褐色	細砂多量、 粗砂多量含	良			39
01	41	土製品 円筒形土器	C2	SI01 底より15cm浮く	20.1 8.6		橙色 鈍橙	細砂並量、 粗砂多量含	良	ナデ ハケナデ、ナデ		5
01	42	土師器 甔	C1/C1	SI01/SI01 焚口No2/ 焚口焼土直上	(24.0) 11.6	34.7	燈 燈	細砂並量、 粗砂少量含	良	ナデ後指とヘラ状工具に よる縦ナデ、口縁部ナデ ハケメ、口縁部は後 ナデ		1
01	43	製鉄関連 鉄滓	C1	SI01 底+10~50cm	長3.0 幅2.0	厚2.4 18.4		細砂少量含				石8
01	44	土師器 甕	C3	SI02 床面No1	14.6		鈍橙色 鈍赤褐色	細砂並量、 粗砂少量含	良	ケズリ、ハケナデ、ナデ ハケナデ、ナデ		43
01	45	土師器 甕	C3/C3	SI02/SI02 床直No4/床直No5	16.5		橙色 橙色	細砂並量、 粗砂並量含	良	ケズリ、ナデ、ナデ ハケナデ、ナデ	風化、摩耗著 しい	44
01	46	土師器 高坏	C5	P13	2.9		黒色 橙色	細砂並量、 粗砂並量含	良	ミガキ ナデ		148
01	47	土師器 甕	C12	P22	19.2		橙色 橙色	細砂並量、 粗砂並量含	良	不明 不明		45
02	48	土師器 甕	A/A	SI2No2/SI3西半 土器集中地点	(15.2)		浅黄褐色 浅黄褐色	細砂多含	良	ヨコナデ、ケズリ→ ナデ 不明		143
02	49	土師器 甕	A	SI3西半覆土	15.9	4.8	鈍橙色 鈍橙色	粗砂多含	良	ヨコナデ、ケズリ		142
02	50	須恵器 有台坏身	A1	P36	8.0	1.2	灰白色 灰白色	細砂少量含	良	ロクロナデ ナデ		133
02	51	土師器 高坏	A10	P67		(7.3)	オリーブ黒色 鈍褐色	細砂多量含	良	ミガキ ミガキ		131
02	52	須恵器 坏身	A5	No1	10.8	(4.4)	灰色 灰色	細砂多含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ		192
02	53	須恵器 皿	A5	No1	14.8 11.8	1.9	灰色 灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		132
02	54	土師器 壺	A6	壁面			鈍橙色 鈍橙色	粗砂多量含	良	ナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケ		141
01	55	須恵器 甕	D5	SK02	31.2		灰黄 灰	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		57
01	56	須恵器 坏蓋	D5	SK03			灰白色 灰白色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ	天井部内面同心 円当具痕残る	56
01	57	須恵器 坏身	D5	SK03	12.0 6.8	4.8	明青灰色 明青灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ→ヘラ切り		55
01	58	土師器 甕	D5	SK03			浅黄褐色 橙	細砂並量、 粗砂多量、 礫並量含	良	不明 ナデ、ハケのちナデ		54
01	59	須恵器 甕	D5	SK03	22.9		灰色 灰色	細砂少量含	ヤヤ良	ロクロナデ ロクロナデ		147
01	60	須恵器 蓋	D7	SK04	14.6		灰色 灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ロクロケズリ		150

第9表 出土遺物観察表2

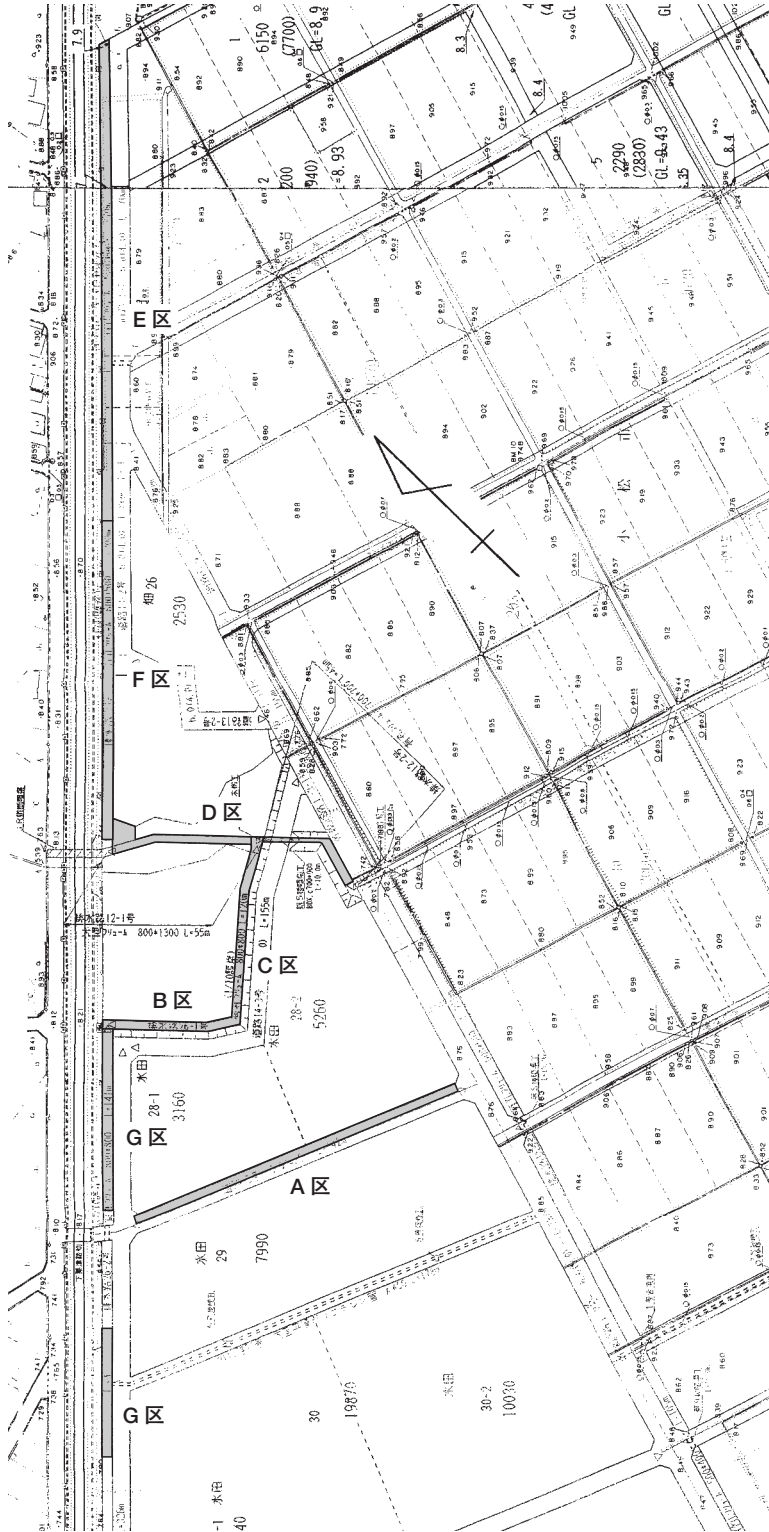
第4節 小 結

調査年度	報告番号	種類	地区	遺構層位	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm) 重量(g)	色調(内) 色調(外)	胎土	焼成	調整(内) 調整(外)	備考	図化番号
01	61	須恵器 高坏	D7	SK04	11.8		灰色 灰色	細砂少量含	ヤ 甘	ロクロナデ ロクロナデ	三方透かし、 脚基部径4.0cm	76
01	62	土師器 高坏	D7	SK04	14.6		橙色 橙色	細砂並量、 粗砂少量含	良	不明 不明		151
01	63	土師器 有台碗	D1	SK04	5.8		灰白 灰白	細砂微量、 粗砂微量含	甘	ナデ ナデ		77
01	64	須恵器 坏身	D7	SK06	12.6		明青灰色 明青灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		51
01	65	須恵器 高坏	D7	SK06			灰色 灰黄色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		75
01	66	須恵器 壺	D7	SK06	18.0		灰白色 灰白色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		50
01	67	須恵器 坏蓋	D6	SK07	14.6	5.6	灰色 灰色	細砂多量、 粗砂多量含	良	ロクロナデ ロクロナデ	底部内面同心 円当具痕残る	47
01	68	須恵器 坏蓋	D6	SK07	15.5	(3.5)	明青灰色 明青灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ		48
01	69	須恵器 坏身	D6	SK07②	13.0 9.7	5.15	灰 灰	細砂少量、 粗砂微量含	甘	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ	底部外面同心 円当具痕残る	60
01	70	須恵器 坏身	D6/D6	SK07⑥/SK07	12.3	5.6	灰白 灰白	細砂少量含	ヤ 甘	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ		70
01	71	須恵器 坏身	D6	SK07⑤	11.7 7.8	4.8	灰 灰	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ	底部外面ヘラ 刻み「-」	69
01	72	須恵器 坏身	D6	SK07①	11.8 3.9	5.2	灰 灰	細砂少量、 粗砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ	底部内面同心 円当具痕残る	72
01	73	土師器 内黒碗	D6	SK07	14.9	4.5	黒色 鈍橙色	細砂微量含	良	ナミガキ ナデ?		49
01	74	土師器 甕	D6/D6	SK07③/④	13.6	(11.5)	鈍黄橙 鈍黄橙	細砂少量、 粗砂並量含	良	ハケメ ナデ、ハケメ		71
01	75	土師器 甕	D5	SK07	12.1		橙色 赤橙色	細砂少量含	良	ナデ		58
01	76	土師器 甕	D6	SK07	17.0		暗横橙 浅黄橙	細砂多量、 粗砂多量含	良	ナデ、ケズリ 不明		59
01	77	須恵器 坏蓋	D9	SK09	15.6	4.2	灰白色 灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ		74
01	78	須恵器 甕	D9	SK09	23.6		明青灰色 青灰色	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		80
01	79	土師器 甕	D9	SK09	24.2		浅黄橙色	粗砂多量含	良	ケズリ後ハケ		52
01	80	土師器 高坏	D10	SX07	18.8 (12.4)	16.4	内黒 浅黄橙色	細砂並量、 粗砂並量含	良	内黒、ミガキ ハケ、口縁外側ナデ		53
01	81	須恵器 坏蓋	D4	P17	11.6		灰白 灰白	細砂少量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		64
01	82	土師器 碗	D5	P34	11.6	3.8	橙色 橙色	細砂少量、 粗砂微量含	良	ミガキ ナデ、指圧痕		65
01	83	須恵器 盤	D2	P42	16.8 14.0	2.1	灰 灰	細砂少量、 粗砂微量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラ切り後ナデ		63
01	84	須恵器 壺(脚部)	D1	P56	15.2		青灰色 青灰色	粗砂微量含	良	ロクロナデ ロクロナデ		62
01	85	須恵器 甕	D9	P66		(9.8)	灰白 灰色	細砂微量含	良	タタキ タタキ		78
01	86	中世土師器 皿	D6	P69	14.3		橙色 橙色	粗砂多量含	甘	ナデ ナデ→ナデ		66
01	87	中世土師器 皿	D6	P69	7.7 1.6		浅黄橙色 浅黄橙色	精緻	良	ナデ ナデ、ナデ		67
01	88	須恵器 坏蓋	D6	P72	12.9		灰白 灰	細砂微量含	良	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラケズリ		68
01	89	中世土師器 皿	D12	P117	7.7 4.4	1.6	鈍黄橙 鈍黄橙	細砂微量含	良	ナデ ナデ		73
01	90	中世土師器 碗	D12	P118	8.0		鈍黄橙 鈍黄橙	細砂微量含	良	ナデ ナデ、ロクロ糸切り		79
01	91	土師器 甕	D5	包含層	18.0		橙 橙	細砂並量、 粗砂並量含	良	口縁ナデ、体部ケズリ ハケ後ナデ、ハケ		61
01	92	土製品 竈型土器	D5	包含層			橙色 鈍黄橙色	細砂少量含	良	ナデ ハケ、ナデ	接合痕、明瞭	4
01	93	土製品 円筒形土器?	D5	包含層			橙色 浅黄橙色	細砂少量、 粗砂微量含	良	ナデ、肥厚しナデ 平行タタキ、ケズリ →ハケ		12

第10表 出土遺物観察表3

第6章 平成14年度調査

第1節 調査の概要



第98図 調査区配置図 (S=1/3,000)

調査区は排水路敷設箇所等を対象に設定され、広範囲にわたることから、A～G区に分けて調査を実施した。グリッドは各区において10mを基本に、調査区中央ラインに任意に設定した。各区の遺構検出面は概ね、標高8.0～8.5mを測るが、谷部にかかるC・D・F区の一部では4.6～7.0m、古墳墳丘部にかかるF区では8.9～9.1mを測り、後世の削平・改変も考慮されようが、やや起伏のある地形が窺える。基本層序は遺構検出面の直上に耕土・客土層が認められる簡易なものであり、C・D区では客土層が厚い状況である。遺構は古墳周溝、竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝等を検出し、遺物は須恵器、土師器、珠洲焼、中世土師皿、埴輪、紡錘車、土錘、刀子等を確認しており、時期は古墳、古代を主体とするが、中世以降のものも認められる。古墳周溝はB・F区、竪穴建物はE・F・G区、掘立柱建物はF・G区を中心に認められ、谷部に当たるC・D区は希薄である。

なお、A区は平成13年度調査C区に接することから第5章に譲り、以下、B区より順に報告する。

第2節 遺構と遺物

1. B区

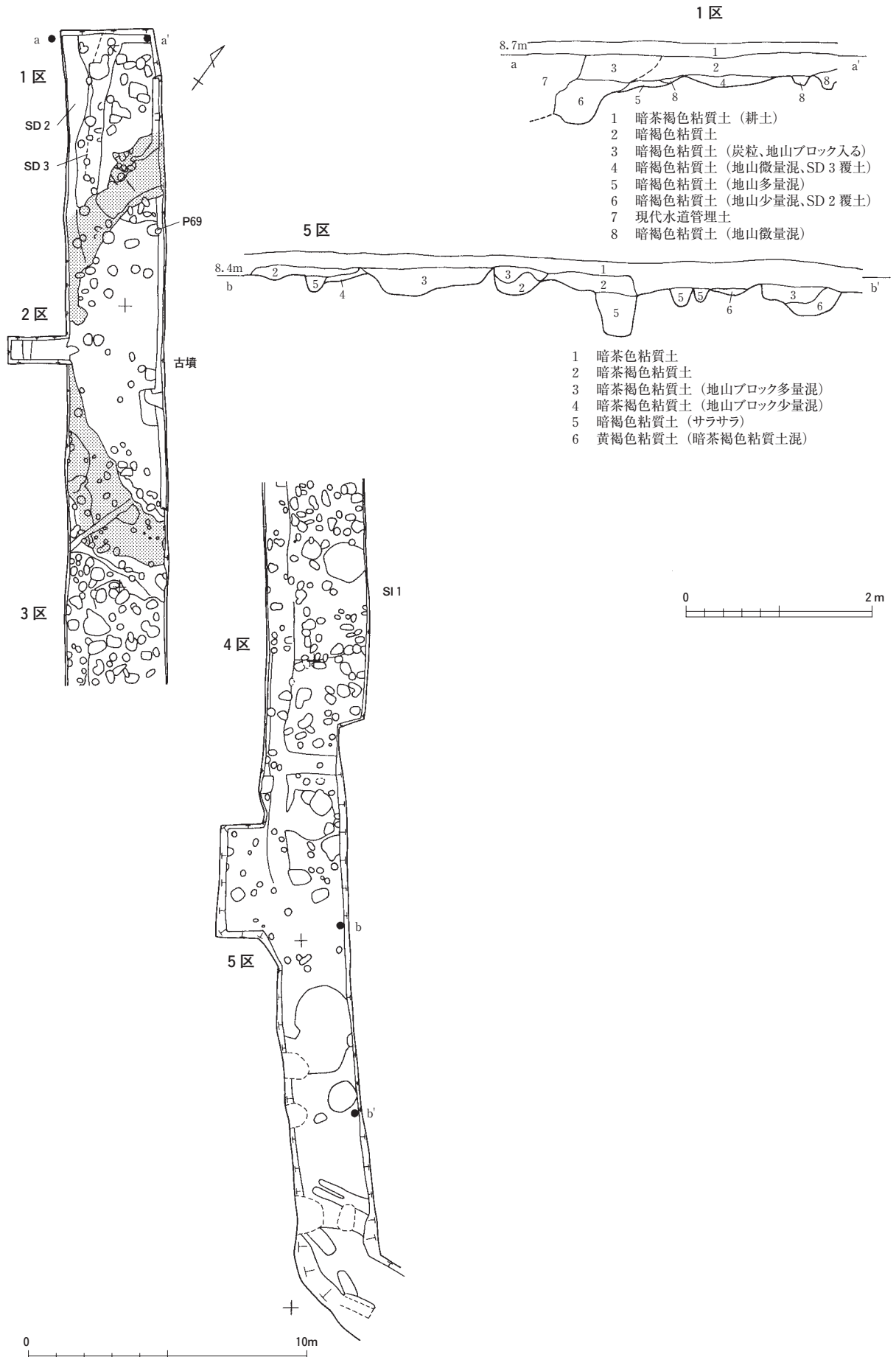
調査区は周知の遺跡である矢田借屋古墳群の東方に位置し、北陸本線に直行する形で、北西から南東に延び、北西部はG区、南東部はC区につながる。遺構検出面は耕土直下30cm、標高7.8～8.4mを測り、4区までは8.3～8.4mで平坦であるが、5区より南東は一段下がり、7.8～8.0mとなる。5区より南東は遺構の状況等から削平を受けているものと考えられる。遺構は古墳周溝、竪穴建物の他に多数の小穴を検出しているが、小穴の大多数は木根によるものと考えられる。遺物は主に6世紀後半～7世紀前半の須恵器や土師器等が出土している。

古墳（第100～102図）

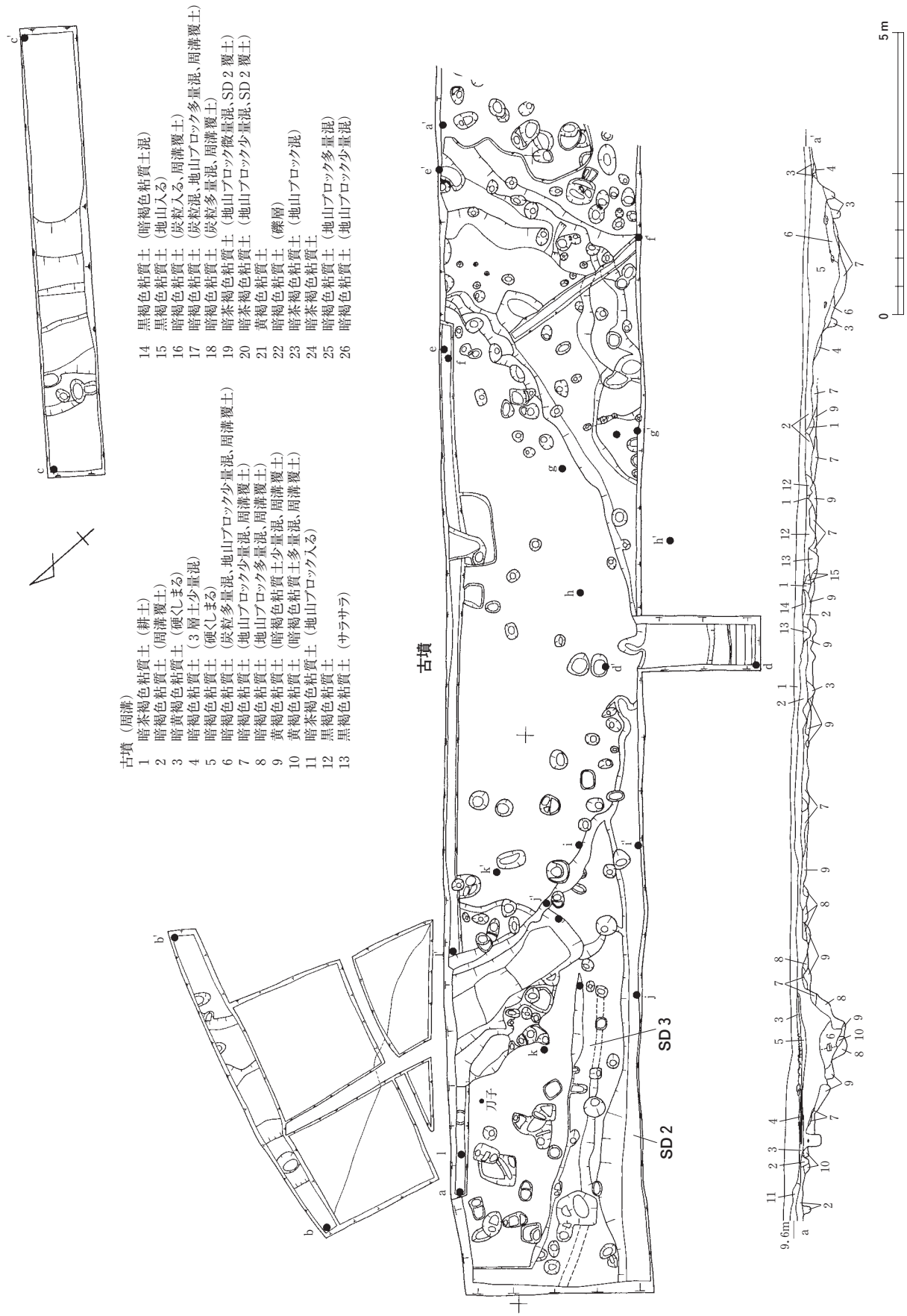
1～2区に位置する。墳丘部は調査対象外のため周溝のみの調査である。周溝は調査区北東端から北西端にかけて弓なりに巡っており、墳丘の規模・形状は周溝の規模や拡張トレンチの状況等から、直径約11mを測る円墳と考えられる。周溝は上幅1.1～3.8m、下幅0.6～1.2m、深さ0.2～0.7mを測り、幅、深さ共に一定ではない。北東の拡張トレンチから南東部にかけては上幅3.2～3.3m、下幅1.0～1.2mを測り、幅が広く、調査区南西端付近が上幅1.1m、下幅0.6mと狭小となり、北西の拡張トレンチ箇所が上幅3.8mを測り、最大となる。なお、調査区南西部において一部拡張トレンチを開けたが、水道管等埋設により削平を受けていたため、周溝規模の確認には至っていない。また、そのトレンチから南西側の一部は、北東から南西方向に走るSD2に切られる。深さは北東側と北西側が深く、0.5～0.7mを測り、調査区南西側が0.2～0.35mと浅くなる。断面形は概ね、逆台形を呈し、周溝外側が内側に比べて緩やかに立ち上がり、底面は平坦ではなく、小穴が多数みられる。覆土は暗褐色粘質土を主体とし、中層は炭粒と地山ブロックが少量混じり、下層は地山ブロックが多量に混じる差異が認められる。周溝内部からは須恵器蓋、坏、高坏、甕、壺、提瓶、土師器甕、甌等の多量の土器（第104～110図1～106）やフイゴの羽口（第110図108）や紡錘車（第110図107）、凝灰岩、鉄滓等が出土しており、特に周溝南西部に集中して認められ、層位的には中層から下層上位、検出面から深さ30～40cmにかけて多く、底面に付くものはほとんどない。また、周溝北西部においては検出面（標高約8.4m）で、提瓶が3個体一括して出土しており、周溝北西端の外部より刀子が1点認められる。また、提瓶はほぼ完形で出土しているのに対し、その他の器種のほとんどは破片であることや6世紀後半から7世紀前半代を主体とする時期幅をもち、出土層位での時期的な違いは認められないこと等から、古墳周溝の機能廃絶後に一括廃棄されたものの可能性がある。周溝北西部では細礫集中箇所が認められ、小松市教育委員会が近隣で古墳主体部の礫床を確認していることから、同様な性格と考えられ調査を行なったが、礫床の位置や広がり具合から、古墳に伴う礫床とは考えにくく、また、3～4区で確認した旧道の一部と思われる細礫と類似しており、それに続くものと判断した。

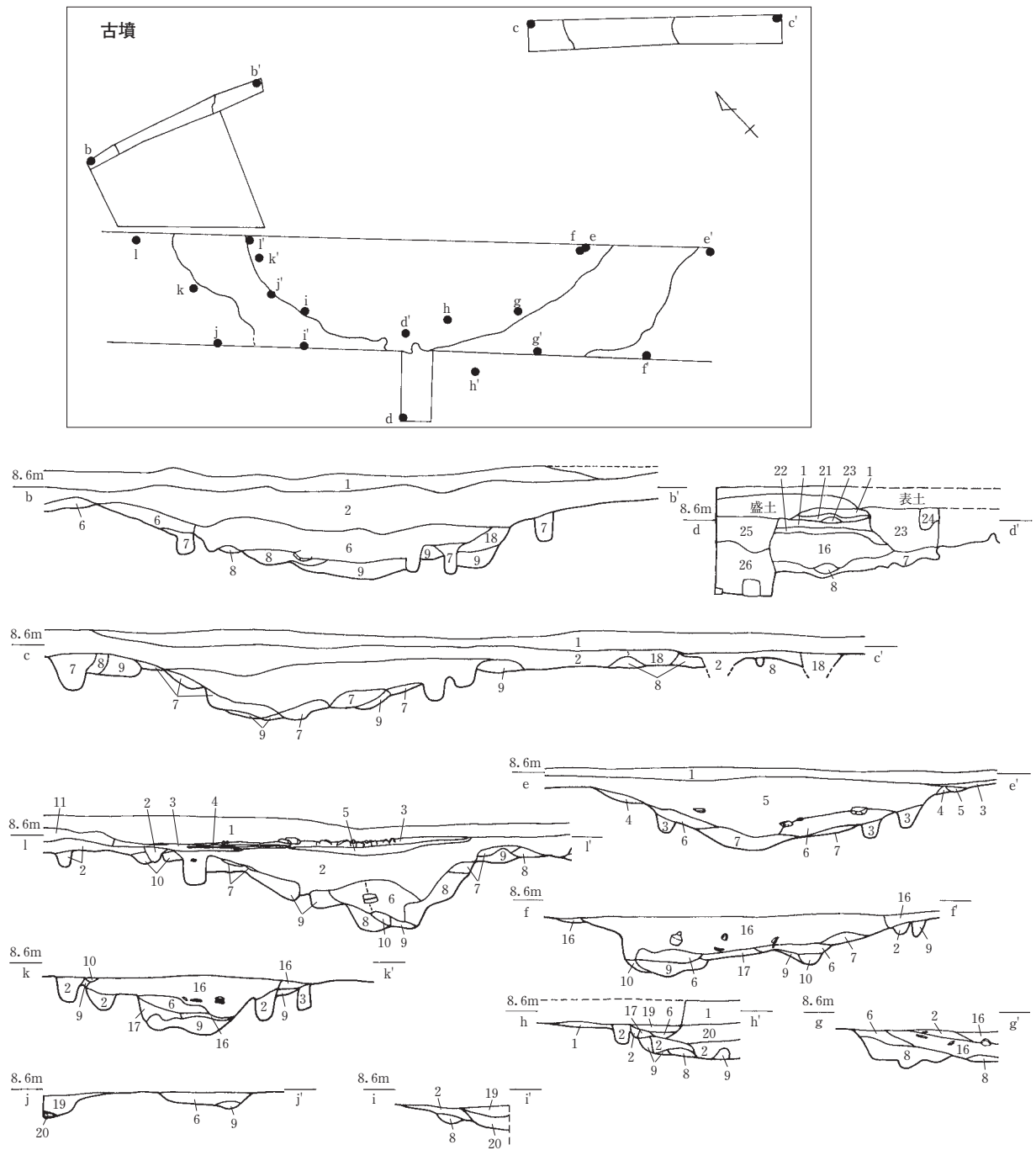
SI1（第103図）

3区に位置する。北西-南東4.5m、北東-南西2.7m以上を測り、西部において約10cmの掘り込み面が確認できる。主柱穴ははっきりと分らないが、土層断面図Cラインのものを北西-南東柱列と推定でき、覆土は暗褐色粘質土を主体とする。北部に位置するSK1は、覆土が暗褐色粘質土を主体とし、地山ブロックが多量に混じる特徴を持つ。南西部には焼土が集中して認められ、その下部にはP48を伴う。遺物はSK1を中心に7世紀前半を主体と考えられる須恵器や土師器が出土しており、第110図110～113を図化した。



第99図 B区遺構全体図 (S=1/200)、調査区断面図 (S=1/60)



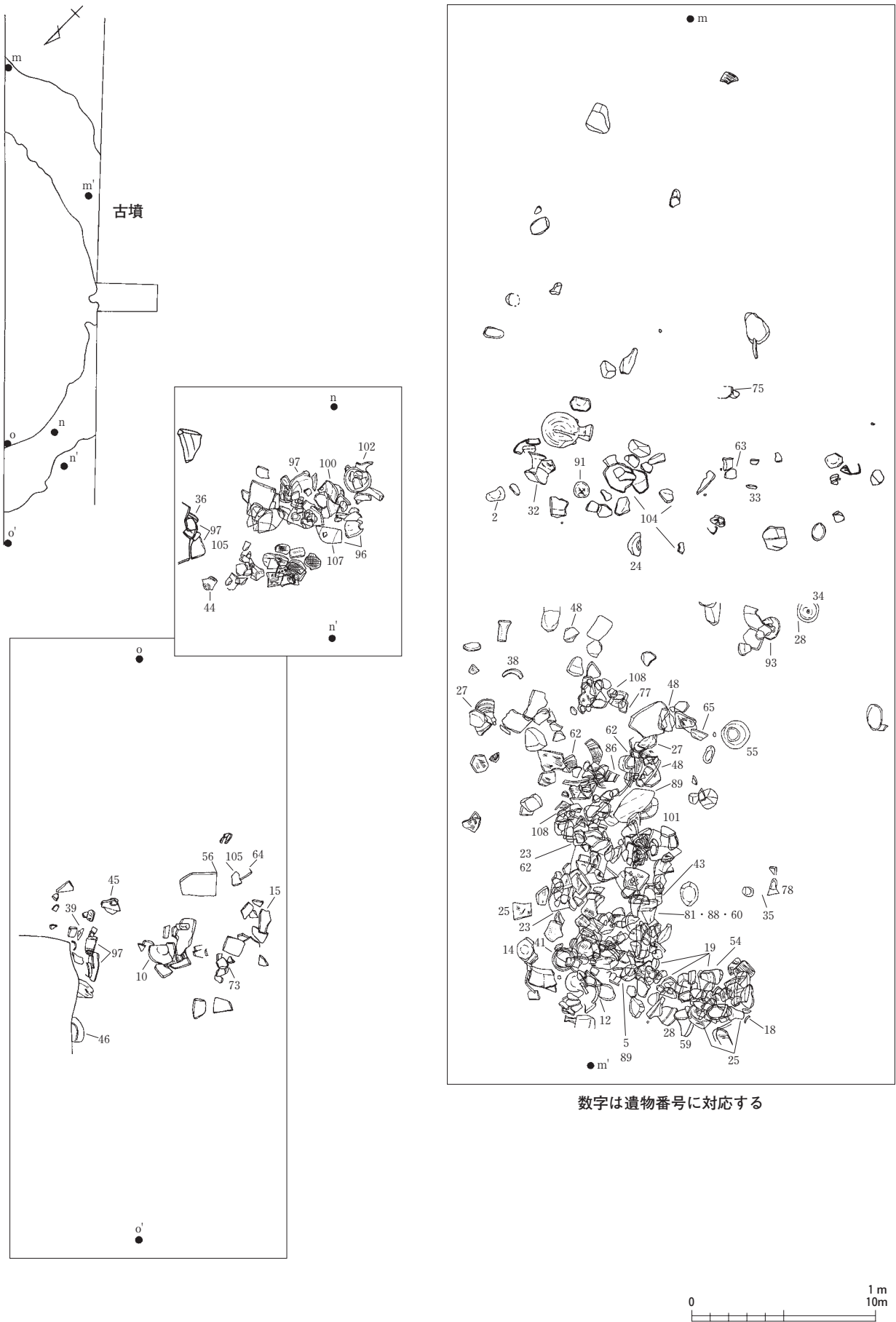


古墳（周溝）

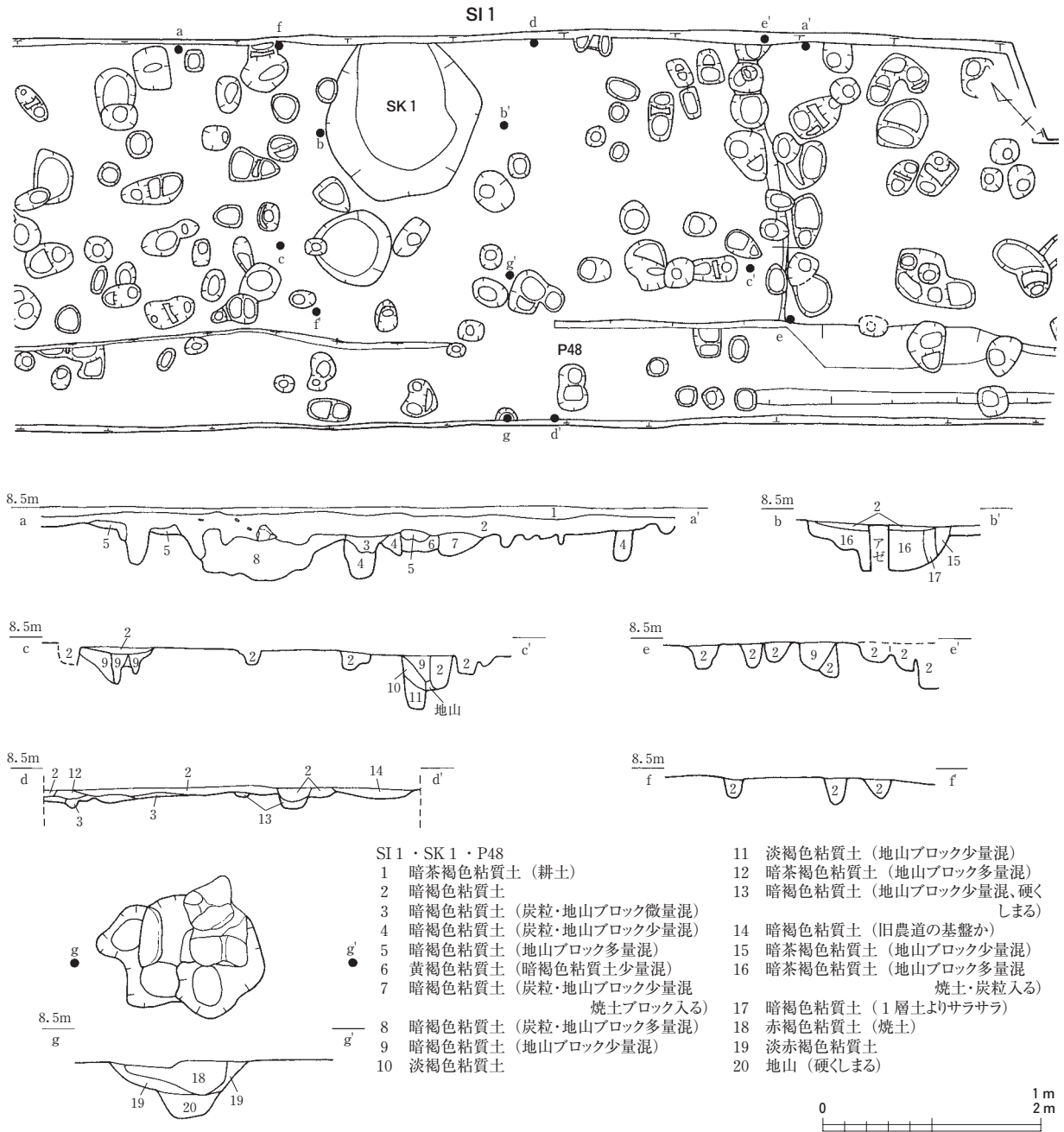
- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗茶褐色粘質土（耕土） | 14 黒褐色粘質土（暗褐色粘質土混） |
| 2 暗褐色粘質土（周溝覆土） | 15 黒褐色粘質土（地山入る） |
| 3 暗黄褐色粘質土（硬しまる） | 16 暗褐色粘質土（炭粒入る、周溝覆土） |
| 4 暗褐色粘質土（3層土少量混） | 17 暗褐色粘質土（炭粒混、地山ブロック多量混、周溝覆土） |
| 5 暗褐色粘質土（硬しまる） | 18 暗褐色粘質土（炭粒多量混、周溝覆土） |
| 6 暗褐色粘質土（炭粒多量混、地山ブロック少量混、周溝覆土） | 19 暗茶褐色粘質土（地山ブロック微量混、SD2覆土） |
| 7 暗褐色粘質土（地山ブロック少量混、周溝覆土） | 20 暗茶褐色粘質土（地山ブロック少量混、SD2覆土） |
| 8 暗褐色粘質土（地山ブロック多量混、周溝覆土） | 21 黄褐色粘質土 |
| 9 黄褐色粘質土（暗褐色粘質土少量混、周溝覆土） | 22 暗褐色粘質土（礫層） |
| 10 黄褐色粘質土（暗褐色粘質土多量混、周溝覆土） | 23 暗茶褐色粘質土（地山ブロック混） |
| 11 暗茶褐色粘質土（地山ブロック入る） | 24 暗茶褐色粘質土 |
| 12 黒褐色粘質土 | 25 暗褐色粘質土（地山ブロック多量混） |
| 13 黒褐色粘質土（サラサラ） | 26 暗褐色粘質土（地山ブロック少量混） |



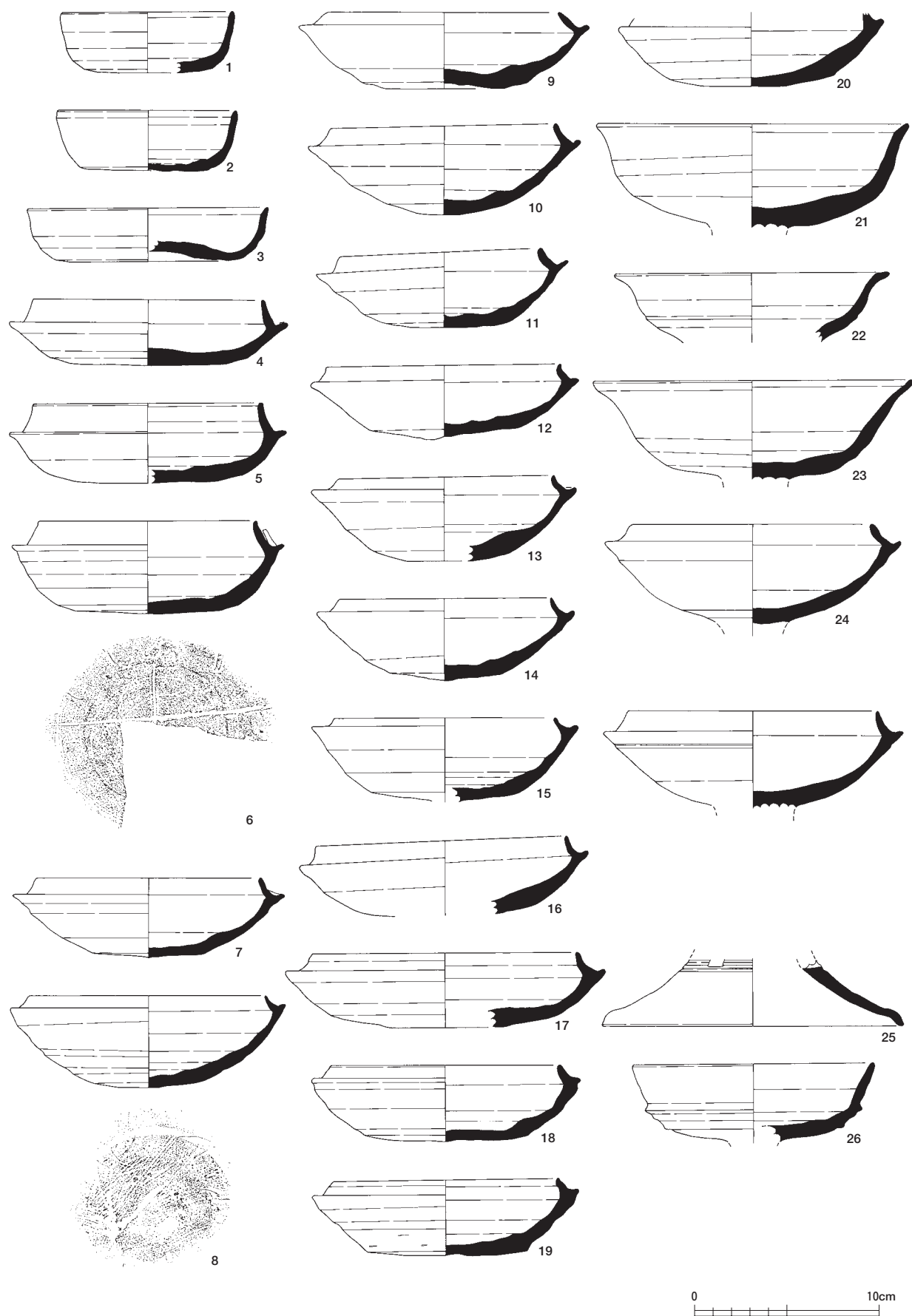
第101図 B区遺構実測図2 (S=1/60・1/300)



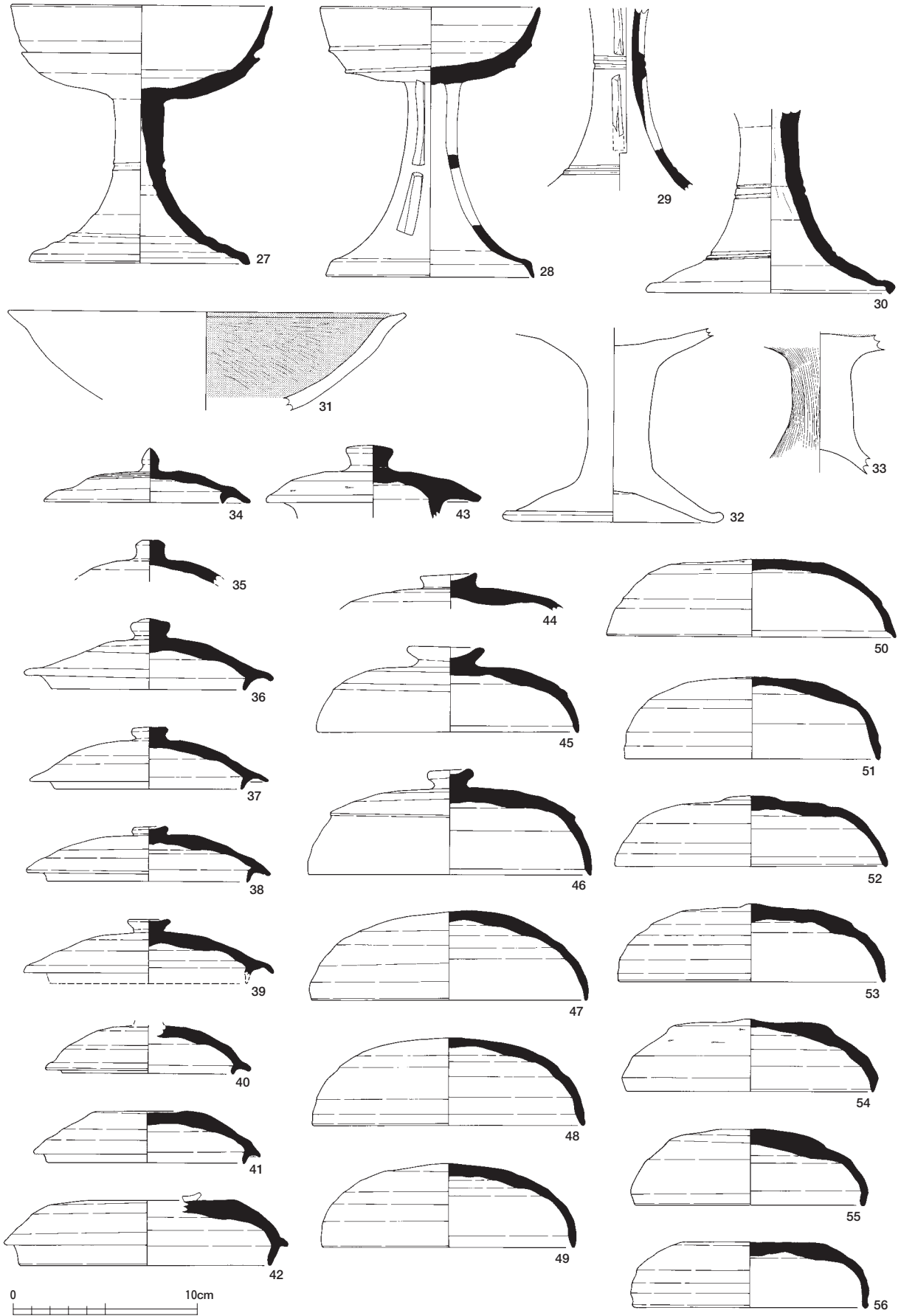
第102図 B区遺構実測図3 (S=1/30・1/300)



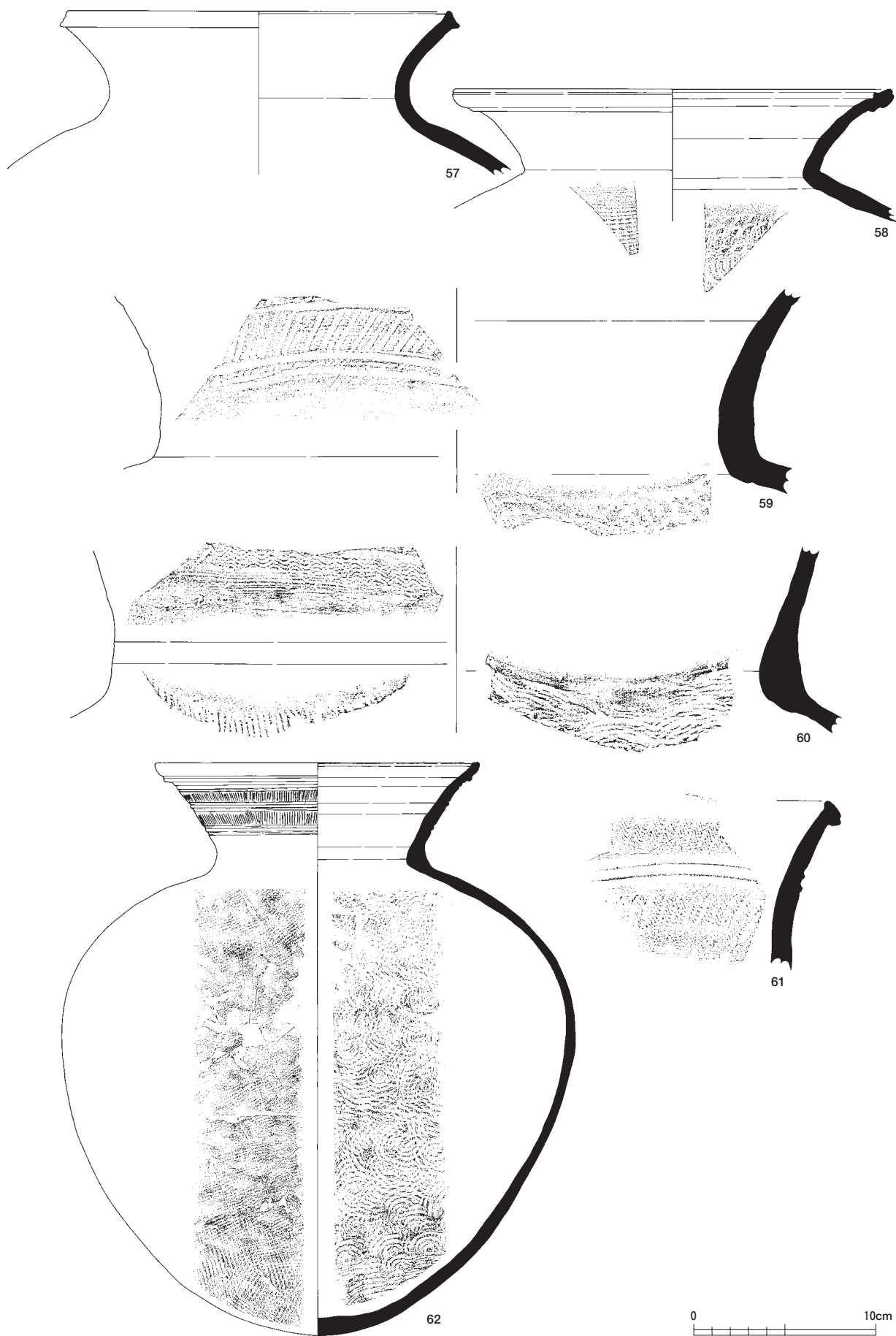
第103図 B区遺構実測図4 (S=1/30・1/60)



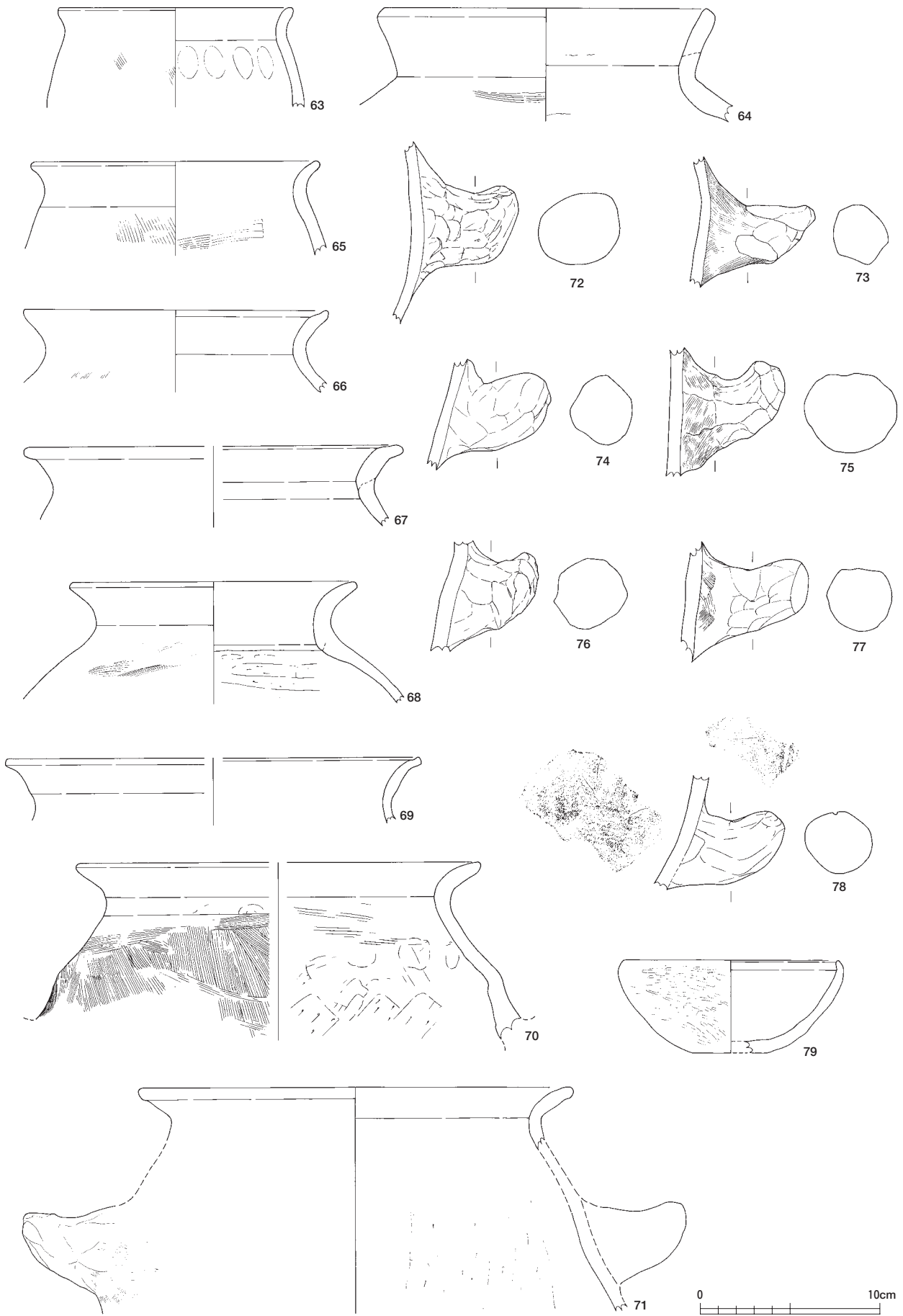
第104図 B区出土遺物1 (S=1/3)



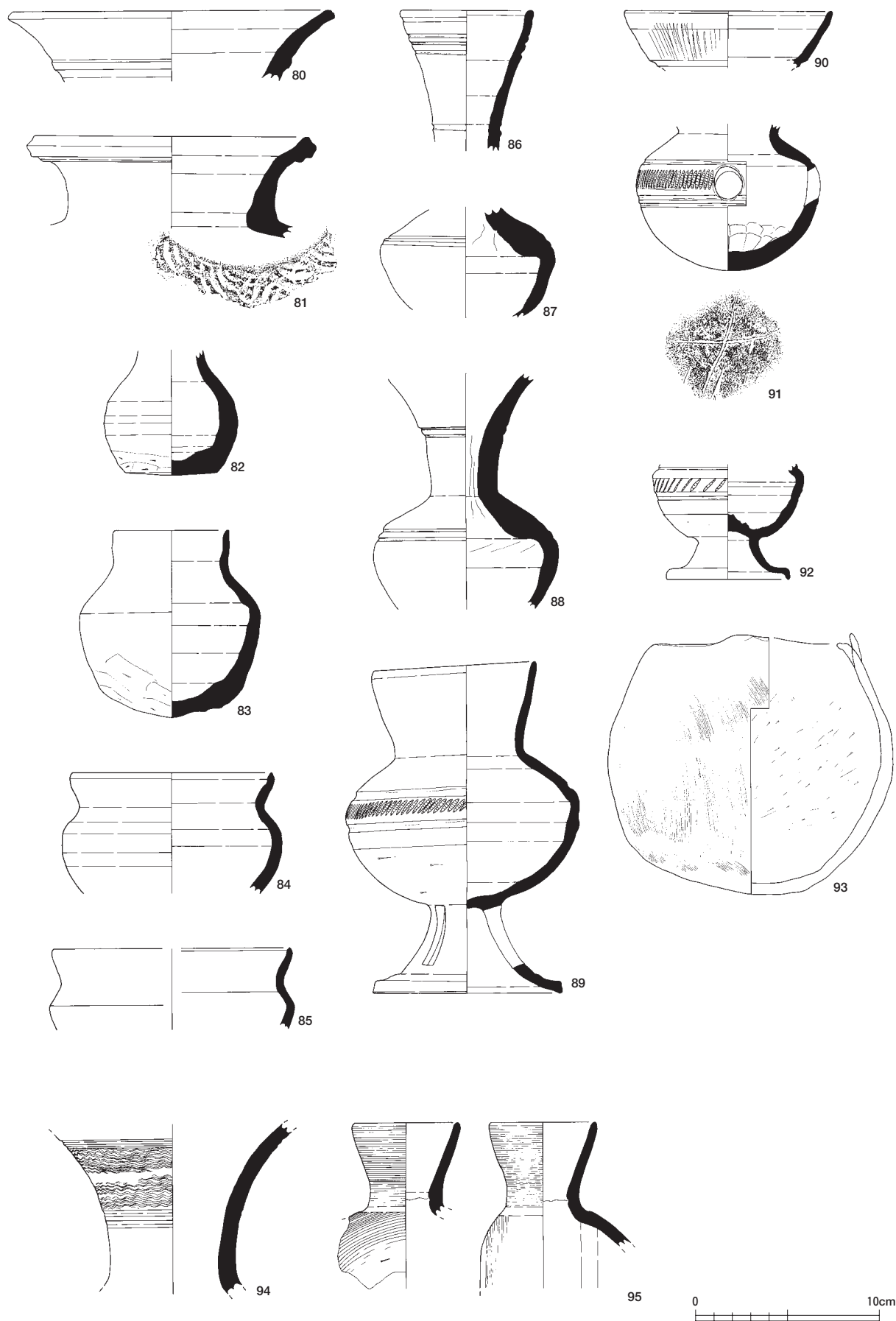
第105図 B区出土遺物2 (S=1/3)



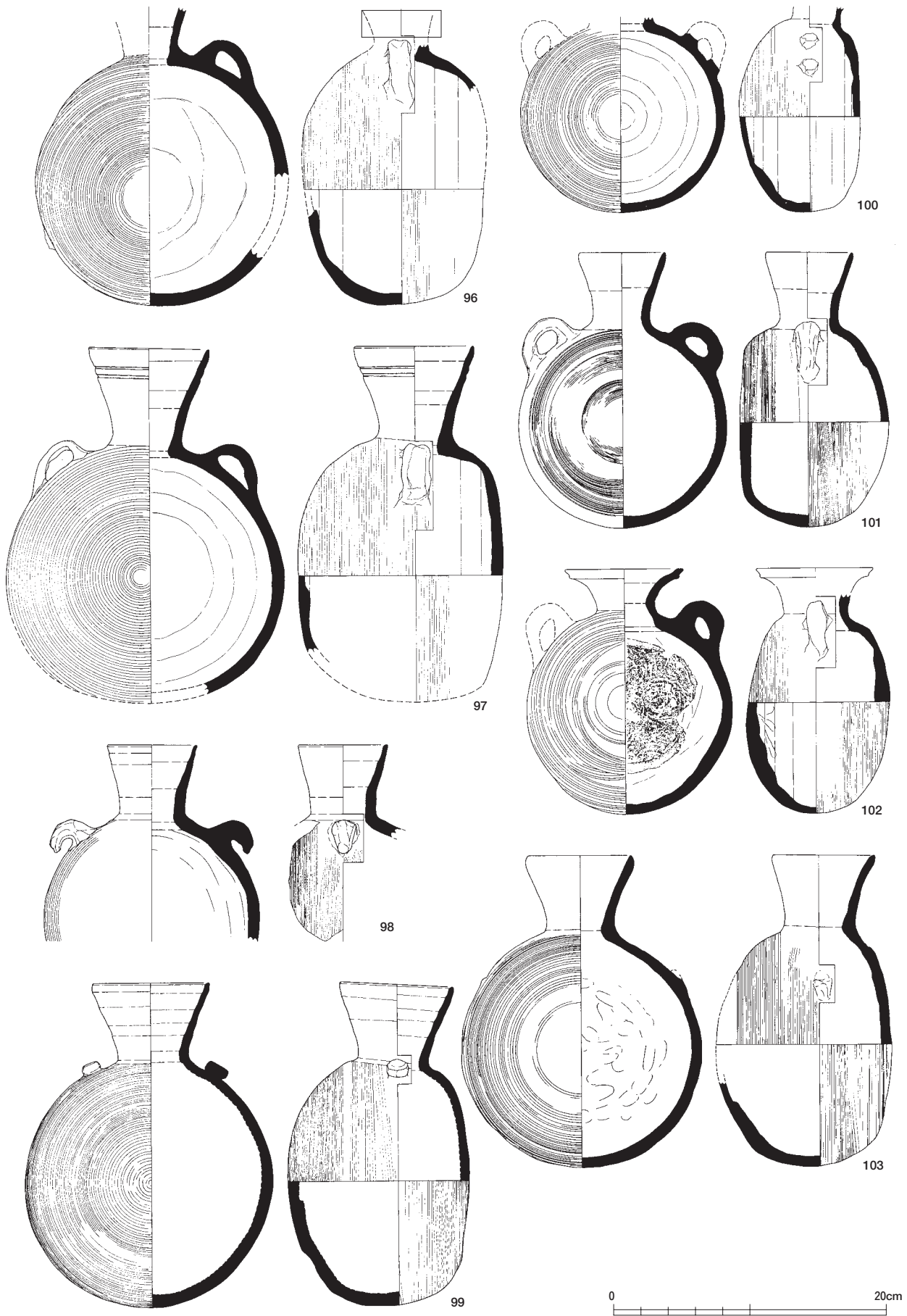
第106図 B区出土遺物3 (S=1/3)



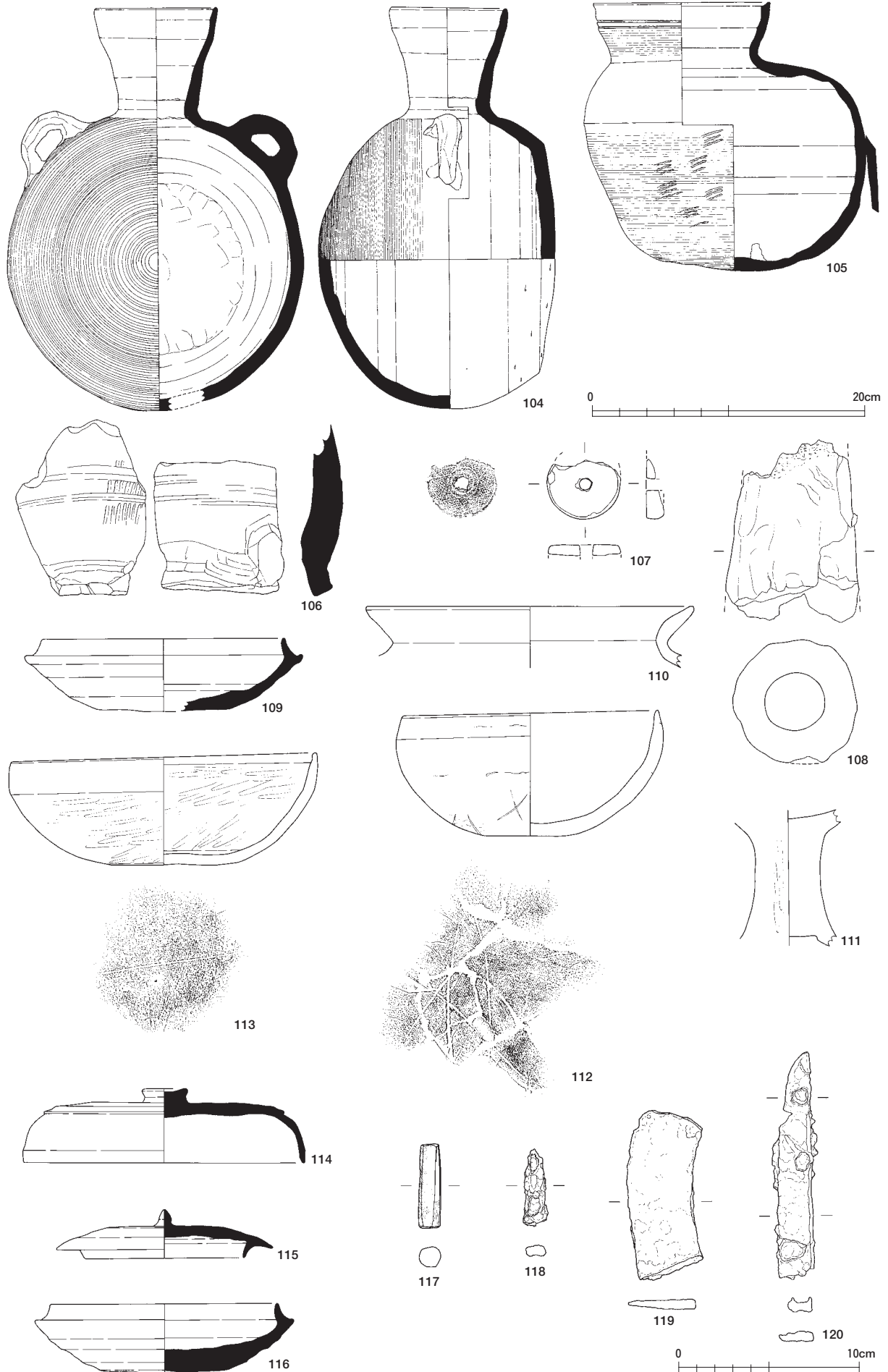
第107図 B区出土遺物4 (S=1/3)



第108図 B区出土遺物5 (S=1/3)



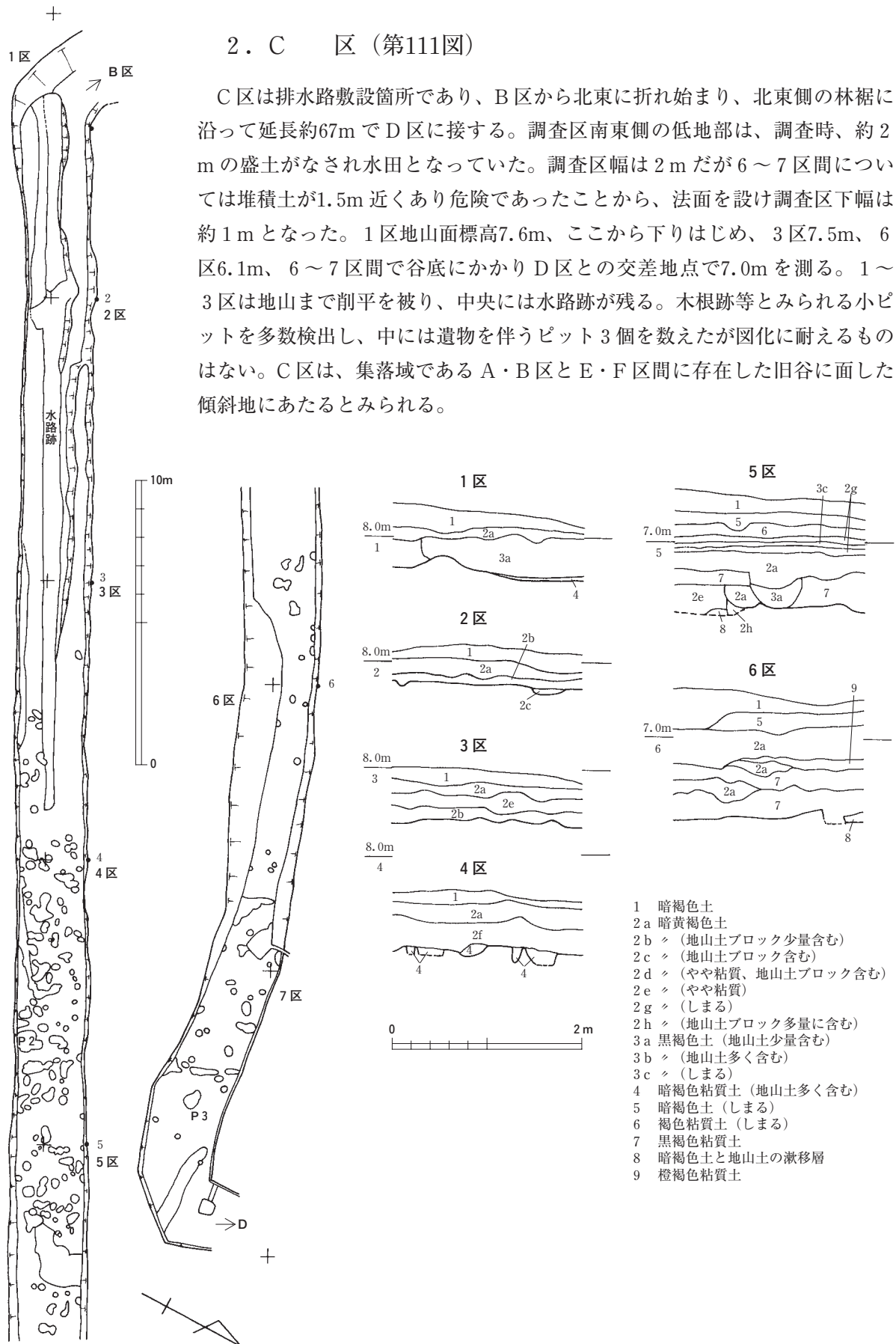
第109図 B区出土遺物6 (S=1/4)



第110図 B区出土遺物7 (106~120; S=1/3、104・105; S=1/4)

2. C 区 (第111図)

C区は排水路敷設箇所であり、B区から北東に折れ始まり、北東側の林裾に沿って延長約67mでD区に接する。調査区南東側の低地部は、調査時、約2mの盛土がなされ水田となっていた。調査区幅は2mだが6~7区間については堆積土が1.5m近くあり危険であったことから、法面を設け調査区下幅は約1mとなった。1区地山面標高7.6m、ここから下りはじめ、3区7.5m、6区6.1m、6~7区間で谷底にかかりD区との交差点で7.0mを測る。1~3区は地山まで削平を被り、中央には水路跡が残る。木根跡等とみられる小ピットを多数検出し、中には遺物を伴うピット3個を数えたが図化に耐えるものはない。C区は、集落域であるA・B区とE・F区間に存在した旧谷に面した傾斜地にあるとみられる。



第111図 C区遺構全体図 (S=1/200)、調査区北西壁断面図 (S=1/60)

3. D 区 (第112図)

D区は排水路敷設箇所であり、新設農道(幹線1-3-1号)に平行し始まり、約90m北西向しJR北陸線に接する。調査区幅は2m、延長約100m。水路はさらに線路下を横断する暗渠となる計画であり、この調査区北端の暗渠工事にかかる箇所では7×15mの調査範囲となっている。

D区は現状では線路沿いの5区辺りから9区に向けては極緩い傾斜地形だが、地山面標高は南端の0区で7.4m、3区7.2m、6区6.3m、7区5.8m(現地表下80cm)、9区で4.6m(現地表下1.6m)を測り、すぐ脇の9区東端(第B図アイ断面)では6.2mと急に高くなる。線路際で最深部は現地表下5mを超えることを表土剥ぎ時に確認しており、現状で線路より南側に広がる幅約60mの谷が本来は線路北側のD区にも伸びており、これが大幅な客土により埋められ平坦化されていることが確認された。この谷主軸は、C6区で確認された谷地形につながる可能性が高い。

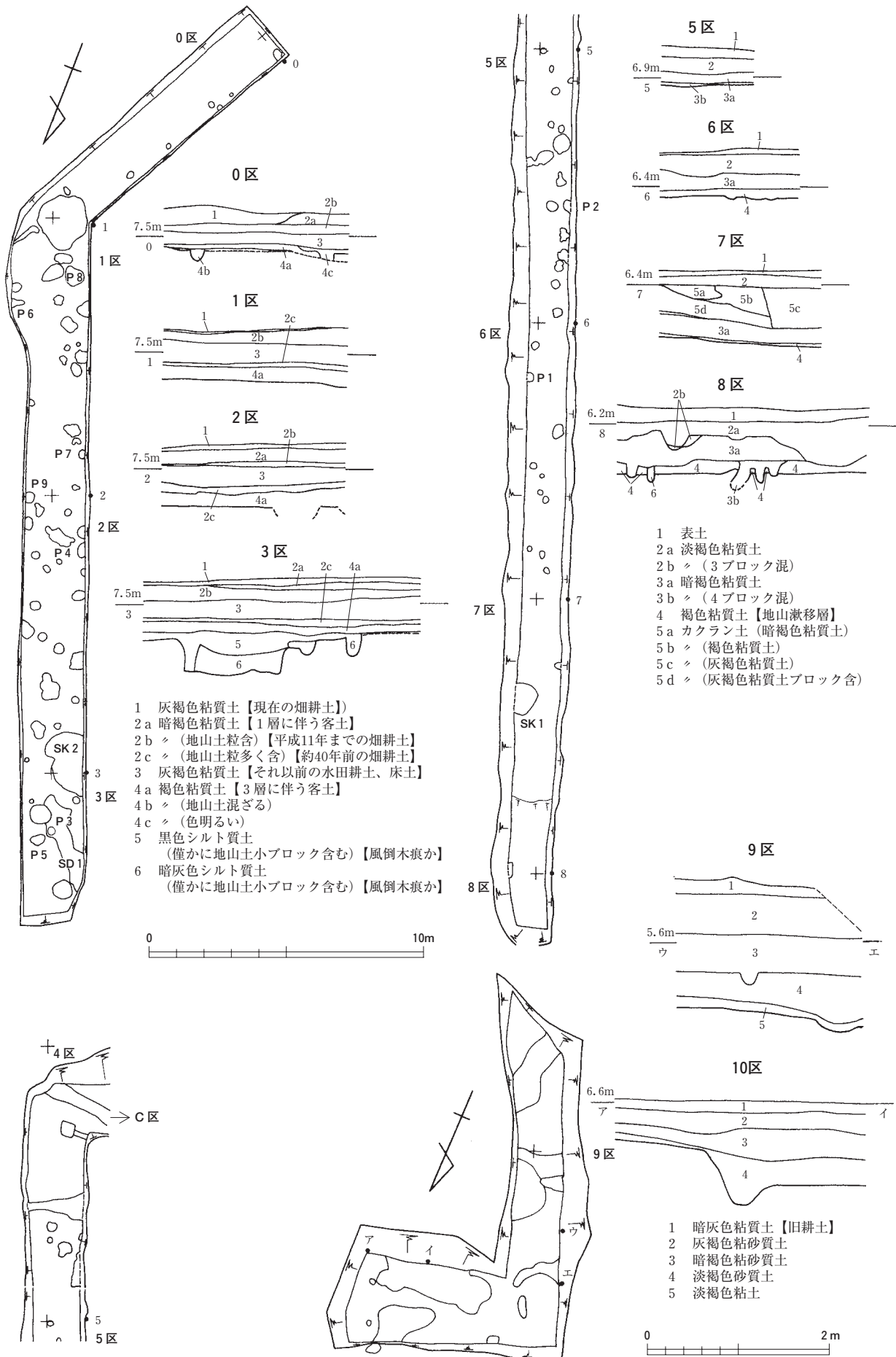
また、1～3区では堆積土に一带の農地改変の履歴が比較的良好に観察された(第112図D0～3区土層断面)。それによると、1層は現在の畑耕土、2a層はそれに伴う客土、2b層は平成10年までの畑耕作土、3層はそれ以前の水田耕土・床土。地元住人によると、一带は昭和33年頃に水田から畑に改変されたといい、その改変後の畑耕土が2c層とみられる。4a層はこれに伴う客土。各時期の改変に際してはそれ以下の堆積土や周辺の地山の削平も行っているようであり、客土中には黄色の地山土粒の混入が頻繁に認められる。0～3区周辺は50年弱の間に水田→畑→水田→畑→畑と改変され、約60cm人為的に盛土がなされたわけであり、今回さらに盛土のうえ水田化されるものである。一方で、平成12年度調査区域など耕土直下で地山となる場所も多く、近年の矢田野台地一带は大幅な切り盛りを行いながら、時々に応じて農地改変を行ってきたことが窺える。また、3区の最下で検出された不定形のSK2(5・6層)や、D1杭周囲の窪みは風倒木跡とみられ、しまりの甘い地盤であったことも度重なる農地改変の背景にあるのかもしれない。

遺構検出は地山面まで下げて行ったが、ピット、土坑等は地山直上に堆積する褐色粘質の地山漸移層上あるいはその上の暗褐色粘質土層から掘り込まれる。多くはC区と同様木根跡とみられるが、1区から3区にかけては古代から中世にかけての遺物を伴う土坑、溝、ピットが比較的集中して認められた。中でも1区検出のピットはP8をはじめ形状のしっかりしたものがある。掘立柱建物柱穴ともみられたが、全容は明らかにできなかった。

SK1 (第113図)

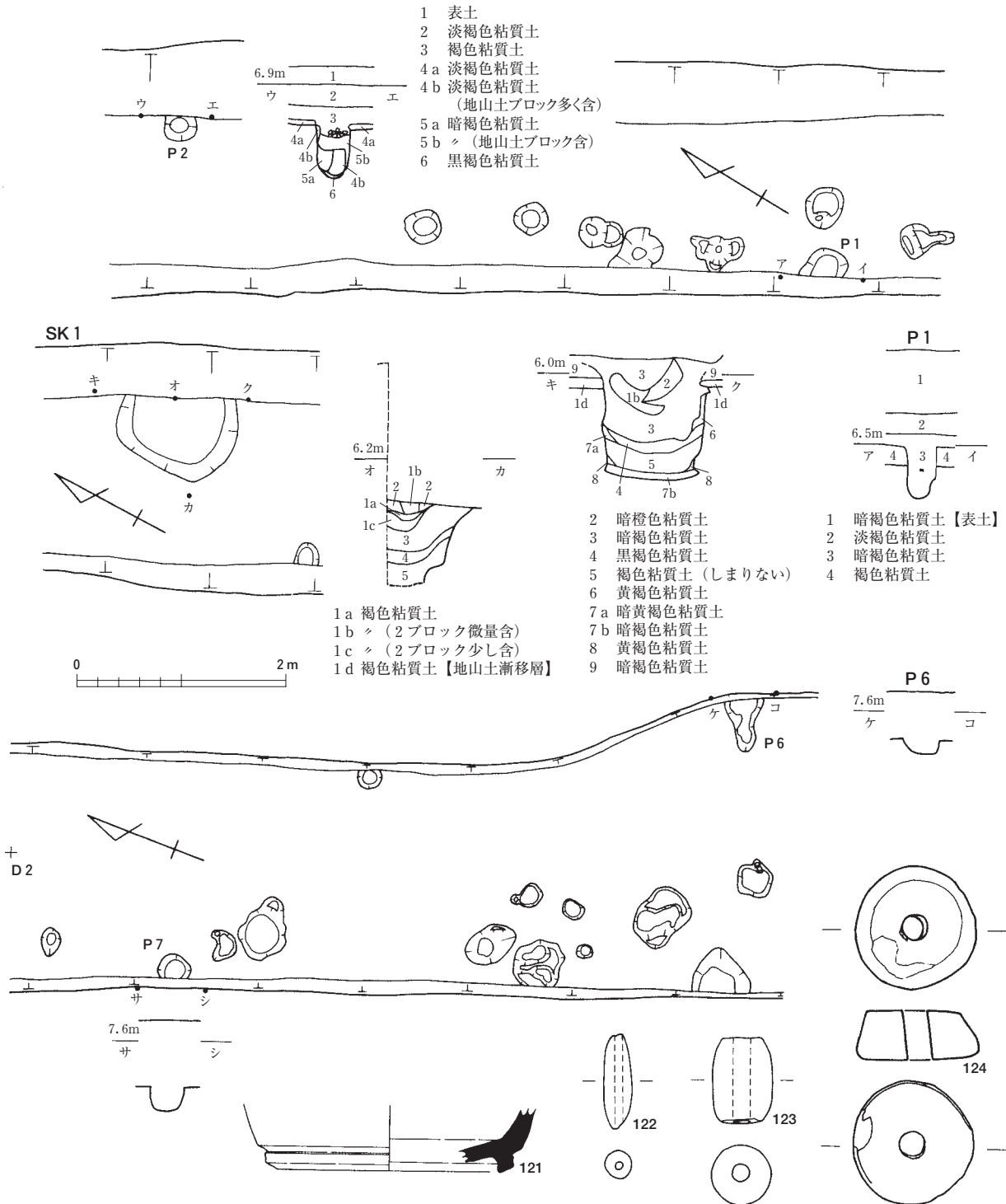
7区に位置する一辺約1.1m、深さ約1.1mの略方形の土坑で、やや凹む底面からほぼ垂直に壁が立ち上がる。覆土は底面の曲線にあわせ堆積し、下位では壁面が崩落したためか、オーバーハングし地山質の8層が入り込む。遺物は伴わず時期は不明確だが、形状からみて素掘り井戸の可能性はある。

その他、風倒木跡とみられる2区SK2からは土師器細片が、3区に位置し、幅約60cm、長さ3.2m以上、深さ5～10cmを測るSD1からは須恵器甕小片が出土。また、いずれも小径で浅いピットが多いが6区P1からは中世土師器皿小片が、5区P2はピット中位に堆積する5a層上で3～5cmの円礫多数が検出され、その中より中世土師皿が出土。3区P3、2区P4からは須恵器甕片が出土。3区P5からは珠洲焼甕片、12世紀頃の土師器碗片が、1区P6からは須恵器有台杯(121)が、同区P7中位からは中世以降とみられる細身小型の土錘(122)が出土している。径約80cm、深さ約38cmを測る1区P8からは土師器細片が出土している。また、5区検出面出土の陶錘123は近世以降の所産とみられる。同じく5区検出面出土の124は台形をなす凝灰岩製紡錘車である。角を少し欠き、最大径3.9cm、厚さ1.6cm、重量29.9g。頂部がやや平坦さを欠くが、全面よく磨かれ平滑をなし、特に、



第112図 D区遺構全体図 (S=1/200)、調査区壁断面図 (S=1/60)

わずかに凹む側面上半部はよく磨かれる。底部から側面へ角は丸く、頂部へは鋭角をなす。中央には直径0.73~0.8cmの隅丸方形がかった孔を穿つ。線刻等の加飾はなく、また、外面に顕著な使用痕跡は認められないが、頂部の孔縁がわずかに欠けており使用に伴う欠損の可能性もある。



第113図 D区遺構実測図 (S=1/60)、出土遺物 (1~3; S=1/3、4; S=1/2)

4. E 区 (第114図)

JR北陸線に沿って設けられる排水路敷設箇所であり延長約160m、調査区幅は2m。北東端はほ場整備事業地端の市道に接し、南西端はF区に続く。また、平成11年度調査のD区とは約6mの間隔をおいて平行し、E1区は平成11年度D1区に、E14区は同D14区に並ぶ。さらに、平成11年度調査A・C区はその北西端がそれぞれE4・E11区において接する。調査区域は昭和33年頃に実施された耕地整理により削平が加えられているが地山までは及ばず、地山直上の2層(厚さ10~30cm)中に収まる。その上に1層(耕土、厚さ約20cm)が客土されている。地山面標高は1区で8.1m、5区8.4m、10区8.5m、北東端の17区8.4mとゆるい起伏をなしている。

SI1 (第115・118図)

E5杭周囲に位置する。SK4が南西端に重複しており、断面観察からSK4はSI1埋没途中で掘り込まれたものとみられる。調査区外にのびており全容は不明だが、一辺4m前後の隅丸方形あるいは長方形をなすと推測する。深さは約50cmを測る。壁面からゆるく底面にいたり、底面は浅い碗形をなしやや凸凹する。内部から須恵器、土師器が出土しているが、特に、底から10~15cm上に堆積する2a層下半から集中して出土した。その分布はSK4上を中心とし、SI1、SK4の埋没途中に投棄された可能性が高い。出土遺物は7世紀第1四半期が主体だが、古代以降の坏・甕が少量認められる。125~130を図化した。125~127は焼成が甘く、軟質である。126の坏H身は底部外面をヘラケズリし、127の低脚有蓋高坏はカキ目調整する。SK4上面で出土した129の非ロクロ甕は外面に目の細かいハケ目調整を施す。遺構検出面出土である130のロクロ成形長胴甕は時期の下るものである。

SB1 (第115・118図)

E11杭周囲に位置し、平成11年度調査D区検出のSB04と合わせ全容がほぼ窺えた。3間×4間、6×4.2m、東西桁方位N-27°-Wの方形の建物であり、南面は2間とみられる。P7・7b・19およびH11調査ピットを柱穴とする。P7・7bは一辺50~60cm、深さ30~50cm、平面、断面とも方形をなす。P7検出面下10cmからは139の坏A身が出土している。8世紀代のものであろう。

SB2 (第115・118図)

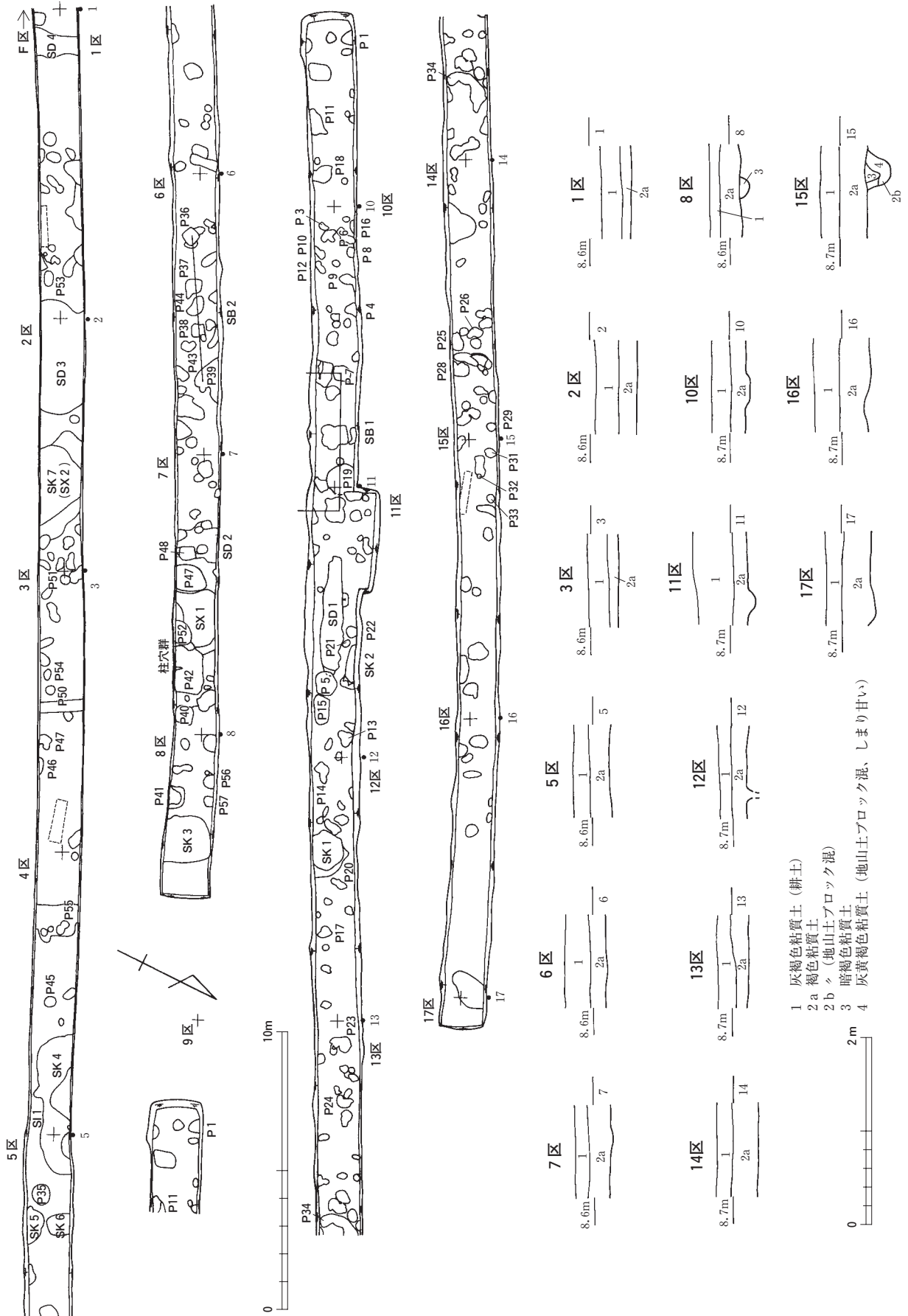
6区に位置する。P36・37・38・39を東西方向柱穴とし、長さ5m、N-60°-Eを向く。南北方向の伸びは不明。各柱穴は一辺50~60cmの方形あるいはやや長方形をなし深さ50cm前後を測る。P37・38底面には柱あたりかとみられる直径20cm程の凹みが認められた。P36から土師器、須恵器片が、P37からは土師器片が、P38からは須恵器片が、P39からは古代の須恵器坏、蓋片が出土している。

柱穴群 (第116図)

7区は広範囲に褐色土に覆われ、当初SX1としていたが、10cm程掘り下げたところ端正な平面形の大小ピットが検出された。調査区長軸に方向を同じくする柱穴列のあることが想定されるが、H11年度D区では調査区に斜行する掘立柱建物も確認されており、柱穴組み合わせは確定できていない。また、平行するH11年度D7区でも同様の広範囲の覆土下からピットが検出されており、あるいは竪穴状遺構の存在も推測される。

SK1 (第116・118図)

12区に位置する。直径約1.6mの不整円形をなす。断面隅丸逆台形を呈し、深さ36cm。底面から壁面に沿って堆積する2層からは甑口縁部片が、底面より28cm上がった1層上半よりは131の坏G蓋が出土した。天井部外面に厚く緑色釉を被り、外面に坏G身とみられる口縁部片が窯着する。7世紀第1四半期に位置付けられる。



第114図 E区遺構全体図 (S=1/200)、調査区壁断面図 (S=1/60)

SK 2 (第116図)

11区に位置し、調査区外へ伸びている。一辺約1.5mを測り、隅丸方形あるいは長方形をなすと推測される。断面逆台形を呈し、深さ約30cm。土器細片が出土したが、時期の判明するものはない。

SK 3 (第116・118図)

8区に位置する。短辺約1.6m、長辺1.6m以上の隅丸長方形をなすとみられ、断面隅丸逆台形、深さ約50cm。底面はわずかに凹凸をなす。132の須恵器器台は包含層中からの出土であり、約9m離れた7区SD2出土片と接合している。口径36.0cmと推測したが小片であり不安が残る。外反する口縁部は端部を丸みを持った三角形とし、口唇外面に浅く沈線を加える。体部内面当て具痕はロクロナデによりかすかとなっている。ざらつく胎土は在地のものとみられる。6世紀前半～中頃の所産であろう。他に須恵器・土師器細片多数が出土している。

SK 4 (第115図)

5杭西に位置し、長径約1.6m、短径約1.2mの不整楕円形を呈し、深さ51cm。断面観察ではSK4はSI1埋没途中で掘り込まれたものとみられ、上位に堆積する2a層下半で土器が集中して出土した。出土遺物はSI1で触れたが、SI1・SK4の埋没途中に投棄された可能性が高い。

SK 5 (第115図)

5区に位置する。直径約1mの円形を呈し、深さ25cm。土師器塼、羽口片などが出土している。

SK 6 (第115・118図)

5区に位置する。短辺約70cm、長辺80cm以上の隅丸長方形を呈し、深さ15cm。133の土師器碗、134の須恵器坏A身のほか、土師器長胴甕が出土している。ともに古代の所産である。

SK 7 (SX 2) (第117・118図)

2区に位置する。上縁で一辺2.8mの不整形をなし、当初はSX2と呼称した。縁からは緩やかに下り、中央部で一辺約1.2mの隅丸方形、深さ2m以上の土坑となる。壁面は平滑さを欠いており、西壁は垂直から下半でややオーバーハング、東壁は弱く外傾する。覆土は、上半は碗状に、下半は水平堆積し、全般にしまりは弱くさらさらする。土坑中途の3b層は内側に張り出し天井部をなしていたような固着感のある土であり、底辺の3c層はしまりをもっていた。狭小で危険なため最下まで掘りきれしていないが、不整な形状や覆土の状況からみて、貯蔵穴の類であろうか。検出面～検出面下1mでは7世紀前半の高坏脚透かし部や、古代に属する須恵器坏B身、土師器甕片が、検出面下1m～底にかけては古代に位置付けられる135の須恵器坏蓋のほか、7世紀前半代の須恵器坏、古代の須恵器杯B身、14後半～15世紀代の中国製青磁碗などが出土している。青磁碗からみて中世以降の所産とみたい。

SD 1 (第116図)

11区に位置する。長さ約4.3m、幅約7m、深さ約20cmを測り、北東端を柱穴とみられるP5に切られる。南西半部の覆土には粘土塊、焼土粒が多数含まれた。古代以降とみられる土師器片が出土している。出土遺物および調査区に沿う配置からみてSB1に関連する溝とみたい。

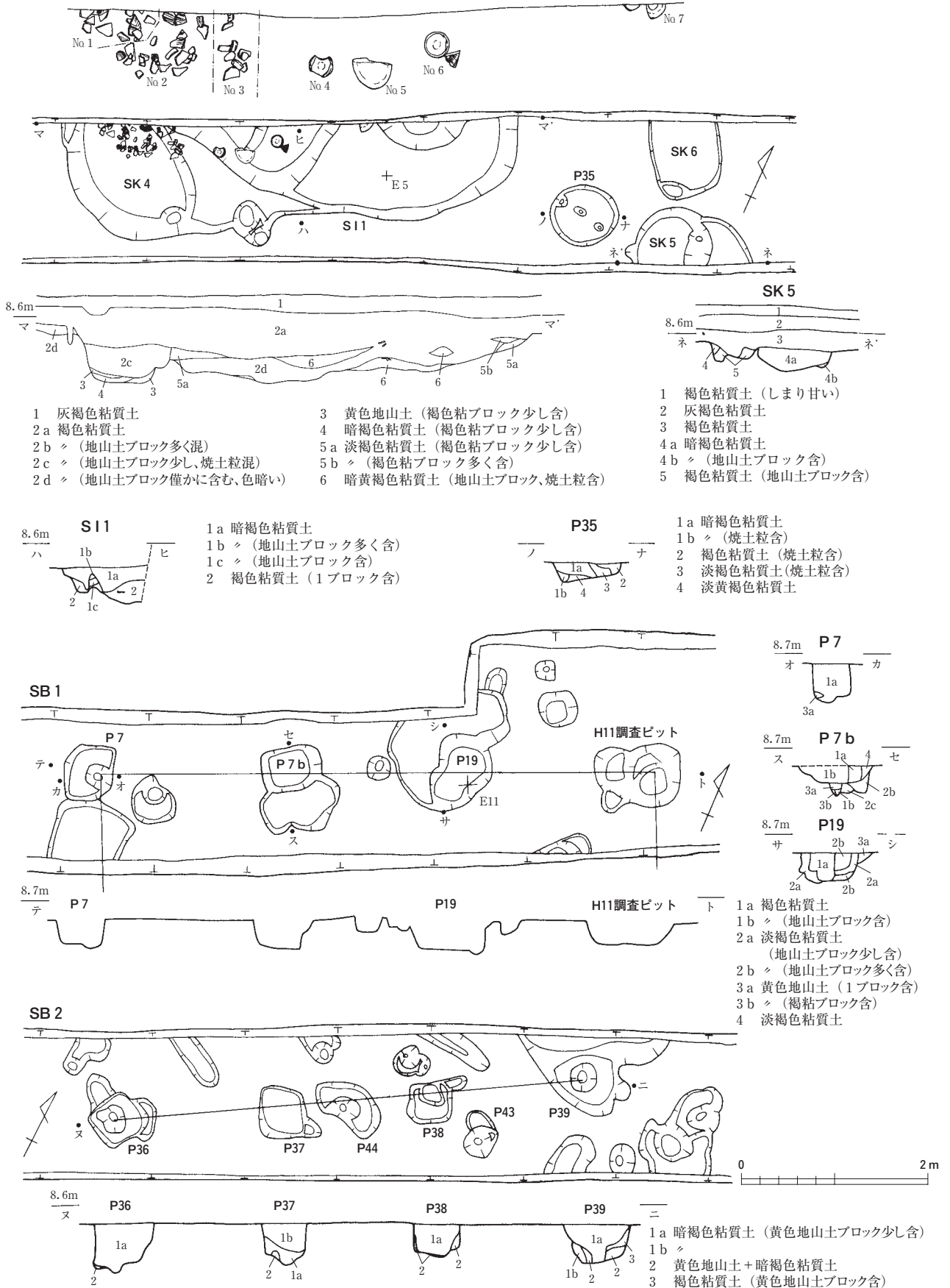
SD 2 (第116図)

7区柱穴群の西端に位置し調査区を横断する幅約1.2m、深さ15cm弱の溝状遺構である。隣接するSX1のような凹みの一部をなすのかもしれない。7世紀第1四半期の須恵器・土師器が出土している。

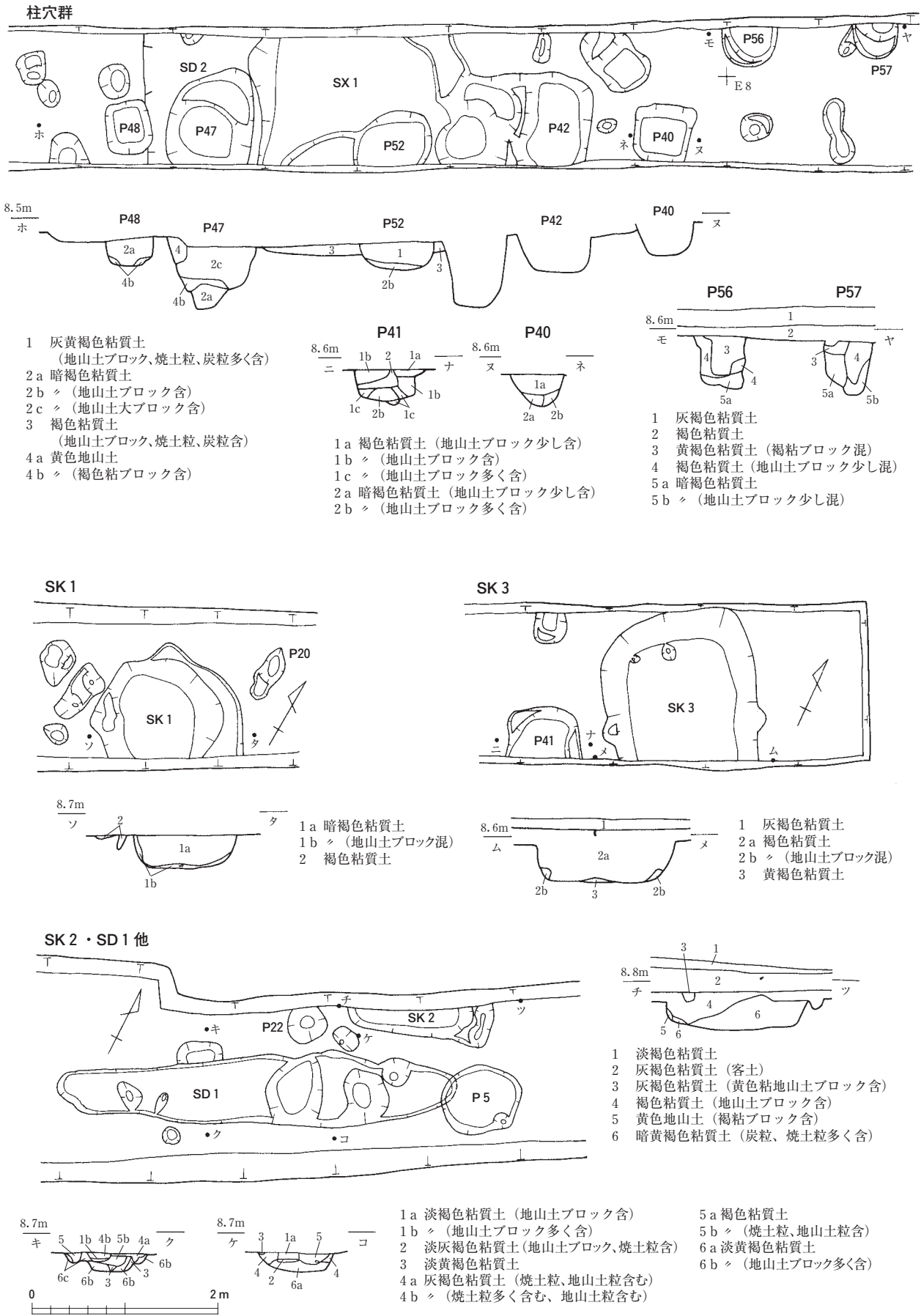
SD 3 (第117図)

2区に位置する。幅3.4m、断面碗形をなし、深さ約30cm。調査区を横断しており、あるいは土坑

SK4・S11内遺物出土状況 (S=1/30、Noは取り上げ番号)



第115図 E区遺構実測図1 (S=1/30・1/60)



第116図 E区遺構実測図2 (S=1/60)

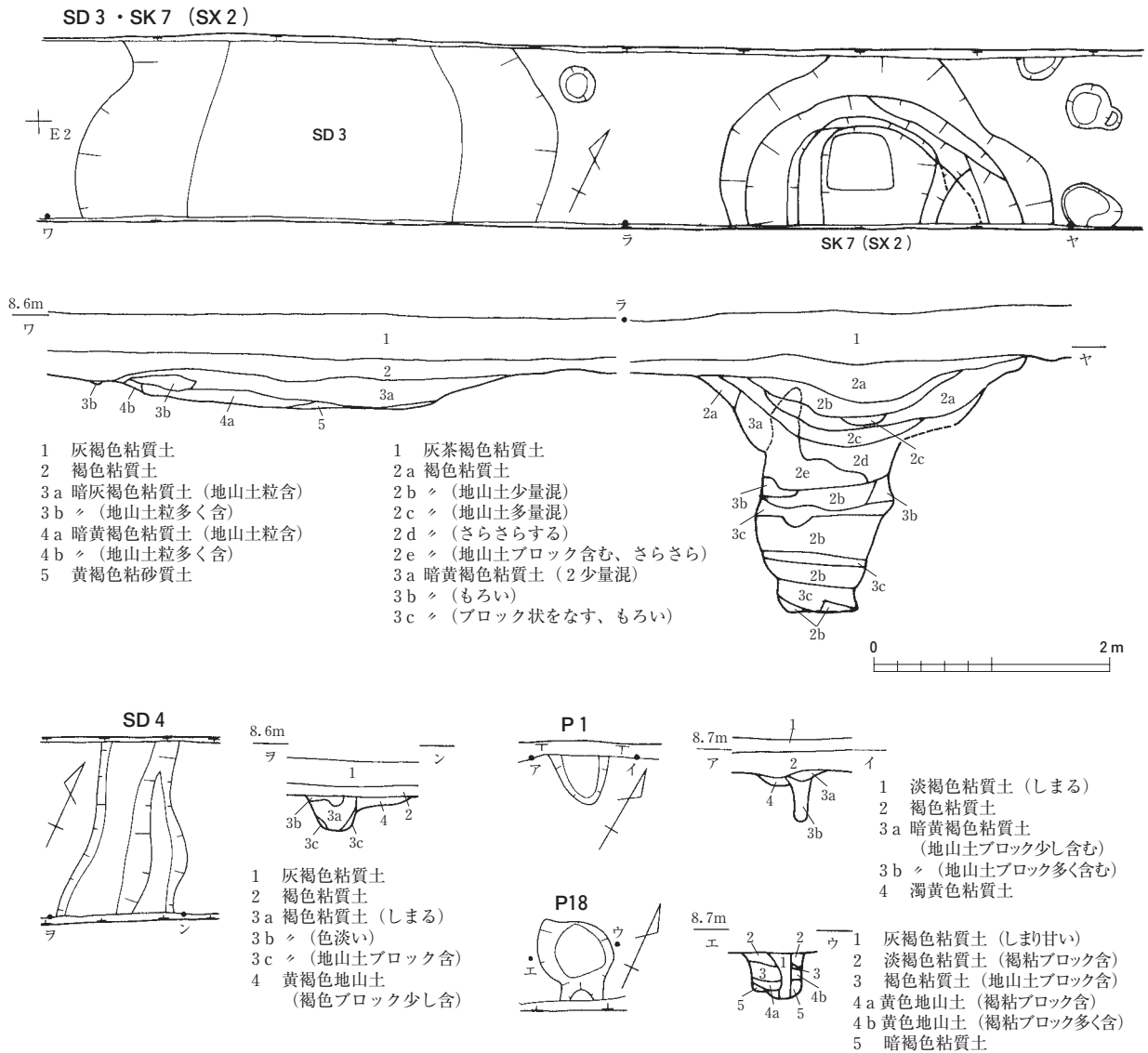
かもしれない。最下にはE地区では希な砂質土（5層）が堆積する。6世紀後半～7世紀前半に位置付けられる須恵器甕口縁部が出土している。

SD 4（第117図）

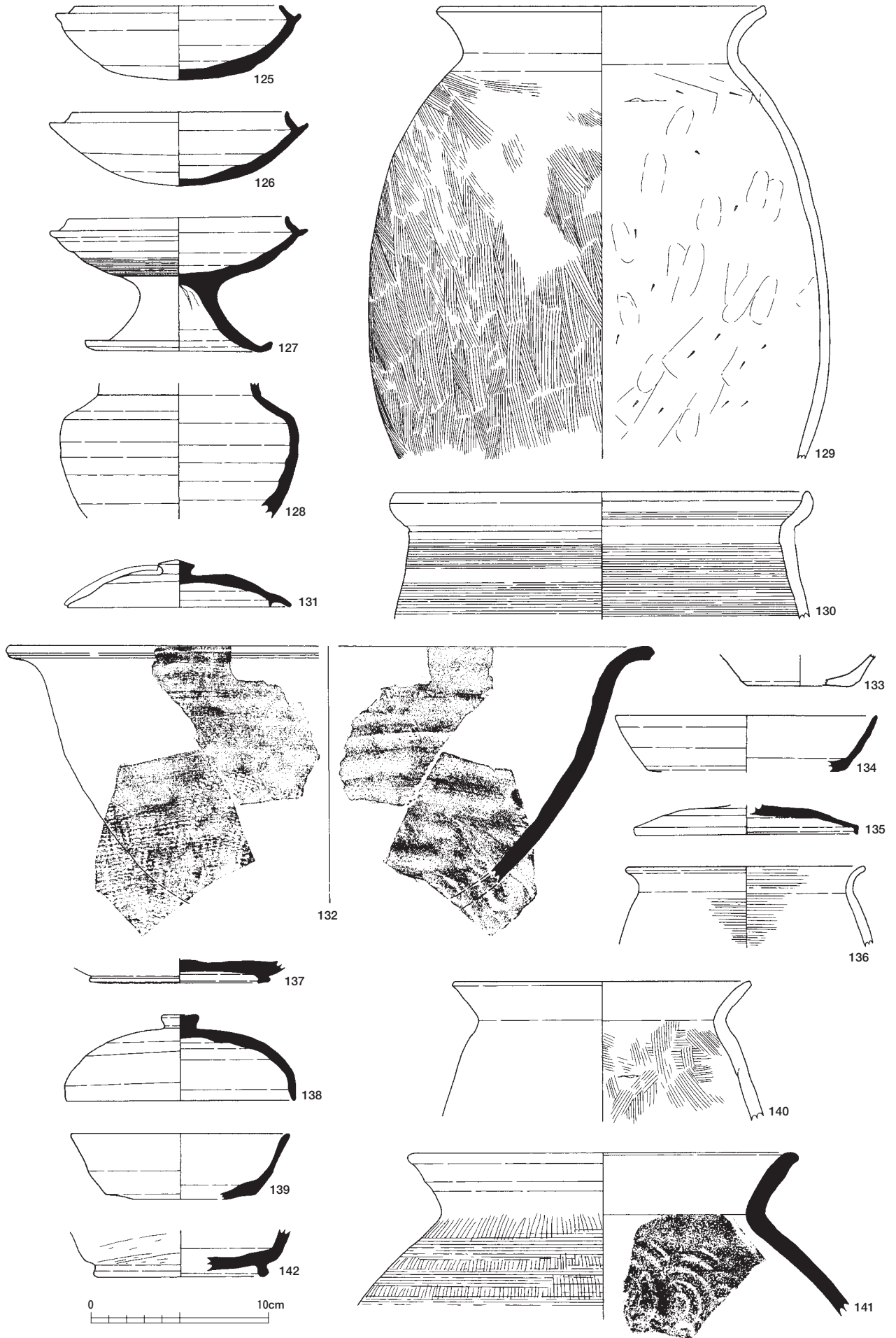
E1区に位置する調査区を横断し、幅80cm、東側で段をなし、深さ約30cm。底面より15世紀代の古瀬戸平碗が出土しており、当期頃の溝とみられる。

ピット（第115・116・117・118図）

138はE9区のP1出土の高坏蓋。小径で、端正な形をなす。天井部外面のケズリ調整は、つまみ貼り付けに伴うナデ調整により不明瞭となっている。7世紀第1四半期のものであろう。140はE7区P42出土の土師器非ロクロ甕。摩耗により不鮮明だが、外面は縦位にハケ目を加えるようである。P7出土の141の須恵器甕は焼成が甘く淡橙色を呈する。140、141はE区の主体となる7世紀前半代の所産であろう。



第117図 E区遺構実測図3 (S=1/60)



第118図 E区出土遺物 (S=1/3)

5. F区

調査区は周知の遺跡である矢田野古墳群に近接し、北陸本線に並行する。北東部はE区、南西部はD区とつながる。遺構検出面は耕土直下30～50cmで、1～8区が標高8.1～8.3m、古墳が存在する9区より南西は8.9～9.1mと高くなるが、14区からは地形が谷部に当たるため、徐々に低くなり、調査区南西端で7.5mを測る。遺構は古墳周溝、竪穴建物、柱列、溝等を確認し、遺物は主に6世紀後半～7世紀前半の須恵器や土師器が出土しており、古墳周溝からは円筒埴輪片がみられる。

古墳1 (第120・121図)

10～12区に位置する。周溝は調査区北西端から北東端にかけて弓なりに巡っており、墳丘の規模・形状は周溝の規模等から直径約9mの円墳と推定できるが、断面観察から北東部に溝が延びる可能性があること、また、さらに北東端でその溝を掘り込むように存在する溝を確認でき、一連の溝として考えた場合、他の形状も十分に考えられる。周溝は上幅2.5m、下幅0.8m、深さ0.4mを測り、それに対して、北東方向に走る溝は上幅1.4m、下幅0.6m、深さ0.4～0.55mを測り、前者に比べて規模は小さく、やや深くなる傾向にある。周溝覆土は表土層、その下層に黒褐色粘質土、暗褐色粘質土、地山が混じる淡暗褐色粘質土を基本とし、墳丘部は上層から表土、暗褐色粘質土、黒褐色粘質土となる。遺物は墳丘部や周溝内部から6世紀後半(中頃?)から7世紀代にかけての須恵器や土師器を主として、古代に属すると思われるものも混じって出土しており、B区検出の周溝と比べて遺物量は少なく、円筒埴輪片が認められる。また、主に墳丘部の表土直下層の暗褐色粘質土及び黒褐色粘質土から出土しており、周溝内部出土のものも同様で、最下層である淡暗褐色粘質土からはほとんど認められない。埴輪片は墳丘部付近を中心に、南西側で出土している。第124図150～159を図化した。

古墳2 (第120・121図)

13～14区に位置する。13・14区において北西から南東方向に走る溝を確認し、共に内側にやや湾曲する形状をとることから、同一の溝の可能性があり、両溝の内側の遺構密度が低いことや周辺遺跡の状況から古墳周溝と判断した。墳丘の規模、形態は検出した周溝がわずかであるため不明であり、調査区と線路の間には一部墳丘部の旧状を残すと思われる高まりの箇所が残っているが調査には至っていない。両溝は上幅2.3～2.4m、下幅0.5～0.8m、深さ0.55～0.75mを測り、断面形は13区が逆台形、14区は底部箇所が狭い三角形に近い形態である。覆土は暗褐色粘質土と黒褐色粘質土が互層状になっており、共に底部及び北東肩立ち上がり部に地山ブロックが混じる土層が認められ、また、両肩上部には地山ブロックが少量混じる高まりがみられる。遺物は6世紀後半から7世紀前半の須恵器や土師器が少量出土しているが、埴輪片は認められない。

SI1 (第122図)

2区に位置する。北東-南西4.65m、北西-南東1.5m以上、深さ0.45mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。覆土は暗褐色粘質土を主体とし、全体的に地山ブロックが混じる。床面は平坦で硬くしめる。遺物は古代と考えられる須恵器片等が出土している。

SI2 (第122図)

6区に位置する。1/2以下の検出であり、東西3.9m以上、南北1.1m以上、深さ0.2mを測る。内部には直径0.2～0.45mを測る小穴が確認でき、最も西側の小穴には焼土ブロックや炭粒がみられ、被熱の痕跡が伺える。また、調査区南壁にかかる中央付近では粘土塊が認められる。遺物は須恵器や土師器片が出土しているが時期は不明である。

SI 3 (第122図)

8区に位置する。1/2以下の検出であり、東西5.2m、南北1.35m以上、深さ0.2~0.4mを測る。覆土は暗褐色粘質土を主体とし、全体的に地山ブロックが混じる。遺物は7世紀前半と考えられる土器が北東部から集中的に出土しており、第124図143~145を図化した。

柱列 (第123図)

3~4区に位置する。P1-P2-P3で構成する柱列は東西両側でそれに係る小穴が認められなかったことから、南北方向に延びると考えられ、遺物はP3から土師器片が出土しているが時期は不明である。P6~9等で構成する柱列は、北東軸をもつ建物になる可能性があり、遺物はP6から土師器片が確認できた以外は出土していないため時期は不明である。その他にも多数の小穴を確認しているが、その大半は木根によるものと考えられる。

SK 4 (第122図)

6区に位置する。直径1.1m、深さ0.65mを測り、平面形は略円形を呈する。覆土は暗褐色粘質土を主体とし、周囲には同規模の土坑が集中する。遺物は出土していない。

SK 7 (第122図)

9区に位置する。調査当初、東西方向に走る溝として約10cm掘り下げたところ、中央付近で土坑を検出したものである。南北0.8m、東西0.7m、深さ0.35mを測り、平面形は楕円形を呈する。覆土は暗褐色粘質土を主体とし、全体的に地山ブロックが混じる。土坑東側上端部からは6世紀後半と考えられる須恵器高坏、セット関係になると推定する須恵器坏・蓋が出土しており、第124図147~149を図化した。

SK 9 (第122図)

7区に位置する。南北1.05m以上、東西1.25m、深さ0.45mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。覆土は暗褐色粘質土を主体とし、全体的に地山ブロックが混じり、深さ10~20cmの第3層土では焼土ブロックや炭粒が認められる。遺物は須恵器片が出土しているが時期は不明である。

SD 1 (第123図)

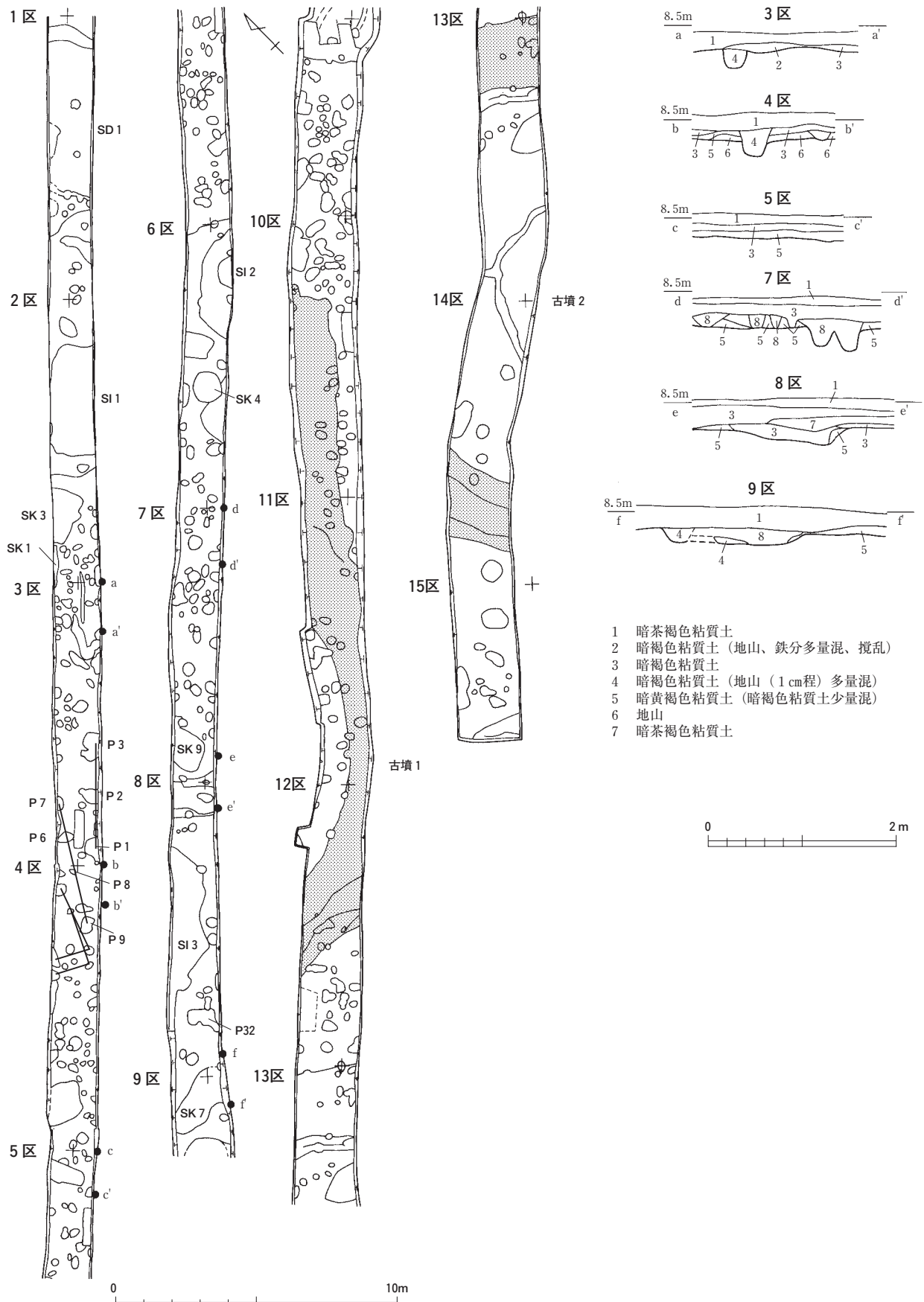
1区に位置する。幅7.45m、深さ0.2~0.6mを測る。覆土は暗褐色粘質土を主体とし、断面形は逆台形を呈し、西側は段堀り状となる。底面はほぼ平坦であり、部分的に硬くしまる。遺物は7世紀後半から8世紀代と考えられる須恵器や土師器片が出土している。

6. G区

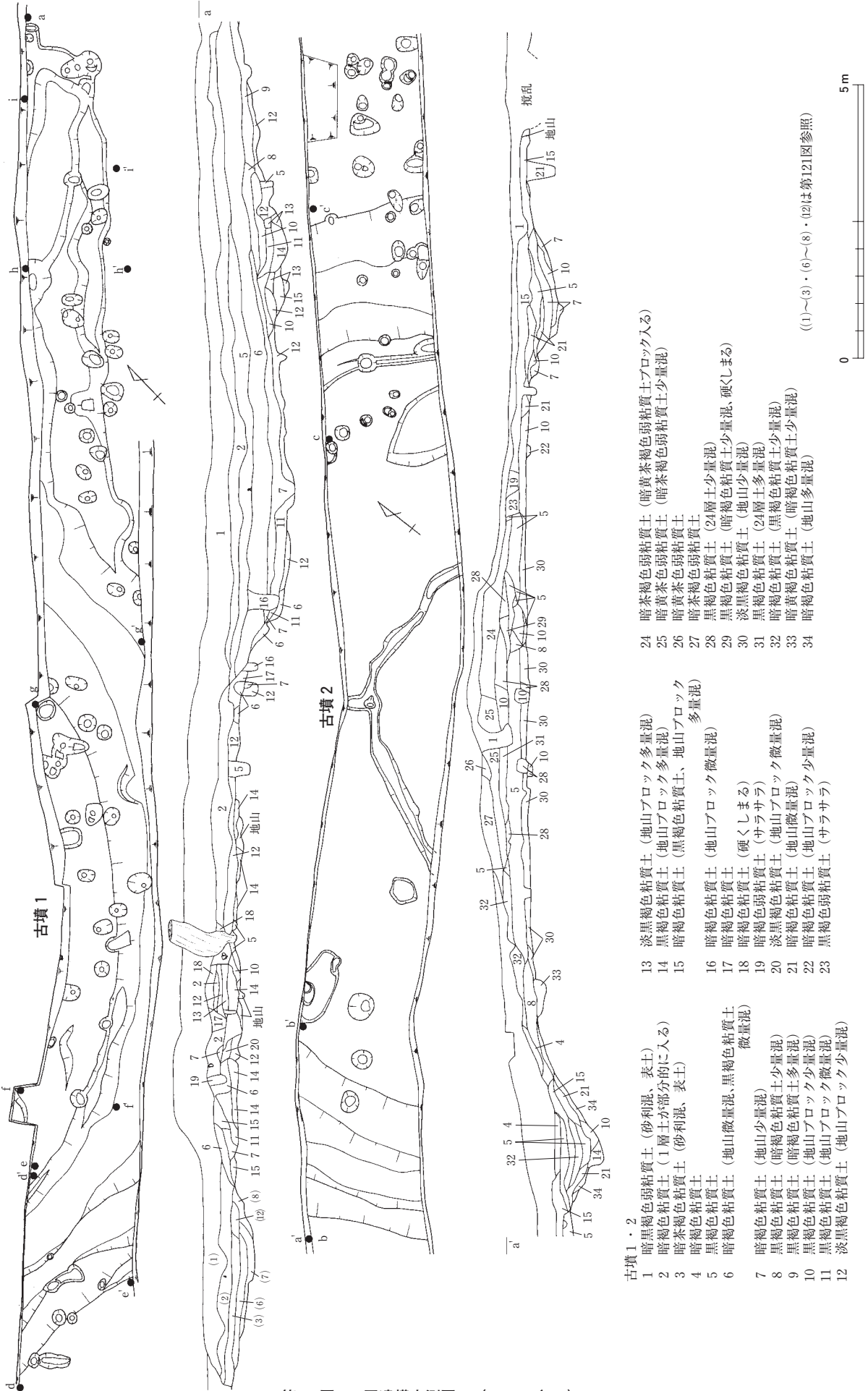
調査区は北東端をB区に接し、そこから南西方向に北陸本線に並行して延び、8区と11区間は50m間隔があく。遺構検出面は1~8区が標高8.1~8.3mを測るが、12区から南西は徐々に低くなり、15区南西端で6.8mを測る。16区から南西は更に掘り下げを行ったが、地山は確認できていない。遺構は主に1~8区間において竪穴建物、土坑等を確認し、11区から南西は希薄である。遺物は主に6世紀後半~7世紀前半の須恵器や土師器が出土している。なお、1~4区間の中央部、5~8区間の北部は削平を受けている。

SI 1 (第126図)

3区に位置する。北東-南西6.0m、北西-南東3.2m以上、深さ0.15mを測る。主柱穴はSK4等の土坑や小穴で構成すると考えられる。SK4・6・9は4本柱を構成する配置としては適当であるが、長軸0.7~1.0m、深さ0.35~0.5mを測り、柱穴にしては規模が大きいように思われることから、SK11とSK9の北西部に位置する小穴の可能性もある。床面は北西部のSK4の周りから南西部にか

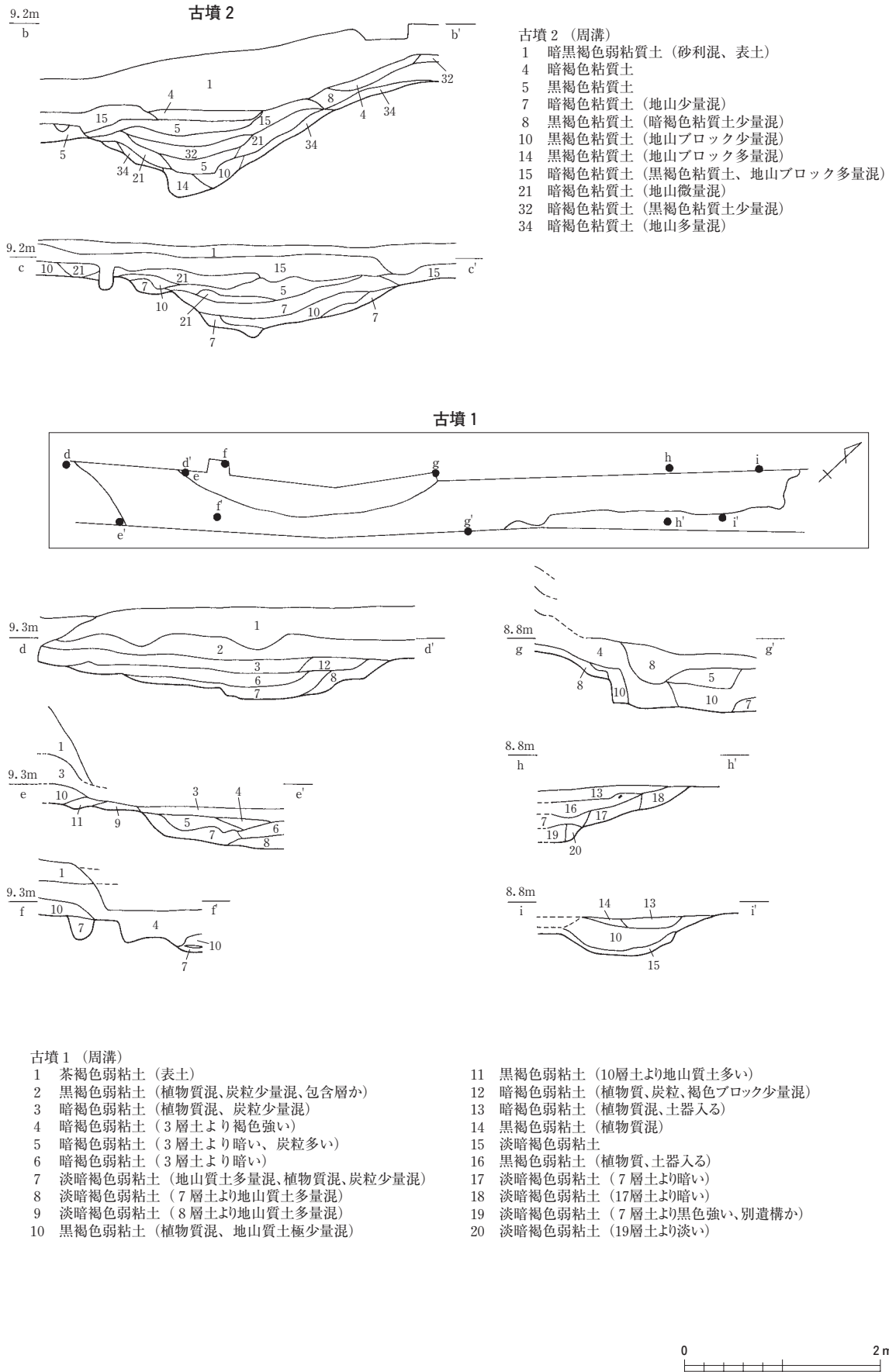


第119図 F区遺構全体図 (S=1/200)、調査区断面図 (S=1/60)

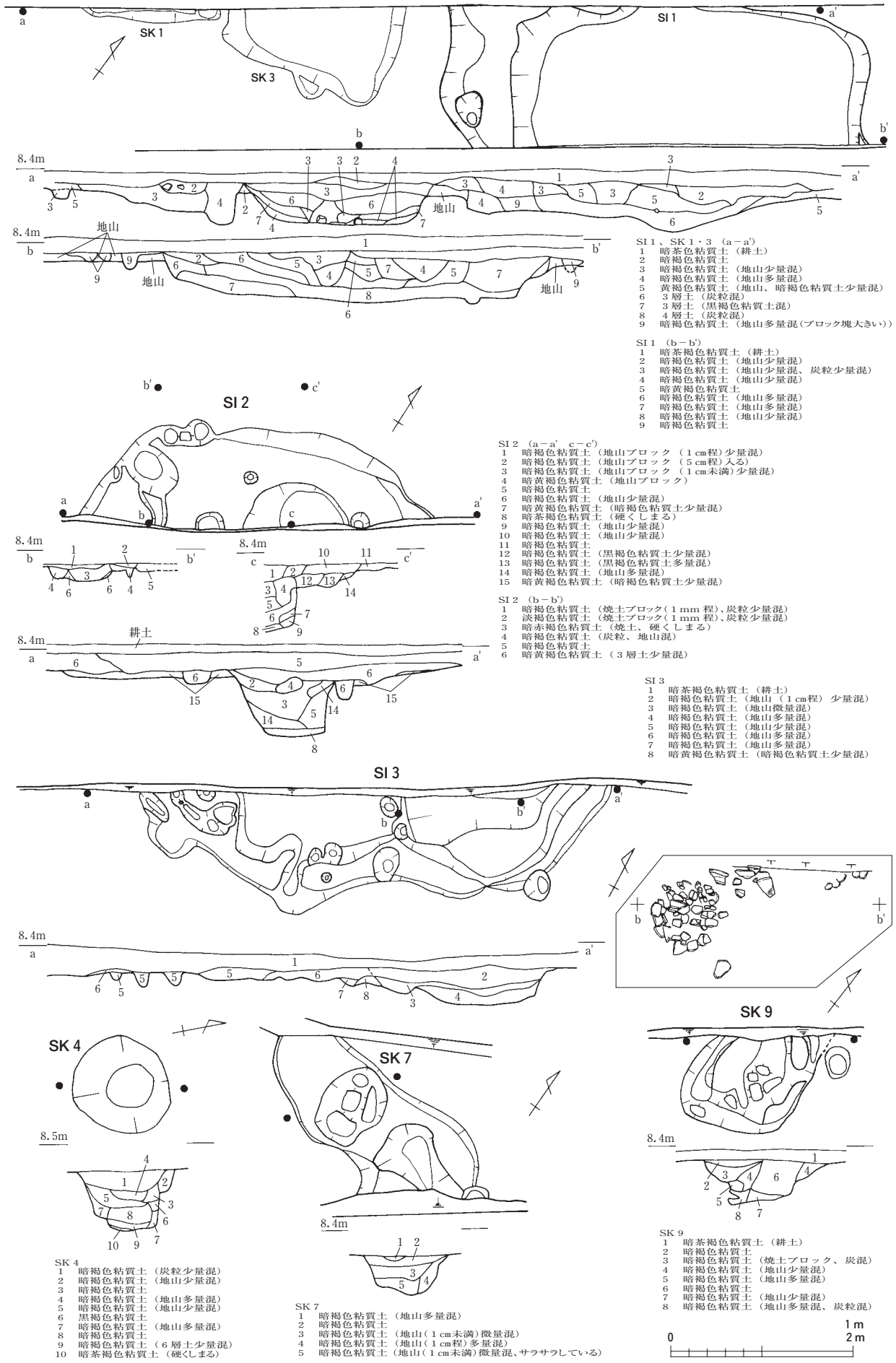


第120図 F区遺構実測図1 (S=1/100)

第2節 遺構と遺物

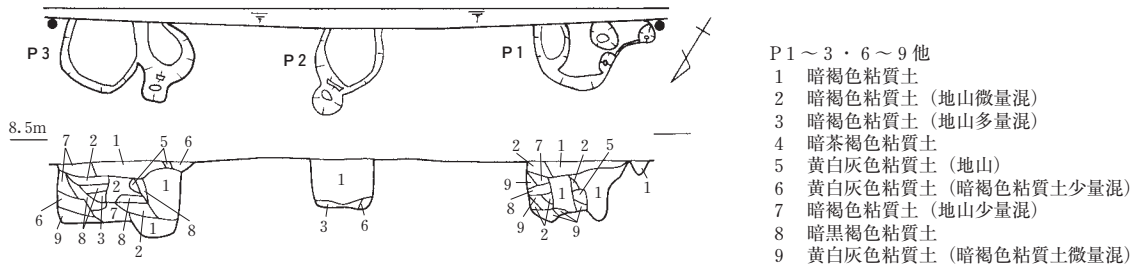


第121図 F区遺構実測図2 (S=1/60・1/200)

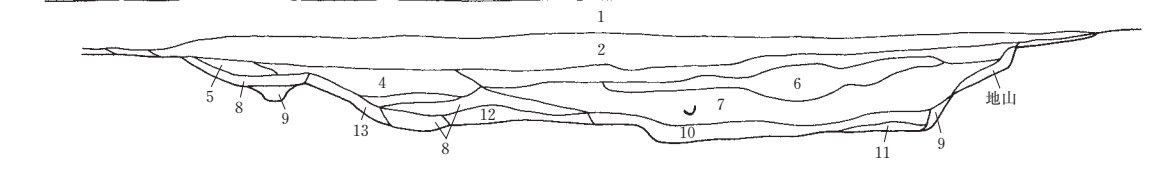
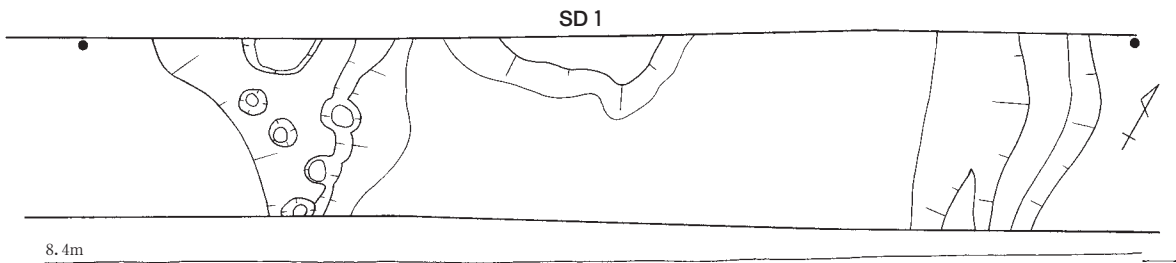
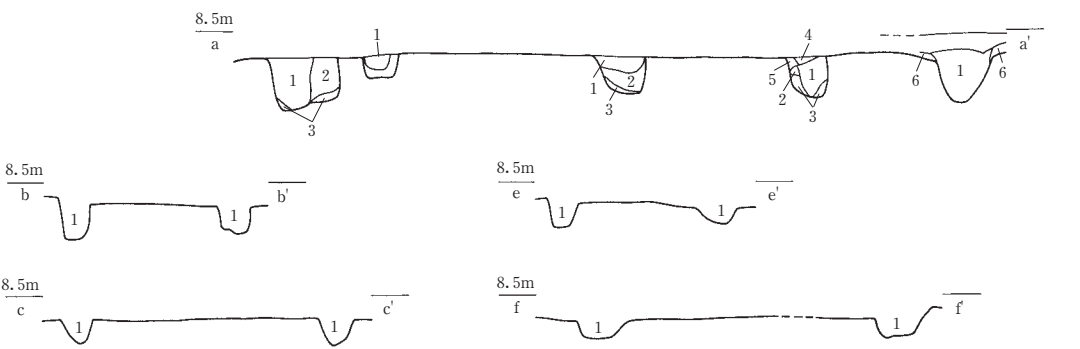
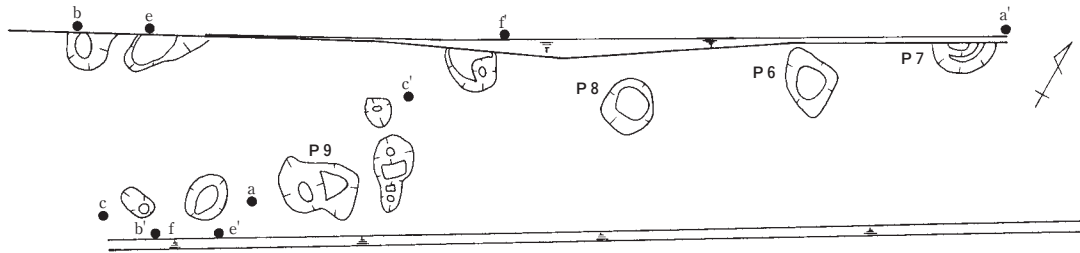


第122図 F区遺構実測図3 (S=1/30・1/60)

第2節 遺構と遺物



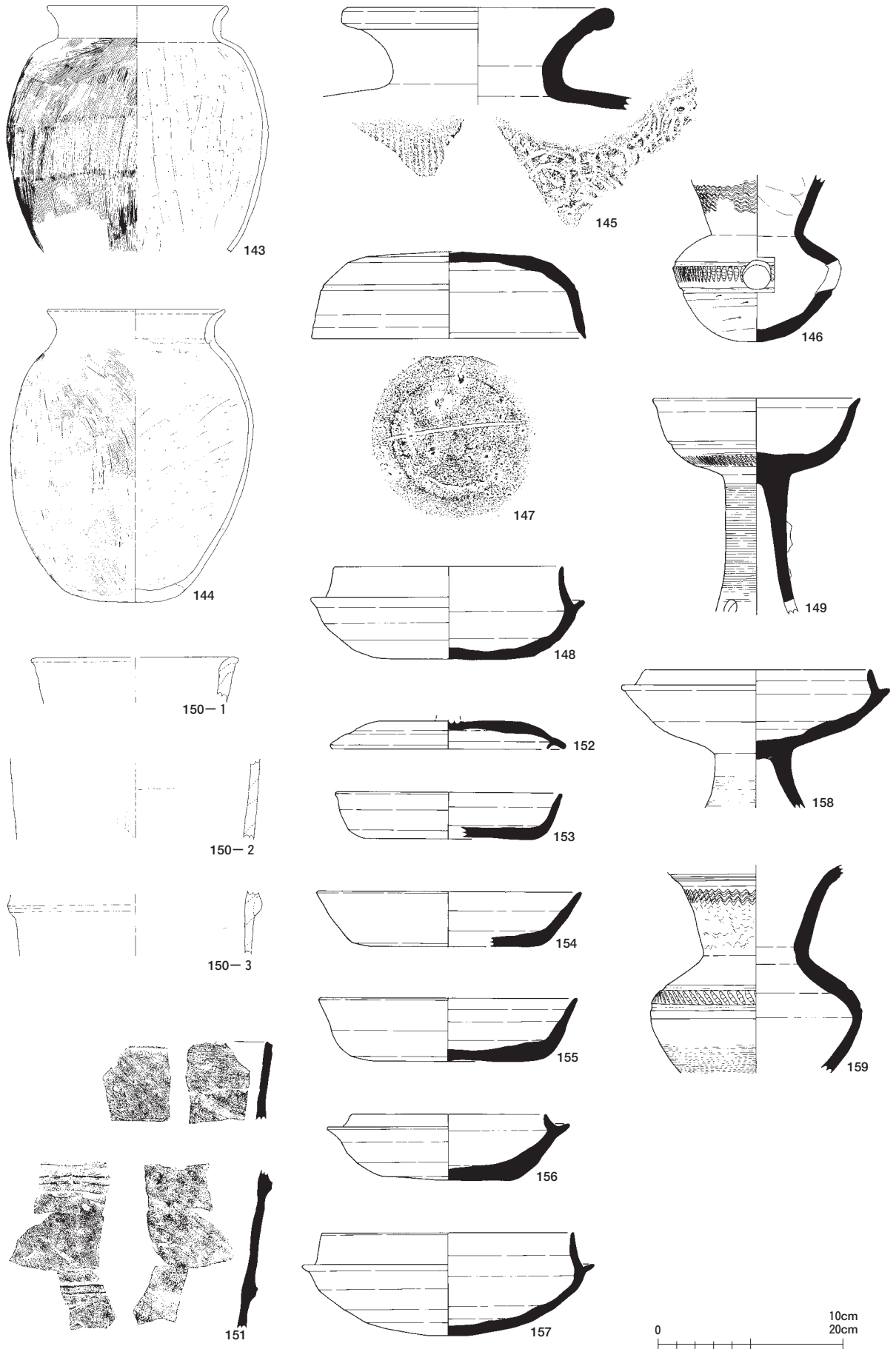
- P1～3・6～9他
- 1 暗褐色粘質土
 - 2 暗褐色粘質土 (地山微量混)
 - 3 暗褐色粘質土 (地山多量混)
 - 4 暗茶褐色粘質土
 - 5 黄白灰色粘質土 (地山)
 - 6 黄白灰色粘質土 (暗褐色粘質土少量混)
 - 7 暗褐色粘質土 (地山少量混)
 - 8 暗黒褐色粘質土
 - 9 黄白灰色粘質土 (暗褐色粘質土微量混)



- SD 1
- 1 暗茶色粘質土 (耕土)
 - 2 暗褐色粘質土 (地山 (1 mm 程) 少量混)
 - 3 暗褐色粘質土 (地山 (1 ~ 2 cm程) 少量混)
 - 4 暗褐色粘質土 (地山 (1 cm程) 少量混)
 - 5 暗褐色粘質土 (地山多量混)
 - 6 暗褐色粘質土 (地山微量混)
 - 7 暗褐色粘質土 (地山少量混)
 - 8 黄褐色粘質土 (暗褐色粘質土少量混)
 - 9 暗褐色粘質土
 - 10 黒褐色粘質土 (地山少量混)
 - 11 黒褐色粘質土
 - 12 黄褐色粘質土 (暗褐色粘質土微量混)
 - 13 暗褐色粘質土 (地山 (3 cm程) 多量混)



第123図 F区遺構実測図4 (S=1/60)



第124図 F区出土遺物 (145~149・152~159; S=1/3、143・144・150・151: S=1/6)

けて、焼土や炭粒が認められ、大変脆くなっており、また、北西部の中央付近において、多量の焼土層が認められることから、炉跡の可能性はある。遺物は6世紀後半から7世紀前半の須恵器や土師器が出土しており、第128図160～163を図化した。

SI 2 (第126図)

5区に位置する。1辺4.0～4.5m、深さ0.2～0.3mを測り、平面形は方形を呈すると考えられる建物跡である。支柱穴は4本柱をとると考えられ、内部において3基確認している。床面は部分的に大変脆くなっており、特に北西部から南西部に位置する小穴にかけては炭粒や焼土が溝状に広がりを見せる。遺物は東部において土師器甕や壺が一括して出土しており、第128図164・165を図化した。

SI 3 (第126図)

7区に位置する。北-南1.1m、東-西4.6m、深さ0.4mを測る。1/2以下の検出であることや東部が攪乱により壊されていることから全体の平面形は捉えにくい面があるが、やや不整形な平面形を確認できることから、数基の遺構が切り合っている可能性があり、出土遺物から他の遺構に後出すると考えられる。第128図166・167を図化した。

柱列 (第127図)

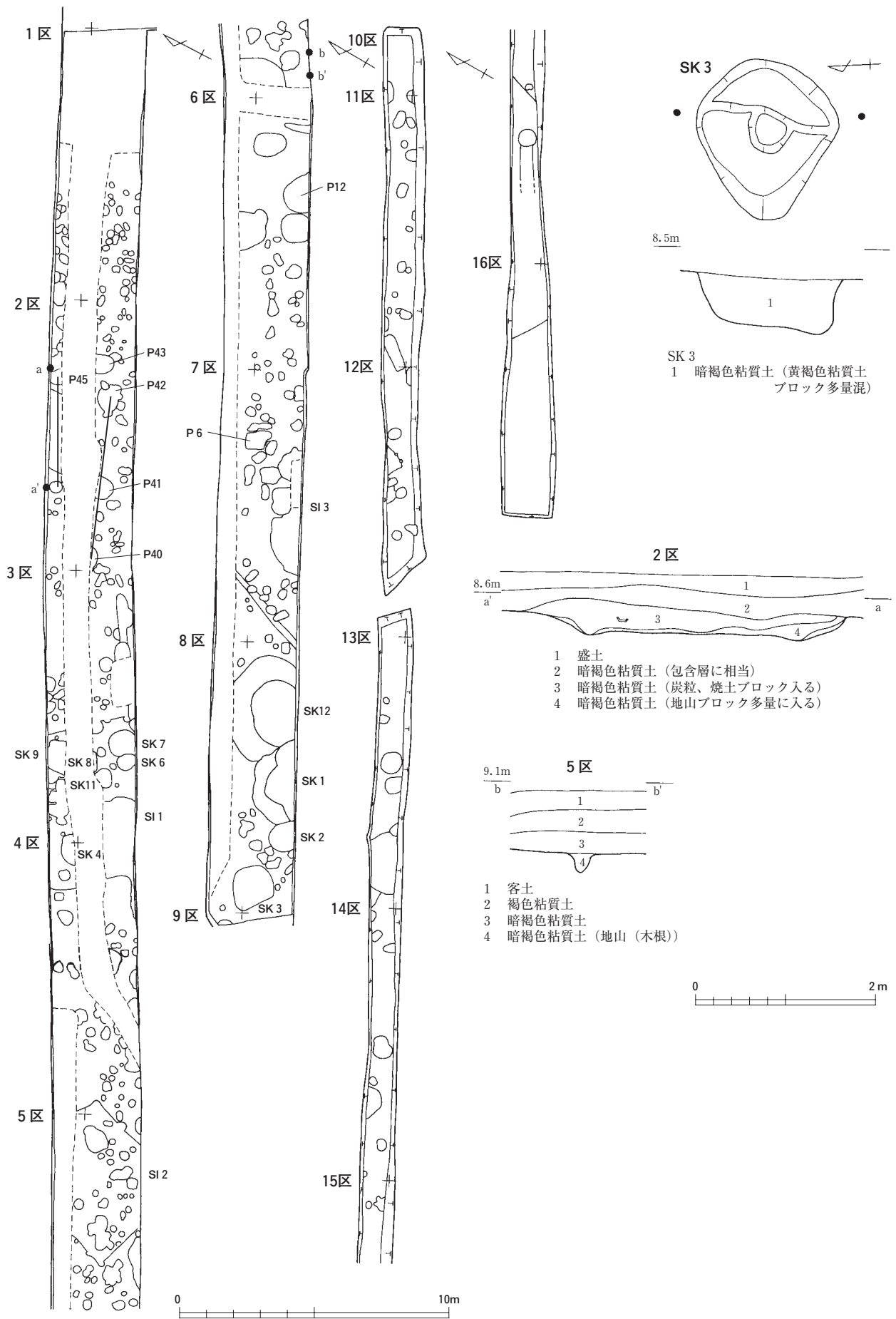
2区に位置する。P40～42で構成する柱列で、東西方向でつながる柱穴を確認できなかったことから南北方向に延びると考えられ、P45が柱列として可能性がある。遺物はP42から須恵器や土師器片が出土しているが時期は不明である。

SK 1・2・12 (第127図)

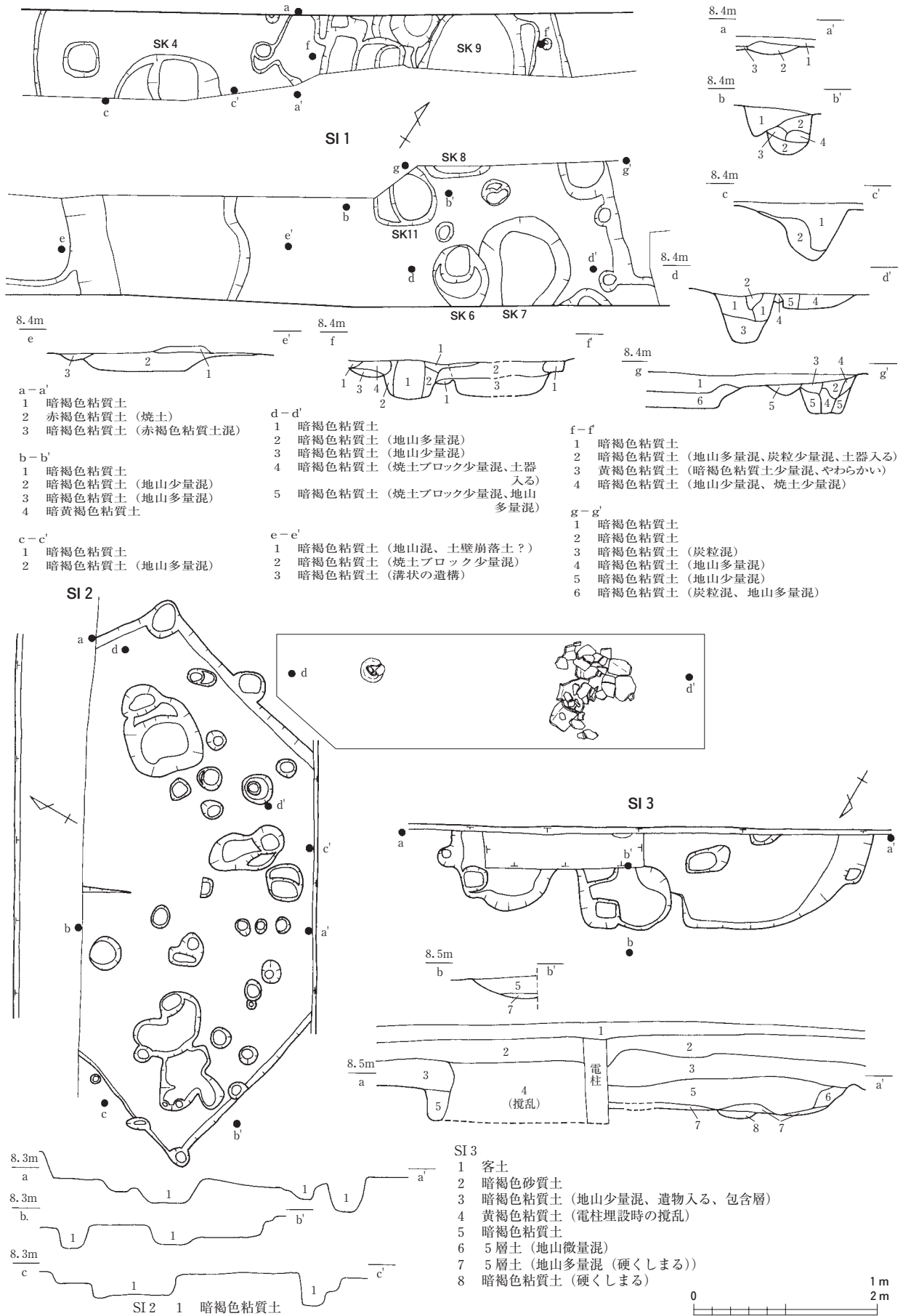
8区に位置する。3基は切り合い関係をもって存在し、SK 2が最も新しく、次にSK 1が続き、SK 12が最も古い。SK 2は第5・6層土に対応し、両側壁は直に立ち上がる。SK 1は第7～20層土に対応し、中層から下層にかけては炭粒、焼土が多量に認められ、東側壁部には地山ブロックが混じる。SK 12は第21～24層土に対応する。遺物は6世紀後半から7世紀代の須恵器蓋、坏、高坏、甕や土師器甕、椀等が多量に出土しており、SK 1から12にかけての調査区南壁側に集中してみられ、第7層土からの出土が多い。第128～130図168～208を図化した。

第3節 まとめ

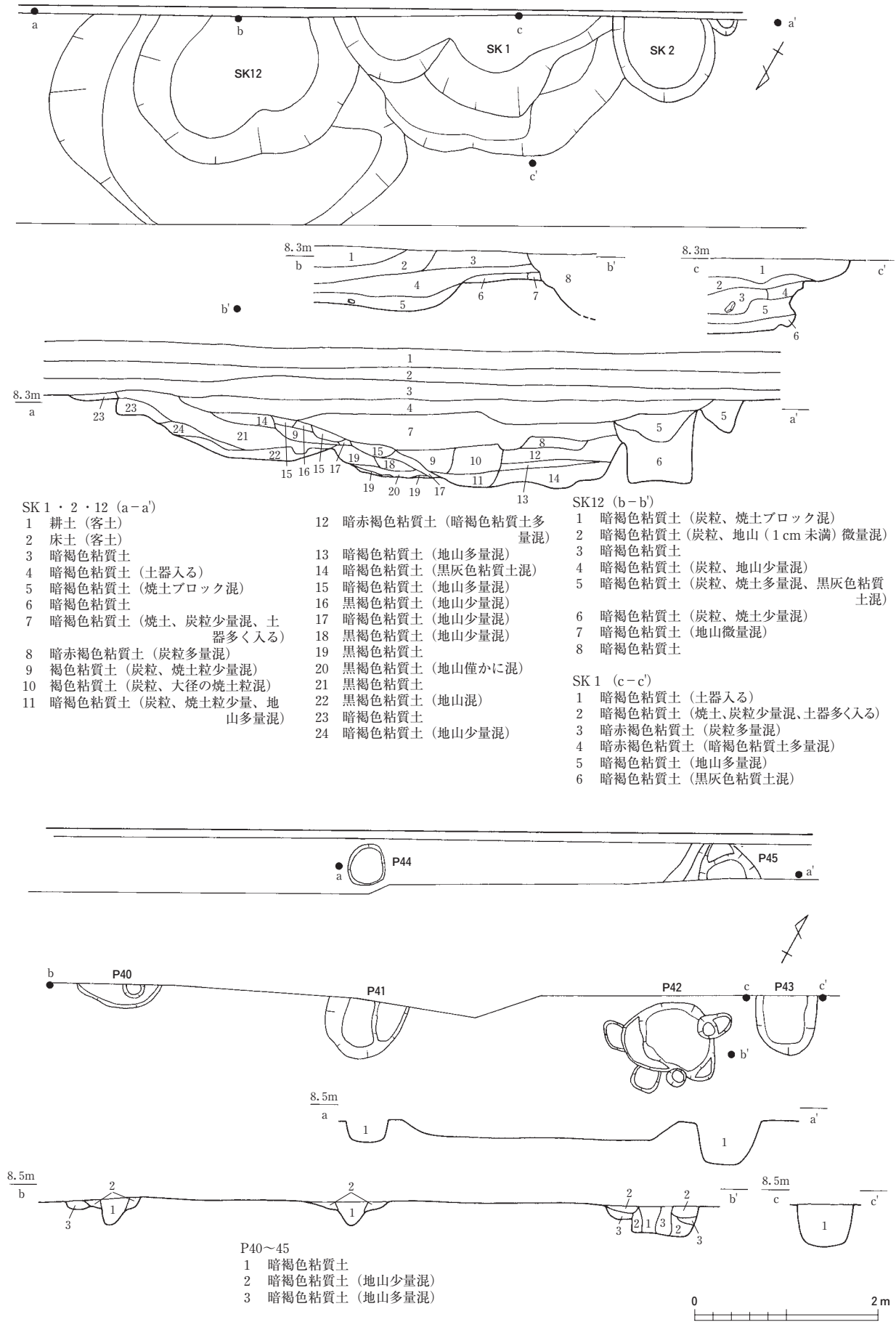
平成14年度調査では、古墳から中・近世にかけての遺構・遺物を確認しており、その主体期はおおまかに①古墳時代後期、②古代前半、③中世に大別できると考えられる。①期ではB・F区古墳(周溝)、B・E・F・G区の竪穴建物等が確認でき、これらは6世紀後半から7世紀前半を主体とするものである。古墳は周溝のみの調査であり、墳丘部の詳細が分からないこと等からはっきりしないが、位置関係からB区は百人塚古墳、F区は矢田野古墳の範疇におさまる可能性がある。②期では8世紀代と考えるE区の掘立柱建物が確認でき、その他に詳細時期は不明であるが、E・F・G区においても古代に属すると考えられる竪穴建物や掘立柱建物を確認している。③期では12世紀、14・15世紀の遺物が出土するD・E区の土坑や溝が確認できた。



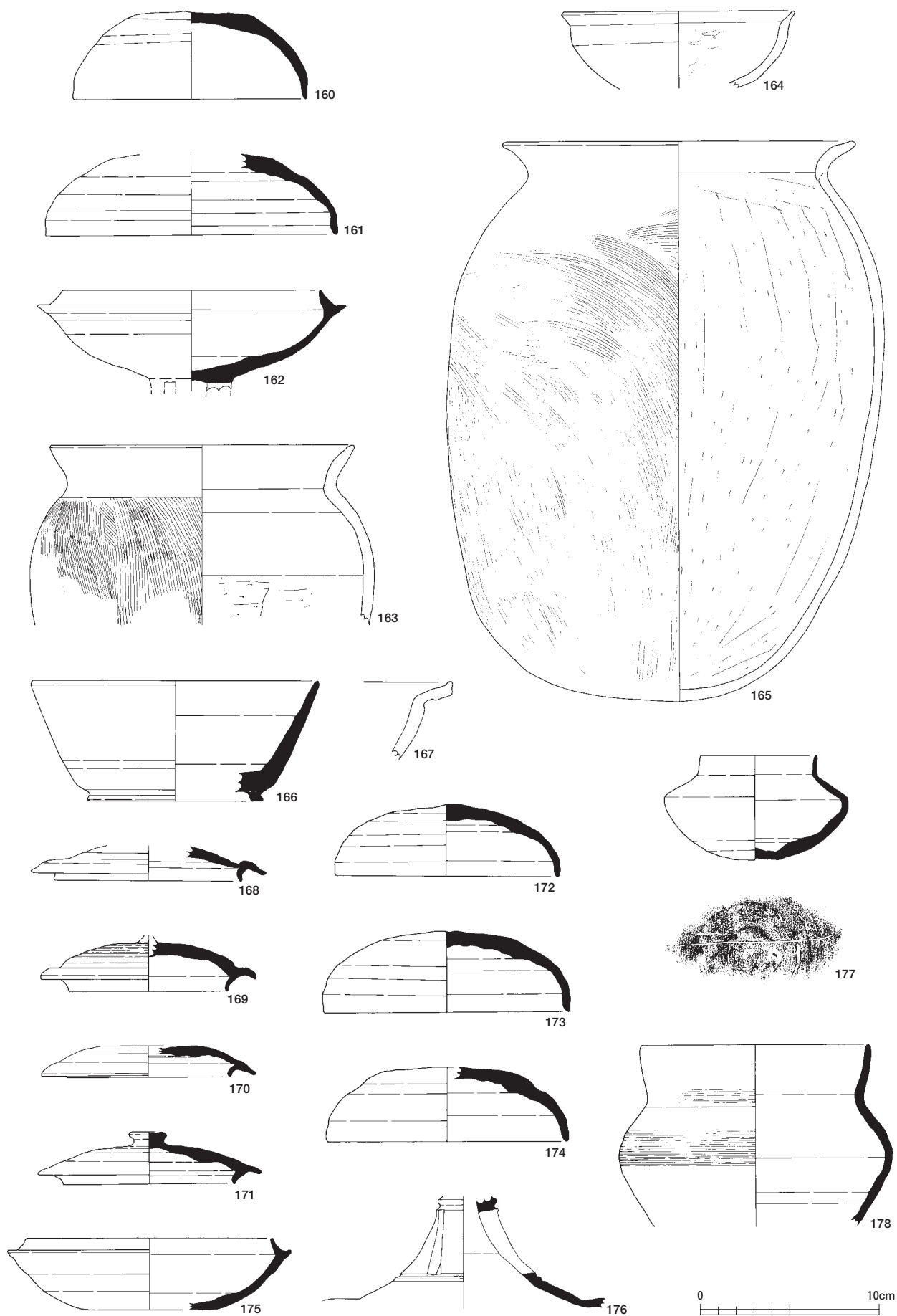
第125図 G区遺構全体図 (S=1/200)、調査区断面図 (S=1/60)



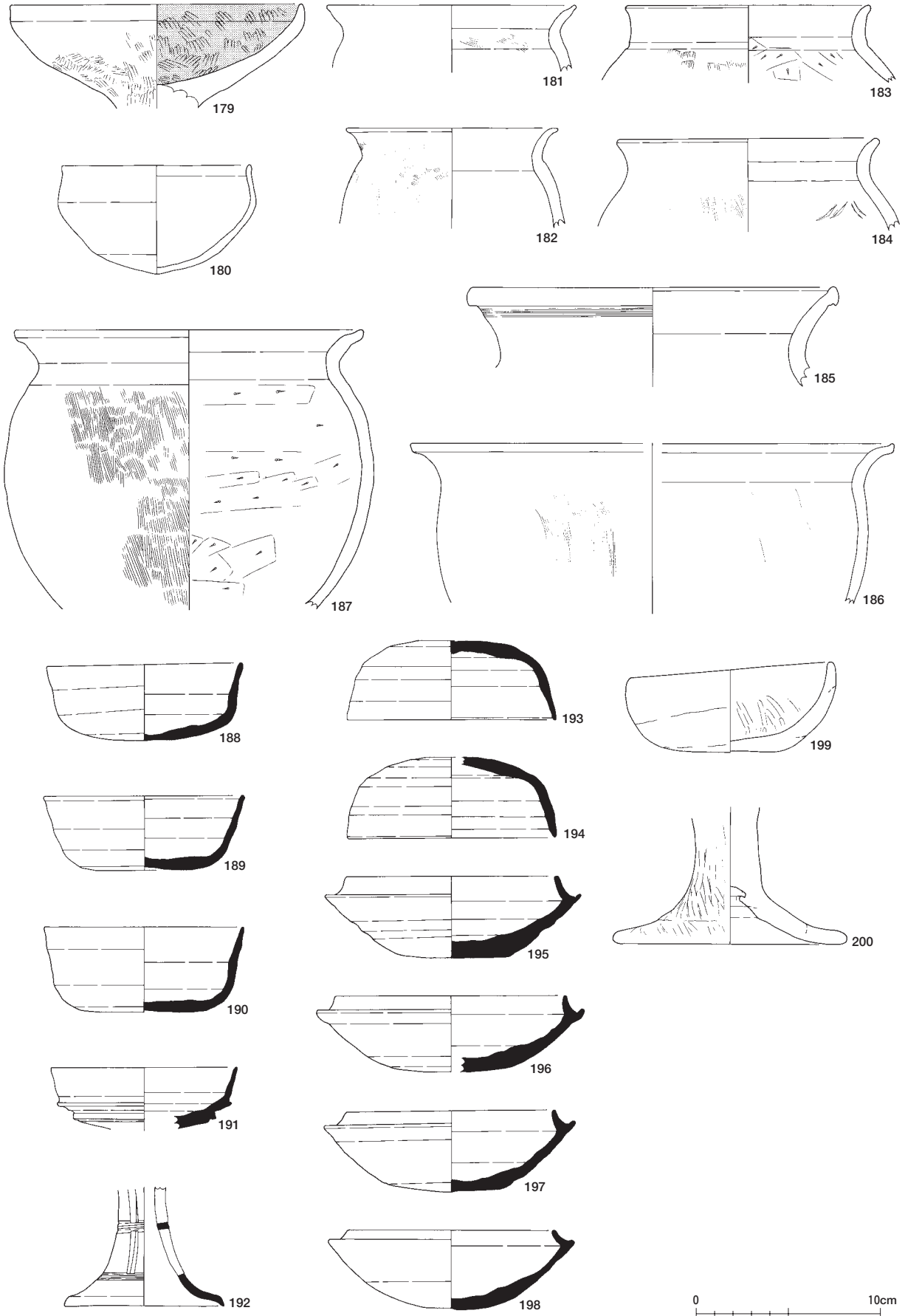
第126図 G区遺構実測図1 (S=1/30・1/60)



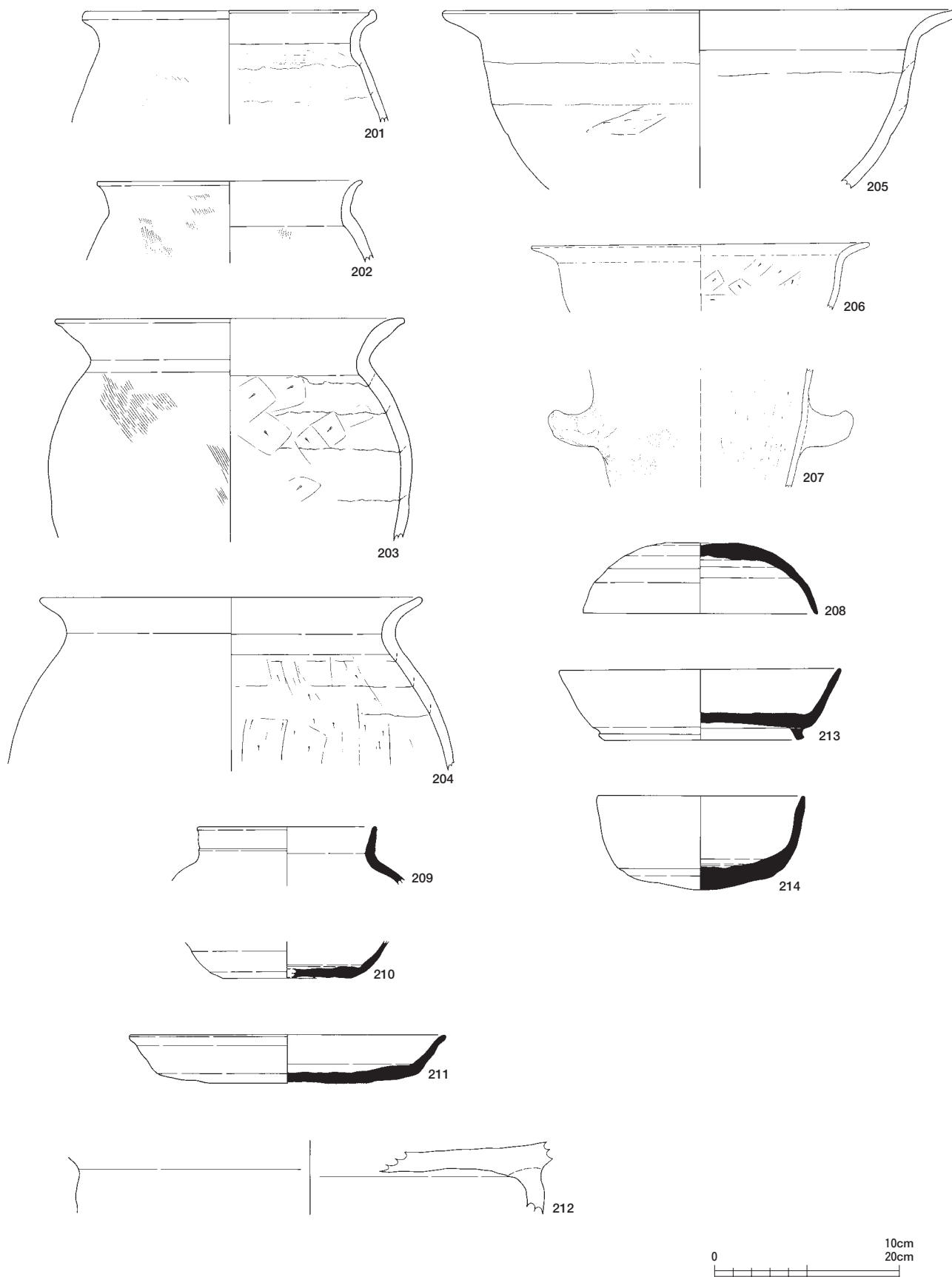
第127図 G区遺構実測図2 (S=1/60)



第128図 G区出土遺物1 (S=1/3)



第129図 G区出土遺物2 (S=1/3)



第130図 G区出土遺物3 (201~205・208~214; S=1/3、206・207; S=1/6)

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位		口径(cm)	器高(cm)	色調(内)	胎土	焼成	調整(内)		備考	図化 番号
				底径(cm)	重量(g)	色調(外)	調整(外)							
02	1	須恵器 無台坏	B2	古墳周溝	9.1	3.3	灰色	緻密,1mm以下粗砂多量含	良好	ヨコナデ			D 211	
02	2	須恵器 無台坏	B2	古墳周溝 No147	6.9 7.2	3.2	灰色	2mm以下粗砂多量含	良好	ヨコナデ、ケズリ			D51	
02	3	須恵器 無台坏	B2	古墳周溝	(12.8) 9.9	2.8	灰白-灰色	1mm以下粗砂やや多量含	良好	ヨコナデ		ゆがみ大きい	D 210	
02	4	須恵器 坏身	B2	古墳周溝 No232・254	(12.3) 10.6	3.5	灰白色 灰黄色	緻密,0.5mm以下粗砂少量含	良好	ヨコナデ			D 171	
02	5	須恵器 坏身	B2	古墳周溝 No237	12.1 10.0	4.2	黄灰色 灰色	緻密,0.5mm以下粗砂少量含	良好	ヨコナデ			D 203	
02	6	須恵器 坏身	B2	古墳周溝 No118・238	11.6 7.9	5.0	灰色	1mm以下粗砂多量含	良好	ヨコナデ		へら記号あり	D 174	
02	7	須恵器 坏身	B2	古墳周溝	12.0 6.2	4.4	灰色		良好	ヨコナデ			D 189	
02	8	須恵器 坏身	B2	古墳周溝	12.6 5.7	4.9	灰白色 灰白色		良好	ヨコナデ、不定方向ナデ			D69	
02	9	須恵器 坏身	B1	古墳周溝	(6.0) 12.3	4.1	灰色		良好	ヨコナデ			D8	
02	10	須恵器 坏身	B1	古墳周溝西側 No32	12.0	5.0	灰色		良好	ヨコナデ			D3	
02	11	須恵器 坏身	B1	古墳周溝西側 No1	10.8 (6.8)	4.3	灰色		良好	ヨコナデ、ナデ			D12	
02	12	須恵器 坏身	B2	古墳周溝 No223	12.5	(4.1)	青灰色 暗青灰色	1mm以下細砂並量含	良好	ヨコナデ、カキメ			D44	
02	13	須恵器 坏身	B2	古墳周溝	11.4 7.6	4.6	灰黄色 黄灰色	1mm以下粗砂並量含	良好	ヨコナデ、ナデ			D70	
02	14	須恵器 坏身	B2	古墳周溝 No2	11.4	4.4	灰白色	1mm以下細砂多、1~3mm粗砂・5mm礫少量含	良好	ヨコナデ、ヘラキリ→ナデ			D33	
02	15	須恵器 坏身	B1	古墳周溝 No23		(4.5)	灰色		良好	ヨコナデ			D6	
02	16	須恵器 坏身	B2	古墳周溝拡張部	13.1	(4.3)	鈍褐色 褐色	1mm以下細砂多、粗砂少量含	良好	ヨコナデ			D54	
02	17	須恵器 坏身	B1	古墳周溝	14.2 12.3	4.0	灰白色	0.5mm粗砂多量含	良好	ヨコナデ、備工具によるナデ			D 176	
02	18	須恵器 坏身	B2	古墳周溝 No246	(12.2) 8.8	4.1	灰色	1mm以下粗砂多量含	良好	ヨコナデ			D40	
02	19	須恵器 坏身	B2	古墳周溝 No29・231・232 ・237・249	12.0 8.5	4.1	灰色	1mm以下粗砂多量含	良好	ヨコナデ、ナデ			D42	
02	20	須恵器 坏身	B2	古墳周溝 羽口まわり	14.2 8.8	(4.0)	灰白色	0.5mm以下粗砂多量含	良好	ヨコナデ			D43	
02	21	須恵器 高坏	B2	古墳周溝北拡張部	16.6	(5.5)	灰色	1.5mm以下粗砂多量含	良好	ヨコナデ、タタキ?→ナデ			D62	
02	22	須恵器 高坏	B2	古墳周溝拡張部	14.5	(3.8)	灰色	1mm以下細砂多量含	良好	ヨコナデ			D 183	
02	23	須恵器 高坏	B2	古墳周溝 No214・東5	17.1	(5.3)	灰白色	1mm以下粗砂並量含	良好	ヨコナデ、ナデ			D56	
02	24	須恵器 高坏	B2	古墳周溝 No155・160まわり	12.8	(5.3)	灰色		良好	ヨコナデ			D 161	
02	25	須恵器 高坏	B2	古墳周溝 No3・243・267	13.4 16.0		鈍黄褐色 鈍黄褐色	1mm以下細砂多、1~3mm粗砂少量含	良好	ヨコナデ、ナデ			D36	
02	26	須恵器 高坏	B1	古墳周溝 検出面	12.8	(4.2)	灰色	緻密,0.5mm以下粗砂少量含	良好	ヨコナデ			D 220	
02	27	須恵器 高坏	B2	古墳周溝 No144・209	(14.0) 11.7	13.9	灰白色	1mm以下粗砂多量含	良好	ヨコナデ			D50	
02	28	須恵器 高坏	B2	古墳周溝 No43・117まわり・③	11.7 11.1	14.6	灰黄色 灰黄色	1mm以下粗砂多量含	良好	ヨコナデ			D30	
02	29	須恵器 高坏	B2	古墳周溝拡張部		(9.8)	灰色	1mm以下粗砂並量含	良好	ヨコナデ			D60	
02	30	須恵器 高坏	B1	古墳周溝		(9.9)	灰色		良好	ヨコナデ			D10	
02	31	土師器 高坏	B2	古墳周溝	21.2	(5.3)	黒色 浅黄褐色	1mm砂粒少量量含	良好	ミガキ		内黒	D26	
02	32	土師器 高坏	B2	古墳周溝 No150		(10.4)	鈍褐色 鈍褐色	2mm以下粗砂多、2.5mm礫少量含	良好	不明			D49	
02	33	土師器 高坏	B2	古墳周溝 No166		(7.5)	鈍褐色 褐色	1.5mm以下粗砂多量含	良好	ミガキ、指ナデ		内黒	D 204	

第11表 遺物観察表1

第3節 まとめ

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位		口径(cm) 底径(cm)	器高(cm) 重量(g)	色調(内) 色調(外)	胎土	焼成	調整(内) 調整(外)		備考	図化 番号
02	34	須恵器 蓋	B2	古墳周溝 No117		11.1	2.9	灰白色 鈍黄褐色	1mm以下粗砂多、 2.5mm礫少量含	良好	ロクロナデ、カキメ、ナデ ロクロナデ、ナデ	ツマミ径0.9 cm	D39	
02	35	須恵器 蓋	B2	古墳周溝 No19まわり			(2.3)	灰色 赤灰色	0.5mm以下 粗砂少量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ		D 208	
02	36	須恵器 蓋	B1	古墳周溝西側 No16		13.4	3.8	灰色 灰色		良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ	ツマミ径2.1 cm	D7	
02	37	須恵器 蓋	B2	古墳周溝拡張部		12.8	3.3	灰黄色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ ロクロナデ、他不明	ツマミ径1.9 cm	D52	
02	38	須恵器 蓋	B2	古墳周溝 No134		13.0	3.0	灰色 灰色		良好	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ	ツマミ径1.9 cm	D19	
02	39	須恵器 蓋	B1	古墳周溝西側 No42		(10.6)	(3.5)	灰色 灰色		良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ	ツマミ径2.2 cm	D4	
02	40	須恵器 蓋	B2	古墳周溝		9.1	2.6	灰色 灰色	緻密、1mm以下 粗砂少量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ、ケズリ		D 215	
02	41	須恵器 蓋	B2	古墳周溝 No6		12.2	2.9	鈍黄褐色 灰黄褐色	1.5mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ケズリ?		D32	
02	42	須恵器 蓋	B2	古墳周溝拡張部		15.2	3.5	灰色 灰色	1mm以下 粗砂並量含	良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ヘラキリ→ナデ?		D59	
02	43	須恵器 蓋	B2	古墳周溝 No254		11.6	3.9	鈍黄褐色 鈍黄褐色	1mm以下 粗砂多量含	甘	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ、ナデ	ツマミ径2.5 cm	D37	
02	44	須恵器 蓋	B1	古墳周溝西側 No10			(1.9)	灰黄色 黄灰色	粗砂多量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ、ケズリ		D 181	
02	45	須恵器 蓋	B1	古墳周溝西側 No35		14.0	4.6	灰色 灰色		良好	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ	ツマミ径4.1 cm	D2	
02	46	須恵器 蓋	B1	古墳周溝西側 No49		15.1	5.7	灰色 灰色		良好	ロクロナデ	ツマミ径2.5 cm	D1	
02	47	須恵器 蓋	B2	古墳周溝		14.7	4.8	灰黄褐色 灰黄褐色	2mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ヘラキリ→ナデ		D66	
02	48	須恵器 蓋	B2	古墳周溝 No12・132・210		(14.4)	(4.7)	灰黄色 灰黄色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ヘラキリ→ナデ		D38	
02	49	須恵器 蓋	B2	古墳周溝		13.5	4.6	灰色 灰色	2mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ ロクロナデ、ヘラキリ→ナデ		D67	
02	50	須恵器 蓋	B2	古墳周溝		15.5	4.2	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D68	
02	51	須恵器 蓋	B1	古墳周溝			13.6	灰色 灰色		良好	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ、ロクロナデ		D11	
02	52	須恵器 蓋	B2	古墳周溝		14.5	3.8	灰色 灰色		良好	ロクロナデ ロクロナデ		D 188	
02	53	須恵器 蓋	B2	古墳周溝		(14.1)	4.2	灰色 灰色	1mm以下粗 砂やや多量含	良好	ヨコナデ ロクロナデ		D 178	
02	54	須恵器 蓋	B2	古墳周溝 No239		(13.1)	3.9	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ケズリ、ヘラキリ→ナデ		D41	
02	55	須恵器 蓋	B2	古墳周溝 No115		12.2	4.1	灰黄色 黄灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ		D53	
02	56	須恵器 蓋	B1	古墳周溝西側 No25		12.5	3.5	灰色 灰色		良好	ロクロナデ ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ		D5	
02	57	須恵器 甕	B1	古墳周溝拡張部		20.8	(8.8)	灰色 灰色		良好	ロクロナデ、タタキ ロクロナデ、タタキ		D9	
02	58	須恵器 甕	B2	古墳周溝拡張部		(13.6)	(7.2)	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ、タタキ ロクロナデ、タタキ		D58	
02	59	須恵器 甕	B2	古墳周溝 No32			(9.4)	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ヨコナデ、タタキ ヨコナデ		D 184	
02	60	須恵器 甕	B2	古墳周溝 No35			(11.5)	灰色 灰色	1mm粗砂多、6 mm礫少量含	良好	ロクロナデ、タタキ ロクロナデ、タタキ		D 185	
02	61	須恵器 甕	B1	古墳周溝拡張部			(9.2)	灰色 灰黄色	3mm礫微 量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ、カキメ		D 219	
02	62	須恵器 甕	B2	古墳周溝 No9・14・107 ・111・214		35.8	62.2	灰色 灰色		良好	ロクロナデ、タタキ カキメ、ロクロナデ、タタキ		D31	
02	63	土師器 甕	B2	古墳周溝 No164		12.7	(5.5)	鈍黄褐色 鈍褐色	2~0.5mm粗砂 多、4mm礫少、 赤色粒多量含	良好	ヨコナデ、他摩耗 ヨコナデ、ハケ		D 172	
02	64	土師器 甕	B1	古墳周溝西側 No24		17.7	5.4	灰白色 灰白色	1.5mm以下 粗砂多量含	良好	ヨコナデ、ハケ ヨコナデ		D 180	
02	65	土師器 甕	B2	古墳周溝 No204		15.5	4.9	鈍褐色 鈍褐色	0.5mm以下 粗砂多量含	良好	ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ		D 173	
02	66	土師器 甕	B2	古墳周溝		16.7	(4.6)	浅黄褐色 鈍黄褐色	0.5mm砂 粒多量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ、ハケ		D 146	

第12表 遺物観察表2

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm) 重量(g)	色調(内) 色調(外)	胎土	焼成	調整(内) 調整(外)	備考	図化 番号
02	67	土師器 甕	B2	古墳周溝	(20.3)	(4.0)	浅黄橙色 鈍橙色	1.5mm以下 粗砂多量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ		D 218
02	68	土師器 甕方	B2	古墳周溝	(15.5)		浅黄橙色 橙色	1mm以下 細砂多量含	良好	ヨコナデ、ケズリ他 ヨコナデ、ハケ		D71
02	69	土師器 甕	B1	古墳周溝西側 検出面	(22.7)	3.4	浅黄橙色 鈍橙色	2.5mm以下 砂礫多量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ		D 206
02	70	土師器 甕	B2	古墳周溝 No1	(21.8)		浅黄橙色 浅黄橙色	1mm大粗 砂多量含	良好	ヨコナデ、ハケ、ケズリ ヨコナデ、ハケ		D34
02	71	土師器 甕	B2	古墳周溝	23.7	(12.4)	浅黄橙色 浅黄橙色	1mm程度 砂粒少量含	良好	ケズリ ヨコナデ、ハケ		D 147
02	72	土師器 把手	B1	古墳周溝西側			鈍黄橙色 鈍橙色	1mm以下細砂多 2mm粗砂少量含	良好	ナデ 指ナデ		D 186
02	73	土師器 把手	B1	古墳周溝西側 No19			浅黄橙色 鈍黄橙色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ケズリ ハケ、指頭圧痕	把手径3.0cm	D 195
02	74	土師器 把手	B1	古墳周溝 検出面			鈍黄橙色 鈍黄橙色	1mm以下 粗砂多量含	良好	摩耗 指ナデ(指頭圧痕)	把手径3.4cm	D 196
02	75	土師器 把手	B2	古墳周溝 No175			浅黄橙 鈍橙色	粗砂多量含	良好	ハケ、ナデ		D 197
02	76	土師器 把手	B2	古墳周溝 No250			鈍黄橙色 橙色	1mm以下 細砂多量含	良好	ケズリ 強い指ナデ		D 198
02	77	土師器 把手	B2	古墳周溝 No252			浅黄橙色 浅黄橙色	3mm礫微、1mm以下 粗砂多、赤色粒含	良好	ハケ ハケ、指ナデ	把手径3.6cm	D 199
02	78	須恵器 把手	B2	古墳周溝 No19			灰白色 灰白色	1mm以下 細砂多量含	良好	タタキ→ナデケシ? タタキ		D 187
02	79	土師器 碗	B1	古墳周溝拡張部	11.8 4.4	5.1	浅黄橙色 浅黄橙色	0.5mm砂 粒少量量含	良好	ミガキ? ミガキ		D18
02	80	須恵器 壺	B2	古墳周溝 No222	(17.6)	(3.8)	鈍黄橙色 鈍黄橙色	1mm以下 粗砂多量含	甘	ロクロナデ ロクロナデ		D46
02	81	須恵器 壺	B2	古墳周溝 No65	14.7	(5.4)	灰色 灰色		良好	ロクロナデ、タタキ ロクロナデ		D27
02	82	須恵器 小型壺	B2	古墳周溝西側		(6.7)	灰黄色 灰白	0.5mm以下 粗砂並量含	良好	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ、ヘラキリ		D55
02	83	須恵器 小型壺	B2	古墳周溝	6.1	10.1	灰色 灰色		良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ナデ		D23
02	84	須恵器 小型甕	B2	古墳周溝拡張部	10.7	(6.5)	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D57
02	85	須恵器 短頸壺	B1	古墳周溝西側	(12.7)	(4.4)	灰色 灰色	1mm以下 粗砂少量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ		D 207
02	86	須恵器 短頸壺	B2	古墳周溝 No106	7.0	(7.6)	灰色 灰色		良好	ロクロナデ ロクロナデ		D20
02	87	須恵器 長頸壺	B2	古墳周溝 No52		(5.9)	白灰色 白灰色		甘			D28
02	88	須恵器 長頸壺	B2	古墳周溝 No60		(12.7)	白灰色 白灰色		甘	ロクロナデ 不明		D29
02	89	須恵器 台付壺	B2	古墳周溝 No⑤・85まわり ・224・230	9.6 10.0	17.9	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ		D35
02	90	須恵器 甕	B2	古墳周溝	11.1	(3.0)	黄灰色 灰白色	3mm礫微、 粗砂多量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ		D 151
02	91	須恵器 甕	B2	古墳周溝 No153		(7.9)	灰色 灰色	0.5mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ、ヘラナデ ロクロナデ?ナデ		D48
02	92	須恵器 甕	B2	古墳周溝		(6.2)	灰色 灰色		良好	ロクロナデ ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ		D25
02	93	土師器 壺	B2	古墳周溝 No119	(9.5)	(14.0)	鈍橙色 鈍橙色	1mm程度 砂粒少量含	良好	ヨコナデ、ケズリ、ナデ ヨコナデ、ハケ、ナデ		D 145
02	94	須恵器 壺	B2	古墳周溝			灰白色 灰色	1mm以下 細砂多量含	良好	ヨコナデ ヨコナデ		D45
02	95	須恵器 提瓶	B2	古墳周溝拡張部	(5.6)	(9.2)	灰色 灰色	1mm以下 粗砂並量含	良好	ロクロナデ、横方向ナデ、指ナデ カキメ、横方向ナデ		D 182
02	96	須恵器 提瓶	B1	古墳周溝 No③④		(21.7)	灰色 灰色		良好	ロクロナデ、ナデ カキメ		D15
02	97	須恵器 提瓶	B1	古墳周溝 No②③④④	8.7	(26.0)	灰色 灰色		良好	ロクロナデ カキメ、ロクロナデ		D16
02	98	須恵器 提瓶	B1	古墳周溝 No8	(6.5)	(13.7)	灰白色 灰色	1.5mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ、横方向ナデ ロクロナデ、ヨコナデ、カキメ		D 175
02	99	須恵器 提瓶	B2	古墳周溝(東)	8.4	23.5	龍刺-ブ施 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	ロクロナデ、他不明 ロクロナデ、カキメ	円形浮文(一 対)	D22

第13表 遺物観察表3

第3節 まとめ

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位		口径(cm)	器高(cm)	色調(内)		胎土	焼成	調整(内)		備考	図化 番号
						底径(cm)	重量(g)	色調(外)				調整(外)			
02	100	須恵器 提瓶	B1	古墳周溝			(15.0)	灰色			良好	ロクロナデ		D14	
				No②④				灰色			良好	ロクロナデ、カキメ			
02	101	須恵器 提瓶	B2	古墳周溝		6.2	20.2	暗青灰色	1 mm 以下		良好	ヨコナデ		D24	
				No83・109～112まわり				暗青灰色	細砂多量含		良好	ヨコナデ、カキメ			
02	102	須恵器 提瓶	B1	古墳周溝		8.5	17.9	灰色			良好	ロクロナデ、タタキ、ナデ		D13	
				No①				灰色			良好	ロクロナデ、カキメ			
02	103	須恵器 提瓶	B2	古墳周溝		7.4	(29.9)	橙色	1mm以下細砂多、3mm以上粗砂少量含		不良	ナデ、ヨコナデ		D21	
								橙色			不良	ヨコナデ、カキメ			
02	104	須恵器 提瓶	B2	古墳周溝		8.7	29.4	灰色	0.5 mm 以下粗砂多量含		良好	ロクロナデ、ナデ、指ナデ、ヨコナデ		D47	
				No150まわり・154・155・160まわり				灰色			良好	ロクロナデ、カキメ			
02	105	須恵器 平瓶	B1	古墳周溝		12.7	19.5	灰色			良好	ロクロナデ		D65	
				No14・25				灰色			良好	ロクロナデ、カキメ、タタキ			
02	106	須恵器 カマドカ	B2	古墳周溝				灰白色	1 mm 以下粗砂多量含		良好	ナデ		D 202	
								灰白色			良好	タタキ、ナデ			
02	107	石製品 紡錘車	B2	古墳周溝		長3.3	厚1.0	淡黄色						D61	
				③		幅4.0	13.0	色							
02	108	土製品 羽口	B2	古墳周溝		長10.0	厚6.7	鈍橙色	2 mm 以下粗砂並量含		良好			D 179	
				No94・123・189		幅7.3		灰白色			良好				
02	109	須恵器 坏身	B1	P69		13.2	4.0	灰白色	1mm以下細砂多、3mm以上粗砂少量含		不良	ヨコナデ		D 205	
						10.5		灰白色			不良	ヨコナデ			
02	110	土師器 甕	B3	SK 1		(17.9)	(3.4)	鈍黄橙色	2 mm 以下粗砂多量含		良好	摩耗		D73	
								鈍黄橙色			良好	摩耗			
02	111	土師器 高坏	B3	SI 1 (SK 1)			(7.5)	赤灰色	1 mm 以下粗砂多量含		良好	ミガキ		D72	
								橙色			良好	ミガキ			
02	112	土師器 鉢	B3	SI 1 (SK 1)		13.8	7.0	橙色	1 mm 以下粗砂多量含		良好	ナデ		D64	
						5.1		鈍黄橙色			良好	ミガキ	ヘラ記号あり		
02	113	土師器 鉢	B3	SI 1 (SK 1)		16.6	6.1	橙色	2 mm 以下粗砂多量含		良好	ヨコナデ、ミガキ		D63	
						7.2		灰褐色			良好	ミガキ	ヘラ記号あり		
02	114	須恵器 蓋	B1	包含層		15.3	4.1	灰色			良好	ロクロナデ	ツマミ径2.5cm	D17	
								灰色			良好	ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ			
02	115	須恵器 蓋	B3	包含層		(8.7)	2.7	灰黄色	3 mm 以下粗砂多量含		良好	ヨコナデ		D 150	
								黄灰色			良好	ヨコナデ			
02	116	須恵器 坏身	B2	包含層		12.4	3.8	灰色	1 mm 以下粗砂多量含		良好	ヨコナデ		D 177	
								灰色			良好	ヨコナデ			
02	117	石製品 管玉	B1	礫北横排土		長4.6	厚1.1							石1	
						幅1.2	12.1								
02	118	金属製品 刀子	B2	古墳		長4.3	厚0.7							金3	
						幅1.4	3.4								
02	119	金属製品 ?	B2	古墳周溝拡張部		長4.2	厚0.7							金2	
						幅9.3	76.3								
02	120	金属製品 刀子	B1	礫溜まり近く		長12.5	厚1.6							金1	
						幅3.0	25.6								
02	121	須恵器 有台坏	D1	P 6				灰色			良好	ロクロナデ		D 190	
						11.9		灰色			良好	ロクロナデ			
02	122	土製品 土鉢	D1	P 7 底+10cm		長4.5	6.2	鈍黄橙色			良好			D 136	
						幅1.4					良好				
02	123	陶製品 土鉢	D5-9	検出面		長4.1	39.5	鈍黄褐色			良好			D 134	
						幅2.9					良好				
02	124	石製品 紡錘車	D5-9	検出面		径3.9	厚1.6	灰白色			良好		凝灰岩	D 135	
							29.9				良好				
02	125	須恵器 坏身	E4	SI 1 (SK 4)		13.9	4.2	灰黄色	1 mm 以下細砂並量含		ヤヤ甘	ロクロナデ、ナデ		D 127	
				No 4				鈍褐色			ヤヤ甘	ロクロナデ			
02	126	須恵器 坏身	E4	SI1南端(SK4)		14.6	4.2	鈍黄橙色	2～3 mm粗砂少量含		ヤヤ甘	ロクロナデ、ナデ		D 138	
								灰黄色			ヤヤ甘	ロクロナデ			
02	127	須恵器 高坏	E4	SI 1 (SK 4)		14.6	7.7	灰白色	1mm粗砂少、3mm粗砂微量含		ヤヤ甘	ヨコナデ		D 129	
				No 6		10.6		黄灰色			ヤヤ甘	ヨコナデ、カキメ			
02	128	須恵器 短頸壺	E4/E4・5	SI1南半(SK4)/SI1北半				灰色			良好	ロクロナデ		D 163	
								灰色			良好	ロクロナデ			
02	129	土師器 甕	E4	SI 1 (SK 4)		18.4		鈍黄橙色	2 mm 以下粗砂多量含		良好	ヨコナデ、ケズリ→指ナデ		D 126	
				No 2 他				鈍黄橙色			良好	ヨコナデ、ハケ			
02	130	土師器 甕	E4	SI1(SK4)検出面		23.5		浅黄橙色	粗砂並量含		良好	ヨコナデ、カキメ		D 128	
								鈍橙色			良好	ヨコナデ、カキメ			
02	131	須恵器 坏蓋	E12	SK 1 (SK 4)		12.6	2.7	灰白色	1 mm 前後粗砂並量含		良好	ロクロナデ		D 139	
								灰白色			良好	ロクロナデ、ヨコ、ケズリ、ナデ			
02	132	須恵器 器台	E8/E8	SK 3 / SD 2		(36.0)		灰色	1 mm 粗砂少量含		良好	ロクロナデ、カキメ→タタキ		D 122	
								灰色			良好	ロクロナデ、タタキ→ナデ			

第14表 遺物観察表 4

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径(cm)		器高(cm)	色調(内)		胎土	焼成	調整(内)		備考	図化 番号
					底径(cm)	重量(g)		色調(外)	調整(外)						
02	133	土師器 碗	E5	SK 6	8.7	1.9	鈍黄橙色 浅黄橙色	2~3mm 粗砂少量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 125
02	134	須恵器 坏	E5	SK 6	14.6	3.2	浅黄色 浅黄色				甘	良好	良好	良好	D 191
02	135	須恵器 蓋	E2	SK 7 (SX 2)	12.4		灰色 灰色				良好	良好	良好	良好	D 193
02	136	土師器 甕	E7	SD 2	13.5		浅黄橙色 浅黄橙色	2mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 124
02	137	須恵器 有台坏	E2	SD 3			灰色 灰色				良好	良好	良好	良好	D 209
02	138	須恵器 高坏蓋	E9	P 1	13.0	4.9	灰黄色 灰色	2~3mm粗砂,1 mm細砂少量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 121
02	139	須恵器 無台坏	E10	P 7	12.4	3.7	灰色 灰色	1mm粗砂 少量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 140
02	140	土師器 甕	E7	P42	16.7		浅黄橙色 浅黄橙色	1mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 123
02	141	須恵器 甕	E7	P42	23.2		浅黄橙色 浅黄橙色	1mm砂粒 少量含		甘	良好	良好	良好	良好	D 148
02	142	須恵器 有台坏	E3	P50	9.9		灰白色 灰白色			甘	良好	良好	良好	良好	D 149
02	143	土師器 甕	F2	SI 3 No 5 他	19.0	(26.5)	鈍黄橙色 鈍黄橙色	1mm以下細砂多, 2mm粗砂少量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 106
02	144	土師器 甕	F2	SI 3 No 4・5	18.9	31.3	浅黄橙色 鈍橙色	0.5~1mm 砂粒多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 107
02	145	須恵器 壺	F2	SI 3 No 4 他	14.6	(5.5)	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 105
02	146	須恵器 甃	F8	P32	3.5	(9.0)	灰色 灰色	0.5mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 108
02	147	須恵器 蓋	F9	SK 7	(14.6)	4.7	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 109
02	148	須恵器 坏身	F9	SK 7	12.2	5.0	灰色 灰色	1.5mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 119
02	149	須恵器 高坏	F9	SK 7	(11.1)	(11.4)	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 120
02	150-1	土製品 埴輪	F12	古墳1 墳丘部	21.2	(3.9)	黄橙色 浅黄橙色	1mm以下の粗砂多, 気泡有、赤色粒含む	並	良好	良好	良好	良好	良好	D 201
02	150-2	土製品 埴輪	F9	古墳1 周溝		(8.7)	橙色 橙色	1mm以下の粗砂多, 気泡有、赤色粒含む	並	良好	良好	良好	良好	良好	D 201
02	150-3	土製品 埴輪	F12	古墳1		(6.7)	橙色 橙色	1mm以下の粗砂多, 気泡有、赤色粒含む	並	良好	良好	良好	良好	良好	D 201
02	151	土製品 埴輪	F11	古墳1 墳丘部			灰藍色の赤 鈍褐色	2mm以下の粗砂並, 3~4mm炭少	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 110
02	152	須恵器 蓋	F12	古墳1	12.4	(1.5)	灰色 灰黄色	1mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 115
02	153	須恵器 無台坏	F11	古墳1	(12.0)	2.5	灰黄色 灰黄色	0.5mm以下 粗砂多量含	ヤ 甘	良好	良好	良好	良好	良好	D 113
02	154	須恵器 無台坏	F12	SD 2	(14.0)	2.9	鈍黄橙色 鈍黄橙色	1mm以下 粗砂多量含	不 良	良好	良好	良好	良好	良好	D 118
02	155	須恵器 無台坏	F10	古墳1	(13.7)	3.4	灰色 灰色	1.5mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 112
02	156	須恵器 坏身	F12	古墳1 No 4	10.3	3.6	灰色 灰色	0.5mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 117
02	157	須恵器 坏身	F11	古墳1 墳丘部	13.5	5.5	灰色 灰色	1mm以下 粗砂並量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 111
02	158	須恵器 高坏	F10	古墳1 No11他	12.1	(7.4)	灰色 灰色	1mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 116
02	159	須恵器 壺	F12	古墳1		(11.2)	灰色 灰色	0.5mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 114
02	160	須恵器 蓋	G3	SI 1	12.9	4.9	灰色 灰色	1mm以下 細砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D77
02	161	須恵器 蓋	G3	SI 1 検出面	16.0	(4.5)	灰色 灰色		良好	良好	良好	良好	良好	良好	D 162
02	162	須恵器 高坏	G3	SI 1	(14.3)	(5.6)	灰白色 灰白色	1mm以下 細砂並量含			良好	良好	良好	良好	D78
02	163	土師器 甕	G3	SI 1	16.8	(10.0)	鈍黄橙色 鈍黄橙色	1mm以下 細砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D79
02	164	土師器 高坏	G5	SI 2	12.7	(4.3)	橙色 鈍黄橙色	2mm以下 粗砂多量含	良好	良好	良好	良好	良好	良好	D76

第15表 遺物観察表5

第3節 まとめ

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径(cm)		器高(cm) 重量(g)	色調(内) 色調(外)		胎土	焼成	調整(内) 調整(外)		備考	図化 番号
					底径										
02	165	土師器 甕	G5	SI 2	19.6		30.5	橙色 橙色	0.2 mm 砂 粒多量含	良好	良好	ヨコナデ、ナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケ		D75	
02	166	須恵器 有台坏	G7	SI 3	(15.8)		6.7	灰色 灰色	1mm以下細砂 多、2mm粗砂、 4mm礫少量含			ヨコナデ ヨコナデ		D74	
02	167	土師器 鍋	G7	SI 3			(4.3)	灰黄色 灰黄色	1 mm 程度 砂粒少量含	良好	良好	不明 不明		D 213	
02	168	須恵器 蓋	G8	SK12 No19他			(1.9)	灰色 灰色		良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ		D 168	
02	169	須恵器 蓋	G8	SK12 暗褐粘			(8.8)	(2.9) 灰黄色 灰黄色	粗砂並量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ、カキメ		D 101	
02	170	須恵器 蓋	G8	SK12 暗褐粘			(1.7)	灰色 灰色		良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ		D 216	
02	171	須恵器 蓋	G8	SK12	12.4		2.9	灰色 灰色		良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ	ツマミ 径2.1 cm	D 153	
02	172	須恵器 蓋	G8	SK12	12.3		4.0	黄灰色 黄灰色		良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D96	
02	173	須恵器 蓋	G8	SK12	13.5		4.5	灰黄褐色 灰黄褐色	粗砂並量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D97	
02	174	須恵器 蓋	G8	SK12	13.3		4.1	灰色 灰色		良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D 100	
02	175	須恵器 坏身	G8	SK12 No16	(13.6)		4.0	灰色 灰色	粗砂多量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D99	
02	176	須恵器 高坏	G8	SK12 検出面			(6.2)	灰色 灰色		良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D 200	
02	177	須恵器 短頸壺	G8	SK12 暗褐粘	6.4		5.8	灰色 灰色	粗砂並量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ		D 103	
02	178	須恵器 短頸壺	G8	SK12 暗褐粘	(12.6)		(10.0)	灰黄色 灰黄色	粗砂、礫並 量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ、カキメ		D95	
02	179	土師器 高坏	G8	SK12	15.6		5.6	黒色 鈍橙色	粗砂多量含	良好	良好	ナデ→ミガキ、内黒 ナデ→ミガキ、ケズリ		D 104	
02	180	土師器 碗	G8	SK12 暗褐粘	10.0		5.9	浅黄褐色 浅黄褐色	0.5 mm 砂 粒多量含	良好	良好	不明 不明		D 169	
02	181	土師器 甕	G8	SK12	13.2		(3.6)	鈍黄褐色 鈍橙色	0.2~0.5mm 砂粒多量含	良好	良好	ヨコナデ、ハケ、ナデ ヨコナデ		D 160	
02	182	土師器 甕	G8	SK12	11.4		(5.4)	褐灰色 鈍黄褐色		良好	良好	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケ		D 159	
02	183	土師器 甕	G8	SK12 No18	(13.0)		(4.2)	浅黄褐色 鈍橙色	粗砂多量含	良好	良好	ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケ		D98	
02	184	土師器 甕	G8	SK12 暗褐粘	13.8		(5.0)	鈍橙色 鈍橙色	0.2~0.5mm 砂粒多量含	良好	良好	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケ		D 158	
02	185	土師器 甕	G8	SK12 最下層	19.6		(5.4)	灰白色 灰白色	0.2 mm 砂 粒多量含	良好	良好	ヨコナデ カキメ、ヨコナデ?		D 167	
02	186	土師器 甕	G8	SK12 暗褐粘	(25.8)		(8.2)	鈍黄褐色 鈍黄褐色	0.5 mm 砂 粒多量含	良好	良好	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケ		D 154	
02	187	土師器 甕	G8	SK12 暗褐粘	(18.6)		(15.0)	鈍褐色 橙色	粗砂並量含	良好	良好	ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケ		D 102	
02	188	須恵器 坏身	G8	SK 1	10.4		4.2	黄灰色 黄灰色	粗砂並量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D93	
02	189	須恵器 坏身	G8	SK 1	10.6		4.0	灰白色 灰白色		良好	良好	ロクロナデ、ナデ ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ		D 166	
02	190	須恵器 坏身	G8	SK 1 No10	10.7		4.6	鈍黄褐色 鈍黄褐色	粗砂、礫並 量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D89	
02	191	須恵器 高坏	G8	SK 1	10.0		(3.3)	灰色 灰色		良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D 157	
02	192	須恵器 高坏	G8	SK 1			(6.4)	灰白色 灰白色	1 mm 以下 細砂並量含	良好	良好	ヨコナデ? ヨコナデ		D81	
02	193	須恵器 蓋	G8	SK 1	6.8		4.2	灰色 灰色		良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ、ロクロナデ、ケズリ		D 156	
02	194	須恵器 蓋	G8	SK 1	11.0		4.3	灰黄色 灰色	緻密、2mm礫少、 1mm以下粗砂 並、赤色粒量含	良好	良好	ヨコナデ ヨコナデ、ケズリ		D 214	
02	195	須恵器 坏身	G8	SK 1 No14	11.3		4.4	灰黄色 灰黄色	粗砂多量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D90	
02	196	須恵器 坏身	G8	SK 1 No 4	(12.4)		4.1	灰黄色 灰黄色	粗砂、礫並 量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D87	
02	197	須恵器 坏身	G8	SK 1	11.3		4.4	灰色 灰黄色	粗砂並量含	良好	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D91	

第16表 遺物観察表 6

調査年度	報告番号	種類 器種	地区	遺構 層位	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm) 重量(g)	色調(内) 色調(外)	胎土	焼成	調整(内) 調整(外)	備考	図化 番号
02	198	須恵器 坏身	G8	SK 1 No12	11.1	4.3	灰白色 灰色	1mm以下 細砂多量含	良好	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ヨコ、ケズリ		D84
02	199	土師器 碗	G8	SK 1 No 8	10.8	4.9	灰黄色 灰黄色	1mm以下細砂多、2 ~3mm細砂少量含	良好	ヨコナデ、荒いミガキ ナデ		D85
02	200	土師器 高坏	G8	SK 1 No15	11.3	(7.4)	浅黄橙色 浅黄橙色	1mm細砂多、2 mm粗砂少量含	良好	摩耗 ミガキ		D83
02	201	土師器 甕	G8	SK 1	15.4	(6.1)	鈍橙色 鈍褐色	0.5mm 砂 粒多量含	良好	ヨコナデ、ハケ、ナデ ヨコナデ、ハケ		D 170
02	202	土師器 甕	G8	SK 1	14.2	(4.4)	浅黄橙色 鈍橙色	0.2mm 砂 粒多量含	良好	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ハケ		D 212
02	203	土師器 壺	G8	SK 1	(18.6)	(12.0)	浅黄橙色 浅黄橙色	粗砂多量含	良好	ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ、ハケ		D92
02	204	土師器 甕	G8	SK 1 No 9	20.1		橙色 橙色	1mm以下細砂多、 2mm粗砂少量含	良好	ケズリ 摩耗		D86
02	205	土師器 埴	G8	SK 1 No 3	(27.3)		灰黄褐色 灰黄褐色	1mm以下 細砂多量含	良好	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ		D82
02	206	土師器 鉢	G8	SK 1 No11	36.1	7.2	灰黄褐色 灰黄褐色	粗砂多量含	良好	ケズリ		D88
02	207	土師器 甕	G8	SK 1		(12.8)	浅黄橙色 浅黄橙色	1mm程度 砂粒少量含	良好	ケズリ ハケ、ナデ		D 152
02	208	須恵器 蓋	G8	SK 2	18.6	3.8	白灰色 白灰色			ロクロナデ ロクロナデ		D 194
02	209	須恵器 壺	G7	P 6	9.4	(3.1)	灰色 灰色		良好	ロクロナデ ロクロナデ		D 217
02	210	須恵器 坏身	G6	P12		(2.0)	灰色 灰色		良好	ロクロナデ ロクロナデ		D 155
02	211	須恵器 皿	G6	P12	(16.8) 14.0	2.6	灰黄色 灰黄色	粗砂並量含	良好	ロクロナデ ロクロナデ		D94
02	212	土師器 台付鉢	G6	P12		(4.0)	鈍黄橙色 鈍黄橙色	1mm程度 砂粒少量含	良好	ハケ、ナデ、ヨコナデ、ケズリ ヨコナデ		D 165
02	213	須恵器 有台坏	G2	検出面	15.0 10.3	3.9	灰白色 暗青灰色	1mm以下 細砂多量含	良好	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ヨコ、ケズリ		D80
02	214	須恵器 無台坏	G	表採	11.2 7.8	5.0	灰黄色 灰黄色	1mm前後 粗砂並量含	良好	ロクロナデ ロクロナデ、ケズリ		D 137

第17表 遺物観察表7

第7章 平成15・16年度調査

第1節 調査の概要

1 調査に至る経緯と経過

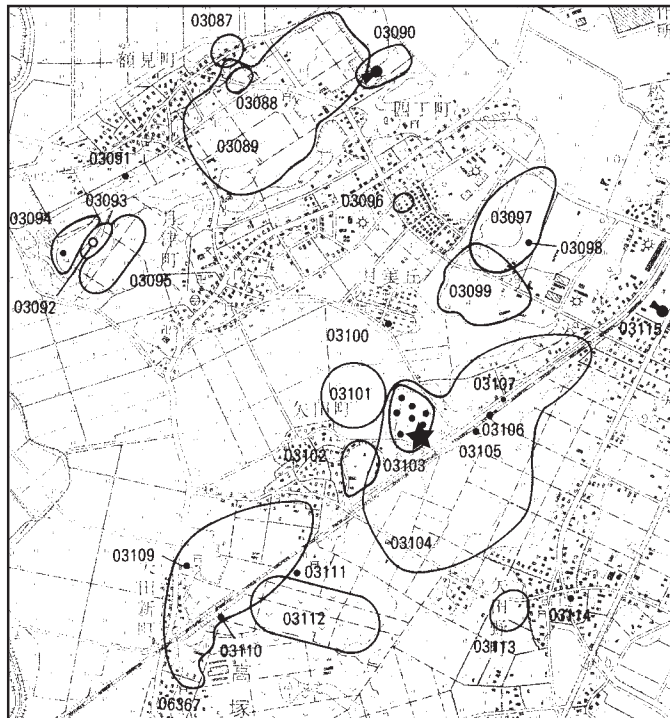
平成15・16年度の2ヶ年調査は、これまでの北陸本線東側の調査から西側の月津町・扇原町地内に移った。月津町・扇原町の事業地には矢田野遺跡及び矢田借屋古墳群が含まれており、事業は同じく県営ほ場整備事業（矢田野台地地区）に係るものである。本調査は平成15・16年度に石川県教育委員会から財団法人石川県埋蔵文化財センターに委託され、農道整備に伴い遺跡が損壊を受ける870㎡（15年度）・130㎡（16年度）を対象に実施した。

平成15年度調査は調査部調査第2課和田龍介、林大智が担当し、平成15年7月7日～9月25日にかけて実施した。調査区はA～D区にあたる。

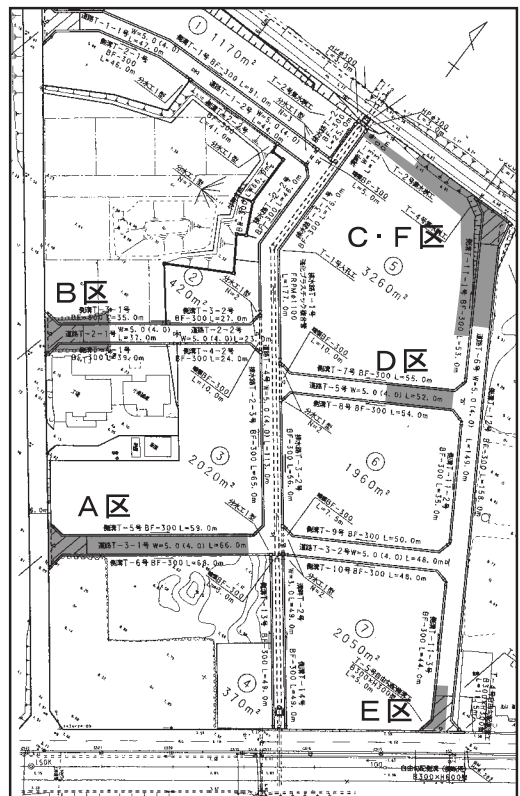
平成16年度調査は調査部調査第2課白田義彦、荒木麻里子が担当し、平成16年6月24日～7月21日にかけて実施した。調査区はE・F区にあたる。

2 調査の概要

本調査区は矢田野遺跡・矢田借屋古墳群に位置する4箇所である。矢田借屋古墳群は矢田野遺跡の



第131図 平成15・16年度調査位置図
(S=1/25,000)



第132図 平成15・16年度調査区
(S=1/2,000)

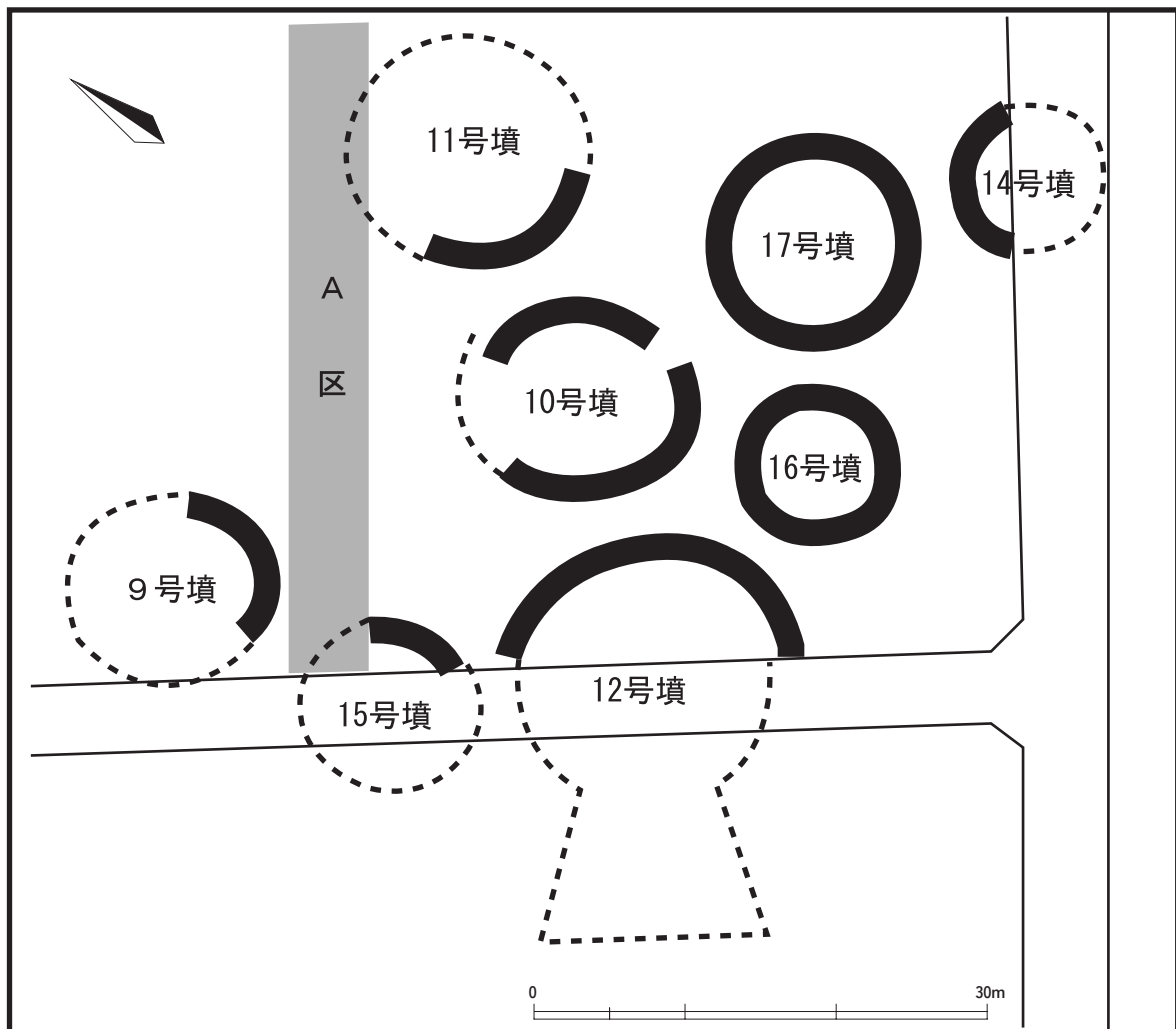
範囲中に含まれており、A・B区が矢田借屋古墳群、C～F区が矢田野遺跡に相当する。本遺跡の位置する月津台地は、後世の開発・農地整備等による地形改変・損壊が著しく、3基検出された古墳も墳丘を削平されわずかに周溝が確認できたのみであった。

A・B区では計2基の古墳を検出した。この内A区古墳は、小松市平成13年度調査分の矢田借屋15号墳の延長部分に相当し、本報告でも15号墳として扱う。さらにその北東側では、11号墳の延長が想定されたが、削平などが著しく確認できなかった。基本的に古墳時代の遺構が残っていたのは調査区南端から10～12mほどで、それ以北は削平・埋め立て等により遺構を確認できていない。B区で検出された周溝の一部は未発見の古墳であり、新たに18号墳とした。B区は調査区が台状に残る地区で、その周囲は削平により約2mほど現地地形が下がっていた。谷部に向かう南北のトレンチを設定し、削平部分も遺構確認を行ったが全く遺構・遺物共に確認されなかった。

C区は現農道部分を調査対象としているが、一部で削平や自動車の通行により遺構面が損壊しており、わずかに旧地形を残す部分で竪穴住居1棟を確認した。この竪穴住居も上部をかなり失っており、検出面から床面までわずか20cmほどであった。

D区はこれらの中では最も遺存状況のよい調査区であった。住居などは確認されず、土坑やピット、小溝などが確認されている。またこの調査区では古代の遺物を出土している。

E区はC区で対象とした農道の南側延長、現市道との合流部分を調査した。この調査区も後世の



第133図 矢田借屋古墳群古墳配置模式図 (S=1/500)

攪乱による損壊が著しかったが、古墳の周溝と思われる溝を確認している。

F区はC区の西側延長部分と、現地形の台地端部を調査した。C区では検出しきれなかった竪穴住居の延長部分を確認したが、その他の大部分は散漫な遺構の分布を示している。

本報告では遺構図1/80、断面図1/40、遺物1/3の縮尺とした。断りのない限りはこの縮尺で示す。

第2節 遺構と遺物

1. A地区の調査

矢田借屋15号墳

〔規模〕15号墳は前述のように小松市調査分から延長する。周溝および主体部は造り替えが認められた。SD01、SD02、SK01で構成され、SD01を埋め立ててSD02・SK01が構築される。周溝は調査区東端から西端を結び、わずかに弧を描いて巡る。規模は全体の約8分の1ほどと極めて狭い範囲のため想定が難しいが、小松市調査区分と合成すると約11～12mほどが想定される。平面プランからは墳形は円墳と考えられる。墳丘は削平を受け失われている。

〔周溝〕周溝はSD01・SD02の2条を検出した。合流部分が攪乱により損壊を受けていたため層序での切り合いを確認できなかったが、遺構面やわずかに残った合流部の土層観察からSD01→SD02の先後関係を確認した。

SD01は旧15号墳周溝で、緩やかに弧を描きながら調査区南端～北端を結び、溝幅1.8m、黄褐色土地山面から溝深0.6～0.65mを測る。南端部分で後述するSK01が埋没後に構築されている。埋土は地山粒・ブロックを含む暗茶褐色～暗茶灰色土である。SD02に比して複雑な堆積を示しており、人為的な埋め立てを想定できる。遺物は2～4が出土している。有台杯(3)は表土～攪乱付近の出土で8世紀中葉に想定されよう。杯(2)はTK43式期併行だが、当該期の在地窯に見られる成形・調整の粗雑化が目立つ。

SD02は新15号墳周溝で、SD01の北側に弧を描き、SD01を切りながら南側へ続く。SD01合流部付近からややきつい弧を描くようである。切り合い箇所については攪乱が著しく、明確に層序で示すことはできなかった。溝幅1.5～1.6m、検出面よりの溝深0.6mを測る。埋土は地山粒・ブロックを含む暗茶褐色～暗茶灰色土で、堆積状況から自然埋没と見ることができる。遺物は図示し得るものはなく、細片がごくわずか出土したのみである。

〔主体部〕新15号墳の主体部と考えられるSK01を検出した。SK01はSD01のほぼ中央部分、埋め立て後に構築される。ほぼ南北に軸を有し、長辺は一部を確認したのみであるが、短辺1.2～1.25m、残存長辺2.25m、坑深0.4mを測る。礫敷・粘土殻等の主体部構造を示すような傍証を得られなかったが、SD01掘り下げ時に平面プランとして確認できたため主体部と判断した。南端には須恵器小型甕(1)が正位でほぼ坑底付近に配置されていた。甕(1)は口縁部の一部を欠損する他はほぼ完形品で、胴部上半に最大径を有する。

〔築造年代〕小松市調査分の詳細が不明のため明言できないが、杯(2)を起点とするならば古墳4様式Ⅱ-2期(TK43併行期)に、SD01埋め立て・SD02構築(15号墳造り替え)を求めることがで

きよう。

その他の A 区遺構

借屋15号墳を除くと、A 区では目立った遺構が無く東側（谷部）に向かうにつれ遺構は希薄となっていく。15号墳東側の P 3 からは須恵質の円筒埴輪片（6）が出土している。灰褐色～茶褐色を呈し、凸帯部分にあたる。他にも調査区出土で土師質（7）・須恵質（8）の円筒埴輪小片が出土している。調査区西端から15m 付近にある逆 C 状の溝は近代以降の小規模な建物基礎と考えられる。P 1 からは不明石製品（50）が出土している。凝灰岩製で表面は丁寧に研磨され、横方向に4条の鋭利な刻みが施される。下端の両凸基部には摩滅痕と思しき抉りがあり、あるいはひも状のもので吊り下げたかもしれない。下面には2つの非貫通孔が穿孔されるが、位置はバラバラである。陽物あるいは石仏などが想定されるが、時期不詳である。

2. B 区の調査

矢田借屋18号墳

【規模】周溝のみの遺存で、調査区を北-南に結び緩やかに弧を描いて横断する。検出が全体の8分の1以下と思われるため全体規模の想定は難しい。

【周溝】周溝はSD03を検出した。溝幅2.2～2.3m、溝深0.3m前後で、上部は墳丘も含めてかなり削平を受けていることが推測される。埋土は暗灰褐色粘質土・濁橙褐色粘土の層で、自然堆積と考えられる。遺物は9～14が出土している。平瓶（10）（11）は時期の異なる2個体がほぼ同一レベルで出土した。（10）がやや扁平な球胴部にボタン状鈕を付すのに対し、（11）では球胴気味の体部に粘土紐の環状鈕を付す。また口頸部の胴部への取り付け方も、（10）では天井平坦部に付けるのに対し、（11）では屈曲の始まる肩部に取り付く。（11）の個体の方が新相を示し、あるいは後代の混入かもしれない。長頸瓶（9）は下半分を欠損する。胴部上半に最大径を持ち、ゆるやかに屈曲して頸部に続く。胴部2条・3条の沈線区画帯に刻み目を有する。無蓋高杯（13）は杯と脚部の接合部付近を欠損する。脚部の透孔は丁寧に切り取られており、長脚二段透孔の形状をとるものと考えられる。杯部は下半部に2条のシャープな凸帯を有し、凸帯間は無文である。

【築造年代】周溝内出土の9～11はほぼ同層位・レベルで出土しており、9・11～14が古墳時代4様式Ⅱ期（TK43～TK209併行）、10はかなり下がって古代Ⅱ期相当の様相を示す。10を埋没時の混入と見なせれば、借屋15号墳とほぼ同時期かわずかに新しい築造年代観を与えることができよう。

その他の B 区遺構

SK02は黒褐色土単層、地山粒を混入することから借屋18号墳と時期は異なる。北東側にほぼ南北に軸を持つ道路状遺構は、両側に側溝を有し幅員は約1.5mである。調査区南側の現道とほぼ並行することや、上面に砂粒・小礫を敷いた痕跡が見えることから少なくとも近代以降の所産と考えられる。

B 区調査区出土遺物は、小片だが二面平頭風字硯（15）、把手（16）が出土する。

3. C・F区の調査

竪穴住居 SI01

C・F区南端に位置し、平成15年度調査C区で大部分を、平成16年度調査F区で西端を調査した。西コーナーのみ調査区外にのび、全形を明らかにし得なかった。北西辺にL字型カマドを有する特異な住居である。

【規模】一辺7.6mのほぼ方形を呈する。上面の大部分を削平により失っており、検出面から床面までの深度は最大で0.2m弱であった。構造は4本柱で、柱穴規模は0.6～0.8m、柱間は東西間（P1-P2）3.9m、南北間（P2-P3）4.1mである。

【構造】L字型カマドは北西辺に焚き口を持ち、焚き口の西側にカマド袖から連続する壁を、東側にカマド袖からL字に曲がる壁を構築し、住居壁との間を煙道として北コーナーより排煙する構造を持つ。煙道は崩落した土（被熱赤化した橙茶～暗橙色土）で埋まっていた。埋土には定量の地山粒・焼土粒・炭化物粒が含まれる。煙道長は2.9m（残存長）である。カマドは上面構造物を失っており、被熱硬化した床面の範囲を想定した。焚き口幅は0.6mである。住居煙道口から北に延びる溝は戸外煙道ではなく、近代の農道につく溝である。この溝によって煙道口は損壊している。

床面は住居の中央部（図上破線範囲）に硬化面が認められ貼床と認識した。貼床土は濁橙褐色土で、わずかに炭化物粒を含む。また東西両端近く、貼床を切り込む形で大型の土坑SK01・02を確認した。いわゆる「床下土坑」と呼ばれるタイプのもので、湿気対策等が指摘されている。

【遺物】散漫な出土で、須恵器供膳具が中心である。杯蓋は杯A蓋（17・18・23）および杯B蓋（21）が出土する。17は浅身タイプで、口縁部外縁に明確な稜を有する。天井部はロクロヘラキリをそのまま残し、肩部ロクロケズリ、肩～口縁部をロクロナデ調整する。18は深身タイプで、口縁部外縁に弱い稜を有する。天井部はヘラキリ後粗雑なヘラケズリ、肩～体部ヘラケズリ、口縁部付近をロクロナデ調整する。17・18ともカマド焚き口付近での出土である。21は扁平な鈕が付く杯B蓋で、天井部は丁寧なカキメが施される。貼床下よりの出土。杯身（19）は口縁部がやや外反しながら内径し、受けが基部に凹みを持ち長くなる。底部が欠損するため全体の調整は不明。高杯脚部（24）は台部が前代のようにラップ状に広がらず、また透孔の作り出しも粗雑である。また図示されていないが、竪穴覆土全域にわたり鉄滓粒？と思しき鉄粒を確認できた。柱穴P1では小鉄滓が出土している。

【築造年代】貼床下出土の杯蓋（21）・短頸壺（22）が築造当初の遺物と考えられ、他の遺物などからも古代I-1期（七世紀第1四半～第2四半期）に想定することができる。

その他のC・F区遺構

SI01南東、調査区コーナーでSI01覆土に類似した深い落ち込み状の遺構を確認した。竪穴住居の可能性がある。C区P13西側で、被熱赤化した焼土範囲を確認した。周辺を精査したが、住居等にはならなかった。P13内からは甕片（37）が出土する。同じくC区P08から赤彩土師器（36）P33からは無台杯（38）のような古代の遺物が出土している。38は古代II～III期であろうか。

調査区出土遺物では、表土および竪穴検出時に26～33が出土した。ほぼ竪穴の年代に相当する遺物である。F区台地端では縄文土器（39）が出土した。底部に網代圧痕を持ち、時期等不詳である。またF区では古代の遺物の出土が目立ち、P8から赤彩土師器碗（36）、P30・33から無台杯（38）が出土している。D区の古代遺物と併せ、谷東側に古代の遺跡が存在することを窺わせている。

4. D 区の調査

D 区では特殊な遺構は確認されず、ピット・土坑などが検出された。遺物が少ないため時期を特定し難いが、他調査区の古墳時代の埋土に類似する遺構では焼土粒・炭化物粒などが含まれる傾向にあった。D 区南端の SK01 は大型の土坑だが、暗褐色土を主体とする覆土の全域から地山粒・ブロックが見られる。調査時は風倒木痕と認識していたが、堆積状況などから近世～近代の貯蔵穴であった可能性がある。SK05 は略長方形を呈する大型土坑で、覆土上層で焼土粒・炭化物粒の集中が見られた。調査区中央を東西に横断する SD01～03 は暗褐色土の単層覆土で、SK01 などと同時期の新しい時期の遺構であろう。遺物の出土は散漫で、古墳時代の遺物や古代の遺物などが含まれる。

5. E 区の調査

E 区は、農道整備前は造園業に伴う土地利用であつたらしく、遺構面のかなりが木根・抜根跡・竹根などにより損壊していた。遺構は矢田野古墳群に含まれる古墳周溝 SD01 を確認している。SD01 は調査区北西壁～南西壁を弧を描きながら結び、溝幅 1.4m、溝深は最大で 0.2m ほどと上面の大半を失っている。覆土は矢田借屋古墳群とは異なり灰褐色砂質土であつたが、上面を損壊しているため判断材料にはならない。周溝規模は復元直径で 12～13m ほどになるだろうか。遺物が出土せず、時期を特定するには至らなかった。E 区遺構検出時に大甕（48）、古代の須恵質平瓦片（49）が出土する。

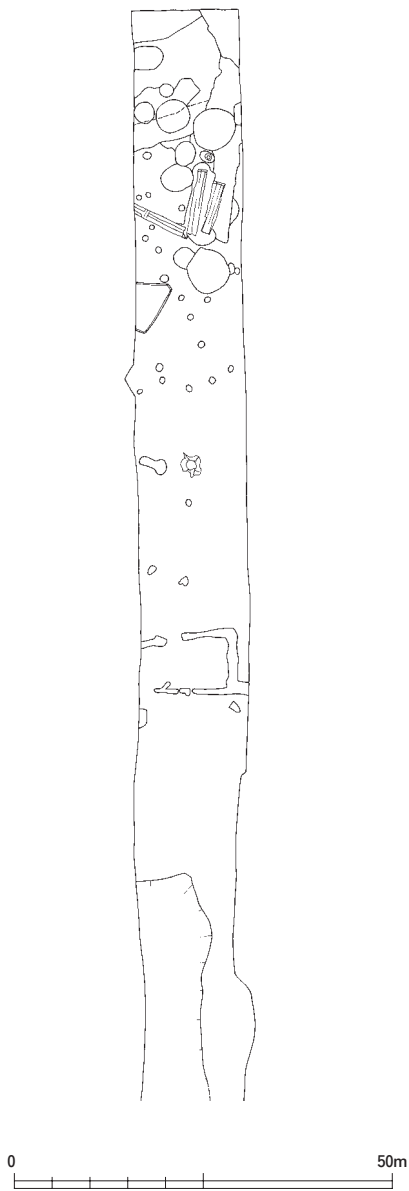
第3節 平成15・16年度調査の成果

調査地は南北方向に走る谷で分断されており、谷西側が A・B 区、西側が C～F 区となる。この谷筋の北・南延長部は、調査時にはすでに農地化されており旧地形の把握は困難である。おそらく、この谷筋が矢田借屋古墳群の東限になるのではないかと考えられる。一方、谷筋の東側でも古墳周溝が確認されており（E 区 SD03）、矢田借屋古墳群と谷筋を挟んで矢田野古墳群が相対していた状況を見ることができる。矢田野古墳群の規模・動態が明らかでないが、それぞれを支群ととらえ、月津台地東側に展開する一大古墳群として両者を理解することも可能であろう。本調査で確認された 3 基の古墳は、およそ古墳時代 4 様式 - II に属すると思われる、これまでの調査成果の範疇に収まっている。また谷東側では、明確な遺構は確認されなかったものの古代 III～IV 期（8 世紀）の遺物が出土する。

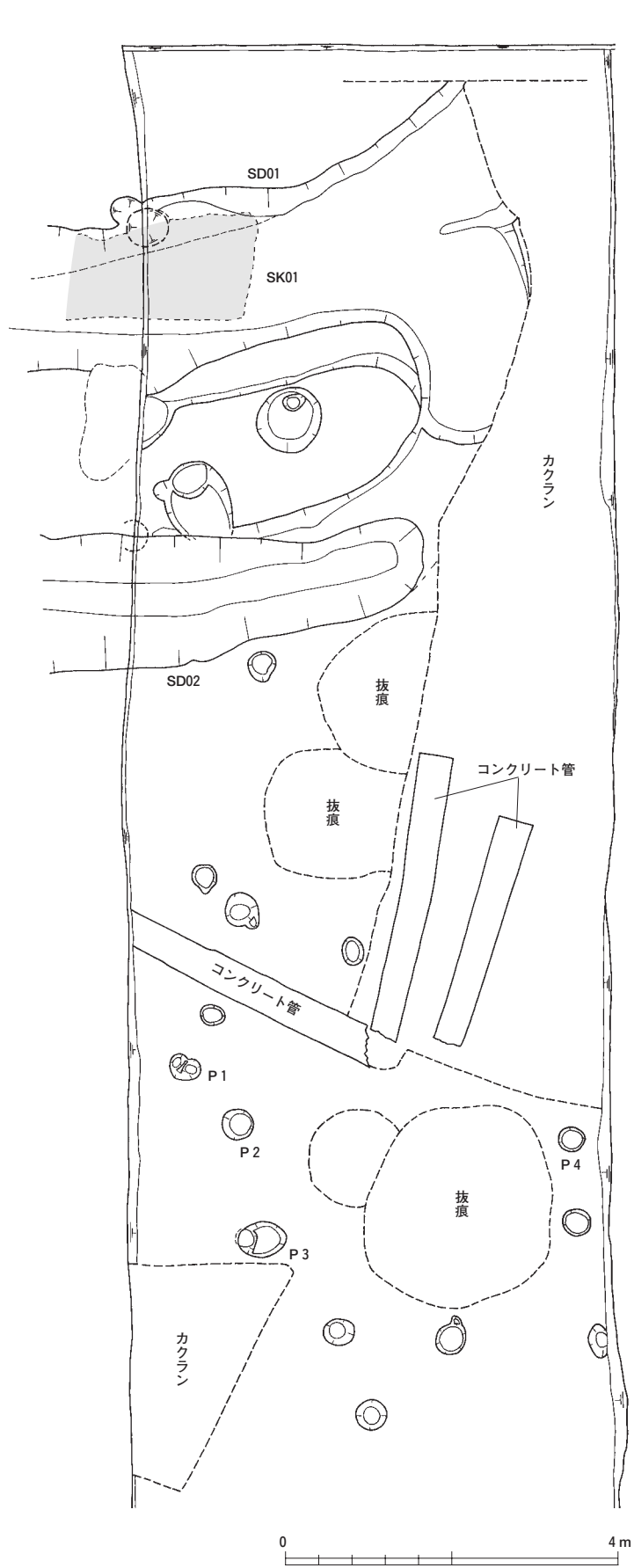
C 区で検出された L 字型カマドを有する竪穴住居は、これまで月津台地北側の額見町遺跡・額見町西遺跡でのみ知られる特殊な住居であつたが、本調査でその南限が矢田野遺跡まで確認されたのは一つの成果であろう。

参考文献

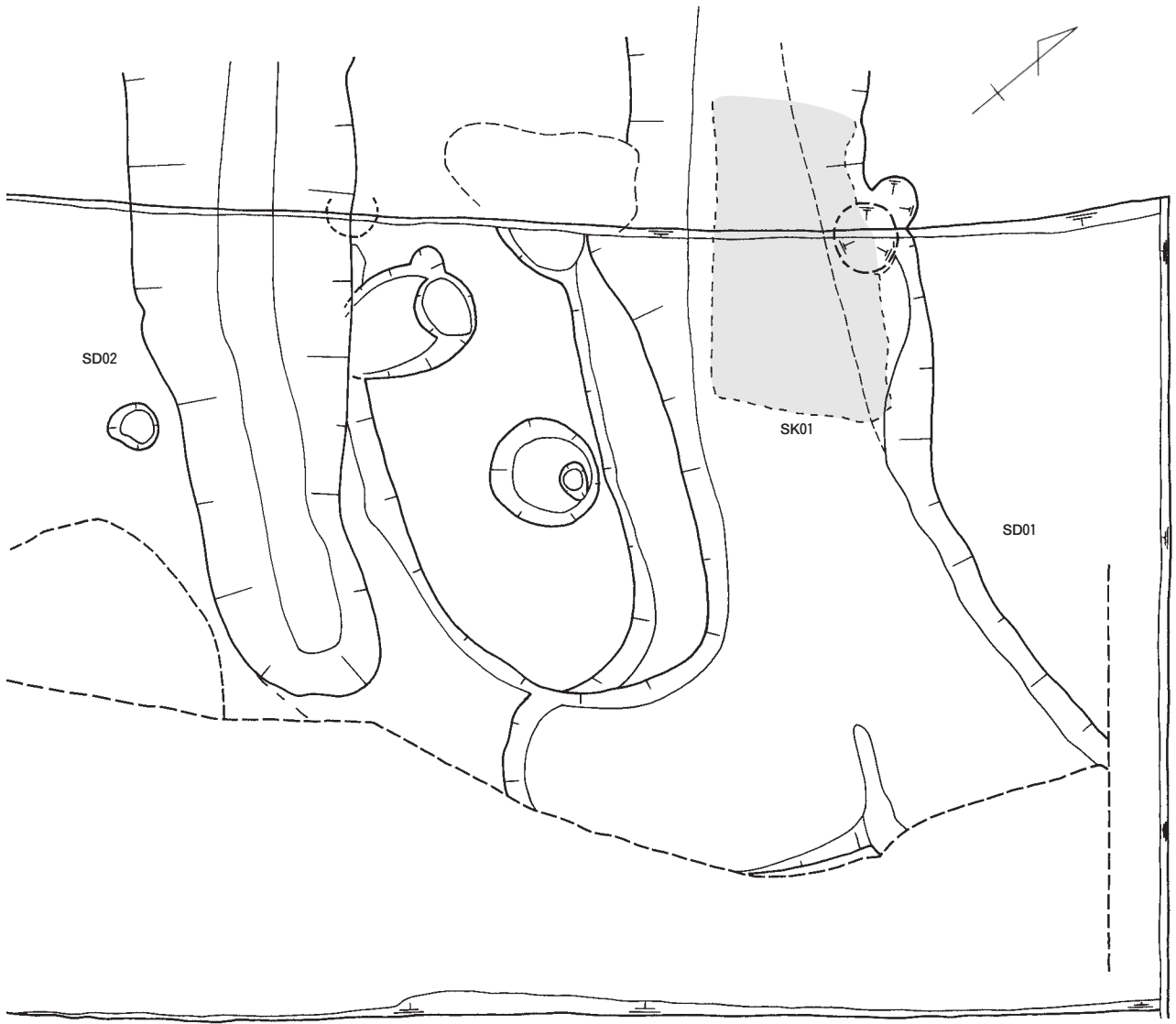
- 小松市教育委員会 1999 『額見町遺跡（額見町遺跡 B 地区） 申・額見地区土地区画整理事業関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書 - 2 - 』
- 小松市教育委員会 2000 『矢田借屋古墳群』
- （財）石川県埋蔵文化財センター 2000 『小松市額見町西遺跡』



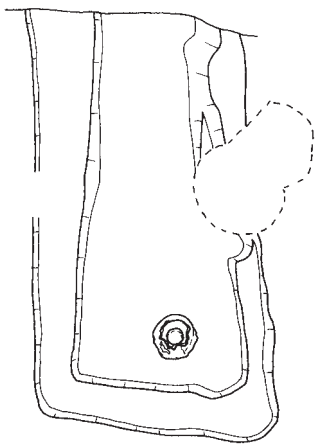
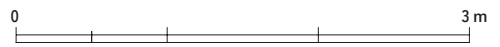
第134図 A区 略図 (S=1/500)



第135図 A区 遺構図① (S=1/80)

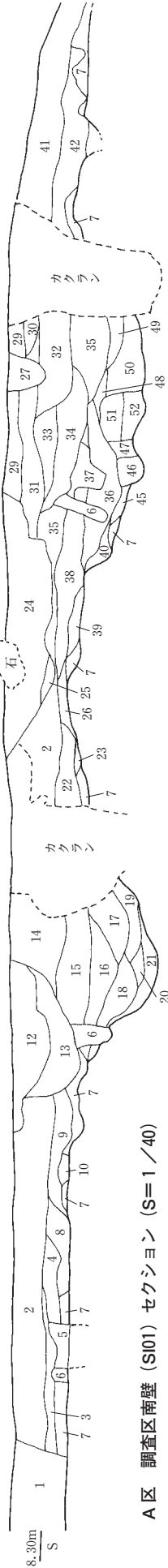


第136図 矢田借屋15号墳 (S=1/50)



第137図 SK01 (S=1/40)





A区 調査区南壁 (S101) セクション (S=1/40)

A区調査区南壁セクション

- 1~3 暗灰緑色土 カクラン
- 4 暗灰褐色土
- 5 暗茶灰色土
- 6 暗橙褐色土
- 7 暗灰褐色土
- 8 暗茶褐色土
- 9 暗茶灰色土
- 10 暗茶褐色土
- 11 暗茶褐色土
- 12 暗茶褐色土
- 13 暗茶褐色土
- 14 暗茶褐色土
- 15 暗茶褐色土
- 16 暗茶褐色土
- 17 暗茶褐色土
- 18 暗茶褐色土
- 19 暗茶褐色土

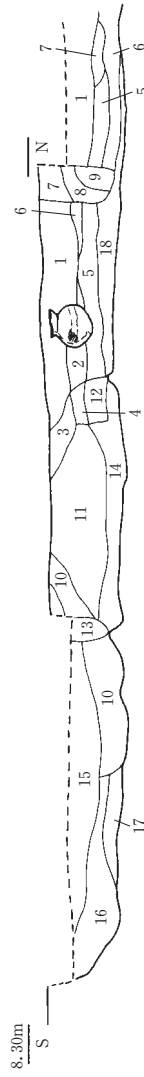
- 20 暗茶褐色土
- 21 暗茶褐色土
- 22 暗茶褐色土
- 23 暗茶褐色土
- 24 暗茶褐色土
- 25 暗茶褐色土
- 26 暗茶褐色土
- 27 暗茶褐色土
- 28 暗茶褐色土
- 29 暗茶褐色土
- 30 暗茶褐色土
- 31 暗茶褐色土
- 32 暗茶褐色土
- 33 暗茶褐色土
- 34 暗茶褐色土
- 35 暗茶褐色土

- 36 暗茶褐色土
- 37 暗茶褐色土
- 38 暗茶褐色土
- 39 暗茶褐色土
- 40 暗茶褐色土
- 41 暗茶褐色土
- 42 暗茶褐色土
- 43 暗茶褐色土
- 44 暗茶褐色土
- 45 暗茶褐色土
- 46 暗茶褐色土
- 47 暗茶褐色土
- 48 暗茶褐色土
- 49 暗茶褐色土
- 50 暗茶褐色土
- 51 暗茶褐色土
- 52 暗茶褐色土

- 36 暗茶褐色土
- 37 暗茶褐色土
- 38 暗茶褐色土
- 39 暗茶褐色土
- 40 暗茶褐色土
- 41 暗茶褐色土
- 42 暗茶褐色土
- 43 暗茶褐色土
- 44 暗茶褐色土
- 45 暗茶褐色土
- 46 暗茶褐色土
- 47 暗茶褐色土
- 48 暗茶褐色土
- 49 暗茶褐色土
- 50 暗茶褐色土
- 51 暗茶褐色土
- 52 暗茶褐色土

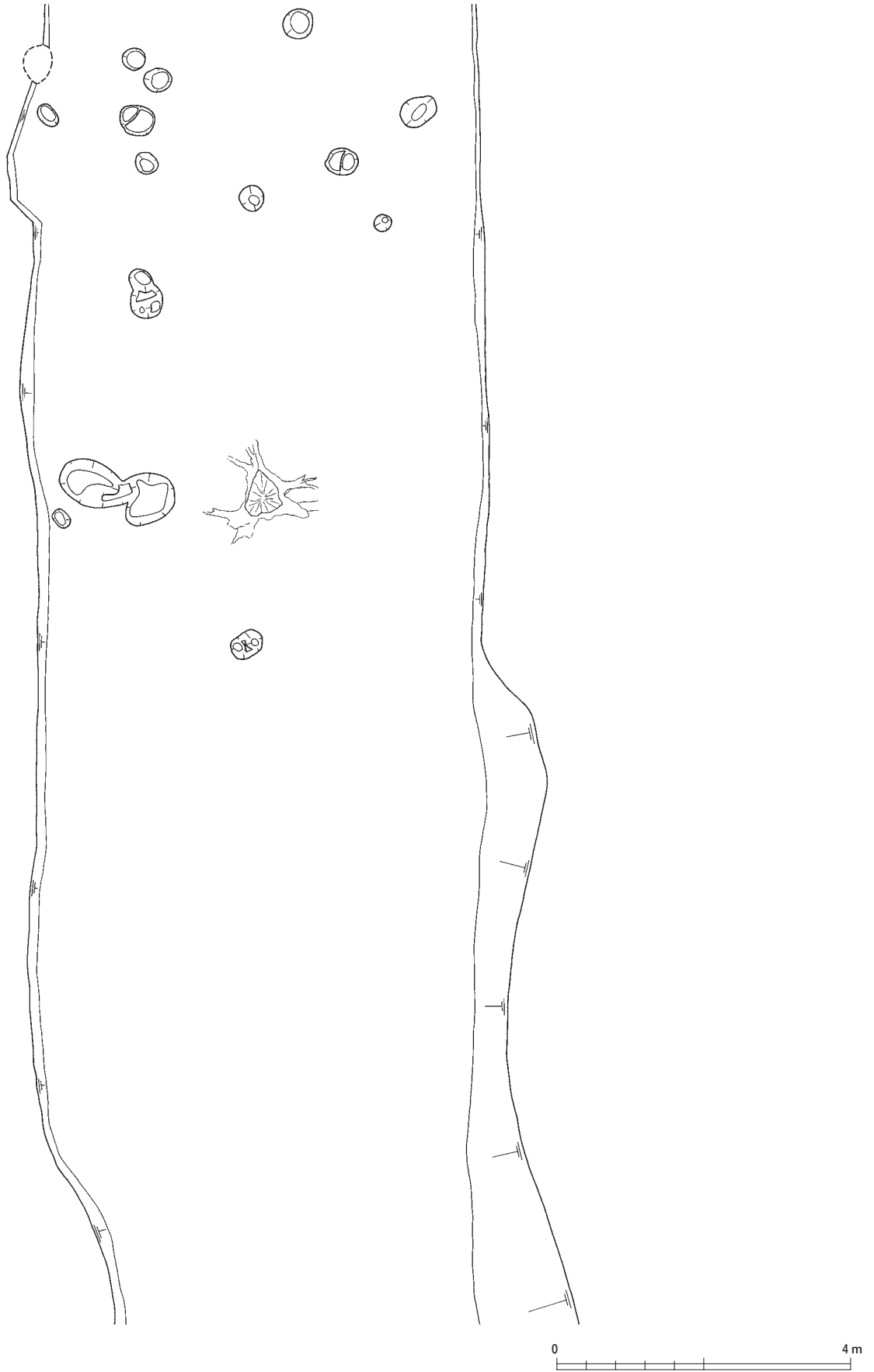
第138図 A区 セクション図 (S=1/40)

- A区 SD02・SK01セクション
- 1 暗茶褐色土
 - 2 暗茶褐色土
 - 3 暗茶褐色土
 - 4 暗茶褐色土
 - 5 暗茶褐色土
 - 6 暗茶褐色土
 - 7 暗茶褐色土
 - 8 暗茶褐色土
 - 9 暗茶褐色土
 - 10 暗茶褐色土
 - 11 暗茶褐色土
 - 12 暗茶褐色土
 - 13 暗茶褐色土
 - 14 暗茶褐色土
 - 15 暗茶褐色土
 - 16 暗茶褐色土
 - 17 暗茶褐色土
 - 18 暗茶褐色土
 - 19 暗茶褐色土

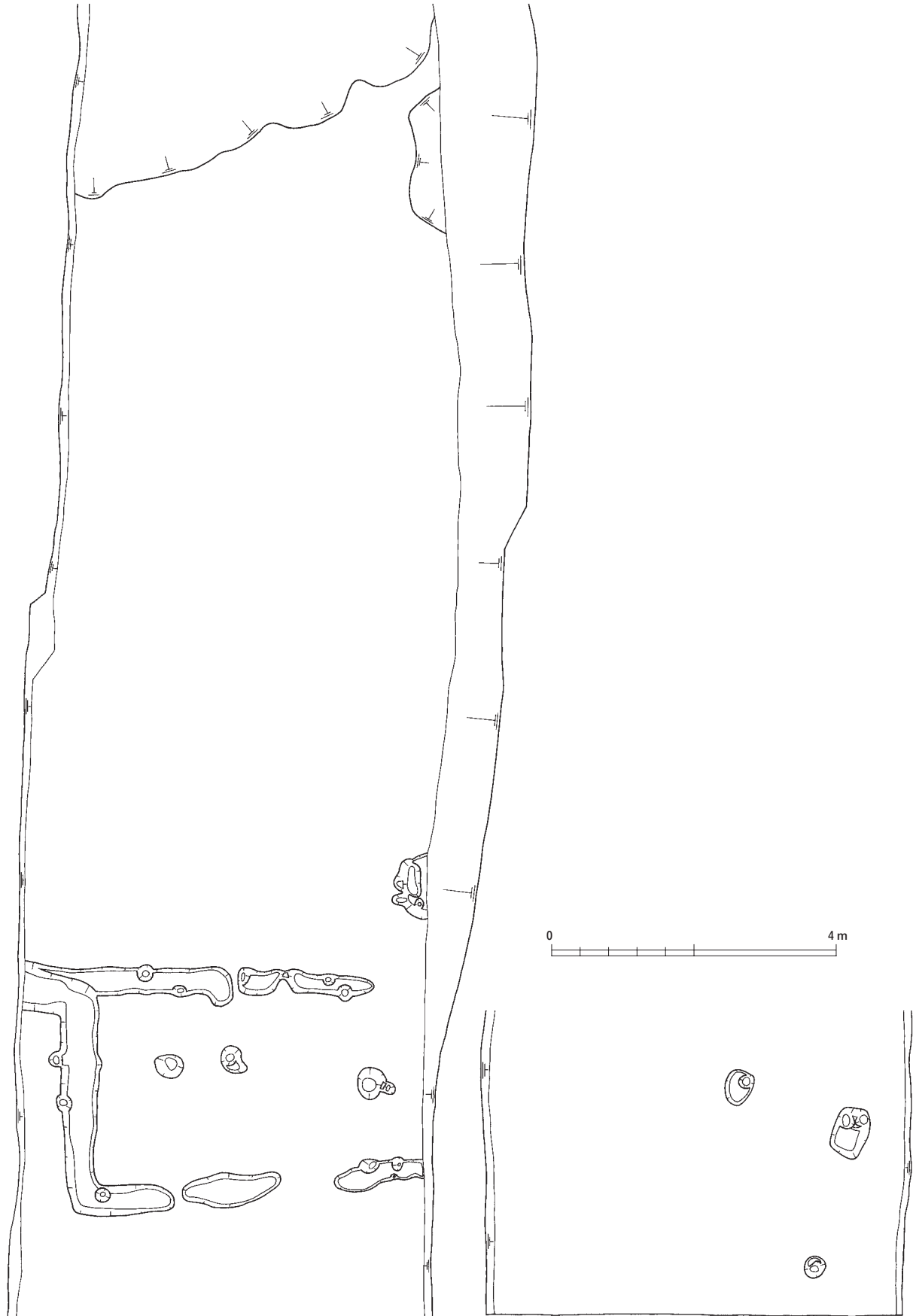


A区 SD01・02・SK01セクション (S=1/40)

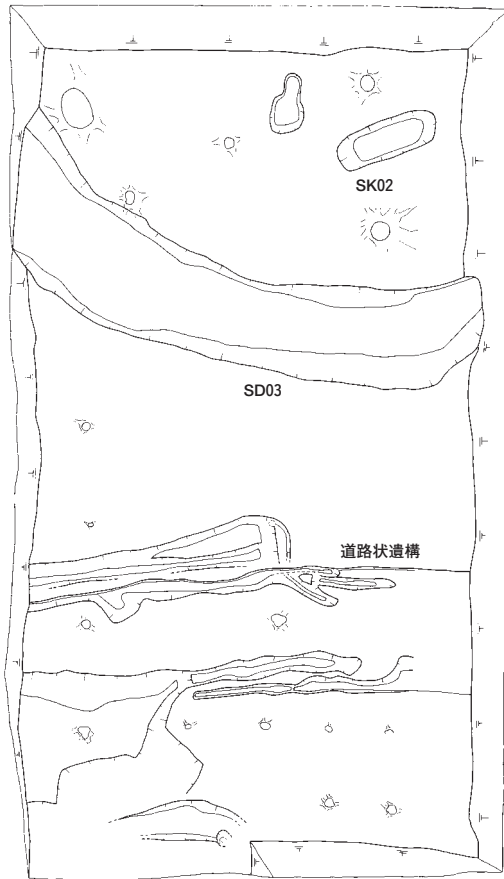




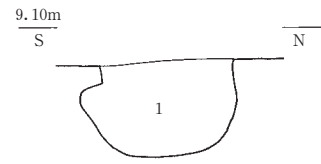
第139図 A区 遺構図② (S=1/80)



第140図 A区 遺構図③ (S=1/80)

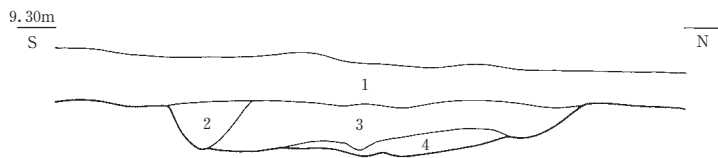


B区 遺構図 (S=1/80)



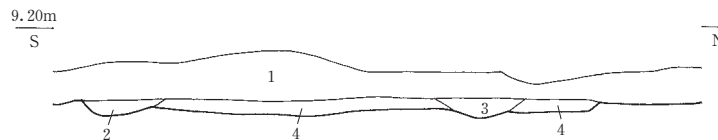
B区 SK02セクション (S=1/40)

B区 SK02
1 黒褐色土 ベース土粒微含



B区 SD03セクション (S=1/40)

B区 SD03
1 暗茶灰色土 表土
2 暗灰褐色土 木根?
3 暗灰褐色土 土器包含
4 濁橙褐色粘土 ベース土含



B区 道路状遺構セクション (S=1/40)

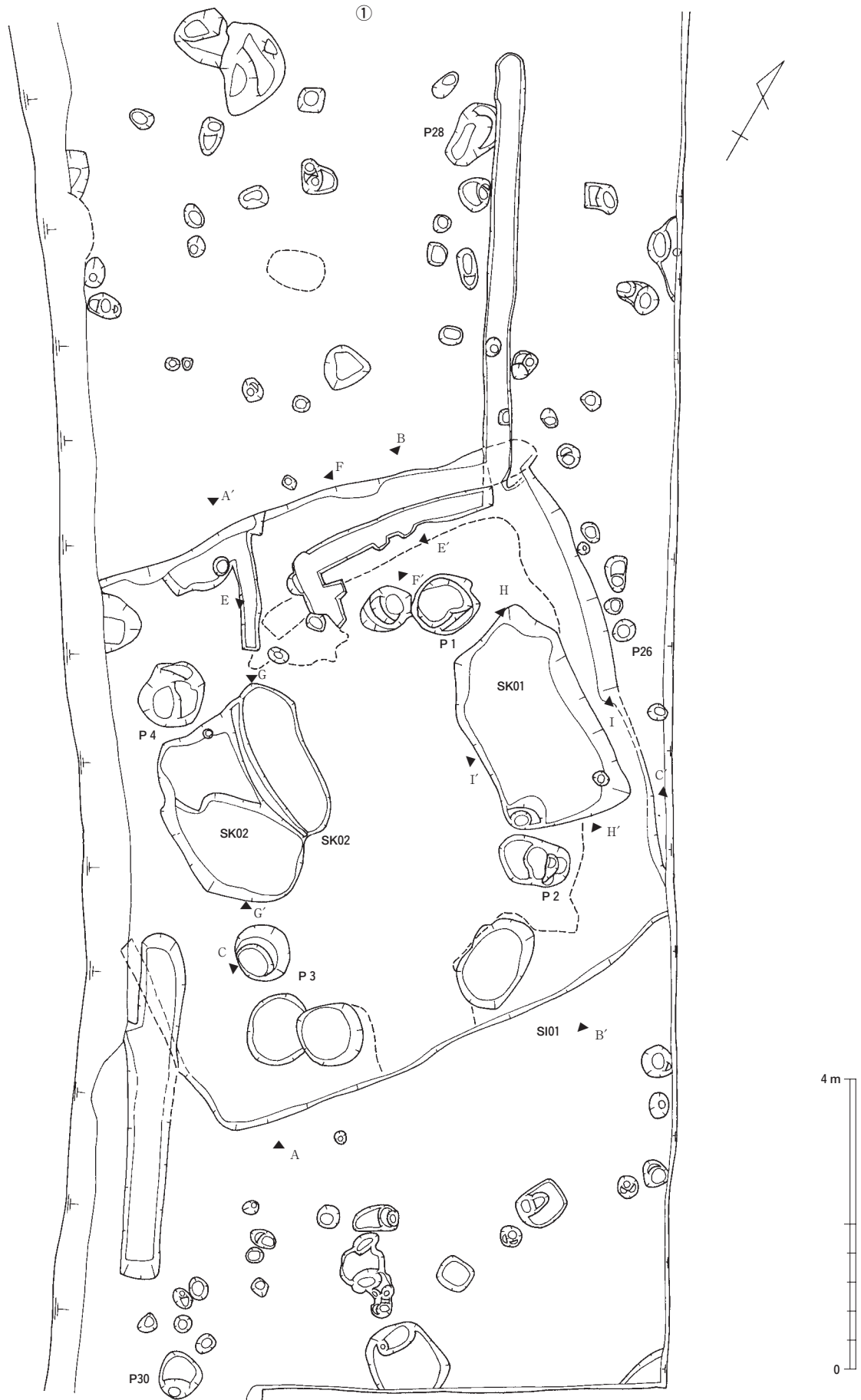
B区 道路状遺構
1 暗灰色土 表土
2 暗灰褐色粘質土 ベース土粒多、側溝?
3 暗灰褐色粘質土
4 黄灰色粘土 砂粒・小礫多。硬化面
5 暗黄灰色粘土 4層ほど硬化しない



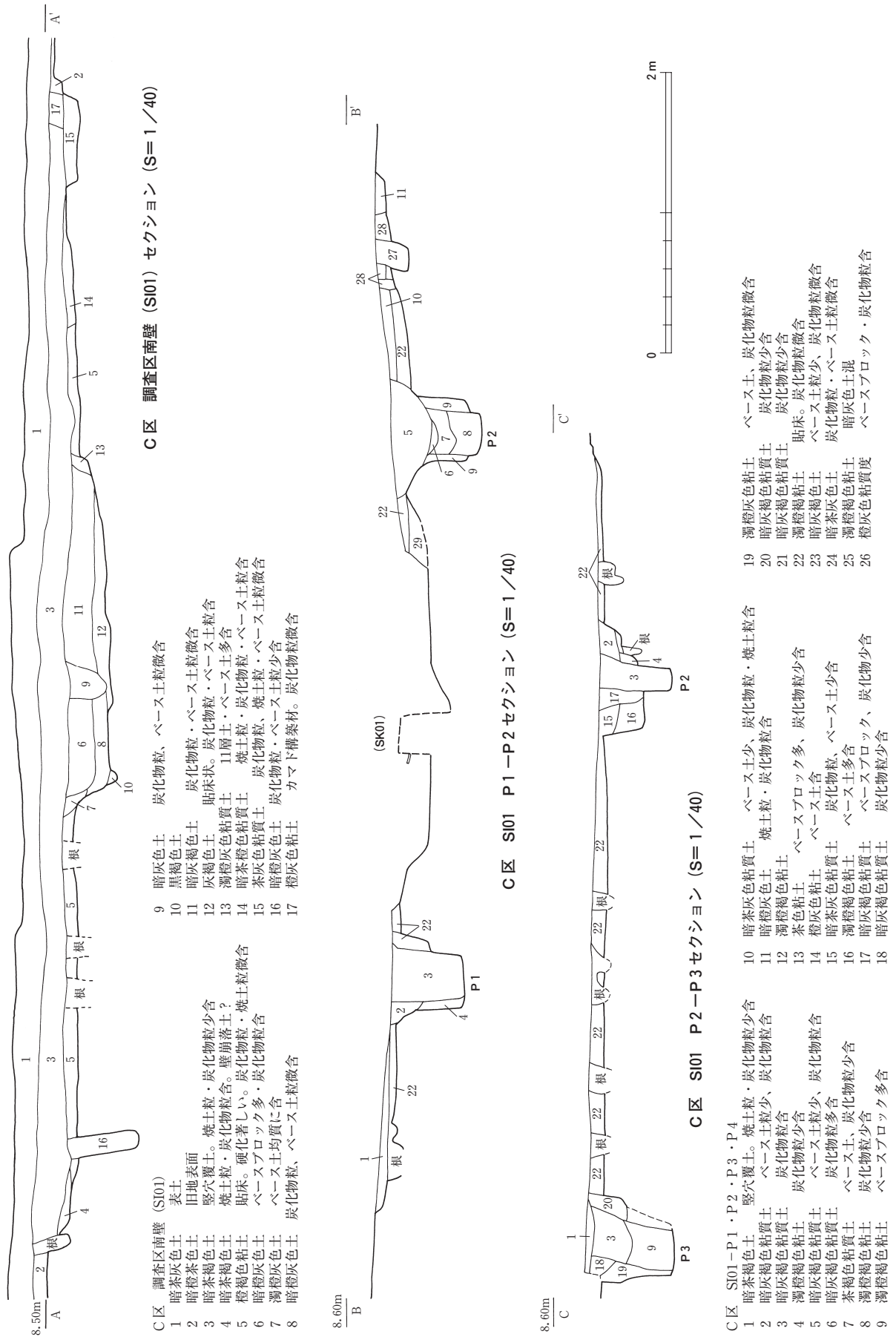
第141図 B区 遺構図 (S=1/40、1/80)



第142図 C・F区 全体図 (S=1/250)



第143図 C・F区 遺構図① (S=1/80)



C区 調査区南壁 (SI01) セクション (S=1/40)

C区 SI01 P1-P2 セクション (S=1/40)

C区 SI01 P2-P3 セクション (S=1/40)

C区 調査区南壁 (SI01)

- 1 暗橙灰色土
- 2 暗茶褐色土
- 3 暗茶褐色土
- 4 暗茶褐色土
- 5 暗茶褐色土
- 6 暗茶褐色土
- 7 暗茶褐色土
- 8 暗茶褐色土
- 9 暗灰色土
- 10 暗灰色土
- 11 暗灰色土
- 12 暗灰色土
- 13 暗灰色土
- 14 暗灰色土
- 15 暗灰色土
- 16 暗灰色土
- 17 暗灰色土

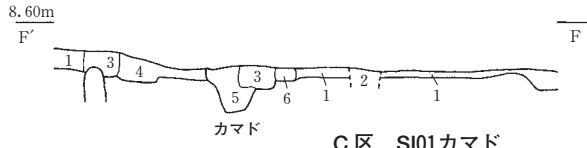
- 9 暗灰色土
- 10 暗灰色土
- 11 暗灰色土
- 12 暗灰色土
- 13 暗灰色土
- 14 暗灰色土
- 15 暗灰色土
- 16 暗灰色土
- 17 暗灰色土

- 18 暗灰色土
- 19 暗灰色土
- 20 暗灰色土
- 21 暗灰色土
- 22 暗灰色土
- 23 暗灰色土
- 24 暗灰色土
- 25 暗灰色土
- 26 暗灰色土
- 27 暗灰色土
- 28 暗灰色土

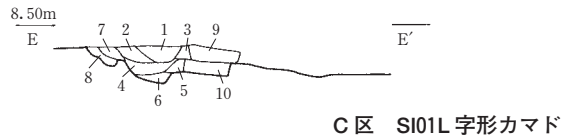
8.60m

8.60m

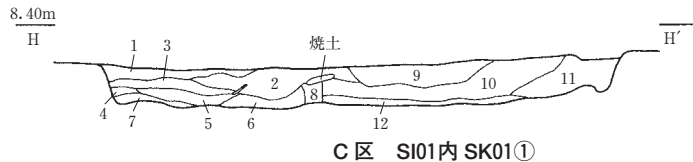
第144図 C区 SI01セクション図①



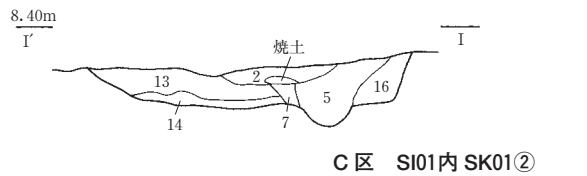
- C区 SI01カマド
- | | |
|-----------|-----------------|
| 1 茶褐色粘質土 | ベース土・炭化物粒・焼土粒少含 |
| 2 暗灰褐色粘質土 | 炭化物粒微含 |
| 3 濁橙灰色粘土 | カマド。ベースブロック多含 |
| 4 暗茶灰色粘質土 | 焼土粒・炭化物粒多含 |
| 5 暗灰褐色粘質土 | 炭化物粒微含 |
| 6 暗橙茶褐色粘土 | ベース土含 |



- C区 SI01Lオンドル状遺構
- | | |
|-----------|-------------------|
| 1 橙茶色土 | ベース土粒多、炭化物粒、焼土粒少含 |
| 2 橙茶色土 | ベース土粒少、炭化物粒、焼土粒少含 |
| 3 橙茶色土 | 煙道崩落土。ベース土粒多 |
| 4 暗橙色土 | 炭化物・焼土粒含、ベース土粒少含 |
| 5 暗橙色土 | 煙道崩落土。ベース土粒多 |
| 6 橙灰色土 | ベース土粒・炭化物粒・焼土粒少含 |
| 7 暗茶灰色土 | ベース土粒微、炭化物粒含 |
| 8 濁橙灰色粘質土 | |
| 9 橙褐色粘土 | 煙道。炭化物粒含 |
| 10 橙褐色粘土 | 煙道。7層土含 |



- C区 SI01-SK01
- | | |
|------------|--------------|
| 1 茶色粘質土 | 焼土粒、炭化物粒少含 |
| 2 暗茶褐色土 | 焼土粒少、炭化物粒含 |
| 3 橙茶色土 | 焼土粒、炭化物粒少含 |
| 4 濁橙褐色粘質土 | 焼土粒微含 |
| 5 暗茶色土 | 焼土粒、炭化物粒少含 |
| 6 茶灰色粘質土 | 炭化物粒少含 |
| 7 橙褐色粘土 | |
| 8 暗灰褐色粘質土 | 焼土粒・炭化物粒含 |
| 9 暗橙茶色粘質土 | 焼土粒・炭化物粒含 |
| 10 暗灰褐色土 | 炭化物粒多、焼土粒含 |
| 11 暗茶灰色土 | 焼土粒、炭化物粒少含 |
| 12 濁橙褐色粘土 | 焼土粒微含 |
| 13 暗灰褐色土 | 炭化物粒多、焼土粒含 |
| 14 暗橙茶色粘質土 | 炭化物粒微含 |
| 15 暗茶灰色土 | ベース土粒、炭化物粒少含 |
| 16 濁橙灰色粘質土 | |



- C区 SI01-SK02
- | | |
|-----------|-------------------|
| 1 暗茶灰色土 | ベース土粒多、炭化物粒、焼土粒少含 |
| 2 暗灰褐色粘質土 | ベース土粒・焼土粒、炭化物粒少含 |
| 3 暗茶灰色土 | ベース土粒多、炭化物粒少含 |
| 4 濁橙褐色粘土 | 貼床状 |



第145図 C区 SI01セクション図2

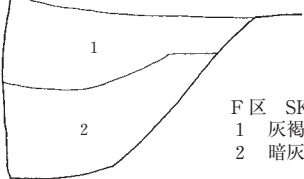


第146図 C・F区 遺構図② (S=1/80)



L=7.4m
a

b

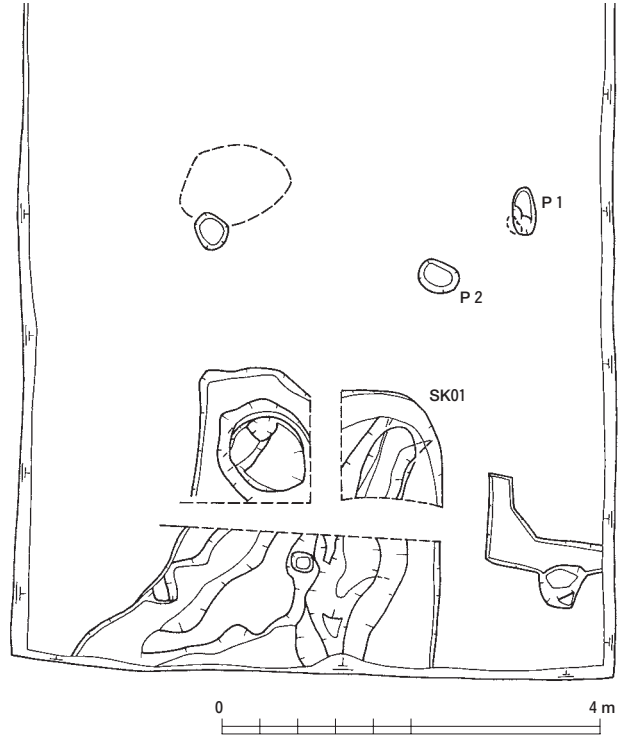
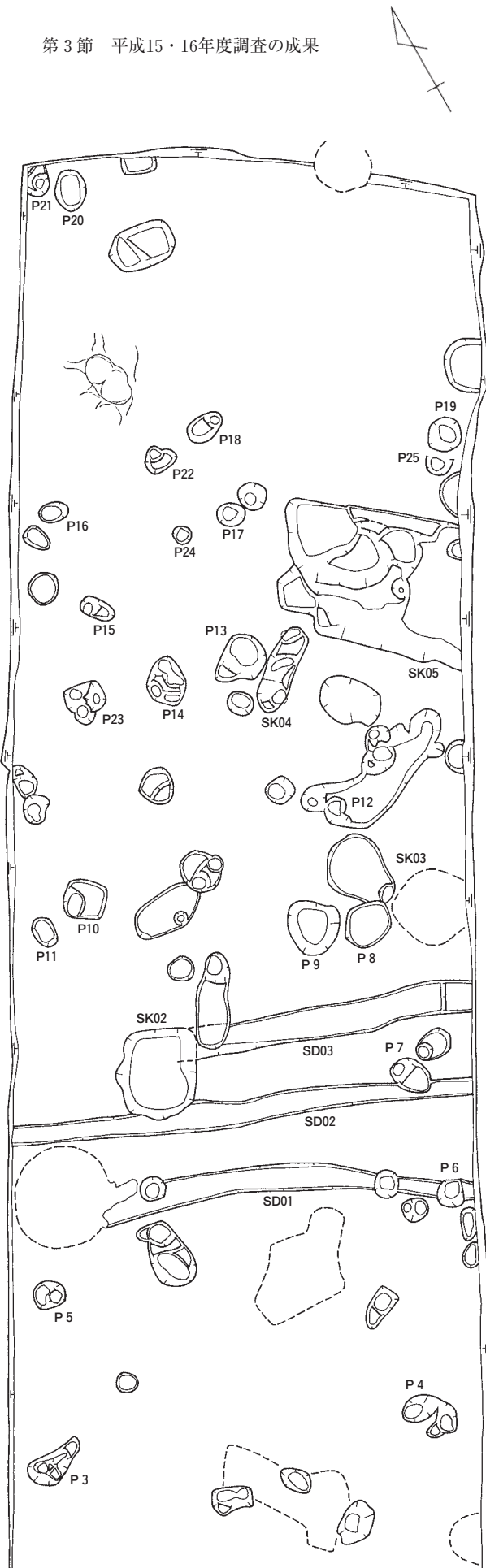


F区 SK02
1 灰褐色砂質土
2 暗灰褐色砂質土

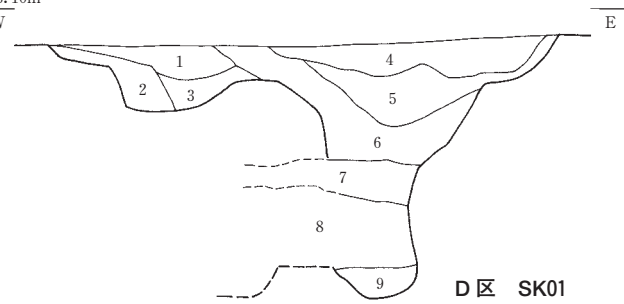


SK02

第147図 F区 遺構図③・④ (S=1/80)



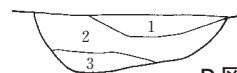
L=8.10m
W



D区 SK01

- D区 SK01
- 1 黒褐色土 植栽カクラン
 - 2 暗黄褐色土
 - 3 暗褐色土 ベースブロック多含
 - 4 黒褐色土 ベース土粒微含
 - 5 暗褐色土 ベース土粒多含
 - 6 暗褐色土 ベース土+黒褐色土
 - 7 暗褐色土 6層中に地山粒多含
 - 8 暗褐色土 ベース土・暗褐色土が互層
 - 9 暗黄褐色土 ベースブロック多含

L=8.70m
W

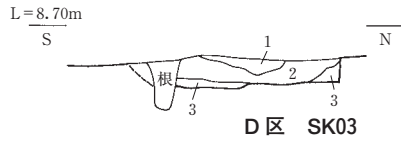


D区 SK02

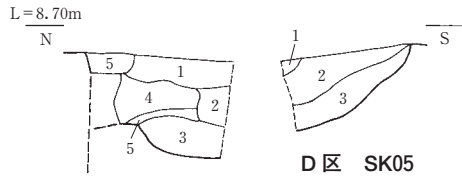
- D区 SK02
- 1 暗褐色土 ベース土粒多含
 - 2 黒褐色土 ベース土粒含
 - 3 黒褐色土 ベースブロック多含

第148図 D区 遺構図 (S=1/80)

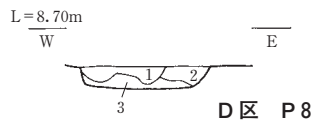
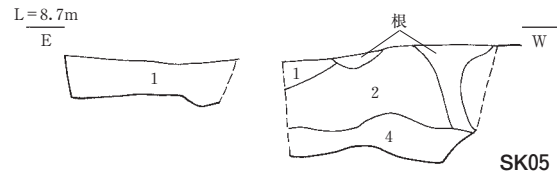




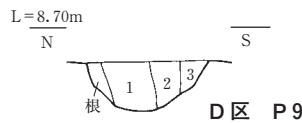
- D区 SK03
- 1 黒褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗褐色土
 - 4 黒褐色土
 - 5 黄褐色土
- ベース土粒含
ベース土粒、炭化物粒微含
ベースブロック集中



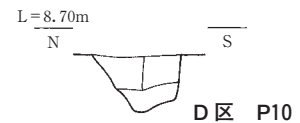
- D区 SK05
- 1 黒褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 黒褐色土
 - 4 黒褐色土
 - 5 黄褐色土
- 上面に焼土粒多混。地山粒・炭化物粒含
炭化物粒・ベース土粒多含
ベース土粒含
ベース土粒多含



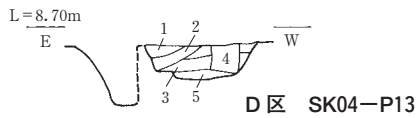
- D区 P8
- 1 黒褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗黄褐色土
- 焼土粒・炭化物粒多含
焼土粒・炭化物粒含



- D区 P9
- 1 黒褐色土
 - 2 黒褐色土
 - 3 暗黄褐色土
- 土器細片多含、炭化物粒含
ベース土粒含



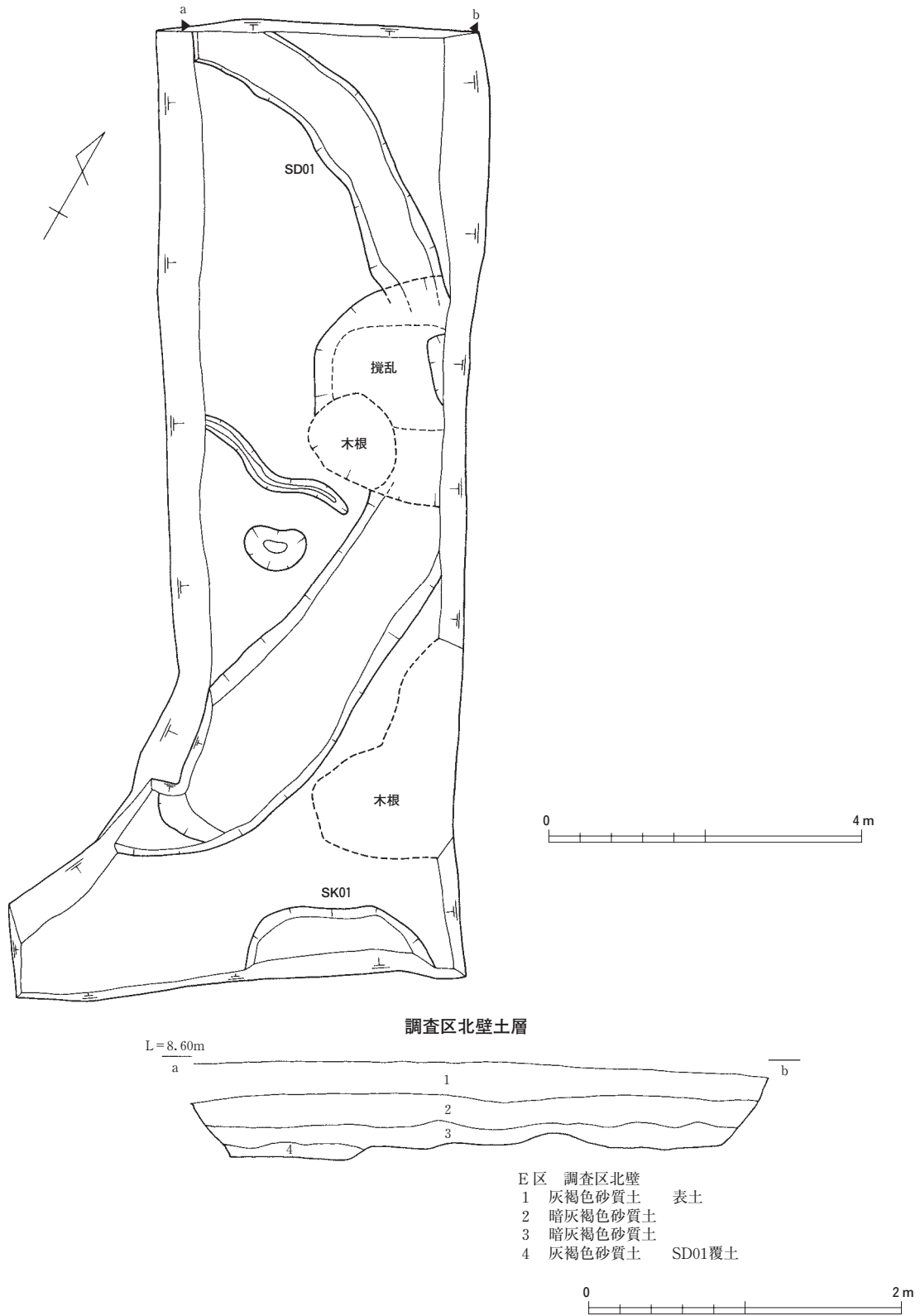
- D区 P10
- 1 黒褐色土
 - 2 黒褐色土
 - 3 暗黄褐色土
- ベース土粒含
ベース土粒含
ベースブロック多含



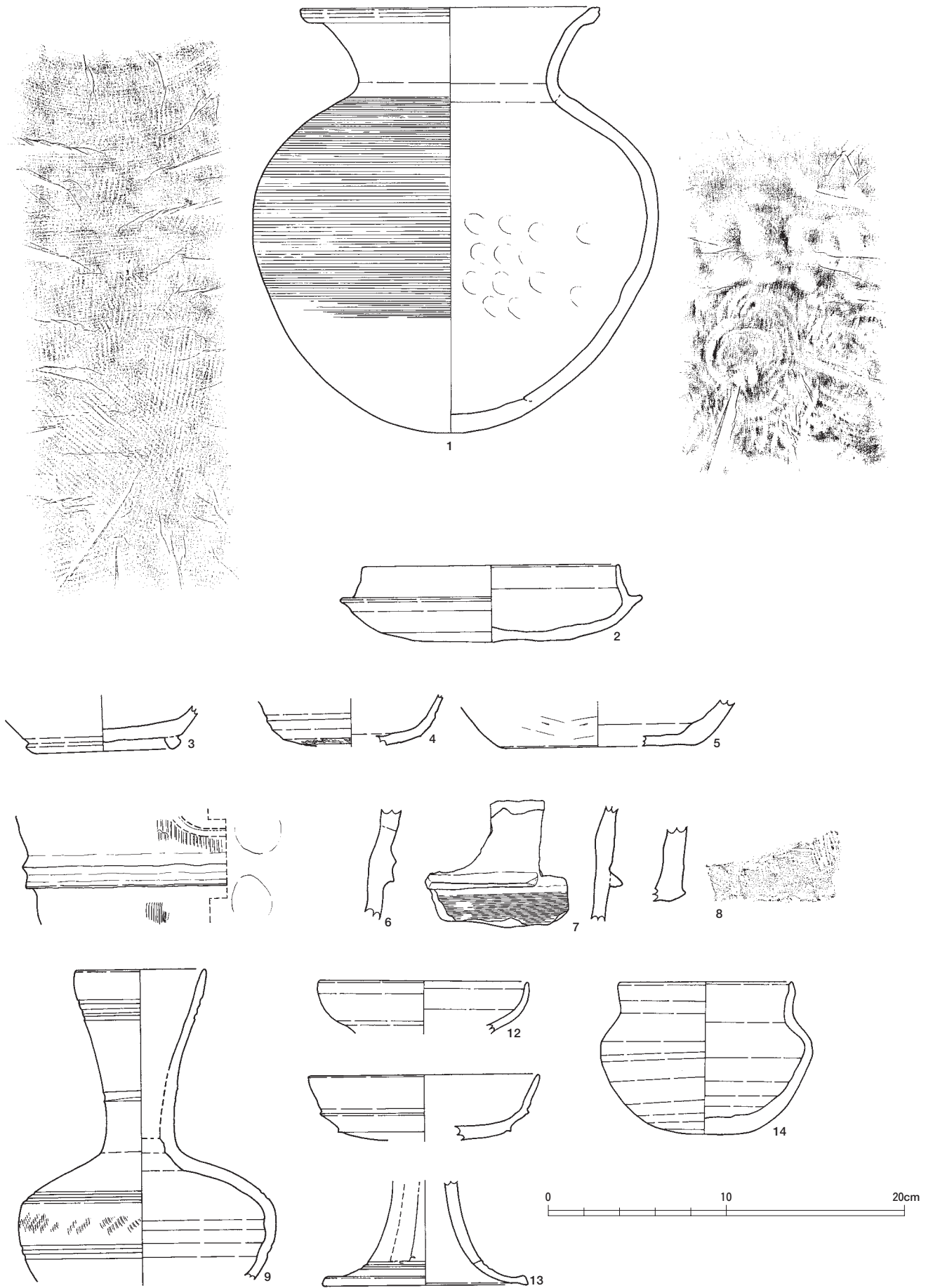
- D区 P13
- 1 黒褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 暗黄褐色土
 - 4 黒褐色土
 - 5 黄褐色土
- ベース土粒含
ベース土粒含
ベースブロック多含



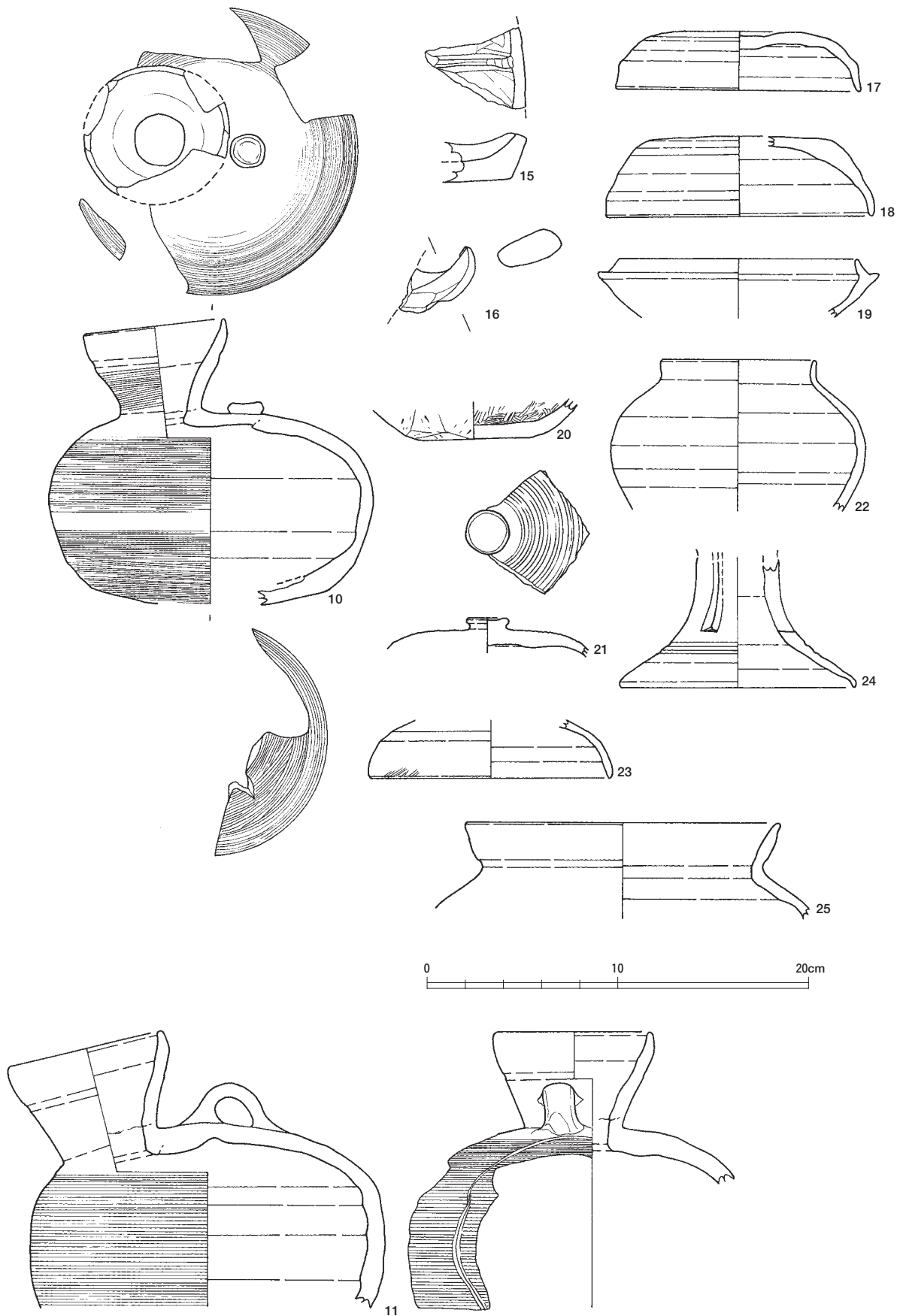
第149図 D区 セクション図



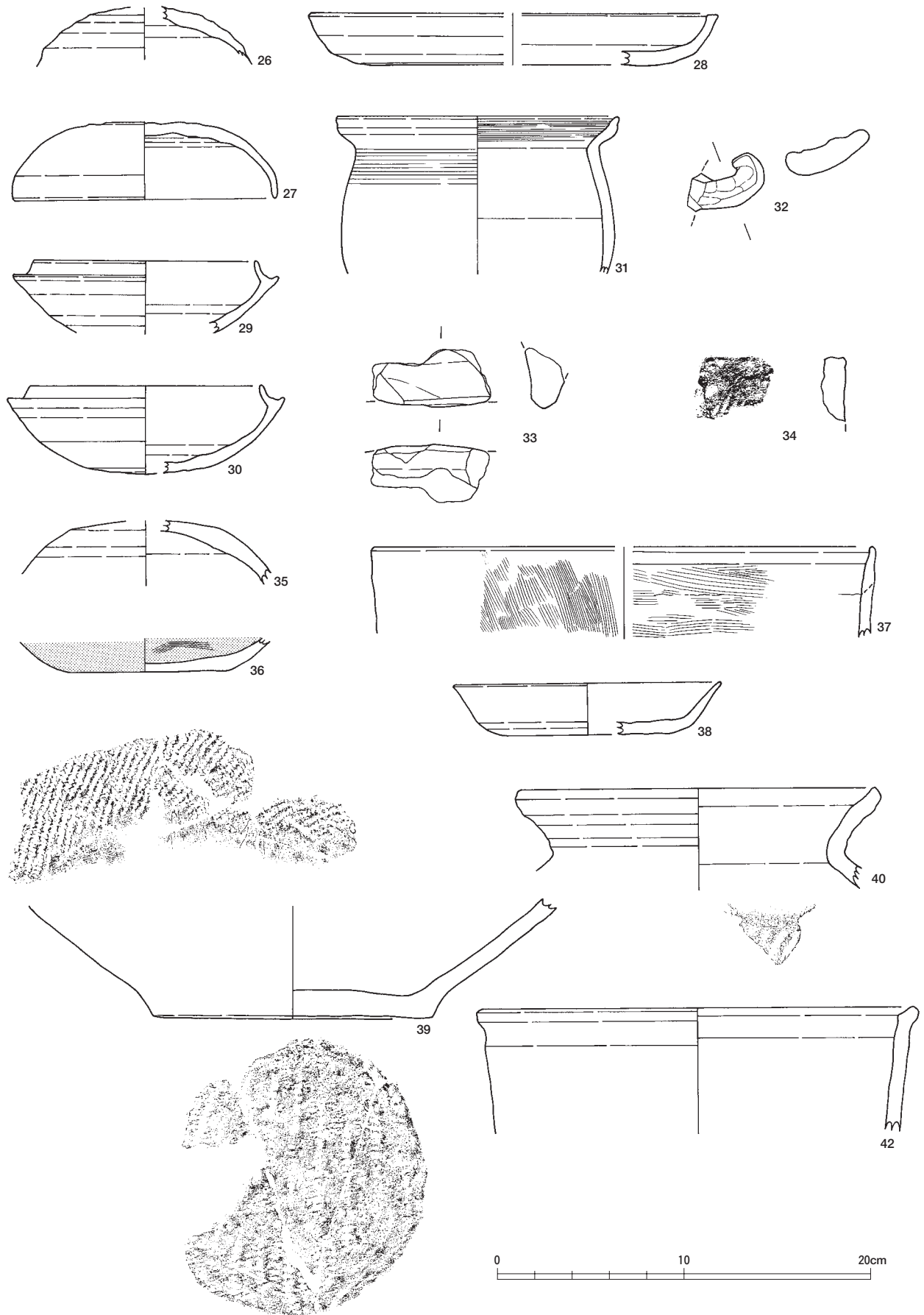
第150図 E区 遺構図 (S=1/80)



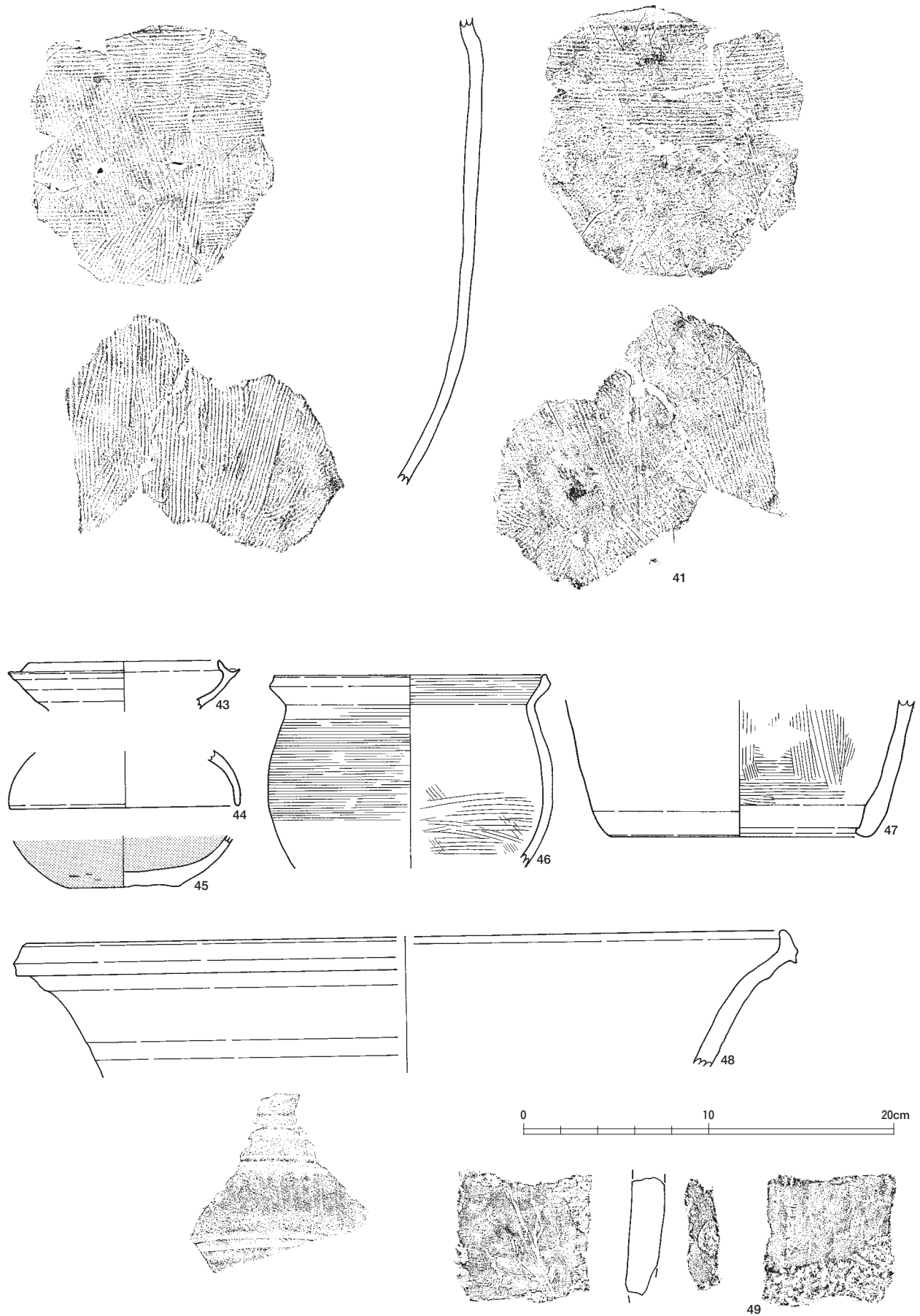
第151図 平成15・16年度調査区 出土遺物 (1) (S=1/3)



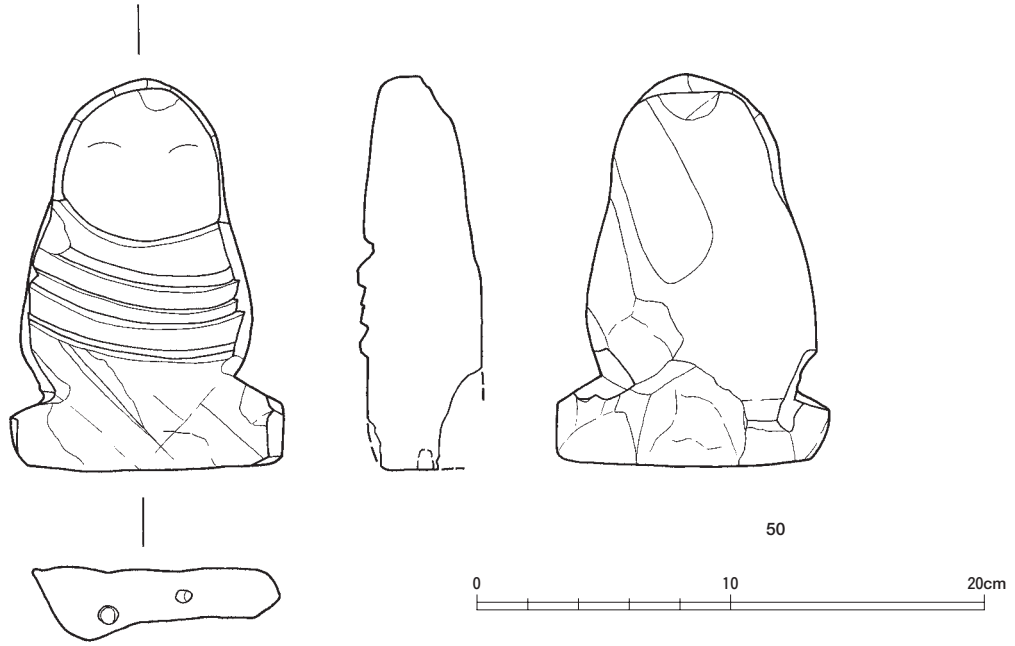
第152図 平成15・16年度調査区 出土遺物(2) (S=1/3)



第153図 平成15・16年度調査区 出土遺物(3) (S=1/3)



第154図 平成15・16年度調査区 出土遺物(4) (S=1/3)



第155図 平成15・16年度調査区 出土遺物(5) (S=1/3)

第18表 平成15・16年度調査区 出土遺物観察表

番号	実測番号	区	出土地点	器種	種類	口径	底径	器高	色調内面	色調外面	胎土	焼成	調整内面	調整外面	備考
1	D21	A	SK1・SD1アゼ	甕	須恵器	16.6		24.3	灰	灰	粗砂多	良	ロクロナデ, 指ナデ, タタキ	ロクロナデ, カキメ, タタキ	
2	D5	A	SD1	杯身	須恵器	(14.4)	(9.4)	4.4	灰白	灰	粗砂多	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ケズリ	
3	D15	A	SD1アゼ	有台杯	須恵器		(7.7)	(2.4)	灰白	灰	粗砂多, 海綿骨針	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ヘラケズリ, ナデ	
4	D27	A	SD1アゼ	高杯	須恵器			(2.8)	灰・鈍黄橙	灰	粗砂多	良	ロクロナデ	ロクロナデ, キザミ	降灰
5	D42	A	SD2・攪乱SD1上層・包含層	須恵器			(11.2)	(2.6)	灰白	灰白	粗砂多	良	ロクロナデ	ケズリ, ナデ	
6	D22	A	Pit3	門筒埴輪	須恵質			(6.3)	褐灰~灰	鈍黄褐	粗砂多	良	ナデ	ハケメ, ヨコナデ, 凸帯	
7	D23	A	遺構検出	門筒埴輪	土師質			(6.5)	淡黄	浅黄橙	1mm~2mm粗砂多	良	ロクロナデ?	ロクロナデ, ナデ	
8	D24	A	包含層	埴輪?	須恵質			(4.3)	浅黄橙	浅黄橙	粗砂やや多・赤色粒	良	ヨコナデ	ハケメ, ケズリ	
9	D4	B	SD03①	長頸壺	須恵器	7.4		(17.8)	灰白	灰白	粗砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ハケメ?	外面全体自然釉
10	D1	B	SD03, SD03②	平瓶	須恵器	7.4		(15.2)	灰	灰	細砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ, カキメ	内外面自然釉
11	D2	B	SD03②・③	平瓶	須恵器	8.2		(14.8)	灰白	灰白	細砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ, カキメ	内外面自然釉
12	D25	B	SD03	無蓋高杯	須恵器	11.8		(3.0)	灰	灰	粗砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	
13	D6	B	SD03	高杯	須恵器	(13.0)	(11.6)	(9.7)	灰	灰	粗砂やや多	良	ロクロナデ	ロクロナデ	透孔3, 自然釉
14	D3	B	SD03	直口壺	須恵器	9.8	5.3	8.7	灰	灰	粗砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	
15	D26	B	包含層	風字硯	須恵器			2.5	灰	灰	粗砂並、礫	良	ナデ	ナデ?	
16	D30	B	包含層	把手	土師器					橙	粗砂並、礫	良	ナデ	ナデ	
17	D8	C	SI01 竈周辺	杯蓋	須恵器	12.9		3.2	灰黄	灰	粗砂	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ロクロナズリ, ヘラケズリ	
18	D9	C	SI01 竈周辺	杯蓋	須恵器			4.3	鈍黄	灰	粗砂、礫	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ヘラケズリ	
19	D47	C	SI01 竈周辺	杯身	須恵器	12.6		(3.2)	灰	灰	粗砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	
20	D19	C	SI01 竈周辺	無台杯	内黒土師器		5.8	1.9	黒	明赤褐	粗砂多	良	ミガキ	ケズリ, ナデ	
21	D18	C	SI01貼床下	杯蓋	須恵器			(2.1)	灰	灰	粗砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ, カキメ	
22	D17	C	SI01貼床下他	短頸壺	須恵器	8.1		8.0	灰	灰	粗砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	
23	D35	C	SI01内SK1	杯蓋	須恵器	(12.8)		3.1	灰	灰	1mm粗砂少、細砂多	良	ロクロナデ	ケズリ, ロクロナデ, ハケメ	
24	D7	C	SI01内SK1	高杯	須恵器		12.4	(6.8)	灰オリーブ	灰	粗砂	良	ロクロナデ, ナデ	ロクロナデ	内外面全体自然釉、透孔3
25	D16	C	SI01内SK	甕	弥生	(16.6)		(5.1)	鈍黄橙	鈍橙	礫少、粗砂多	良	ヨコナデ, ケズリ	ヨコナデ	
26	D31	C	西側 包含層	杯蓋	須恵器			(2.9)	灰	灰	粗砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ロクロナズリ	
27	D36	C	東側 包含層	杯蓋	須恵器	(14.2)		(4.2)	浅黄	灰オリーブ	粗砂多	良	ロクロナデ, ヘラケズリ	ロクロナデ	降灰, C区 SK01
28	D46	C	東側 包含層	無台杯	須恵器	21.9		(2.8)	灰	灰	粗砂多	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ロクロナズリ	
29	D45	C	東側 包含層	杯身	須恵器	12.0		(3.9)	灰白	灰	粗砂含む	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ロクロナズリ	
30	D20	C	東側 包含層	杯身	須恵器	12.6		(4.8)	灰	灰	粗砂含む	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ロクロナズリ, ヘラケズリ	
31	D12	C	東側 包含層	甕	土師器	15.7		(8.5)	橙	橙	粗砂多	良	ロクロナデ, カキメ, ナデ?	ロクロナデ, カキメ	
32	D33	C	西側 包含層	把手	土師器				浅黄	粗砂並、礫、海綿骨針		良		指ナデ	
33	D32	C	東側 包含層	壺口?	土師質					鈍橙	粗砂、海綿骨針	良		ヨコナデ, ナデ	
34	D34	C	東側 包含層	埴輪?	土師器			(3.5)	淡橙	粗砂多		良		ナデ, ハケメ	
35	D39	F	Pit05	杯蓋	須恵器			(3.6)	灰オリーブ	粗砂多		良	ロクロナデ	ロクロナズリ	
36	D38	F	Pit08	碗	赤彩土師器		(9.0)	(1.8)	明赤褐	明赤褐	粗砂多	良	ハケメ, ナデ	ケズリ, 横方向のケズリ	
37	D37	F	Pit13	長胴甕	土師器	(27.0)		(5.0)	橙	橙	粗砂、細砂多	良	ハケメ, ヨコナデ	ハケメ, ヨコナデ	
38	D40	F	Pit30-33	無台杯	須恵器	(14.4)	(11.1)	2.8	暗青灰	灰オリーブ	粗砂多	良	ロクロナデ	ロクロナデ, ヘラケズリ後ナデ	
39	D43	F	包含層	浅鉢	縄文土器		15.2	(6.2)	鈍黄橙	鈍黄橙	粗砂少	良	ミガキ	翻代	
40	D10	D	SK1	長胴甕?	須恵器	(19.3)		5.5	灰オリーブ	灰	粗砂多	良	ロクロナデ, タタキ	ロクロナデ	
41	D41	D	SK03・Pit99	甕	土師器				橙	橙	~1mm粗砂少, 2mm礫少	良	ハケ	ハケ, ケズリ, ナデ, ヨコナデ	
42	D44	D	Pit09	鍋	土師器	23.4		(7.8)	黄橙	黄橙	粗砂多	良	ロクロナデ	ロクロナデ	
43	D49	D	Pit12	杯身	須恵器	(10.4)		(2.7)	鈍黄橙	浅黄	粗砂多	良	ロクロナデ	ロクロナデ	
44	D28	D	Pit22・包含層	杯蓋	須恵器	(12.4)		(3.1)	灰白	灰オリーブ	粗砂少	良	ロクロナデ	ロクロナデ	降灰・自然釉
45	D11	D	包含層	碗	赤彩土師器		6.1	2.8	鈍橙	橙	1mm礫少、細砂多	良	調整不明	ロクロナズリ	
46	D13	D	包含層	甕	土師器	(14.8)		10.6	鈍黄橙	橙	礫少、粗砂多	良	カキメ, ハケメ	カキメ, 横方向のナデ	
47	D29	D	包含層	瓶	土師器		(13.8)	(7.5)	橙~明黄褐	橙	礫、粗砂多	良	ヨコナデ, ハケメ	ヨコナデ	
48	D48	E	包含層	甕	須恵器			7.4	灰オリーブ	灰オリーブ	粗砂多	良	ロクロナデ	ロクロナデ, 波状文	
49	D50	E	包含層	平瓦	須恵質	7.2	5.5	1.75	灰黄	鈍黄橙	1mm~2mm礫、細砂	良			最大長 最大幅 最大厚
50	D14	A	Pit1	石製品		5.2	3.6	1.0							最大長 最大幅 最大厚

第8章 まとめ

今回の調査の中心となる遺構は第156図に示した遺構群であり、6世紀中葉～9世紀の集落跡と古墳時代後期の古墳群である。集落跡の盛期は7世紀～8世紀前半であり、6世紀代と9世紀代の遺構は比較的少ない。水路部分を主としたトレンチ調査なので、その全体を把握しづらいが、竪穴建物16棟以上、掘建柱建物21棟以上、古墳6基を確認した。比較的規模の大きい竪穴建物・掘建柱建物を挙げると、平成15・16年度C・F区SI1（7.6×7.6m）、平成11年度D区SB2（5×4間、8.6×5.0m）、平成11年度B・C区SB1（4か5×3間、7.4×5.4m）、平成13年度C・14-A区SB3（6×1間以上、11.8×3.4m以上）である。

6世紀後半の遺構は平成13年度D区の掘建柱建物群であり、その他の調査区では6世紀代の建物は検出していない。7世紀に入るとL字型カマドを持つ竪穴建物が出現し、平成13年度C・14-A区SI1及び平成15・16年度C・F区SI1がL字型カマドを付設していた。このL字型カマドは朝鮮半島からの渡来系集団の系譜を示すものとして注目されている。7世紀代の遺構はほぼ調査区全域で検出しており、広範囲に存在している。本遺跡群では8世紀に入ると竪穴建物内のL字型カマドはみられなくなる。8世紀代の遺構は平成11年度調査区に多く、掘建柱建物、竪穴建物を検出した。9世紀代の遺構は平成13年度C区にみられるが、建物数は少ない。以上のように遺構の分布は7世紀をピークにして、次第に少なくなるようである。

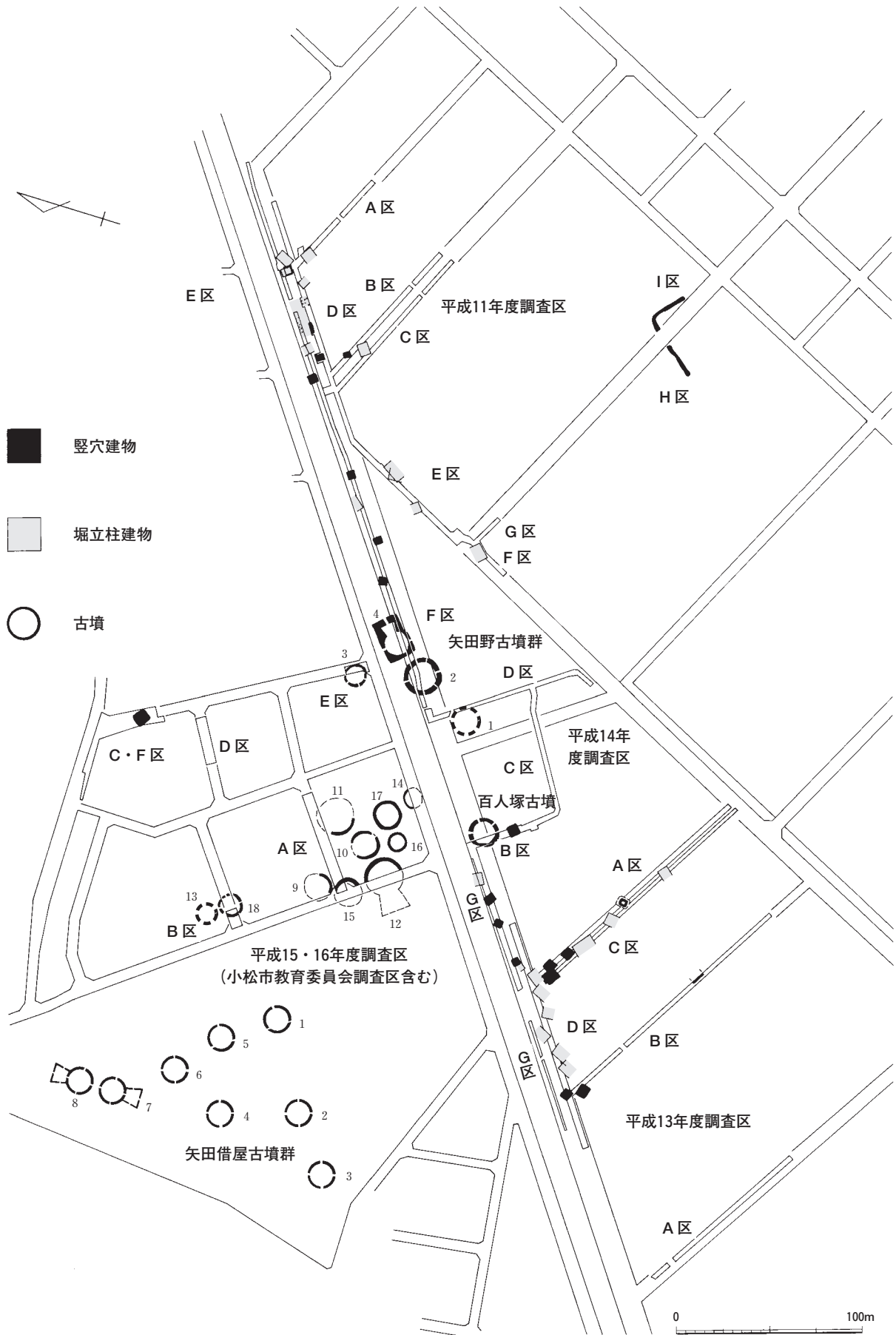
上記のような集落の在り方は額見町遺跡の展開とよく似ており、月津台地と矢田野台地では7世紀に入ると渡来系の集落が成立したことになる。古代の周辺遺跡の関連については望月氏が『額見町遺跡I』で述べられている。本遺跡からも鍛冶関連遺物が出土していることから、望月氏のいう丘陵部生産遺跡群に関連する手工業生産関連遺跡群として、その性格付けができよう。

今回の調査で6基の古墳の周溝を検出した。これらは矢田借屋古墳群、矢田野古墳群に含まれるものである。矢田野古墳群と矢田借屋古墳群の間には谷部があり、両者は谷を挟むかたちで存在する。第19表に既往の調査で確認された矢田借屋古墳群と今回の調査で検出された古墳を合わせた一覧表（『小松市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ 矢田借屋古墳群』に掲載予定のものに加筆）を作成した。平成14年度B区で検出した古墳の周溝は百人塚古墳のものと考えられ、同年度F区で検出した円墳の周溝は周知の矢田野2号墳のものと考えられる。同年度F区で検出した矢田野2号墳の北東隣に位置する古墳は新発見のもので、矢田野4号墳（前方後円墳？）とした。平成15年度A区では周知の矢田借屋15号墳の周溝を検出した。同年度B区では新発見の矢田借屋18号墳の周溝を検出した。平成16年度E区で検出した古墳の周溝は新発見の古墳の周溝であり、矢田野3号墳とした。

第156図をみると古墳群を囲むようにして集落が展開する様子が窺える。古墳域と集落域が重複していないことから、墳丘は残存していたものと考えられよう。ただし、周溝は出土土器から考えると7世紀代には埋没しており、墳丘のみが残っていたものであろう。

参考文献

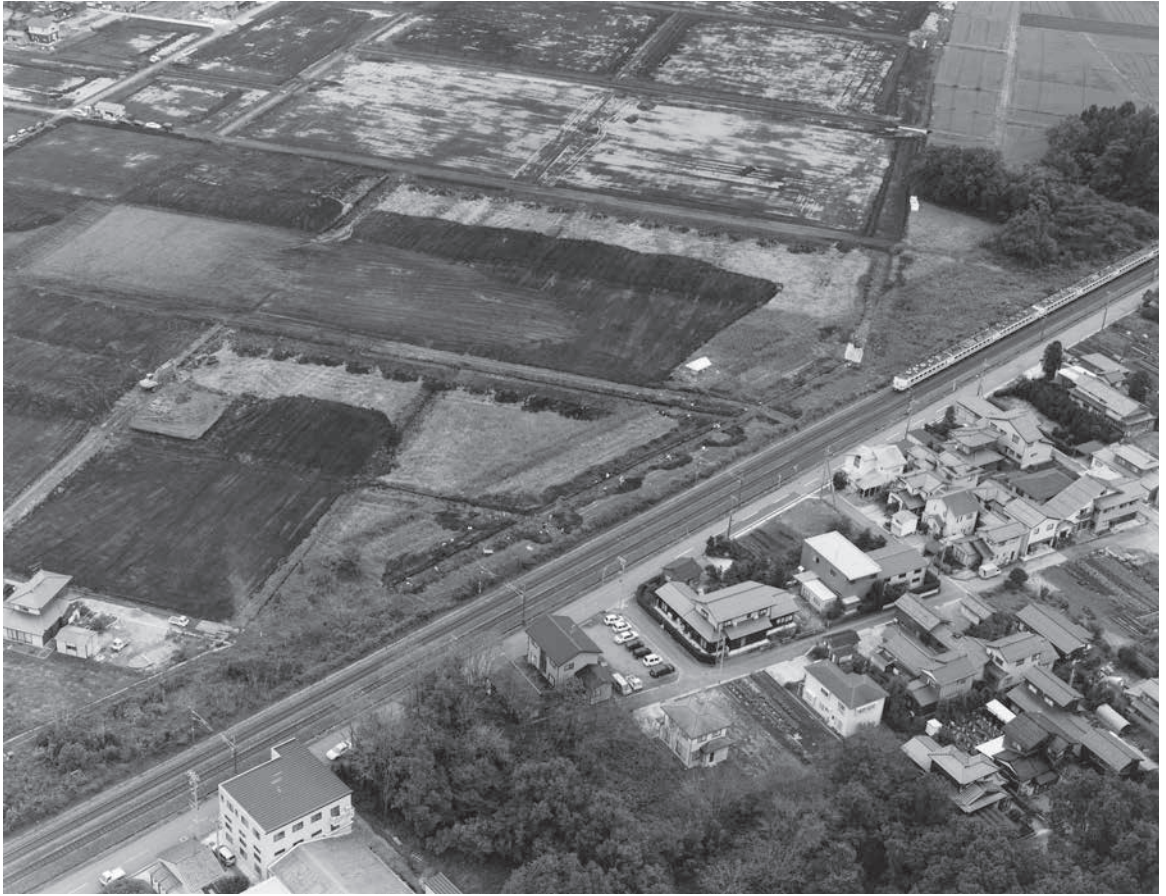
- 岩瀬由美他 2000 『小松市額見町西遺跡』（財）石川県埋蔵文化財センター
下記の刊行予定報告書を参考にした。
望月精司・西田由美子 2006 『額見町遺跡（A・D地区の調査）』Ⅰ 小松市教育委員会
廣田いずみ・西田由美子 2006 『刀何理遺跡』 小松市教育委員会
岩本信一 2006 『小松市内遺跡発掘調査報告書 矢田借屋古墳群』Ⅱ 小松市教育委員会



第156図 矢田野遺跡群主要遺構配置図 (S=1/3000)

第19表 矢田借屋・矢田野古墳群一覧表

名称	所在地	墳形	規模()は推定値	埋葬施設	調査年	調査主体	備考
矢田借屋 1号墳	矢田町	円墳	-	不明	-	-	消滅
矢田借屋 2号墳	矢田町	円墳	最大径9m	箱形粘土棺	昭和25年 (1950)	小松高校 地歴クラブ	須恵器・直刀他、 消滅
矢田借屋 3号墳	矢田町	円墳	-	不明	-	-	消滅
矢田借屋 4号墳	矢田町	円墳	最大径13m	箱形粘土棺	昭和25年 (1950)	小松高校 地歴クラブ	須恵器・埴輪・玉類、 消滅
矢田借屋 5号墳	矢田町	円墳	-	不明	-	-	消滅
矢田借屋 6号墳	矢田町	円墳	-	不明	-	-	消滅
矢田借屋 7号墳	矢田町	前方後円墳	全長35m	不詳 (河原石積の横穴式石室?)	昭和30年 (1955)	小松高校 地歴クラブ	須恵器・埴輪・直刀・ 刀子の柄部・鉄鏃等、 消滅
矢田借屋 8号墳	矢田町	前方後円墳	全長30m	不詳 (礫棺<切石積横穴式石室>?)	昭和36年 (1961)	小松高校 地歴クラブ	須恵器・埴輪・銀環、 消滅
矢田借屋 9号墳	月津町	円墳	(直径12.5m)	箱形粘土棺	平成10年 (1998)	小松市 教育委員会	須恵器・土師器・埴輪 ・刀子・鉄鏃・玉類、 消滅
矢田借屋 10号墳	月津町	円墳	(直径10.5m)	不明	平成10年 (1998) 平成13年 (2001)	小松市 教育委員会	須恵器・土師器・特殊 須恵器、 消滅
矢田借屋 11号墳	月津町	円墳	(直径12.2m)	箱形粘土棺	平成10年 (1998)	小松市 教育委員会	須恵器・土師器、 消滅
矢田借屋 12号墳	月津町	前方後円墳?	(後円?径16m)	不明	平成12年 (2000) 平成13年 (2001)	小松市 教育委員会	須恵器・土師器・埴輪、 消滅
矢田借屋 13号墳	月津町	円墳	-	不明	-	-	-
矢田借屋 14号墳	月津町	円墳	(直径7.5m)	不明	平成13年 (2001)	小松市 教育委員会	須恵器、 消滅
矢田借屋 15号墳	月津町	円墳	(直径9.5m)	不明	平成12年 (2000) 平成13年 (2001) 平成15年 (2003)	小松市 教育委員会 (財)石川県 埋文センター	須恵器・土師器、 消滅
矢田借屋 16号墳	月津町	円墳	最大径9.7m	箱形粘土棺	平成13年 (2001)	小松市 教育委員会	須恵器・土師器・玉類、 消滅
矢田借屋 17号墳	月津町	円墳	最大径10.3m	不明	平成13年 (2001)	小松市 教育委員会	須恵器・土師器、 消滅
矢田借屋 18号墳	月津町	円墳	-	不明	平成15年 (2003)	(財)石川県 埋文センター	須恵器 新発見
百人塚 古墳	月津町	円墳	(直径11m)	不明	平成14年 (2002)	(財)石川県 埋文センター	須恵器・土師器・紡錘 車・羽口・鉄滓、 消滅
矢田野 1号墳	矢田町 月津町	円墳	-	-	-	-	消滅
矢田野 2号墳	月津町	円墳	(直径9m)	不明	平成14年 (2002)	(財)石川県 埋文センター	須恵器・土師器・円筒 埴輪、 消滅
矢田野 3号墳	扇原町	円墳	(直径9m)	不明	平成16年 (2004)	(財)石川県 埋文センター	消滅、 新発見
矢田野 4号墳	矢田町 月津町	前方後円墳?	(全長25m)	不明	平成14年 (2002)	(財)石川県 埋文センター	須恵器・土師器、 一部残存、 新発見



調査区遠景（北から、太陽測地社提供）



A～G区遠景（北東から、太陽測地社提供）



A～E区遠景（南西から）



A2区 SD04（南東から）



A区全景（北西から）



A 6 区 SB02 (南東から)



A 5・6 区 SB01? (北西から)



C 4・5 区 SB02? (南東から)



B 4 区 SB02? (南東から)



B 8 区 SI01 (北北西から)



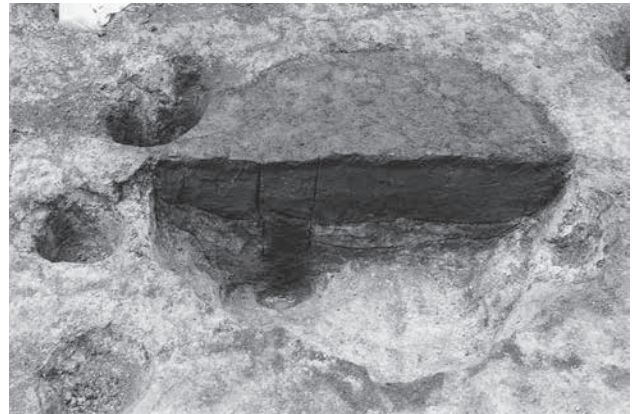
B・C 区 SB01 (南南東から)



B 8 区 SB01 (北北東から)



C 7 区 SB01 (南南東から)



B 7 区 SB01P 3 (南西から)



D 区 0~3 区全景 (北東から)



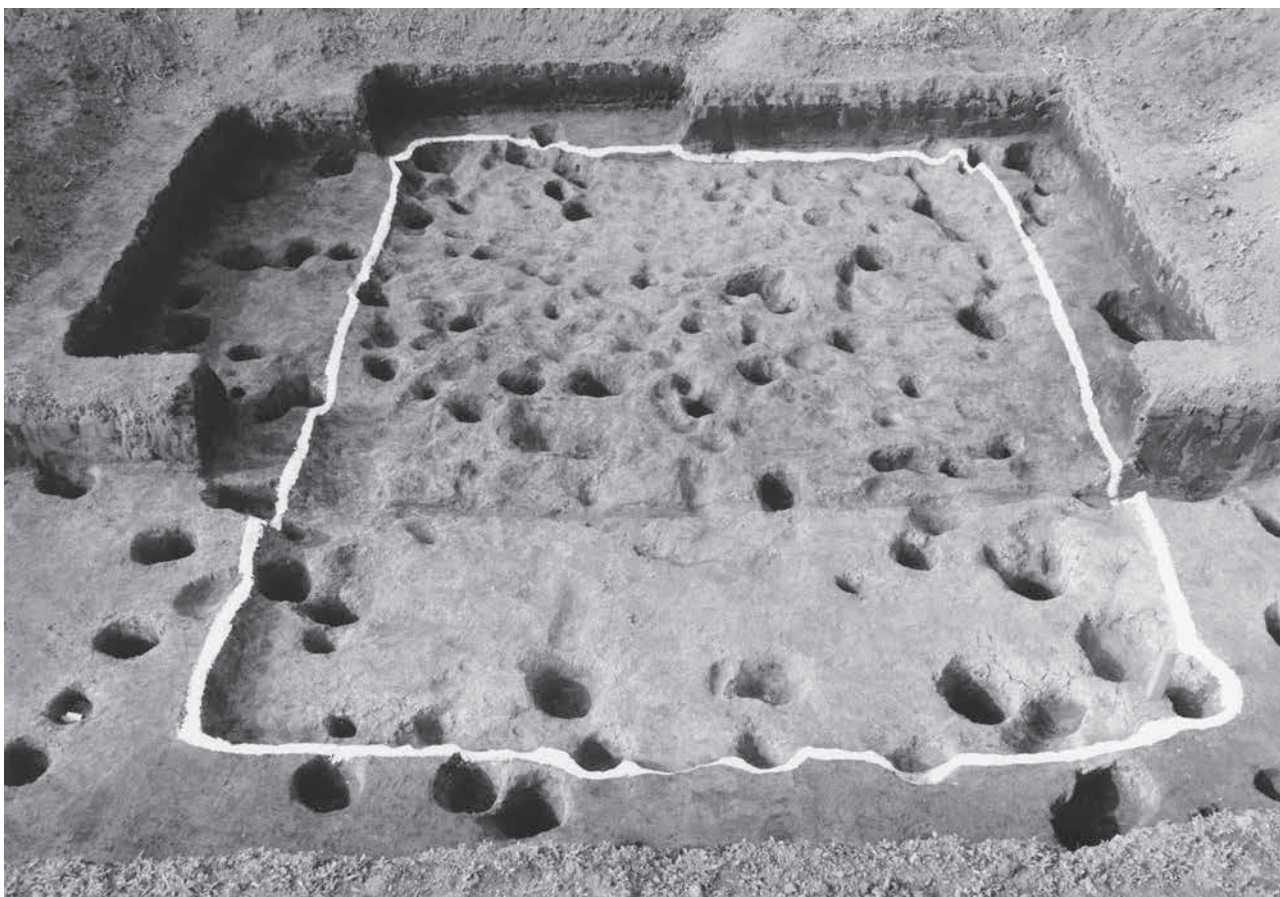
D 2 区 SK07 (南西から)



D 2 区 SK06 (南東から)



D 5 区 SI02検出状況 (南西から)



D 5 区 SI02 全景 (南東から)



D 7 区 SI03・大型柱穴 (南東から)



D7区大型柱穴 P55 (東から)



D7区大型柱穴 PA (北東から)



D8区竈・土器検出状況 (南東から)



D8区 SI04 (北東から)



D10・11区 SB02~04全景 (南東から)



D10区竈検出状況（南東から）



D10区竈断ち割り状況（北東から）



D10・11区 SB01（北北東から）



E 区全景（北北東から）



E 1 区 SK06（北から）



E 1 区 SD02（南南東から）



E 2 区 SD02（SK07）（西から）



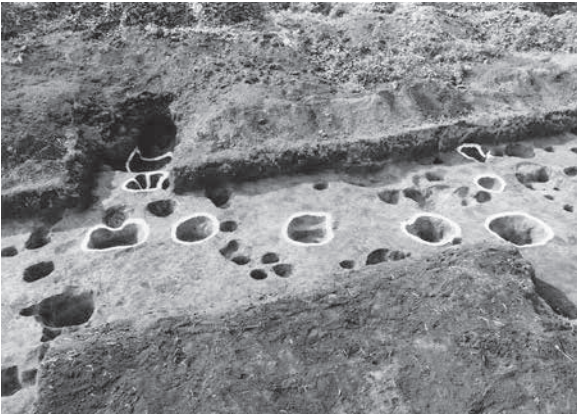
E 2・3 区 SB01・02（南南西から）



E4区 SD03 (南南西から)



E区全景 (南南西から)



E5区 SB03 (南東から)



F区全景 (北北東から)



F2区 SB01 (北東から)



E 2 区 SB01 全景 (南東から)



H 区 SD 調査状況



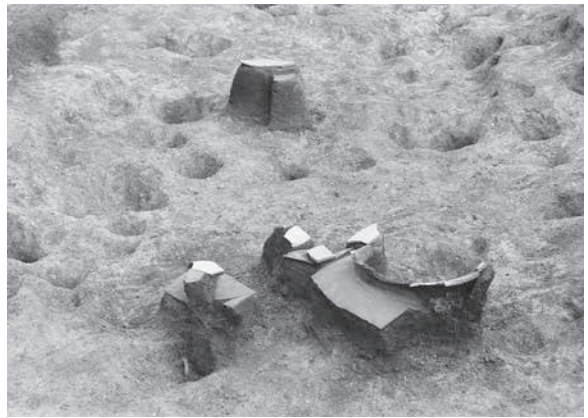
I 区調査状況



H 区 SD 全景 (北東から)



I 区 SD 北側土層断面 (南南西から)



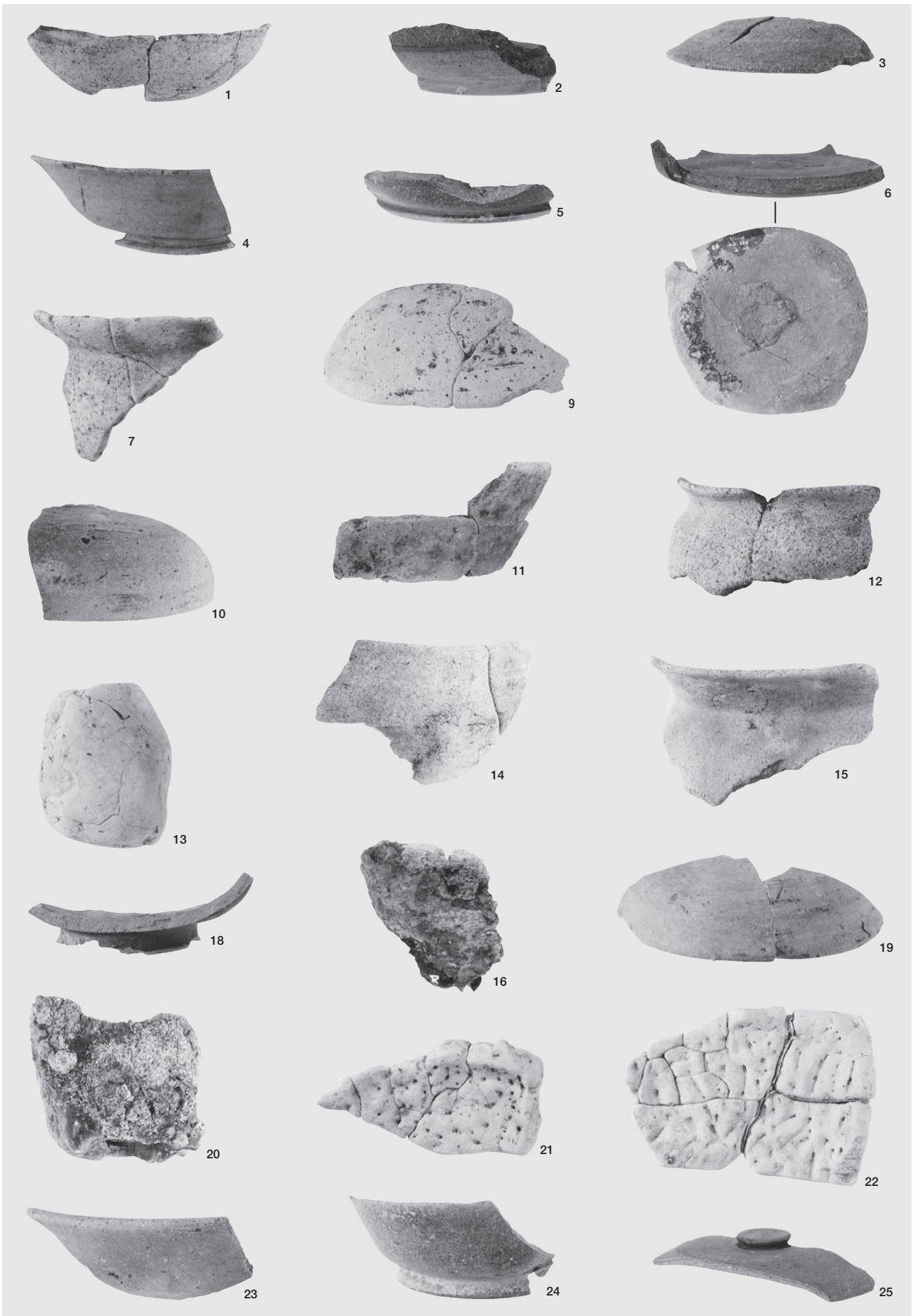
I 区 須恵器出土状況 (南西から)



I 区 SD 東側 (北西から)



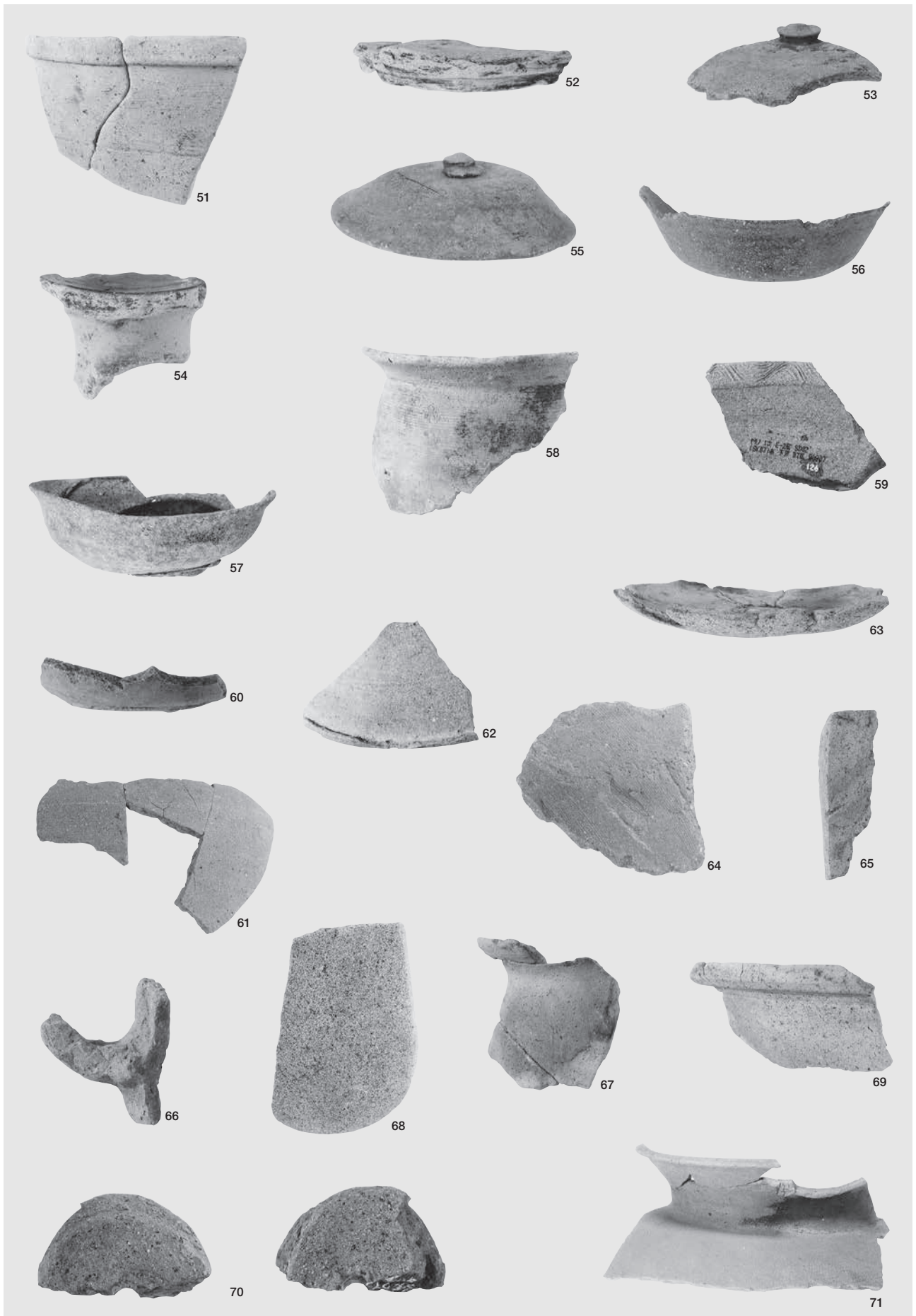
I 区 SD 北側 (北東から)



調査区出土遺物 1



調査区出土遺物 2



調査区出土遺物 3



B1区 SD02全景 (南東から)



D1区 SD02全景 (南東から)



C3区 SX01内木棺墓（西から）



木棺墓須恵器出土状況（南から）



C1区 SD02断面（北東から）



刀何理遺跡1～3区全景（南東から）



2区土器出土状況



7・8区 SB01全景 (西から)



SK03・02 (南南西から)



SK04 (北北東から)



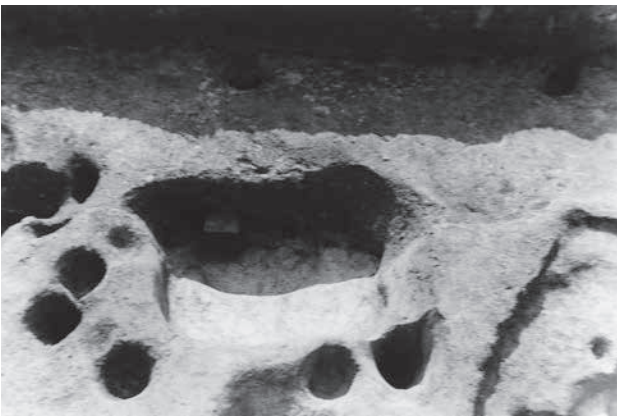
柱穴 (東南東から)



SK04 (南南西から)



10区 SB02全景 (西から)



柱穴1 (北北東から)



柱穴2 (北北東から)



柱穴3 (北北東から)



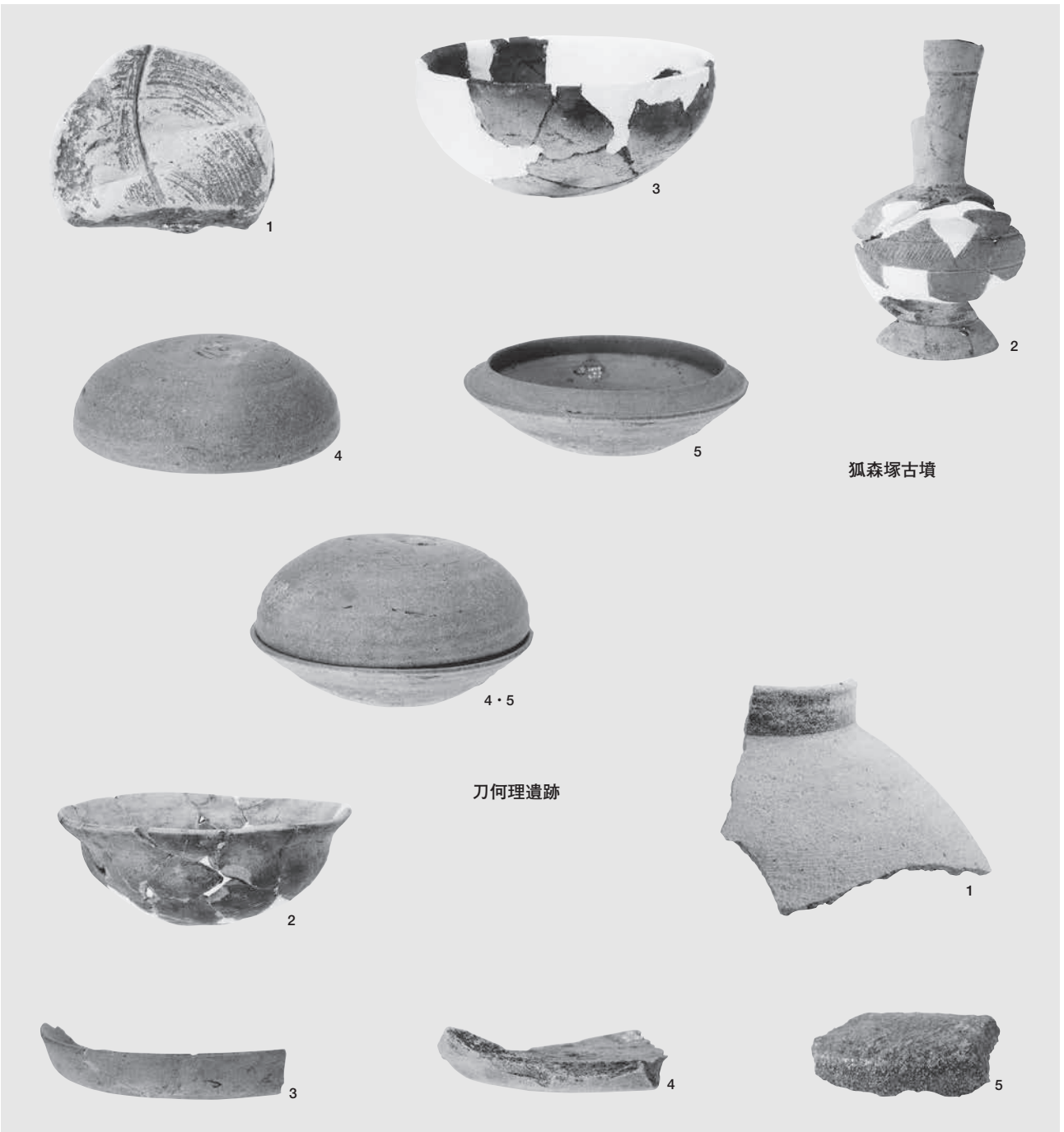
SK05 (北北東から)



6区 SX02 (南南西から)



13・14区全景 (南東から)



狐森塚古墳

刀何理遺跡

狐森塚古墳・刀何理遺跡出土土器



A 区 完掘状況



B 1 区 SI01



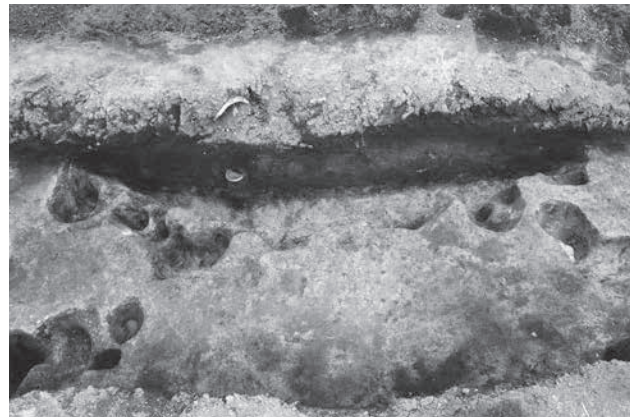
B 3・4 区 SI02



B 3 区 SD01



B 7 区 SK01



B12 区 SK02



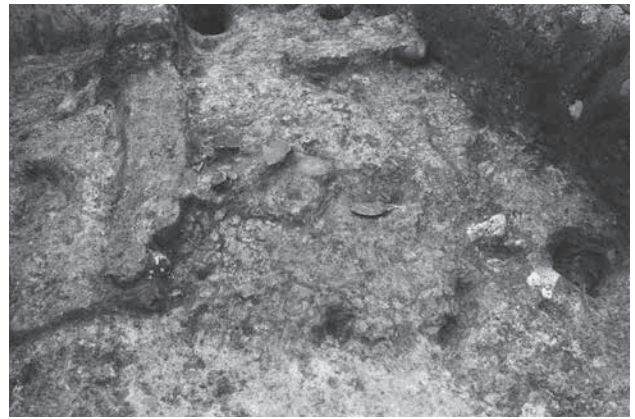
B 区 完掘状況



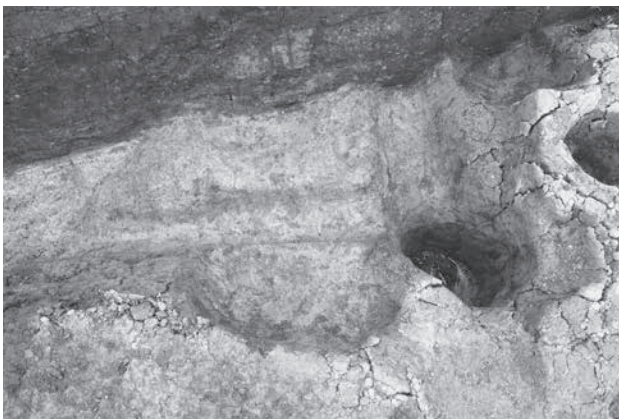
14-A 1 区 SI01 壁溝内壁板跡検出状況



C 1 区 SI01カマド完掘状況



C 1 区 SI01焚口土器・焼土検出状況



14-A 1 区 SI01カマド煙道辺完掘状況



14-A 1 ~ 2 区 SI01土層断面



C 1 ~ 2 区 SI01完掘状況



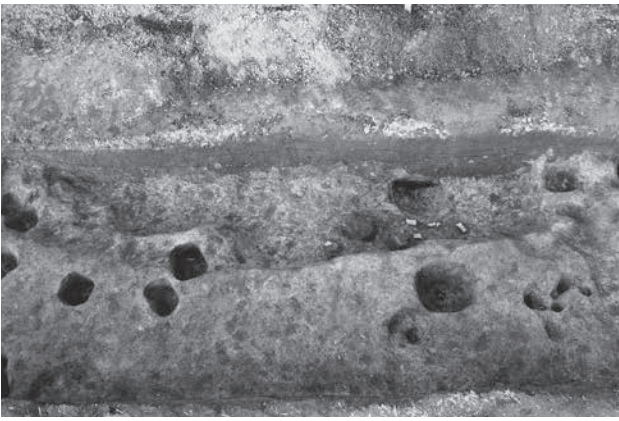
14-A 1 ~ 2 区 SI01完掘状況



14-A 2 区 SI03上面検出遺構



14-A 3 区 SI02土器出土状況



C 3 区 SI02



14-A 4 ~ 5 区 SB02



14-A 4 ~ 5 区 SB03



14-A 6 区 SB01



14-A 1 ~ 2 区 完掘状況



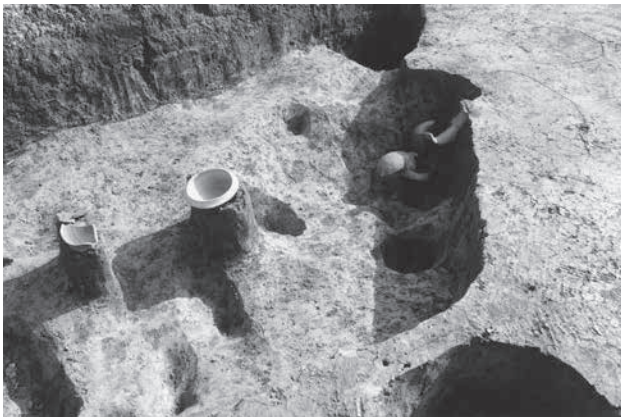
D 3 区 SB01



D 3 ~ 4 区 SB02



D 6 区 SB05



D 6 ~ 7 区 SK07遺物出土状況



D 7 区 SB07



D 8 区 SB04



D 9 区 完掘状況



D10区 SX07遺物出土状況



D11区 SK10土層断面



D10~12区 完掘状況



D 区 完掘状況





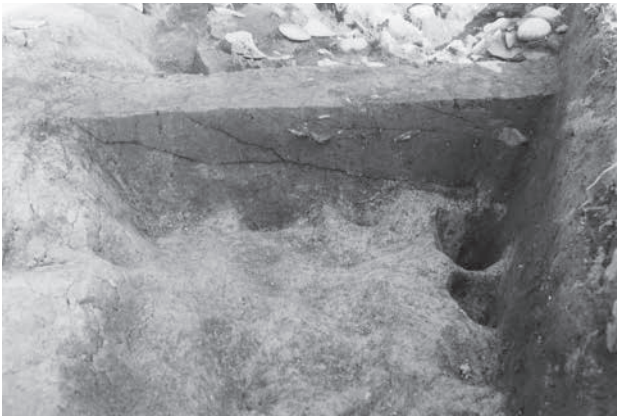




古墳周溝土層断面 (e-e') (南西から)



古墳周溝土層断面 (f-f') (西から)



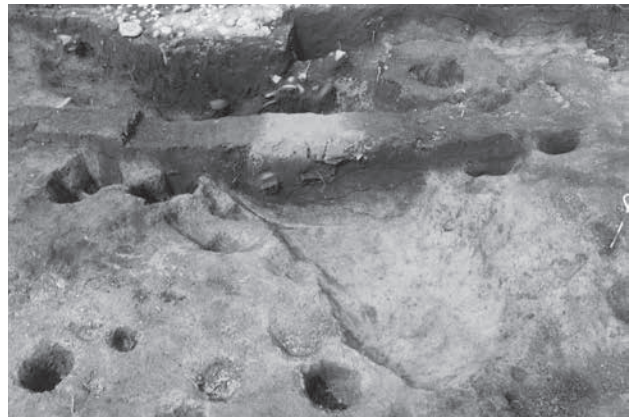
古墳周溝土層断面 (g-g') (西から)



古墳周溝土層断面 (h-h') (西から)



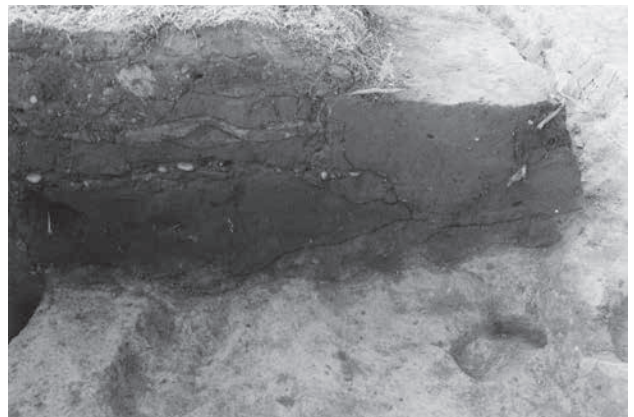
古墳周溝土層断面 (i-i') (北西から)



古墳周溝土層断面 (k-k') (南から)



古墳周溝土層断面 (l-l') (南西から)



古墳周溝土層断面 (d-d') (北東から)



古墳周溝（西側）遺物出土状況（南から）



古墳周溝（西側）土器出土状況（北から）



古墳周溝（西側）刀子出土状況（南から）



古墳周溝（東側）遺物出土状況（東から）



古墳周溝（東側）遺物出土状況（南から）



古墳周溝（東側）遺物出土状況（北から）



古墳周溝（東側）遺物出土状況



古墳周溝（東側）遺物出土状況（北から）



古墳周溝完掘状況（西から）



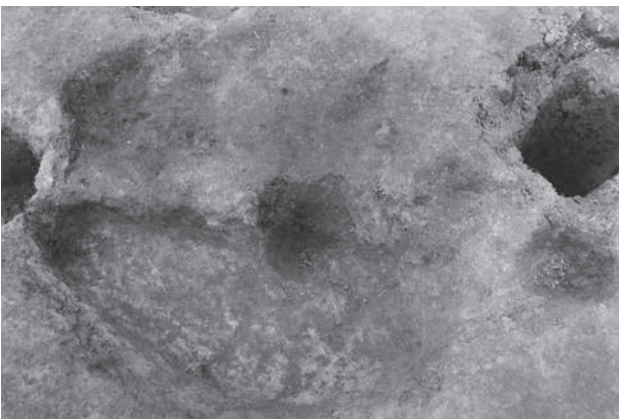
古墳周溝（西側）完掘状況（南から）



古墳周溝（東側）完掘状況（西から）



SI1 土層断面（南西から）



SI1 (P48) 検出状況（南東から）



SI1 (P48) 土層断面（南東から）



SI1 完掘状況（北東から）



4・5区完掘状況（西から）



1・2区発掘作業風景
(南西から)



3～5区完掘状況
(南西から)



3～5区完掘状況
(北東から)



0 区完掘状況
(北東から)

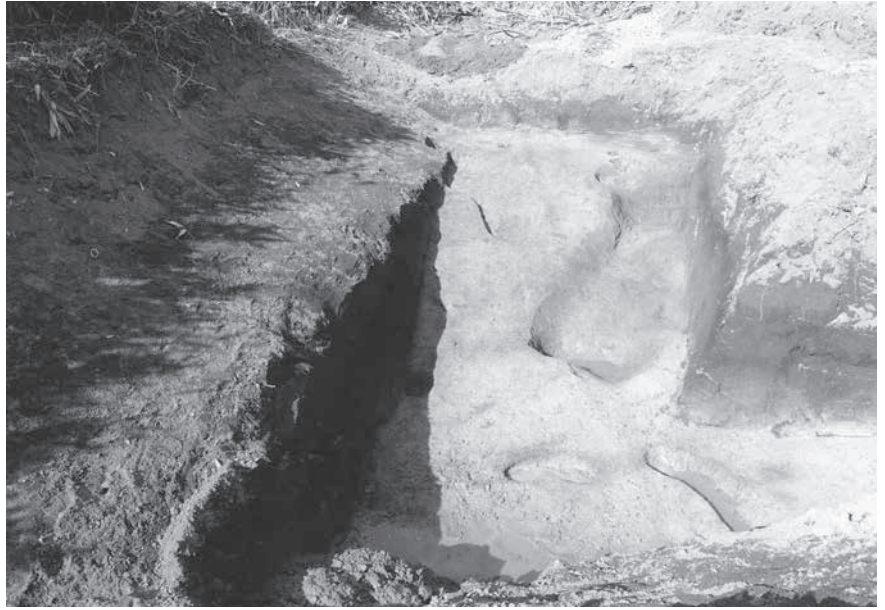


1～3 区完掘状況
(北西から)



4～8 区完掘状況
(南東から)

9区完掘状況
(南西から)



SK1 断面
(北西から)



SK1 完掘状況 (俯瞰)





発掘調査着手前の状況（北東から）



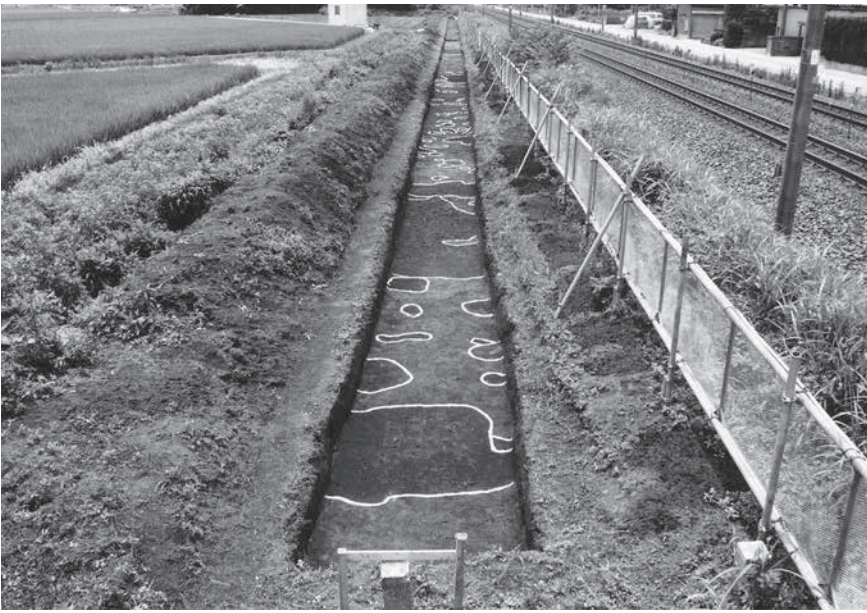
完掘状況全景（南西から）



1～8区完掘状況（北東から）



9～13区完掘状況（北東から）



1～8区遺構検出状況
(北東から)



発掘作業風景
(南西から)



B1完掘状況
(北東から)

SB 1 完掘状況
(南東から)

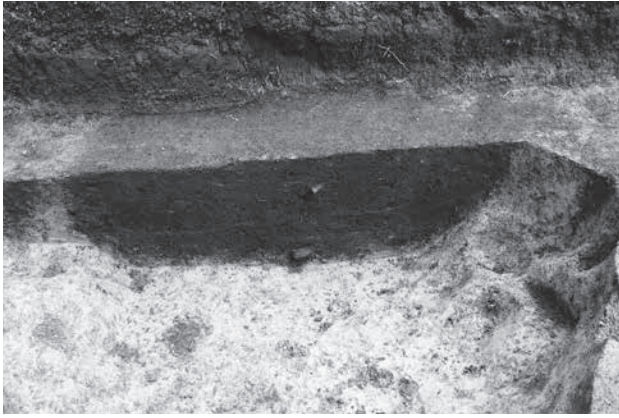


SB 2 完掘状況
(南西から)

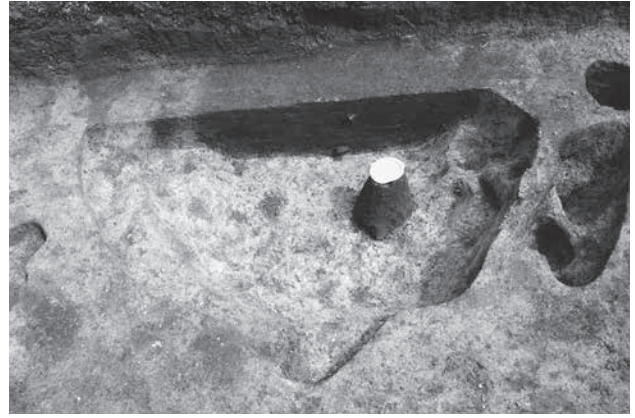


7 区柱穴群周辺完掘状況
(北東から)





SK1 断面 (北西から)



SK1 遺物出土状況 (北西から)



SK1 完掘状況 (俯瞰)



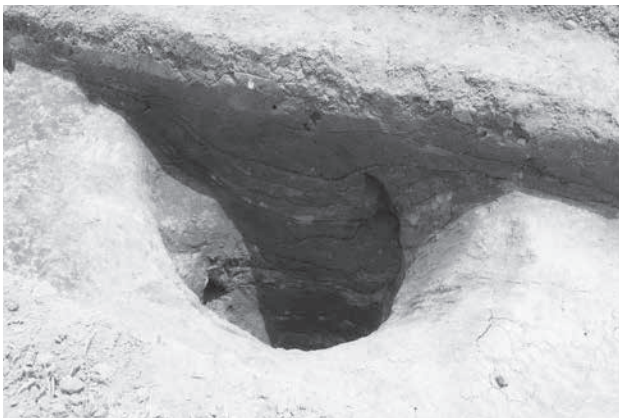
SK2 完掘状況 (俯瞰)



SK3 断面 (北西から)



SK6 遺物出土状況 (俯瞰)



SK7 (SX2) 断面 (北西から)



SK7 (SX2) 完掘状況 (俯瞰)



SD1 ケーコ断面 (南西から)



SD1 周辺完掘状況 (北東から)



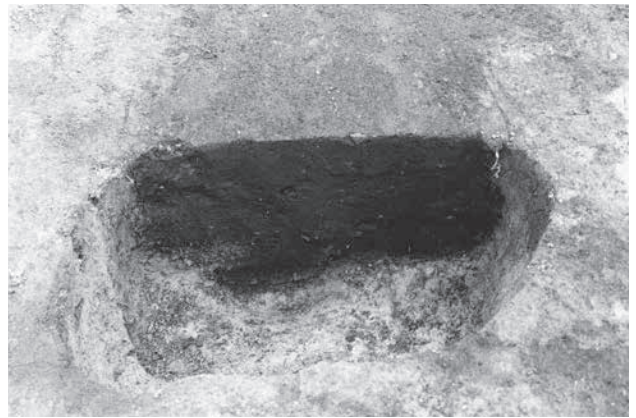
SD3 完掘状況 (南東から)



SD4 断面 (南西から)



P1 遺物出土状況 (南東から)



P7 断面 (北西から)



P18完掘状況 (北西から)



P35断面 (南東から)



10～15区（古墳）調査前風景（北東から）



古墳1 土層断面（a-a'）北東から①（南東から）



古墳1 土層断面（a-a'）北東から②（南東から）



古墳1 土層断面（a-a'）北東から③（南東から）



古墳1 土層断面（a-a'）北東から④（南東から）



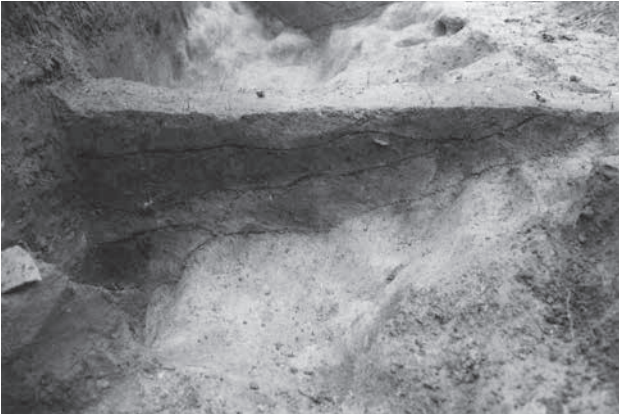
古墳1 土層断面（a-a'）北東から⑤（南東から）



古墳1 周溝土層断面（e-e'）（西から）



古墳1 周溝土層断面（f-f'）（南西から）



古墳1周溝土層断面 (n-n') (南西から)



古墳1周溝土層断面 (i-i') (南西から)



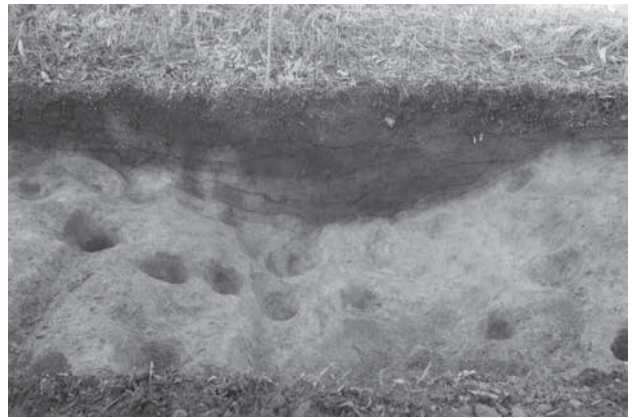
古墳1周溝遺物出土状況



古墳1周溝遺物出土状況



古墳2周溝 (西側) 土層断面 (南東から)



古墳2周溝 (東側) 土層断面 (南東から)



古墳1周溝完掘状況 (東から)



古墳1・2周溝完掘状況 (南から)



SI 1 土層断面 (北から)



SI 1 完掘状況 (北東から)



SI 2 土層断面 (北から)



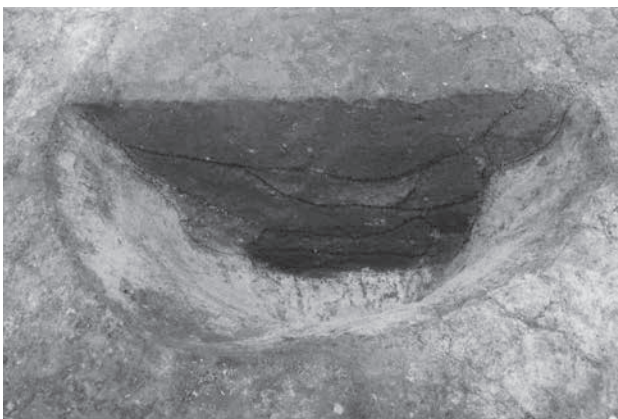
SI 2 土層断面 (北東から)



SI 3 土層断面 (南から)



SI 3 遺物出土状況 (南から)



SK 4 土層断面 (東から)



SK 4 完掘状況 (北から)



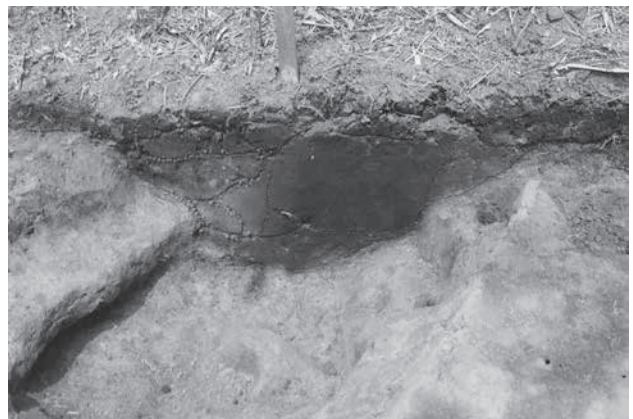
SK 7 土層断面 (西から)



SK 7 遺物出土状況



SK 7 完掘状況 (南東から)



SK 9 土層断面 (南東から)



P 1 土層断面 (北から)



P 2 土層断面 (北から)



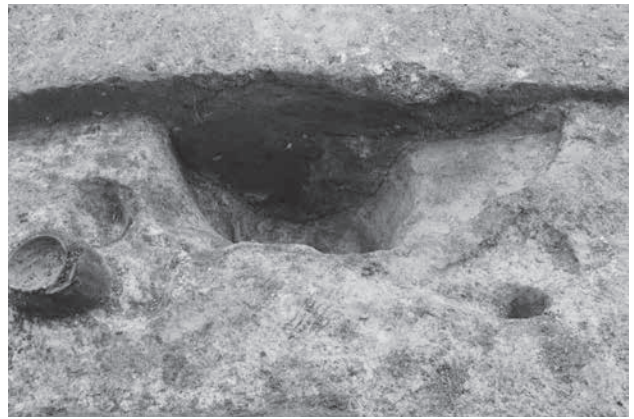
P 1 ~ 3 完掘状況 (南西から)



P 6 ~ 9 等完掘状況 (南西から)



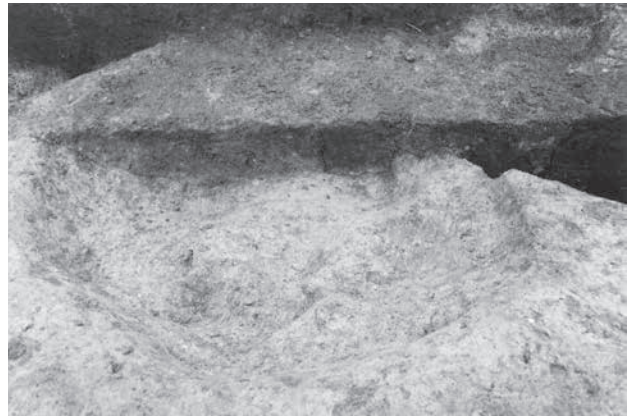
SI1 検出状況 (北東から)



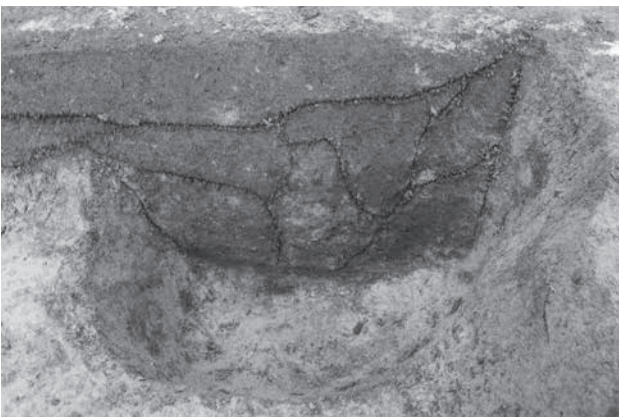
SI1 (SK4) 土層断面 (北から)



SI1 (SK6) 土層断面 (北から)



SI1 (SK7) 土層断面 (北から)



SI1 (SK8) 土層断面 (南から)



SI1 (SK11) 土層断面 (南から)



SI1 焼土面検出状況 (南から)



SI1 土層断面 (a-a') (西から)



SI 2 遺物出土状況 (東から)



SI 3 土層断面 (西から)



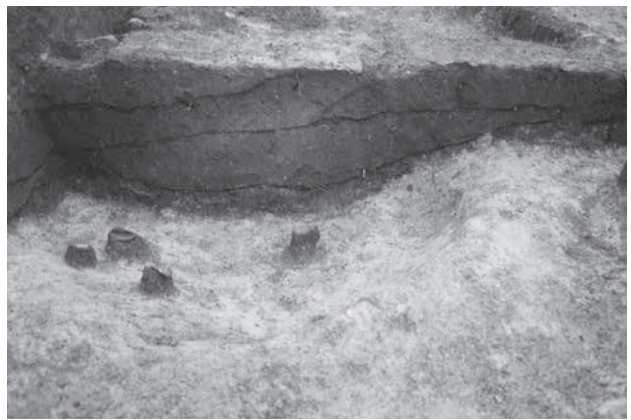
SK 1・12 土層断面 (北から)



SI 3 完掘状況 (北東から)



SK 1 土層断面 (東から)



SK 12 土層断面 (東から)



SK 1・12 遺物出土状況 (東から)



SK 1・12 完掘状況 (東から)



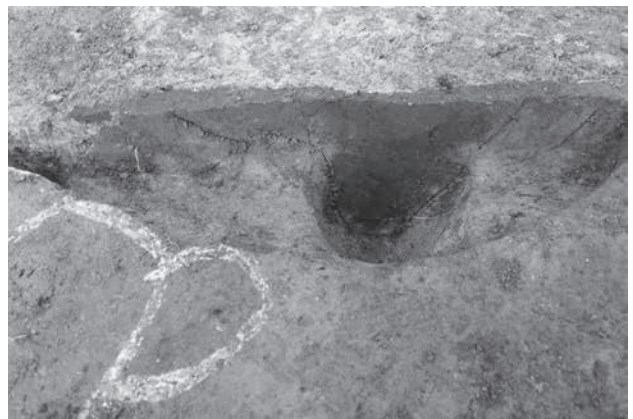
SK 2 土層断面 (北から)



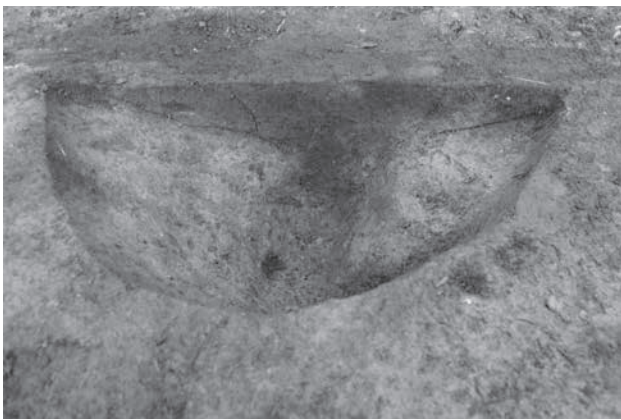
SK 3 土層断面 (西から)



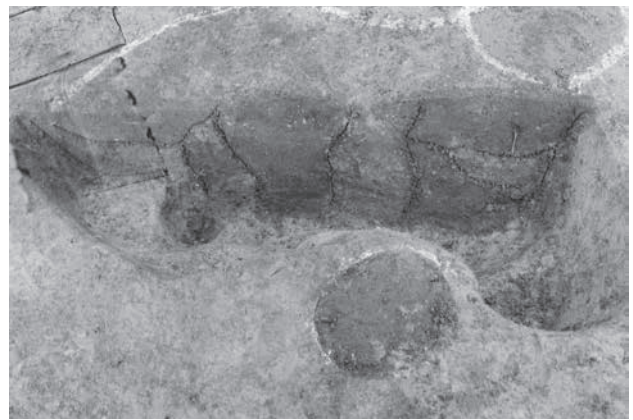
2 区土層断面 (南から)



P40 土層断面 (南から)



P41 土層断面 (南から)



P42 土層断面 (南から)

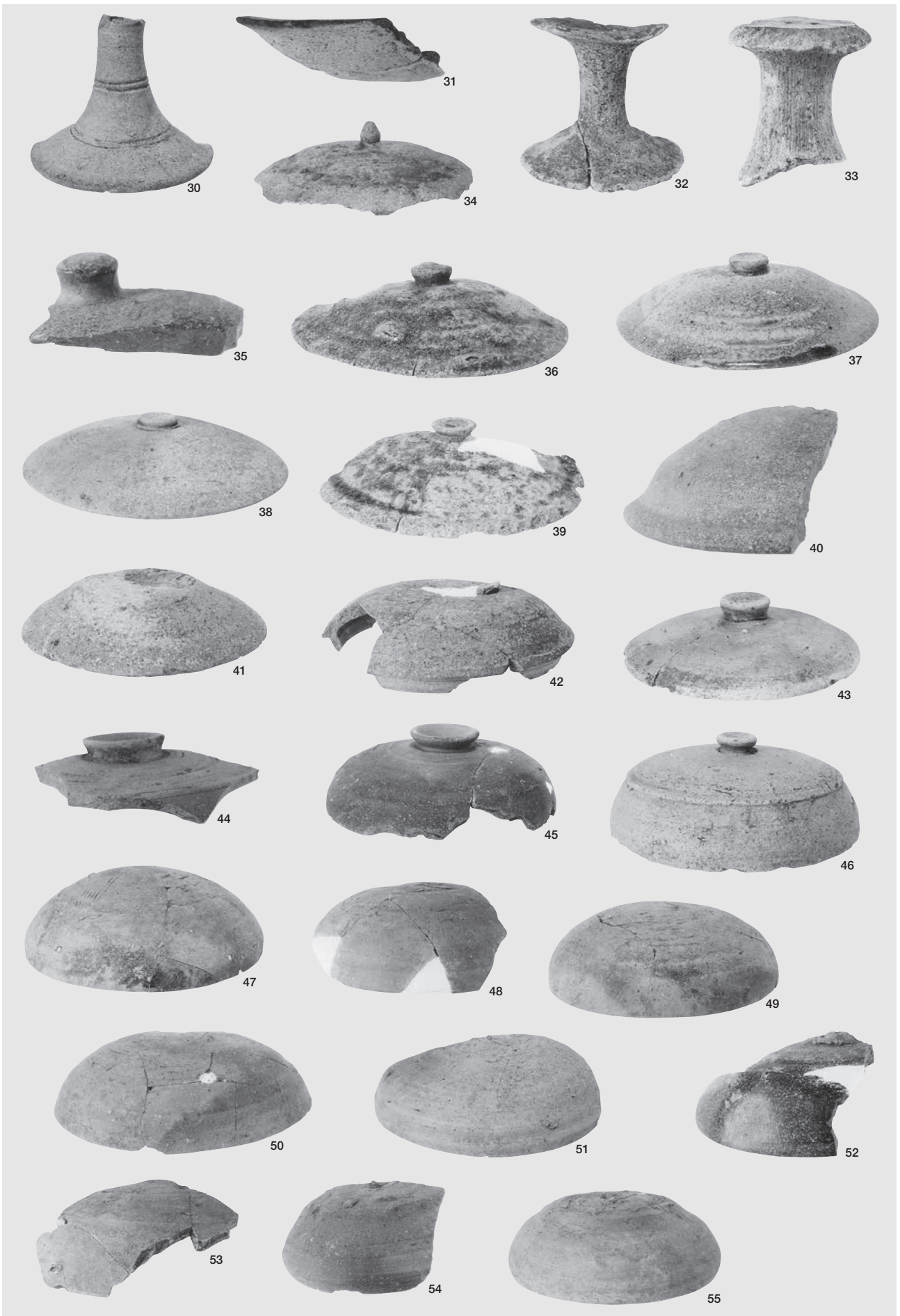


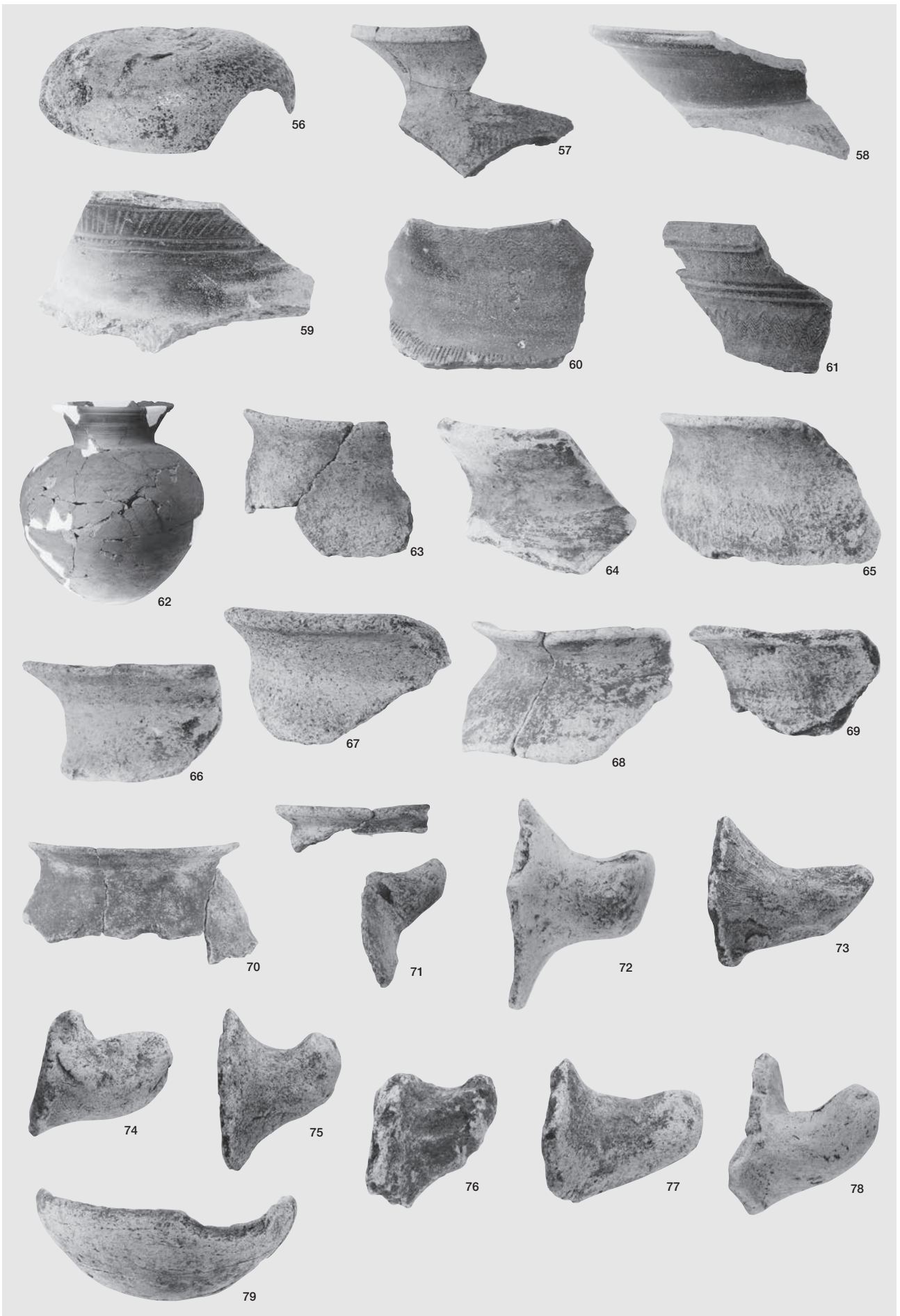
P40~45完掘状況 (東から)



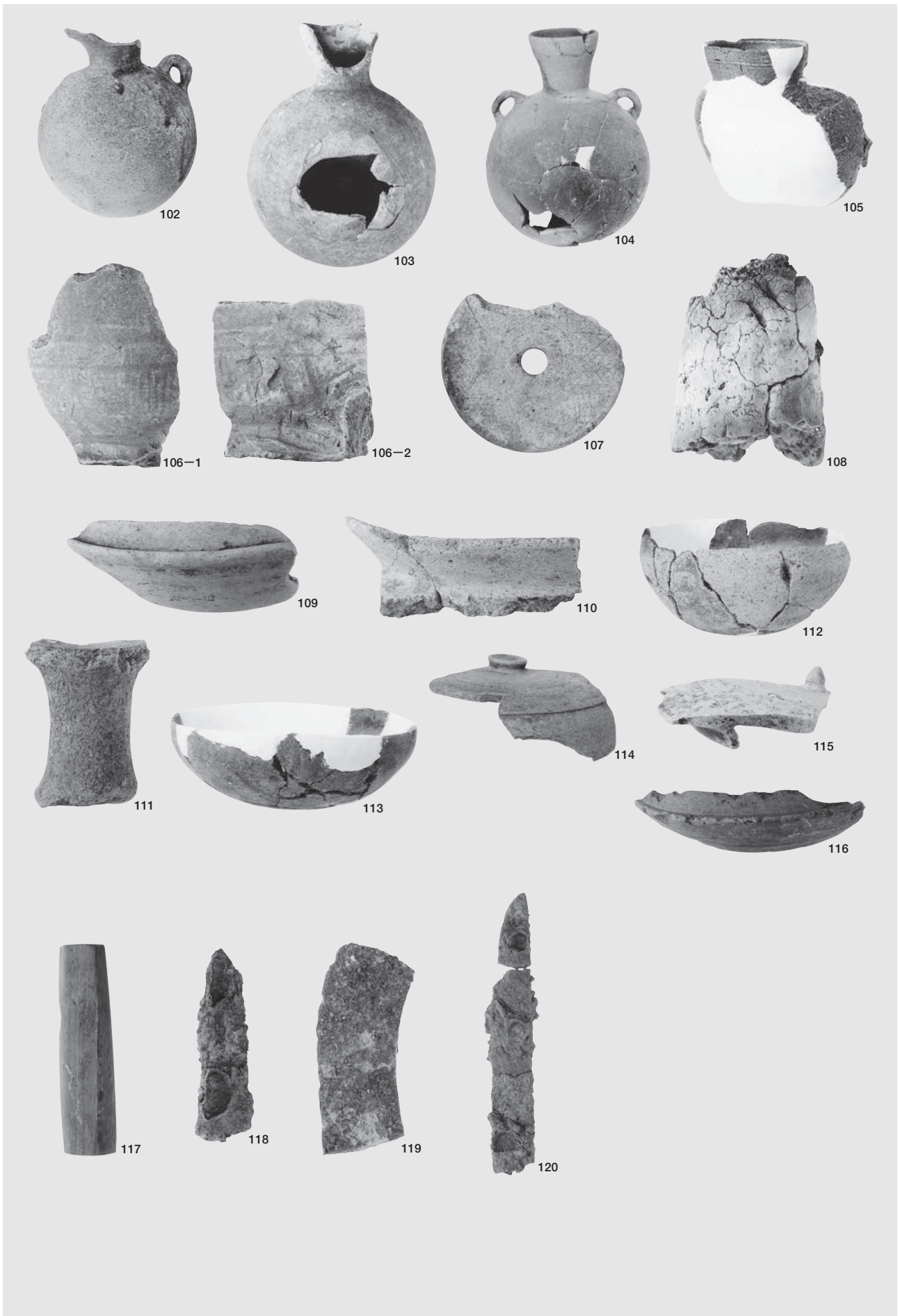
10~12区完掘状況 (南西から)







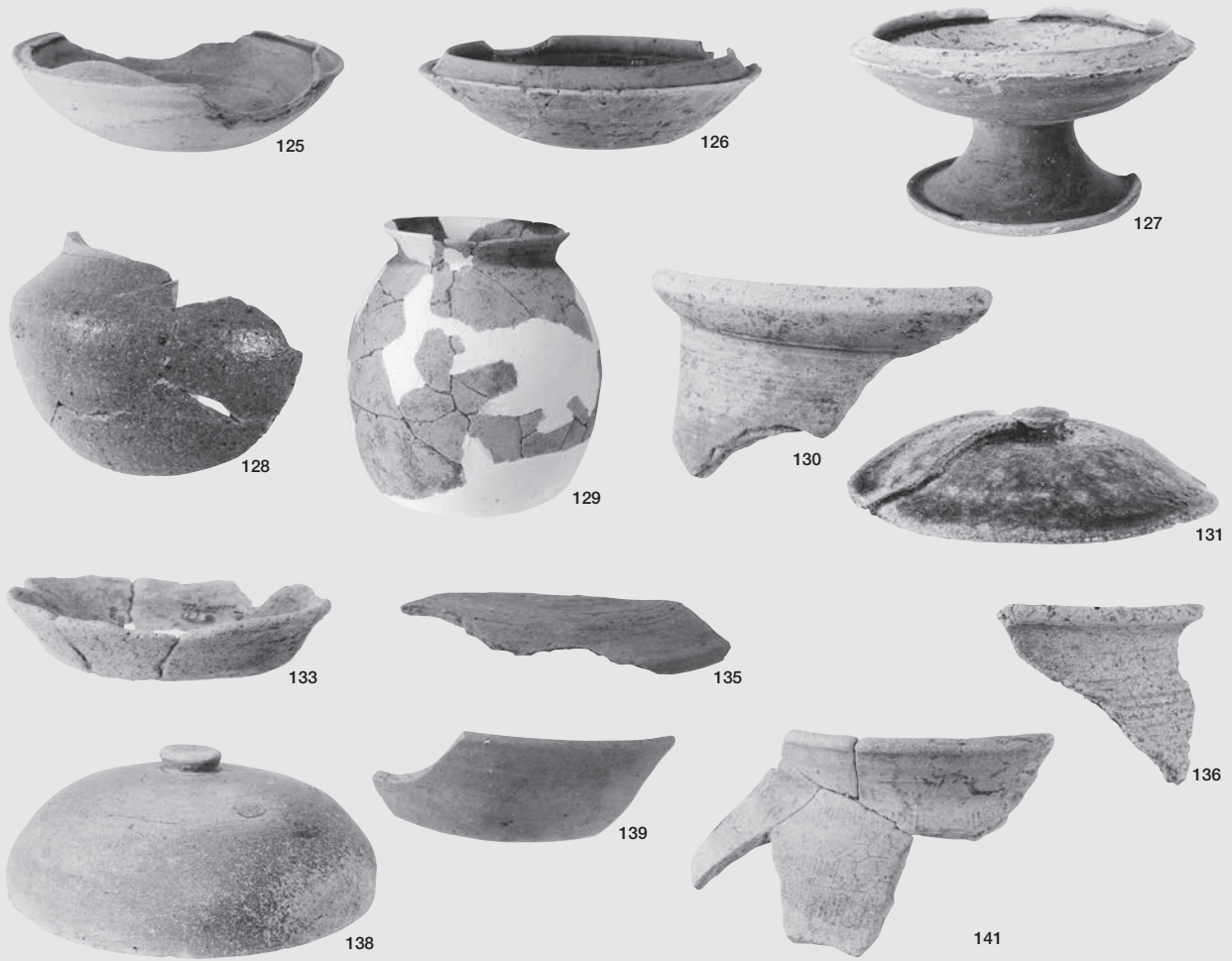




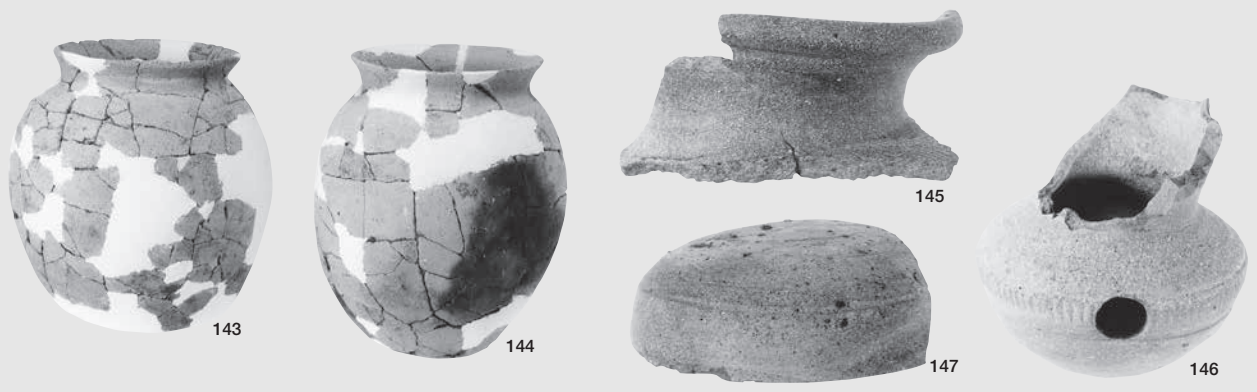
D 区



E 区



F 区



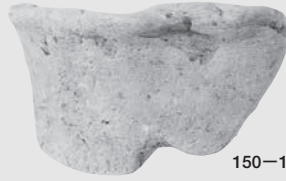
F 区



148



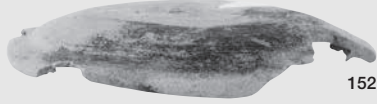
149



150-1



151



152



153



154



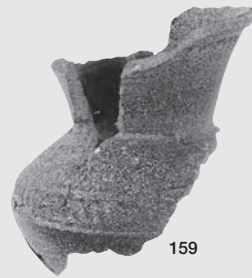
155



156

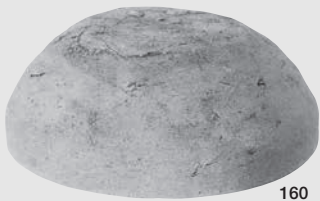


158



159

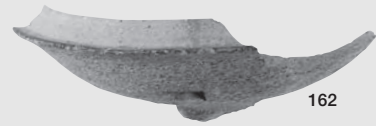
G 区



160



161



162



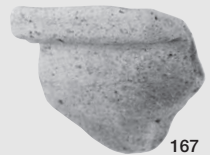
163



164



165



167



166



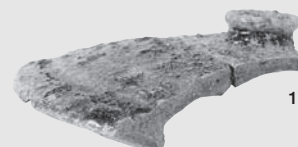
168



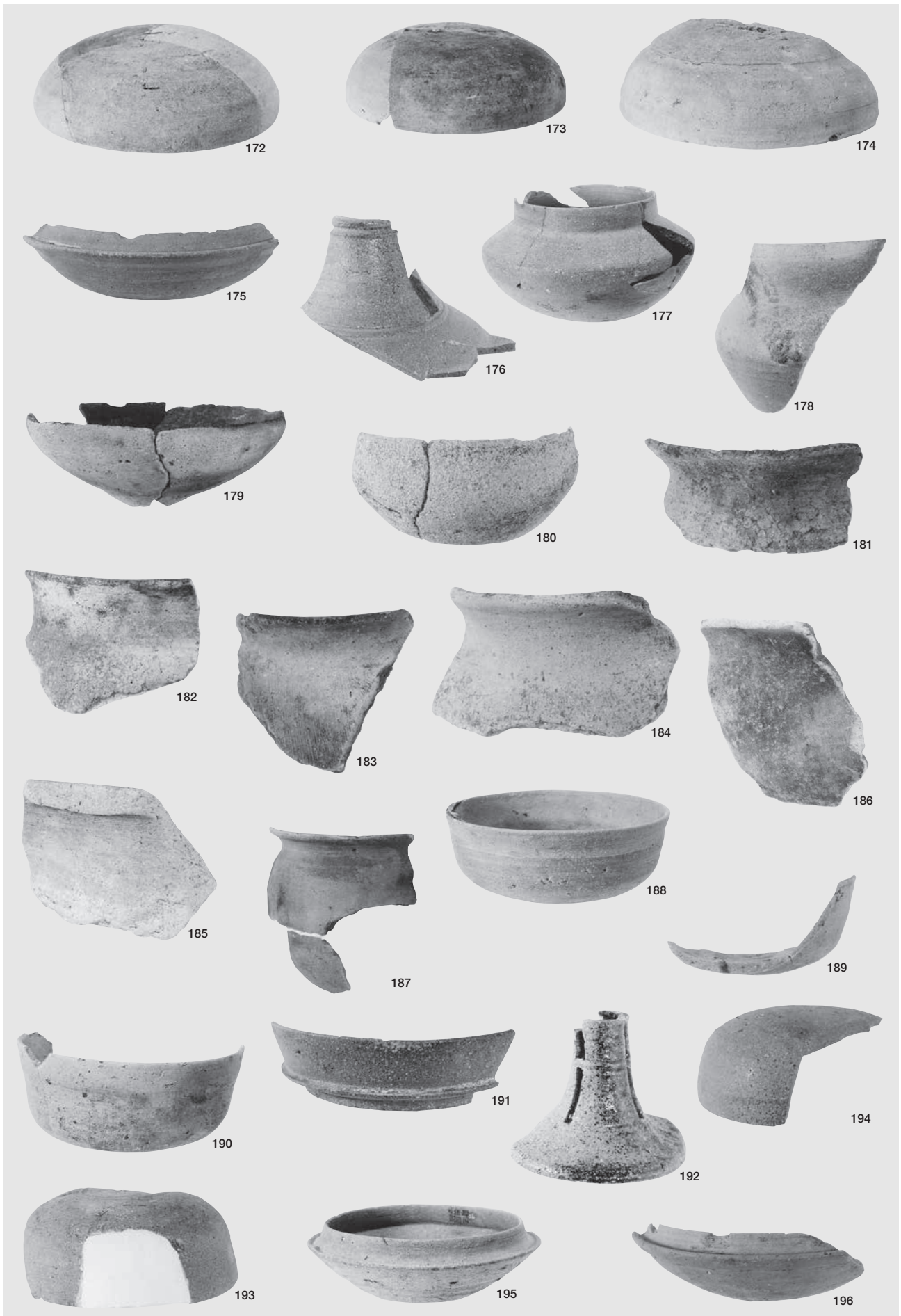
170



169



171







A区 SD01・SD02



A区 SD01断面



A区 SD02断面



A区 SK01検出状況



A区 SK01完掘



B区 SD03完掘



A区 完掘



B区 SD03遺物出土状況



B区 完掘



C区 SI01内L字形カマド



C区 完掘



D区 SK01



D区 SK05



D区 完掘



E区 完掘

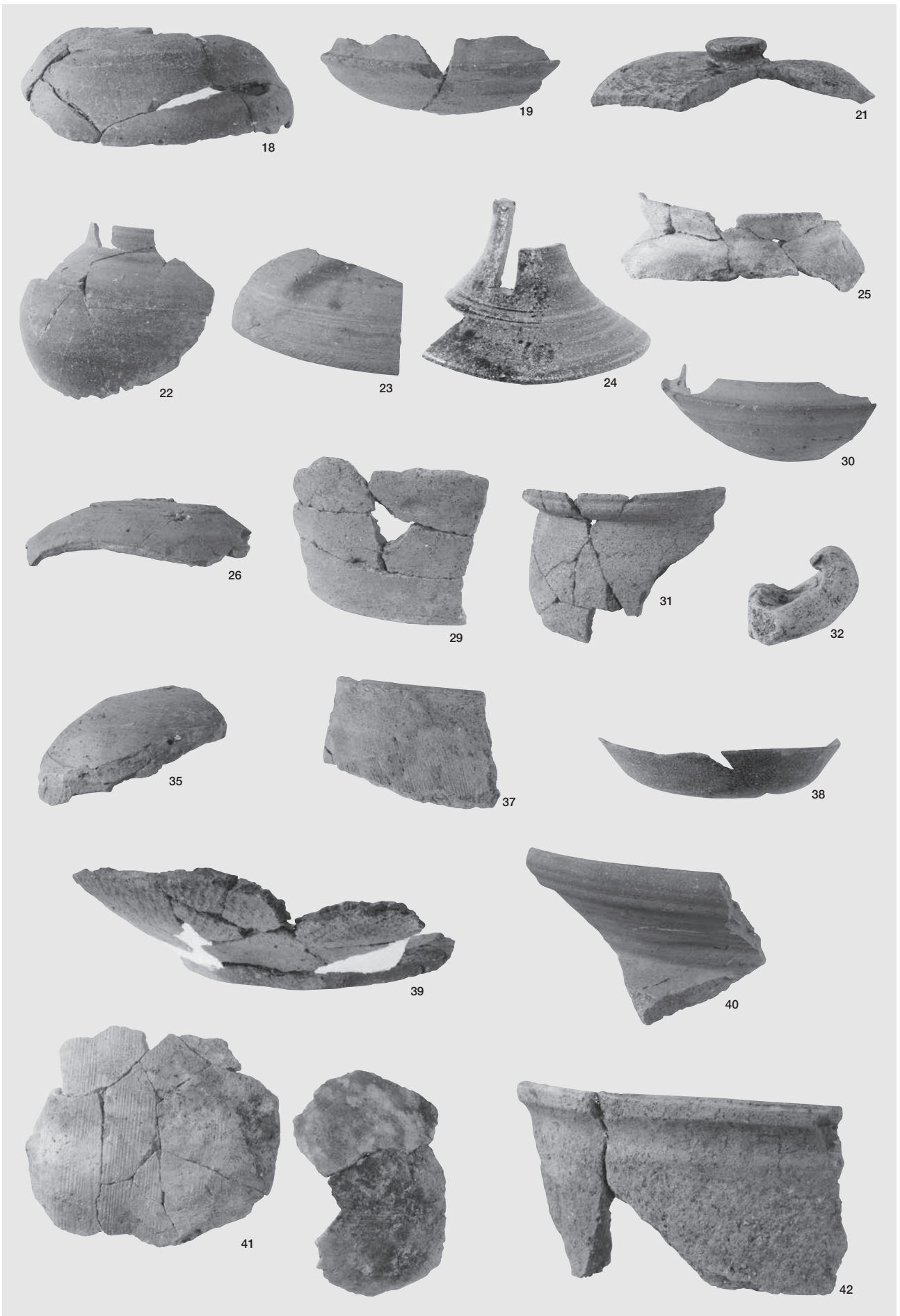


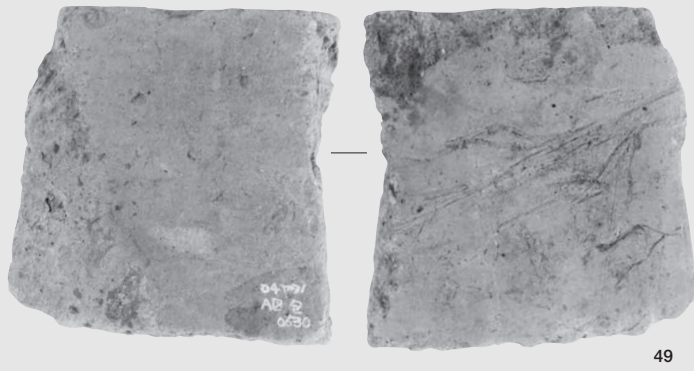
F区 SI01



F区 完掘







報告書抄録

ふりがな	こまつし やたのいせきぐん							
書名	小松市 矢田野遺跡群							
副書名	県営ほ場整備事業（矢田野台地地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	久田正弘、澤辺利明、白田義彦、和田龍介、宮川勝次、荒木麻理子							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	西暦2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やたかりやこ 矢田借屋古 墳群、百人塚 古墳、矢田野 遺跡、矢田野 古墳群、狐森 塚古墳、刀何 理遺跡	こまつしや 小松市矢 田新町、 矢田町、 矢田野町、 矢田野町、 月津町、 扇原町	17203	矢田借屋古墳群 (03103)	36度 20分 27～ 51秒	136度 24分 35～ 54秒	19990729～ 19991118	1100㎡	県営ほ場整 備事業（矢 田野台地地 区）
			矢田野遺跡 (03104)			20000925～ 20001115	530㎡	
			矢田野2号墳 (03106)			20010820～ 20011105	1200㎡	
			百人塚古墳 (03107)			20020507～ 20020820	1850㎡	
			狐森塚古墳 (03111)			20021125～ 20021224		
			刀何理遺跡 (03112)			20030707～ 20030925	870㎡	
						20040624～ 20040721	130㎡	
			所収遺跡名			種別	主な時代	
矢田借屋古墳群	古墳	古墳時代後期		円墳2基	須恵器			
百人塚古墳	〃	〃		円墳	須恵器・土師器・羽口 ・紡錘車・鉄滓			
矢田野古墳群	〃	〃		円墳2基・前方後 円墳? 1基	須恵器・土師器・円筒 埴輪			
矢田野遺跡	集落跡	古墳時代中期～後期		掘立柱建物・土坑 ・溝	須恵器・土師器			
		飛鳥～奈良時代		掘立柱建物・竪穴 建物・土坑・溝	須恵器・土師器・硯・ 紡錘車・円筒型土器・ 羽口・鉄滓		L字型カマ ドを有する 竪穴建物	
		中世		土坑・溝	珠洲焼・加賀焼・越前 焼・陶磁器・中世土師 器			
狐森塚古墳	集落跡	飛鳥時代		木棺墓	須恵器			
		中世		溝	陶磁器			
刀何理遺跡	集落跡	古代		掘立柱建物	須恵器・土師器			
要約	古墳時代後期の古墳群と古墳時代、飛鳥～奈良時代、中世の集落跡を検出した。中心となる遺構は飛鳥～奈良時代の掘立柱建物、竪穴建物であり、7世紀前半代のL字型カマドを有する竪穴建物がある。							

小松市 矢田野遺跡群

発行日 平成18（2006）年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842（文化財課）

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477

E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社ショセキ